

# 男女共同参画社会に向けての市民意識調査 結果報告書

令和3年3月

嘉麻市



# 目次

## I 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の性格	1
3. 調査項目	1
4. 回答者の属性	1
5. 調査結果利用上の注意	4

## II 調査結果

### 第1章 男女平等に関する考え方について

1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方	5
2. 男女の地位の平等感	8

### 第2章 家庭生活や子育てについて

1. 家庭内の役割分担	21
2. 子育てに関する考え方	35

### 第3章 就労・働き方について

1. 女性が職業を持つことについて	43
2. 女性が職業を続けない方がよいと思う理由	46
3. 職業について	48
(1) 職業の有無	48
(2) 就労形態	50
(3) 自営業の就労状況	52
(4) 雇用者の職場環境	54
4. 育児休業・介護休業制度の利用意向	56
5. 育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、利用したくない理由	58
6. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度	61
7. ワーク・ライフ・バランスのための条件整備	64

### 第4章 地域活動について

1. 地域の役職に推薦された場合の対処	67
2. 地域の役職を断る理由	70
3. 地域で感じる男女の差	74

4. 地域活動での男女の役割分担	76
5. 地域の長に女性が就くことが少ない理由	80
6. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点	82

## 第5章 暴力などの人権侵害について

1. セクシュアル・ハラスメントの経験	85
2. 暴力の経験	88
(1) 暴力の経験	88
(2) 相談の有無	92
(3) 相談しなかった理由	94
3. 身近で見聞きした暴力の有無	96
4. 身近で見聞きした暴力への対処	98

## 第6章 男女共同参画社会の実現について

1. 男女共同参画に関する法令・制度等の認知	101
2. 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと	107
3. 「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れること	110

## 第7章 調査結果のまとめと今後の課題

1. 男女平等に関する考え方について	113
2. 男家庭生活や子育てについて	114
3. 就労・働き方について	114
4. 地域活動について	115
5. 暴力などの人権侵害について	116
6. 男女共同参画社会の実現について	117

## Ⅲ 参考資料

◎自由記述の抜粋	119
◎使用した調査票	131

# I 調査の概要



# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、嘉麻市における男女共同参画意識について現状を把握し、「男女共同参画社会基本計画」及び「DV防止基本計画」のための基礎資料として活用することを目的として実施した。

## 2. 調査の性格

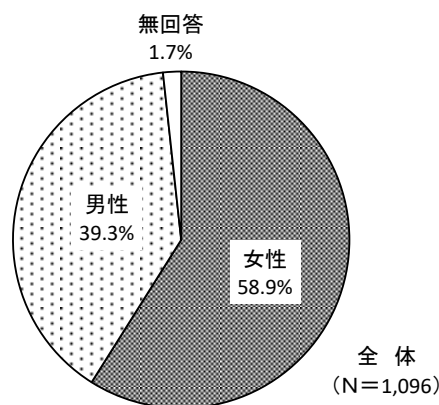
- |                        |  |
|------------------------|--|
| (1) 調査地域               | 嘉麻市全域                                      |
| (2) 調査対象者              | 市内に居住する18歳以上の男女。                           |
| (3) 調査対象者数             | 3,000サンプル<br>(有効回答数 1,096サンプル 有効回収率 36.5%) |
| (4) 抽出方法               | 住民基本台帳から無作為抽出                              |
| (5) 調査方法               | 郵送により配布・回収                                 |
| (6) 調査期間               | 令和2年11月5日(木)～11月20日(金)                     |
| (7) 分析の監修と<br>調査結果のまとめ | 倉富史枝(特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所 理事)               |

## 3. 調査項目

- (1) 男女平等に関する考え方について
- (2) 家庭生活や子育てについて
- (3) 就労・働き方について
- (4) 地域活動について
- (5) 暴力などの人権侵害について
- (6) 男女共同参画社会の実現について

## 4. 回答者の属性

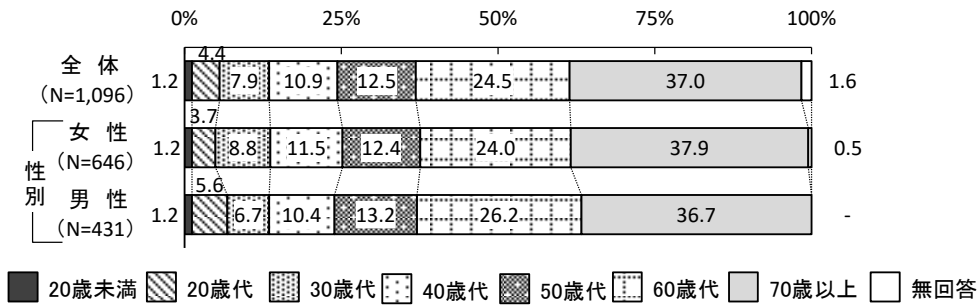
### ◎性別



回答者の性別は「女性」が58.9%、「男性」が39.3%と女性の回答が19.6ポイント多い。

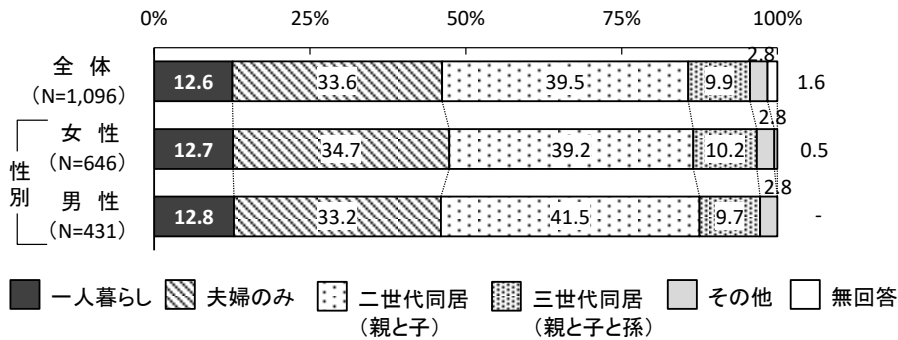
I 調査の概要

◎年齢



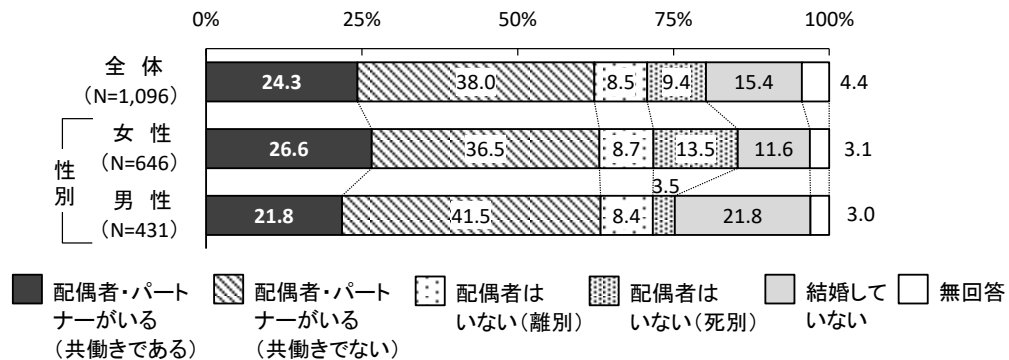
回答者の年齢は、「70歳以上」(37.0%)「60歳代」(24.5%)、「50歳代」(12.5%)、「40歳代」(10.9%)の順で多く、『60歳以上』で6割強を占めている。性別による違いはあまりみられない。

◎家族構成



回答者の家族構成は、「二世世代同居 (親と子)」が39.5%で最も多く、次いで「夫婦のみ」が33.6%、「一人暮らし」が12.6%、「三世世代同居 (親と子と孫)」が9.9%となっている。

◎配偶関係

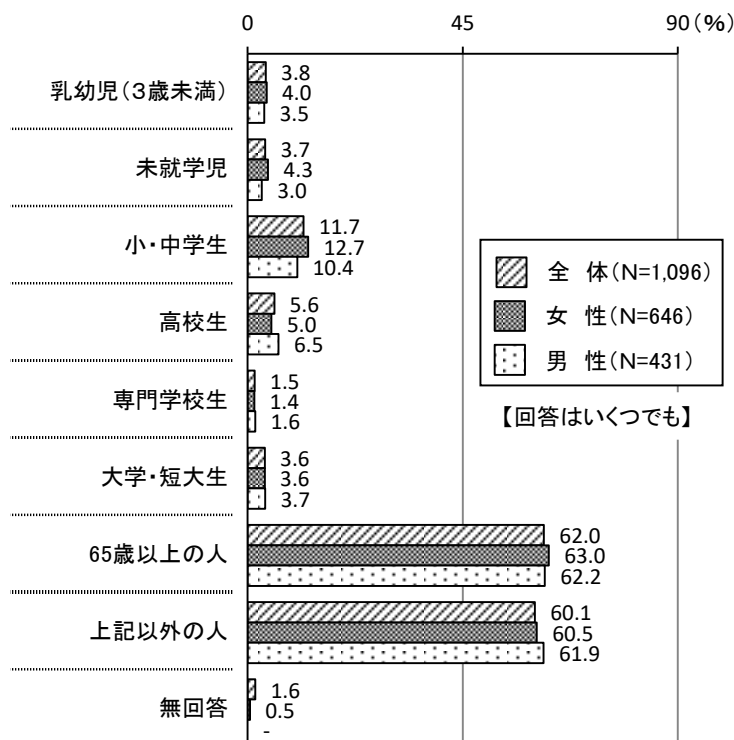


回答者の配偶関係は「配偶者・パートナーがいる (共働きでない)」が38.0%、「配偶者・パートナーがいる (共働きである)」が24.3%となっており、これらをあわせた既婚者は62.3%となっている。「結婚していない」は15.4%、「配偶者はいない (死別)」(9.4%)と「配偶者はいない (離別)」(8.5%)は各々1割弱となっている。

性別でみると、女性は「配偶者・パートナーがいる (共働きである)」(26.6%)と「配偶者はいない (死別)」(13.5%)が男性より約5~10ポイント、男性は「結婚していない」(21.8%)と「配偶者・パートナーがいる (共働きでない)」(41.5%)が女性よりも約5~10ポイント多い。

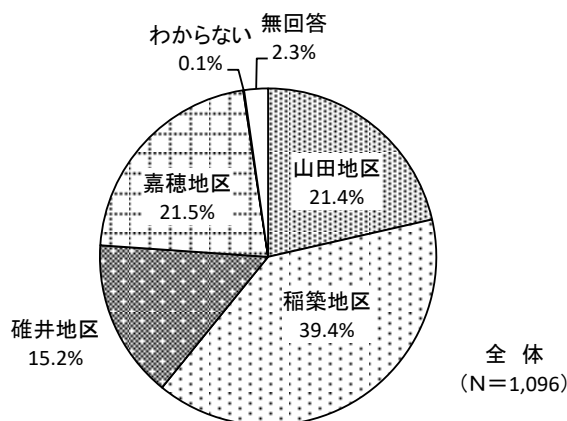


## ◎同居家族



回答者自身も含めた同居家族は「65歳以上」の人が62.0%と最も多い。

## ◎居住地区



回答者の居住地区は、「稲築地区」が39.4%、「嘉穂地区」が21.5%、「山田地区」が21.4%、「碓井地区」が15.2%となっている。

## 5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数以下第2位を四捨五入しているので、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問、付付問は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。

嘉麻市 「男女共同参画に関する市民意識調査」平成27年9月実施

福岡県 「男女共同参画社会に向けての意識調査」令和元年12月実施

内閣府 「男女共同参画に関する世論調査」令和元年9月実施

## Ⅱ 調査結果



# 第1章 男女平等に関する考え方について

---

1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について
2. 男女の地位の平等感



## Ⅱ 調査結果

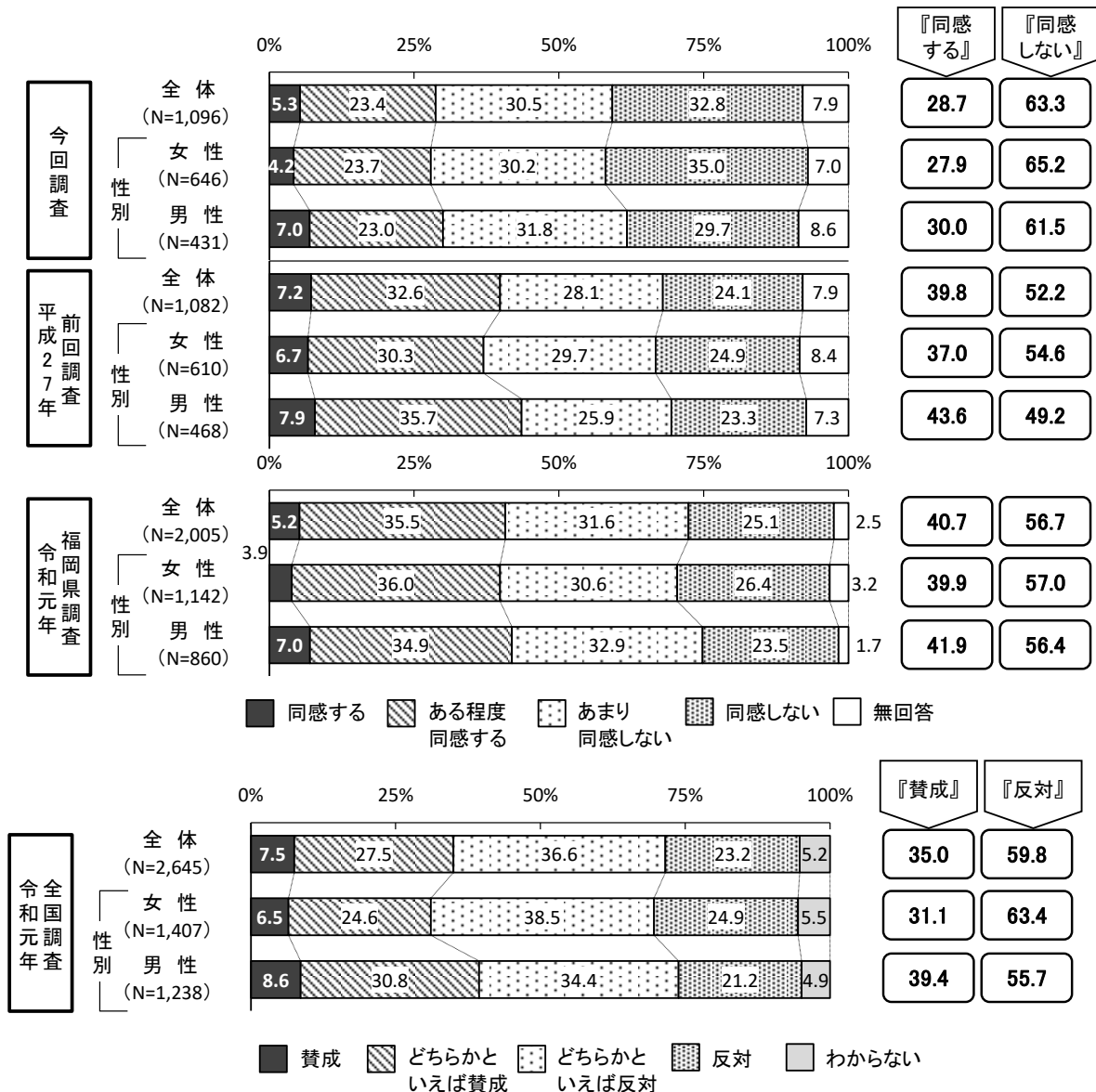
### 第1章 男女平等に関する考え方について

#### 1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方

「男は仕事、女は家庭」という考え方に『同感しない』人は女性では6割台半ば、男性は6割強。前回調査よりも性別役割分担を容認しない人が男女とも10ポイント以上増加している。

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。(○印は1つ)

図表1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方〔全体、性別〕(前回・福岡県・全国調査比較)



## Ⅱ 調査結果

---

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識に対して、全体では「同感する」(5.3%)と「ある程度同感する」(23.4%)を合わせた『同感する』は28.7%で、「同感しない」(32.8%)と「あまり同感しない」(30.5%)を合わせた『同感しない』は63.3%と『同感する』を34.6ポイント上回っている。

性別でみると、『同感しない』(女性65.2%、男性61.5%)では男女差があまり大きくはないが、そのうち強い「同感しない」は女性が35.0%と男性(29.7%)を5.3ポイント上回っており、性別役割分担意識を容認しない人は女性の方が多い。

平成27年9月に実施された「男女共同参画に向けての市民意識調査」(以下、「前回調査」という)と比べると、男女とも『同感しない』が10ポイント以上増え、『同感する』は女性で9.1ポイント、男性で13.6ポイント減るなど性別役割分担意識を容認しない人が男女とも増えている。

令和元年12月に福岡県で実施された「男女共同参画社会に向けての意識調査」(以下、「福岡県調査」という)と比べると、今回調査の方が男女とも『同感しない』が約5～8ポイント上回り、性別役割分担意識を容認しない人は男女とも今回調査の方が多い。

令和元年9月に実施された内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」(以下、「全国調査」という)と比べると、設問項目が違うため正確な比較はできないが、性別役割分担を容認しない人は女性では同程度、男性では5.8ポイント高く、今回調査の男性の方が性別役割分担を容認しない人が多い。

年齢別でみると、男女とも年齢が高い層で『同感する』が高い傾向がみられるが、女性の30歳代は26.3%と前後の年代よりも約7～10ポイント高く、『同感しない』が66.7%と前後の年代よりも約9～15ポイント低いなど性別役割分担を容認する人が多い。反対に同年代の男性は『同感する』が17.2%と女性より9.1ポイント低く、『同感しない』が72.4%と男性の中で最も高いなど、性別による違いがみられる。

配偶関係別でみると、男女とも共働きの場合『同感しない』が7割前後であるのに対し、共働きでない場合は約6割と低く、『同感する』が3割台半ばと共働きでない場合に性別役割分担を容認する人が多い。結婚していない場合、女性の『同感しない』は81.3%と最も高く、男性(59.6%)を21.7ポイント上回り、未婚の女性は性別役割分担を容認しない人が多い。



図表1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方〔全体、年齢別、配偶関係別〕

(%)

		標 本 数	同 感 す る	同 あ る 程 度	同 あ ま り し な い	同 感 し な い	無 回 答	『 同 感 す る 』	『 同 感 し な い 』
全 体		1,096 100.0	58 5.3	257 23.4	334 30.5	360 32.8	87 7.9	<b>315</b> <b>28.7</b>	<b>694</b> <b>63.3</b>
年 齢 別	女性:29歳以下	32	6.3	9.4	34.4	46.9	3.1	<b>15.7</b>	<b>81.3</b>
	女性:30歳代	57	3.5	22.8	22.8	43.9	7.0	<b>26.3</b>	<b>66.7</b>
	女性:40歳代	74	-	18.9	32.4	43.2	5.4	<b>18.9</b>	<b>75.6</b>
	女性:50歳代	80	3.8	13.8	42.5	38.8	1.3	<b>17.6</b>	<b>81.3</b>
	女性:60歳代	155	0.6	25.8	29.7	38.1	5.8	<b>26.4</b>	<b>67.8</b>
	女性:70歳以上	245	7.8	29.4	26.9	25.3	10.6	<b>37.2</b>	<b>52.2</b>
	男性:29歳以下	29	6.9	6.9	17.2	48.3	20.7	<b>13.8</b>	<b>65.5</b>
	男性:30歳代	29	-	17.2	31.0	41.4	10.3	<b>17.2</b>	<b>72.4</b>
	男性:40歳代	45	2.2	31.1	28.9	31.1	6.7	<b>33.3</b>	<b>60.0</b>
	男性:50歳代	57	7.0	22.8	22.8	40.4	7.0	<b>29.8</b>	<b>63.2</b>
	男性:60歳代	113	5.3	20.4	37.2	29.2	8.0	<b>25.7</b>	<b>66.4</b>
	男性:70歳以上	158	10.8	26.6	34.8	20.3	7.6	<b>37.4</b>	<b>55.1</b>
	無回答	22	4.5	22.7	13.6	36.4	22.7	<b>27.2</b>	<b>50.0</b>
配 偶 関 係 別	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	172	1.7	20.3	30.2	40.1	7.6	<b>22.0</b>	<b>70.3</b>
	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	236	5.5	28.8	28.4	30.5	6.8	<b>34.3</b>	<b>58.9</b>
	女性:配偶者はいない (離別)	56	1.8	17.9	33.9	39.3	7.1	<b>19.7</b>	<b>73.2</b>
	女性:配偶者はいない (死別)	87	6.9	28.7	27.6	28.7	8.0	<b>35.6</b>	<b>56.3</b>
	女性:結婚していない	75	4.0	13.3	36.0	45.3	1.3	<b>17.3</b>	<b>81.3</b>
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	94	1.1	25.5	28.7	39.4	5.3	<b>26.6</b>	<b>68.1</b>
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	179	9.5	24.6	34.6	24.6	6.7	<b>34.1</b>	<b>59.2</b>
	男性:配偶者はいない (離別)	36	2.8	22.2	38.9	33.3	2.8	<b>25.0</b>	<b>72.2</b>
	男性:配偶者はいない (死別)	15	-	46.7	33.3	13.3	6.7	<b>46.7</b>	<b>46.6</b>
	男性:結婚していない	94	7.4	14.9	26.6	33.0	18.1	<b>22.3</b>	<b>59.6</b>
	無回答	52	11.5	23.1	23.1	23.1	19.2	<b>34.6</b>	<b>46.2</b>

2. 男女の地位の平等感

- ・「平等である」との回答が高い分野は「学校教育の場」で約5割。その他の分野は『男性優遇』の割合が高く、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」では7割台、「家庭生活」「職場」で5割台、「地域活動・社会活動の場」で4割台、「法律や制度のうえ」で4割弱。
- ・「政治の場」では男女とも『男性優遇』と認識。その他の分野では女性は男性よりも『男性優遇』の割合が高く、「平等である」の割合が低い。
- ・「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」では前回調査よりも男性の『男性優遇』との認識が強くなっている。

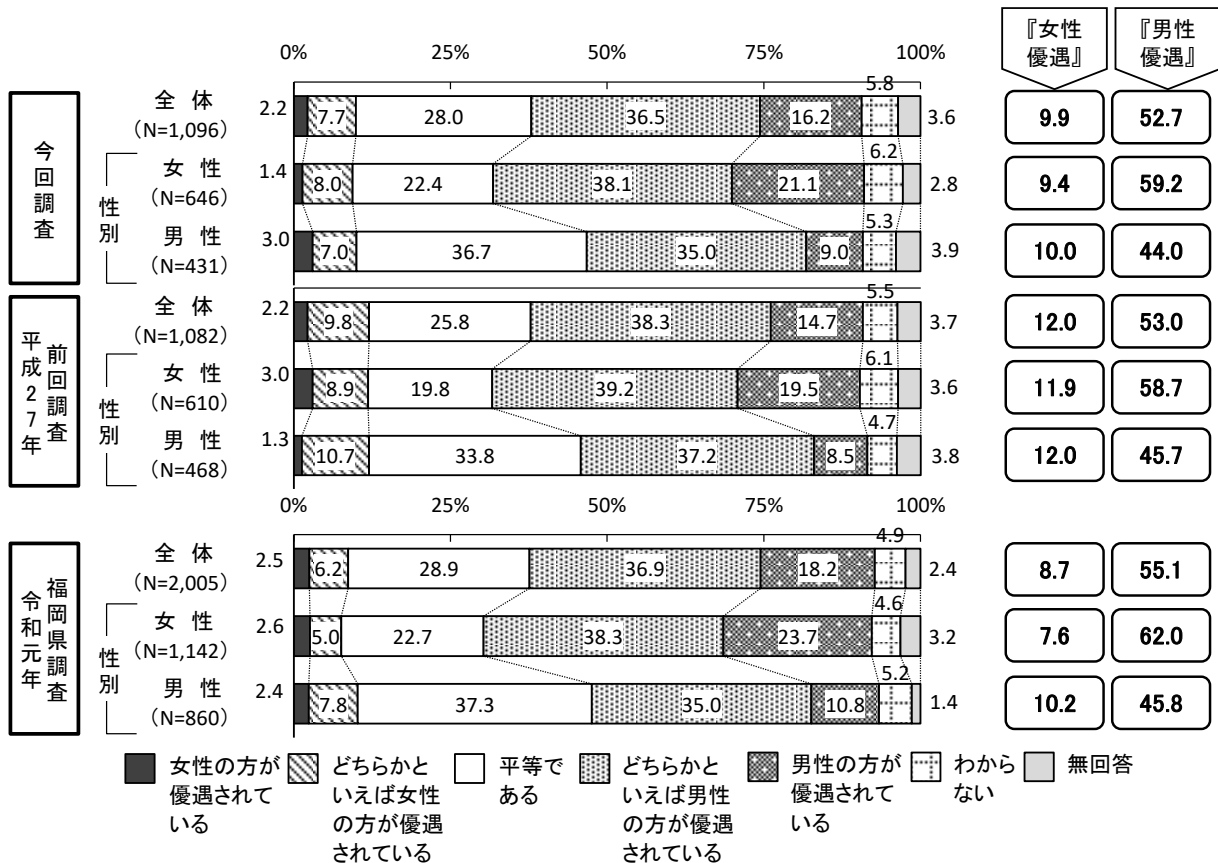
問2 あなたは、次の（ア）～（キ）の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。（ア）～（キ）の各分野について、最もあてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ1つつ）

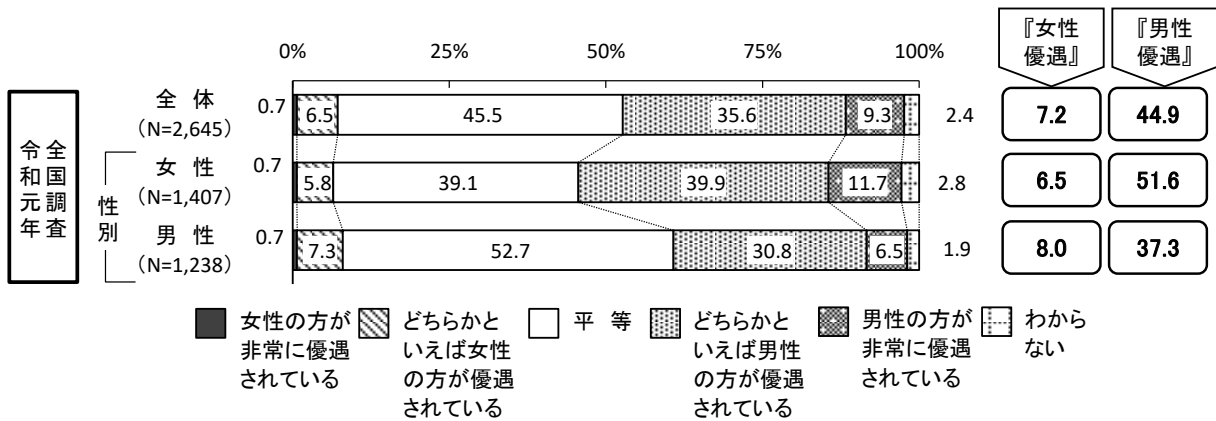
社会における7つの分野における男女の地位の平等感について5段階でたずねた。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」との合計を『女性優遇』、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」との合計を『男性優遇』とする。

（ア）家庭生活では

図表1-3 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)





「家庭生活」での男女の地位は、『男性優遇』が52.7%と半数を超えている。「平等である」は28.0%と約3割となっており、『女性優遇』は9.9%と約1割である。

性別でみると、男女とも『女性優遇』は約1割と同程度であるが、女性は『男性優遇』が59.2%と約6割であるのに対し、男性は44.0%と女性の方が15.2ポイント高い。また、『男性優遇』のうち女性は「男性の方が優遇されている」が21.1%と男性(9.0%)を12.1ポイントも上回っている。一方、男性は「平等である」が36.7%と女性(22.4%)を14.3ポイント上回っており、家庭生活では女性は男性が優遇されていると感じているが、男性は平等か、女性を感じるほど自身が優遇されているとは感じていないという性別による違いがみられる。

前回調査と比べても大きな変化はあまりみられない。

福岡県調査と比べても大きな違いはあまりみられない。

全国調査と比べると、項目の表現の違いはあるものの『男性優遇』の割合は今回調査の方が男女とも約7~8ポイント高く、「平等である」の割合は約16ポイント低くなっており、今回調査の方が家庭生活では男性は優遇されているという認識が男女とも高くなっている。

## II 調査結果

年齢別でみると、女性の40～60歳代で『男性優遇』が6割台半ばから7割強と高率である。「平等である」は男性の30歳代以下で4割台半ばから5割強と高い。

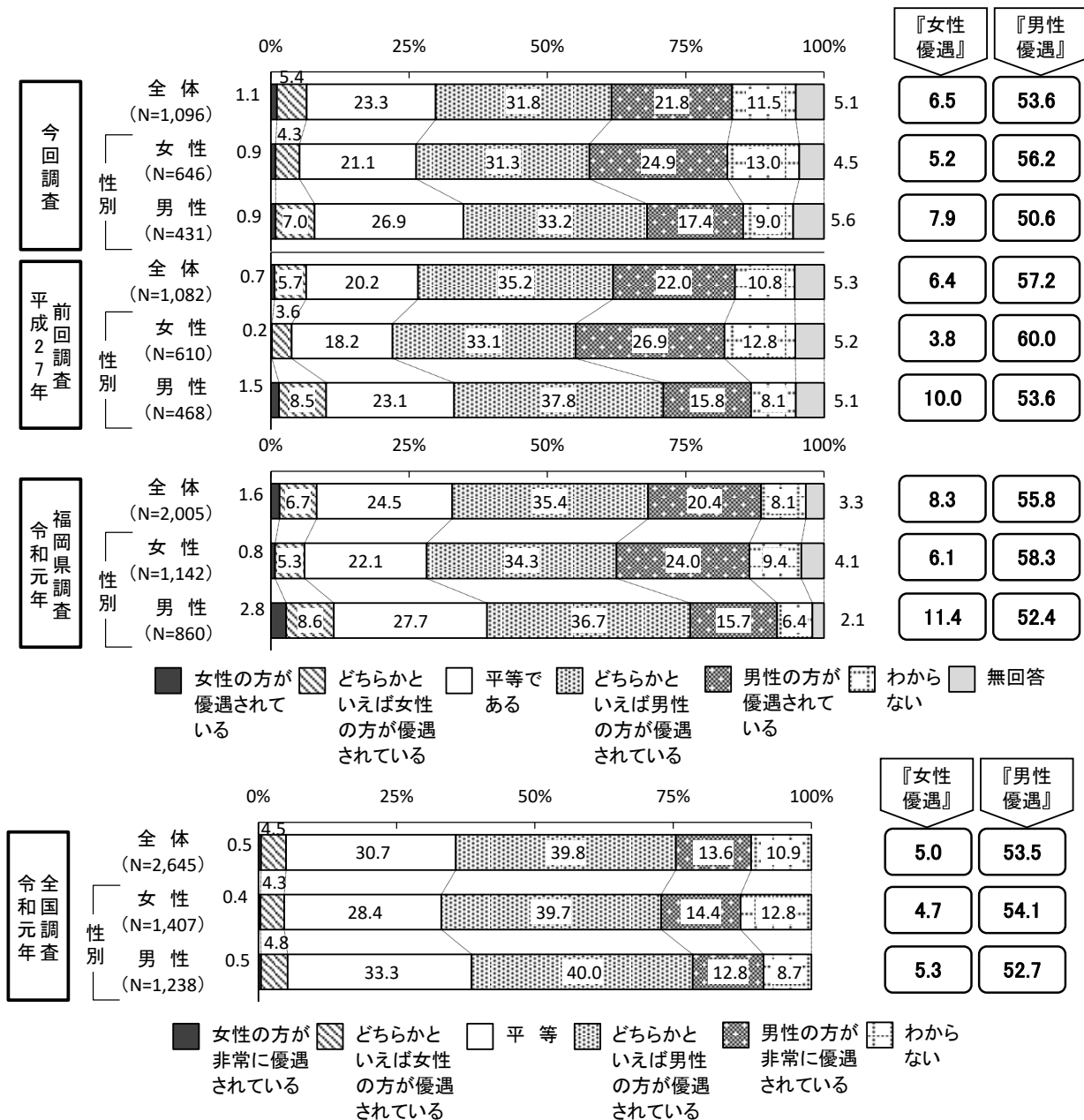
既未婚別でみると、女性の既婚は『男性優遇』が63.7%で、未婚（46.7%）よりも17ポイント高い。また、男性でも『男性優遇』は既婚（46.9%）の方が未婚（33.0%）よりも13.9ポイント高くなっている。男女とも既婚の場合、未婚よりも男性優遇との認識が強い。

図表1-4 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、年齢別、配偶関係別]

		標本数	さ女性 れ性の 方が 優遇	遇ばど さ女 れ性 ち ら か と る が い 優 え	平 等 で あ る	遇ばど さ男 れ性 ち ら か と る が い 優 え	さ男性 れ性の 方が 優 遇	わ か ら な い	無 回 答	『女性 優 遇』	『男性 優 遇』
全体		1,096 100.0	24 2.2	84 7.7	307 28.0	400 36.5	178 16.2	64 5.8	39 3.6	<b>108 9.9</b>	<b>578 52.7</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	-	25.0	28.1	21.9	12.5	9.4	3.1	<b>25.0</b>	<b>34.4</b>
	女性:30歳代	57	3.5	14.0	28.1	26.3	15.8	8.8	3.5	<b>17.5</b>	<b>42.1</b>
	女性:40歳代	74	-	6.8	20.3	32.4	33.8	5.4	1.4	<b>6.8</b>	<b>66.2</b>
	女性:50歳代	80	2.5	6.3	12.5	45.0	27.5	6.3	-	<b>8.8</b>	<b>72.5</b>
	女性:60歳代	155	0.6	4.5	23.2	42.6	23.9	4.5	0.6	<b>5.1</b>	<b>66.5</b>
	女性:70歳以上	245	1.6	7.8	24.1	39.2	15.5	6.5	5.3	<b>9.4</b>	<b>54.7</b>
	男性:29歳以下	29	-	3.4	44.8	27.6	3.4	13.8	6.9	<b>3.4</b>	<b>31.0</b>
	男性:30歳代	29	-	6.9	51.7	27.6	-	10.3	3.4	<b>6.9</b>	<b>27.6</b>
	男性:40歳代	45	6.7	11.1	28.9	31.1	11.1	11.1	-	<b>17.8</b>	<b>42.2</b>
	男性:50歳代	57	5.3	7.0	35.1	35.1	7.0	8.8	1.8	<b>12.3</b>	<b>42.1</b>
	男性:60歳代	113	1.8	4.4	36.3	40.7	8.8	3.5	4.4	<b>6.2</b>	<b>49.5</b>
	男性:70歳以上	158	3.2	8.2	35.4	34.8	12.0	1.3	5.1	<b>11.4</b>	<b>46.8</b>
無回答		22	9.1	9.1	18.2	22.7	18.2	4.5	18.2	<b>18.2</b>	<b>40.9</b>
既未婚別	女性:既婚	408	1.0	7.6	21.6	40.2	23.5	3.7	2.5	<b>8.6</b>	<b>63.7</b>
	女性:離・死別	143	2.8	6.3	24.5	35.0	18.2	9.8	3.5	<b>9.1</b>	<b>53.2</b>
	女性:未婚	75	1.3	16.0	25.3	32.0	14.7	10.7	-	<b>17.3</b>	<b>46.7</b>
	男性:既婚	273	2.9	4.8	39.2	38.5	8.4	2.6	3.7	<b>7.7</b>	<b>46.9</b>
	男性:離・死別	51	5.9	13.7	27.5	29.4	15.7	3.9	3.9	<b>19.6</b>	<b>45.1</b>
	男性:未婚	94	2.1	9.6	37.2	27.7	5.3	13.8	4.3	<b>11.7</b>	<b>33.0</b>
	無回答		52	3.8	5.8	17.3	30.8	17.3	9.6	15.4	<b>9.6</b>

(イ) 職場では

図表1-5 職場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



「職場」での男女の地位は「平等である」は23.3%にとどまり、『男性優遇』が53.6%と7つの分野の中で3番目に高い。

性別で見ると、女性は『男性優遇』が56.2%で男性(50.6%)より5.6ポイント高く、男性は「平等である」が26.9%で女性(21.1%)よりも5.8ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が約3~4ポイント減少し、「平等である」が約3~4ポイント増加するなど今回調査の方が不平等感はやや低くなっている。

福岡県調査と比べると、男性の『女性優遇』の割合は今回調査の方がやや低いもののその他の割合は同程度となっている。

全国調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合は同程度であるが、「平等である」の割合は今回調査の方が約6~7ポイント低い。

II 調査結果

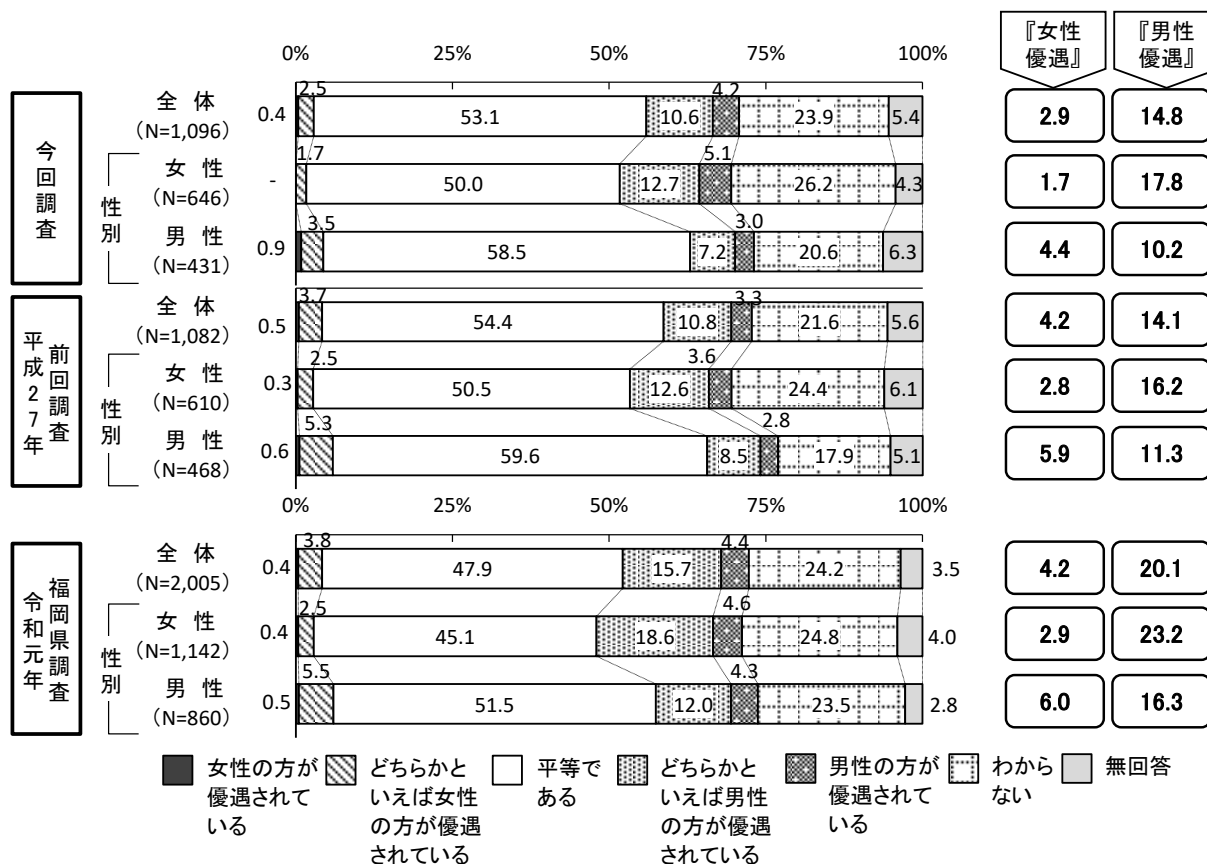
職業の有無別でみると、職業を持っている女性の53.2%が『男性優遇』としているのに対し、男性は46.5%と女性の方が6.7ポイント高く、「平等である」(女性29.0%、男性34.4%)は男性の方が5.4ポイント高いなど平等感に違いがみられる。

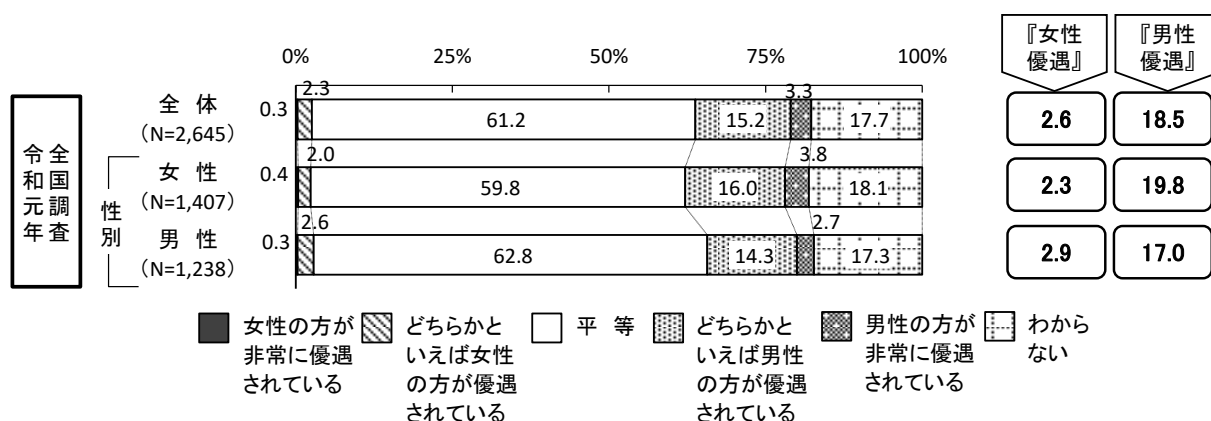
図表1-6 職場での男女の地位の平等感 [全体、職業の有無別]

		標本数	女性の方が優遇	どちらかといえば女性の方が優え	平等である	どちらかといえば男性の方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全体		1,096 100.0	12 1.1	59 5.4	255 23.3	349 31.8	239 21.8	126 11.5	56 5.1	71 6.5	588 53.6
職業の有無別	女性:職業を持っている	310	1.6	6.1	29.0	29.0	24.2	7.7	2.3	7.7	53.2
	女性:以前職業を持っていたが、いまは持っていない	288	0.3	2.8	13.9	35.4	26.4	17.0	4.2	3.1	61.8
	女性:いままで職業を持ったことはない	31	-	3.2	16.1	22.6	19.4	22.6	16.1	3.2	42.0
	男性:職業を持っている	241	1.7	7.5	34.4	30.7	15.8	7.1	2.9	9.2	46.5
	男性:以前職業を持っていたが、いまは持っていない	172	-	6.4	17.4	39.0	20.3	9.3	7.6	6.4	59.3
	男性:いままで職業を持ったことはない	10	-	-	10.0	10.0	20.0	50.0	10.0	-	30.0
	無回答	44	4.5	4.5	13.6	18.2	15.9	18.2	25.0	9.0	34.1

(ウ) 学校教育の場では

図表1-7 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)





「学校教育の場」での男女の地位は「平等である」が53.1%と7分野中唯一5割を超え、最も高くなっている。しかし、「わからない」も23.9%と7分野中最も高く、学校教育の場は多くの人は平等であると感じているが、一方で実態がわからないという様子がうかがえる。

性別で見ると、男性の「平等である」は58.5%であるが、女性は50.0%と8.5ポイント低くなっている。また『男性優遇』は女性が17.8%に対し、男性は10.2%と7.6ポイント差がある。比較的平等感が高い分野であるものの男女差がみられる。

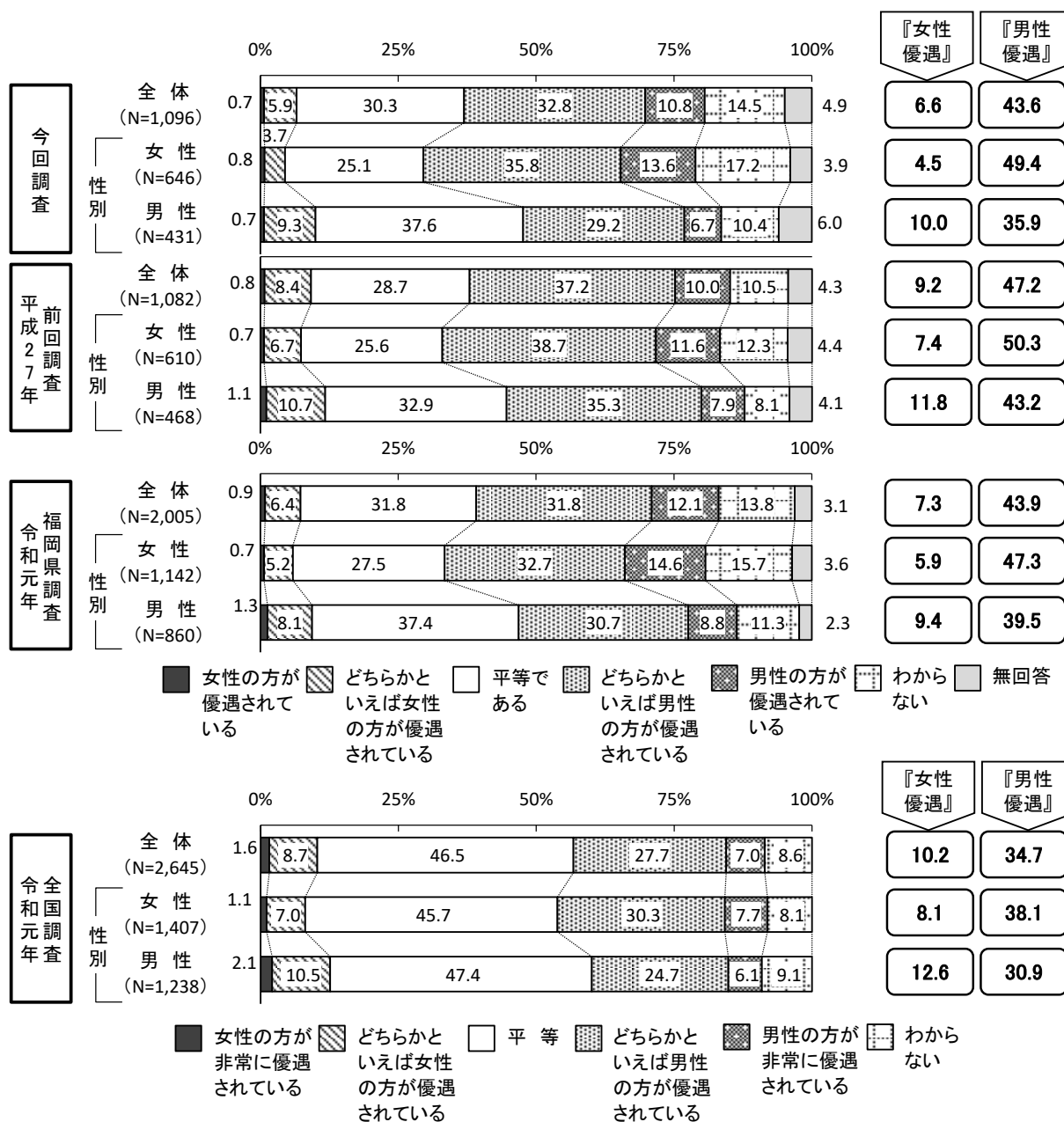
前回調査と比べると、男女ともあまり大きな変化はみられない。

福岡県調査と比べると、「平等である」は今回調査の方が男女とも約5～7ポイント高く、『男性優遇』は約5～6ポイント低いなど福岡県よりも平等感が高い。

全国調査と比べると、「平等である」は今回調査の方が約4～10ポイント低く、他の分野に比べて平等感が高いものの全国調査と比べると低い。

(エ) 地域活動・社会活動の場では

図表 1-8 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]  
(前回・福岡県・全国調査比較)



\* 全国調査では「自治会やNPOなどの地域活動の場」

「地域活動・社会活動の場」での男女の地位は、「平等である」が30.3%に対し、『男性優遇』が43.6%と男性が優遇されているという認識が高い。

性別で見ると、女性は『男性優遇』が49.4%と約半数であるが、男性は35.9%と13.5ポイント低く、「平等である」(女性25.1%、男性37.6%)は男性の方が12.5ポイント高いなど男女での平等感に違いがみられる。

前回調査と比べると、女性ではあまり大きな差はないが、男性は『男性優遇』が7.3ポイント低く、「平等である」が4.7ポイント高くなっており、男性自身の男性が優遇されているとの認識は低くなっている。



福岡県調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられない。

全国調査（「自治会やNPO等の地域活動の場」）と比べると、男女とも「平等である」が今回調査の方が約10～21ポイント低く、『男性優遇』は女性で11.3ポイント、男性で5ポイント高いなど男性優遇との認識は特に女性で全国調査よりも強い。

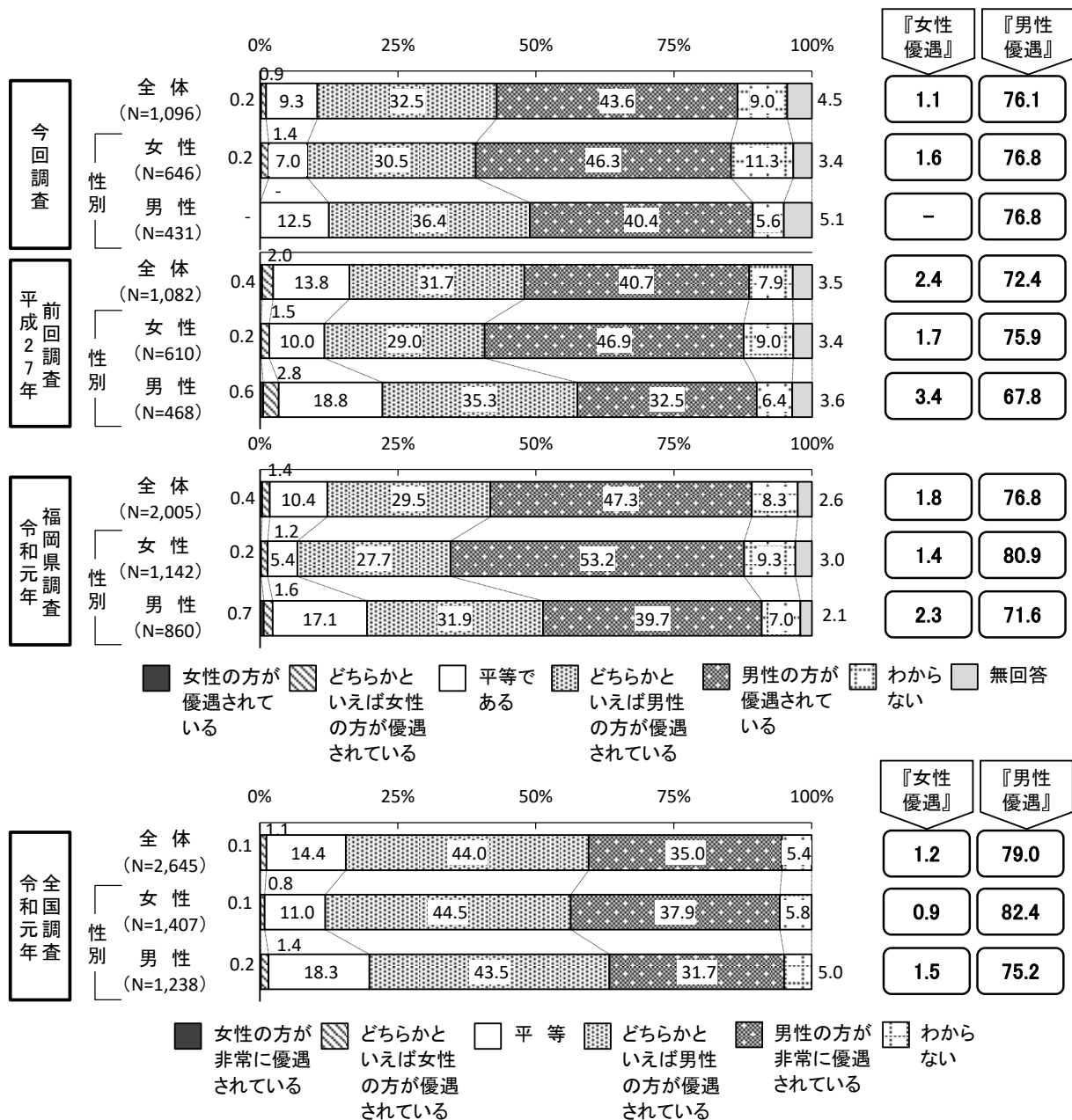
年齢別でみると、女性の50歳代と60歳代で『男性優遇』が5割台と高く、また30歳代や70歳以上でも5割近くある。実際に地域活動を行っていると思われる年代で『男性優遇』の割合が高い結果となっている。他方、男性の50歳代以下では「平等である」が4割台と高い。

図表1-9 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	女性の方が優遇	どちらかという方が優え	平等である	どちらかという方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	女性優遇	男性優遇
全体		1,096 100.0	8 0.7	65 5.9	332 30.3	360 32.8	118 10.8	159 14.5	54 4.9	73 6.6	478 43.6
年齢別	女性:29歳以下	32	-	-	34.4	21.9	15.6	21.9	6.3	-	37.5
	女性:30歳代	57	1.8	3.5	21.1	36.8	12.3	21.1	3.5	5.3	49.1
	女性:40歳代	74	-	5.4	23.0	35.1	9.5	25.7	1.4	5.4	44.6
	女性:50歳代	80	-	3.8	25.0	33.8	20.0	16.3	1.3	3.8	53.8
	女性:60歳代	155	-	3.9	23.9	43.9	11.0	16.1	1.3	3.9	54.9
	女性:70歳以上	245	1.6	3.7	26.5	32.7	14.3	14.3	6.9	5.3	47.0
	男性:29歳以下	29	-	6.9	41.4	13.8	-	31.0	6.9	6.9	13.8
	男性:30歳代	29	-	13.8	41.4	24.1	3.4	13.8	3.4	13.8	27.5
	男性:40歳代	45	2.2	8.9	44.4	24.4	6.7	11.1	2.2	11.1	31.1
	男性:50歳代	57	-	15.8	42.1	19.3	5.3	14.0	3.5	15.8	24.6
	男性:60歳代	113	1.8	10.6	36.3	30.1	6.2	10.6	4.4	12.4	36.3
男性:70歳以上	158	-	5.7	33.5	37.3	9.5	4.4	9.5	5.7	46.8	
無回答		22	-	4.5	36.4	22.7	9.1	13.6	13.6	4.5	31.8

(オ) 政治の場では

図表 1-10 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



「政治の場」での男女の地位は『男性優遇』が76.1%と7分野の中で最も高く、「平等である」は9.3%と7分野中最も低いなど、男性優遇が強く認識されている分野である。

性別にみると、『男性優遇』は男女とも同率の76.8%、「平等である」は女性が7.0%、男性12.5%と男女とも政治の場での男性優遇を強く認識している。

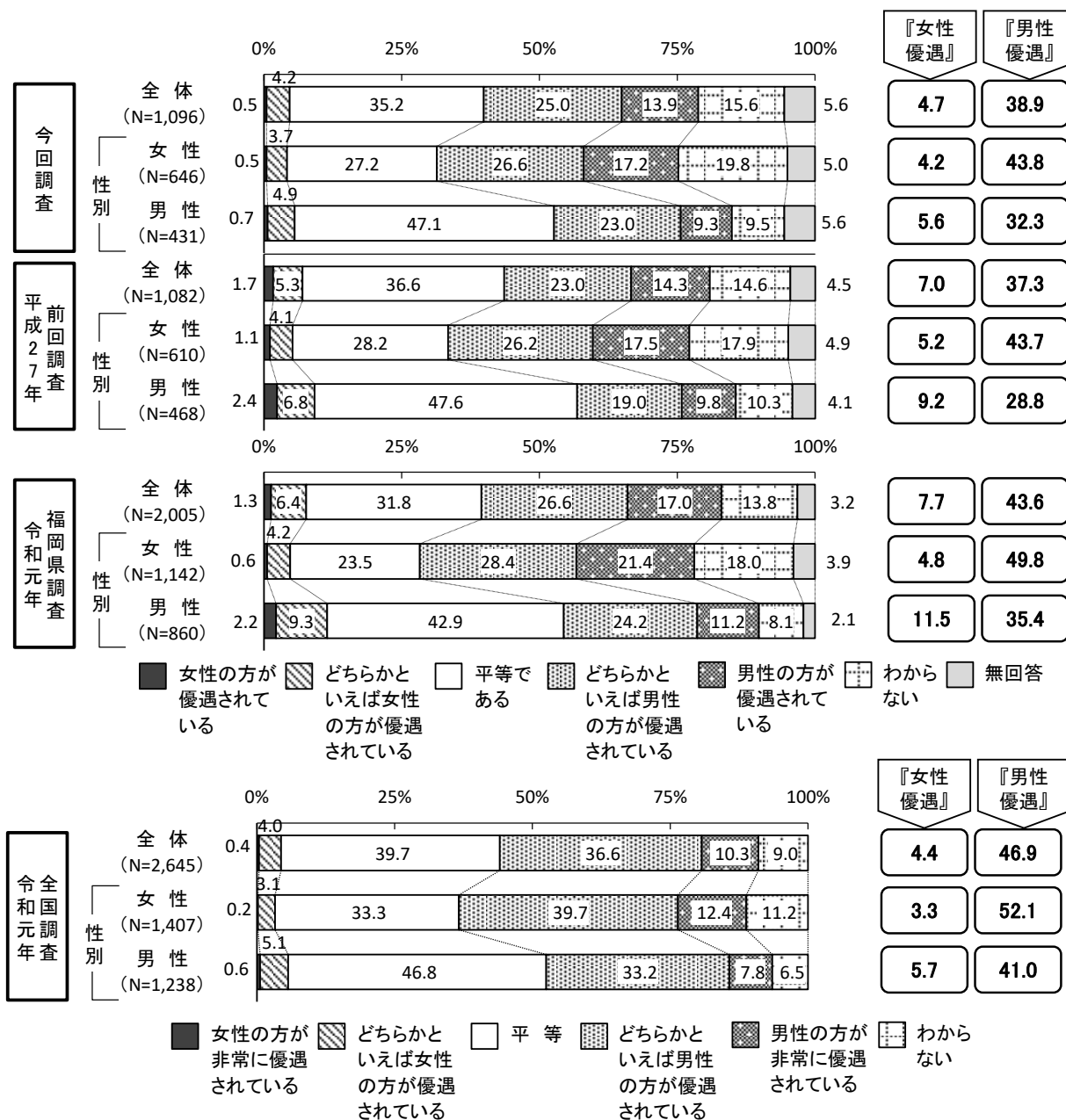
前回調査と比べると、女性ではあまり大差はみられないが、男性は『男性優遇』が9ポイント高く、「平等である」が6.3ポイント低くなるなど男性優遇の認識が強くなっている。

福岡県調査と比べると、女性では『男性優遇』は今回調査の方がやや低いが、男性では5.2ポイント高く、「平等である」が4.6ポイント低いなど、今回調査の男性の方が男性優遇との認識が高い。

全国調査と比べると、「平等である」は今回調査の方が女性で4ポイント、男性で5.8ポイント低くなっており、全国調査に比べて平等感は低くなっている。

(カ) 法律や制度のうえでは

図表1-11 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



「法律や制度のうえ」での男女の地位は『男性優遇』(38.9%)と「平等である」(35.2%)が同程度となっており、「平等である」は学校教育の場に次いで7分野中2番目に高くなっている。

性別で見ると、「平等である」は男性が47.1%に対し、女性は27.2%と19.9ポイントの差がある。また『男性優遇』(女性43.8%、男性32.3%)は女性の方が11.5%ポイント上回るなど、男性は平等との認識が強いが、女性は『男性優遇』の認識が強くなっており、男女の認識の違いが大きい分野となっている。

前回調査と比べると、女性はあまり大きな差はみられないが、男性は『男性優遇』が3.5ポイント増えている。

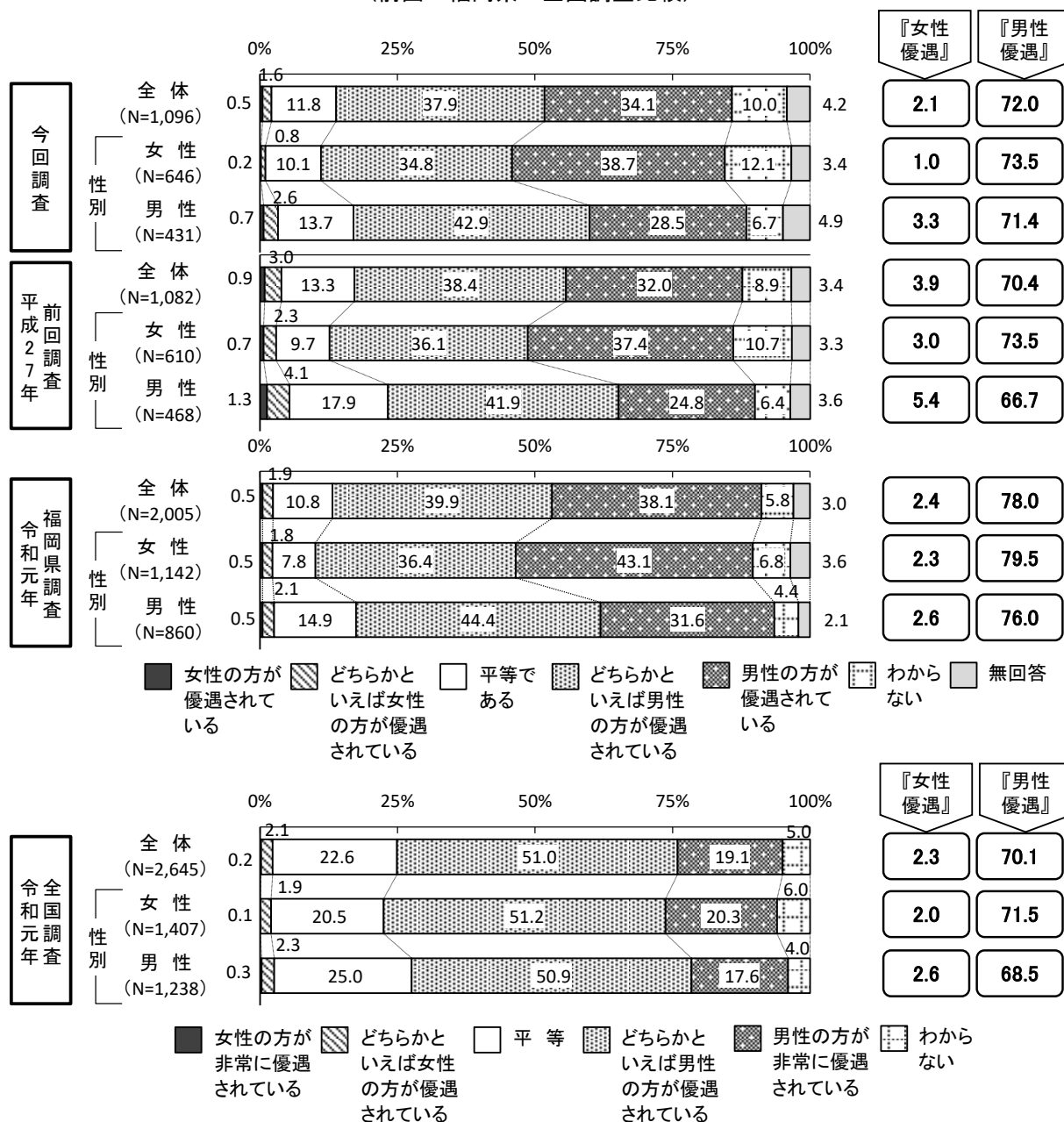
II 調査結果

福岡県調査と比べると、女性は『男性優遇』、男性は「平等である」の割合が高い傾向は同じであるが、女性の『男性優遇』は今回調査の方が6.2ポイント低く、県調査よりも男女の認識の差は大きくはない。

全国調査と比べると、男女とも「わからない」が約3～9ポイント高いため、「平等である」は男性は同程度であるが、女性は6.1ポイント低く、女性において平等ではないと考える人が全国よりも多い。

(キ) 社会通念・慣習・しきたりなどでは

図表1-12 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、性別]  
(前回・福岡県・全国調査比較)



「社会通念・慣習・しきたりなど」での男女の地位は『男性優遇』が72.0%と、政治の場に次いで2番目に高くなっている。「平等である」は11.8%と7分野中2番目に低く、男性優遇が強く認識されている分野である。

性別でみると、『男性優遇』(女性73.5%、男性71.4%)は女性がやや高く、「平等である」(同10.1%、13.7%)は女性がやや低いなど差はあまりみられず、女性も男性も男性優遇と認識している。

前回調査と比べると、女性はあまり大きな差はみられないが、男性は『男性優遇』が4.7ポイント増加、「平等である」が4.2ポイント減少しており、男性において男性優遇の認識が強くなっている。

福岡県調査と比べると、「平等である」の割合は男女ともあまり変わらないが、『男性優遇』は今回調査の方が男女とも約5～6ポイント低く、県調査に比べて不平等感はやや弱い。

全国調査と比べると、男女とも『男性優遇』は今回調査の方が約2～3ポイントとやや高く、「平等である」は約10ポイント低くなっており、全国に比べて不平等感強い。

年齢別でみると、女性の50歳代で『男性優遇』が82.5%と最も高く、女性の40歳以上、男性の30歳以上で『男性優遇』は7割を超えている。男女とも29歳以下で「平等である」が2割台半ばから3割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。

既未婚別でみると、男女とも既婚で『男性優遇』が7割台半ばから8割近くと高いのに対し、未婚では6割弱と既婚の方が男性優遇との認識が強い。

図表1-13 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、年齢別、既未婚別] (%)

		標本数	女性の方が優遇	どちらか一方が優え	平等である	どちらか一方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全体		1,096 100.0	5 0.5	17 1.6	129 11.8	415 37.9	374 34.1	110 10.0	46 4.2	22 2.1	789 72.0
年齢別	女性:29歳以下	32	-	-	34.4	21.9	31.3	9.4	3.1	-	53.2
	女性:30歳代	57	1.8	3.5	10.5	31.6	36.8	12.3	3.5	5.3	68.4
	女性:40歳代	74	-	-	6.8	29.7	48.6	13.5	1.4	-	78.3
	女性:50歳代	80	-	-	6.3	32.5	50.0	10.0	1.3	-	82.5
	女性:60歳代	155	-	1.3	8.4	35.5	41.3	12.3	1.3	1.3	76.8
	女性:70歳以上	245	-	0.4	10.2	38.8	31.8	12.7	6.1	0.4	70.6
	男性:29歳以下	29	3.4	-	24.1	24.1	10.3	31.0	6.9	3.4	34.4
	男性:30歳代	29	-	-	17.2	41.4	34.5	3.4	3.4	-	75.9
	男性:40歳代	45	4.4	2.2	17.8	37.8	35.6	2.2	-	6.6	73.4
	男性:50歳代	57	-	3.5	7.0	47.4	31.6	7.0	3.5	3.5	79.0
男性:60歳代	113	-	2.7	10.6	47.8	29.2	5.3	4.4	2.7	77.0	
男性:70歳以上	158	-	3.2	14.6	43.0	27.2	5.1	7.0	3.2	70.2	
無回答	22	4.5	4.5	22.7	31.8	9.1	13.6	13.6	9.0	40.9	
既未婚別	女性:既婚	408	0.2	0.7	8.3	37.0	40.9	10.3	2.5	0.9	77.9
	女性:離・死別	143	-	0.7	9.1	32.9	37.1	15.4	4.9	0.7	70.0
	女性:未婚	75	-	1.3	22.7	25.3	33.3	14.7	2.7	1.3	58.6
	男性:既婚	273	0.4	2.6	12.1	42.9	33.3	4.0	4.8	3.0	76.2
	男性:離・死別	51	-	3.9	17.6	43.1	27.5	3.9	3.9	3.9	70.6
	男性:未婚	94	2.1	2.1	16.0	41.5	17.0	16.0	5.3	4.2	58.5
無回答	52	1.9	1.9	15.4	38.5	15.4	13.5	13.5	3.8	53.9	



## 第2章 家庭生活や子育てについて

---

1. 家庭内の役割分担
2. 子育てに関する考え方





## 第2章 家庭生活や子育てについて

### 1. 家庭内の役割分担

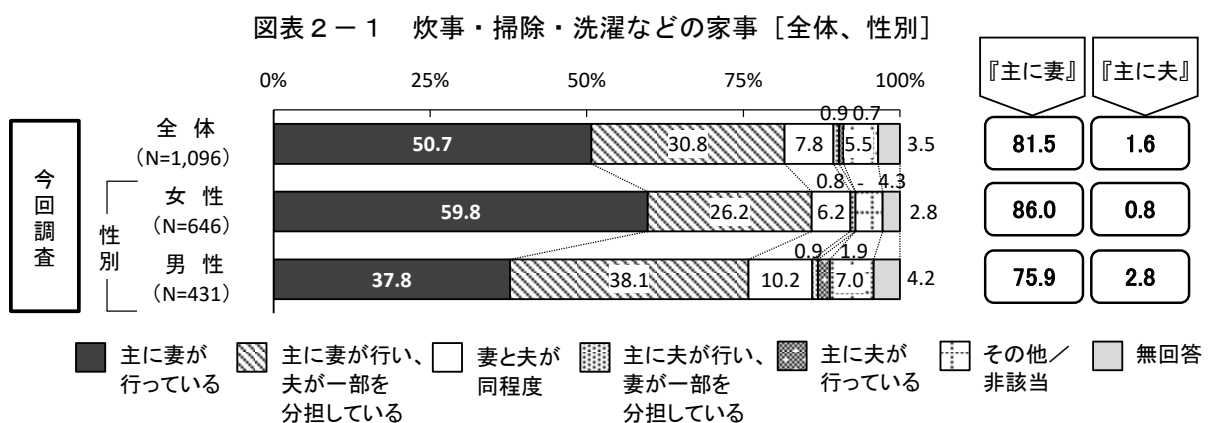
- ・『主に妻』の役割は、「日常の家事」(約8割)、「家計の管理」(6割台半ば)、「病人・高齢者の世話」(5割台半ば)、「育児、子どものしつけ」(5割強)などで高い。
- ・『主に夫』の役割は、「生活費を稼ぐ」(5割台半ば)、「高額なものの購入」、「家庭問題の最終決定」(約4割)などで高い。
- ・「子ども教育方針や進学目標の決定」は「妻と夫が同程度」が4割台半ば。「地域活動の参加」は男女とも自分が行っているとの認識が強い。

問3 あなたのご家庭では、次の(ア)～(ケ)のような家庭内の仕事を、主にどなたが行っていますか。(ア)～(ケ)の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。配偶者(パートナー)や子どもがいない方も、一般的にどう思うかお答えください。(○印は1つずつ)

家庭内での男女の役割分担に関する9つの項目について5段階でたずねた。

「主に妻が行っている」と「主に妻が行い、夫が一部を分担している」との合計を『主に妻』、「主に夫が行っている」と「主に夫が行い、妻が一部を分担している」との合計を『主に夫』とする。

#### (ア) 炊事・掃除・洗濯などの家事



炊事・掃除・洗濯などの家事は『主に妻』は81.5%でそのうち「主に妻が行っている」は50.7%と約5割を占めている。「妻と夫が同程度」は7.8%、『主に夫』は1.6%とわずかで、日常の家事は妻に偏っている。

性別で見ると、『主に妻』は女性で86.0%、男性でも75.9%と男女とも日常の家事は妻の役割との認識が高いが、そのうち「主に妻が行っている」(女性59.8%、男性37.8%)は女性の方が男性よりも22ポイント高く、「主に妻が行い、夫が一部を分担している」(同26.2%、38.1%)は男性の方が女性よりも11.9ポイント高い。また、「妻と夫が同程度」(同6.2%、10.2%)は男性が4ポイント高いなど、男性は日常の家事を分担して行っているとの認識が女性よりも高いようである。

## II 調査結果

前回調査では「掃除」(『主に妻』80.1%、『主に夫』4.3%)、「洗濯」(同84.1%、3.5%)、「食事の支度」(同86.5%、2.5%)、「食事の後片づけ、食器洗い」(同79.7%、5.9%)に分けてたずねているため、正確な比較はできないが、日常の家事は依然として妻の役割とする傾向は高い。

年齢別でみると、女性の50歳代で『主に妻』が92.5%と最も高く、次いで30歳代で87.8%と30歳代以上で8割を超えている。男性は30歳代で『主に妻』が89.7%と高い。

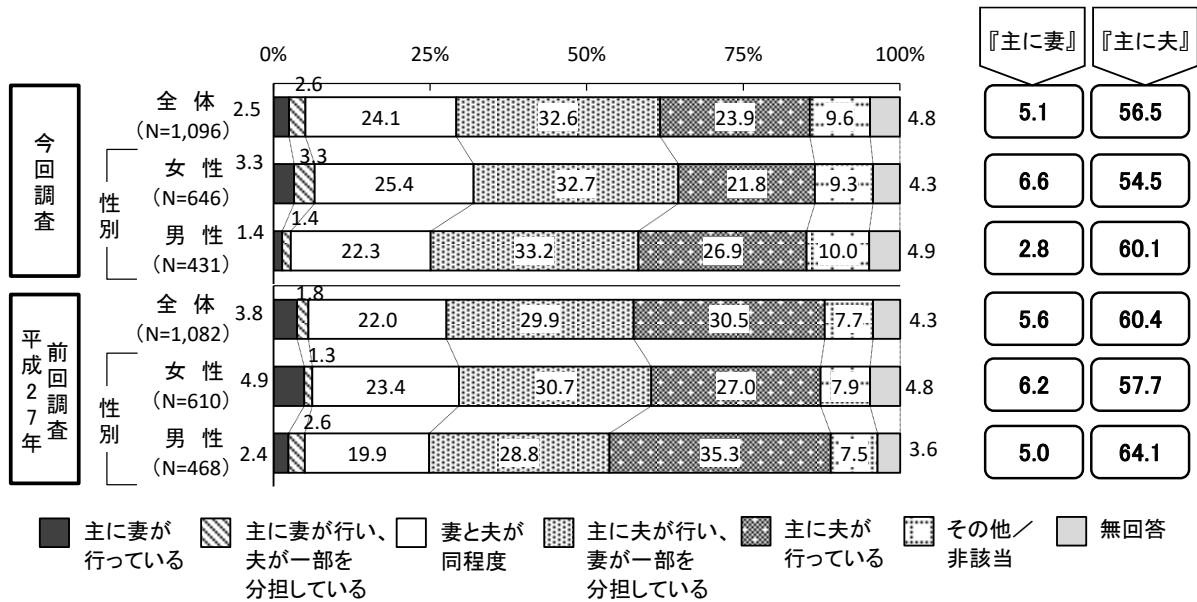
配偶関係別でみると、男女とも『主に妻』の割合に共働き、共働きでないで大差はみられず、女性は9割前後、男性は8割台半ば前後となっている。「妻と夫が同程度」も共働きで1割前後と共働きでない場合よりもやや高い程度にとどまっており、仕事の有無にかかわらず日常の家事は妻の役割となっている。

図表2-2 炊事・掃除・洗濯などの家事 [全体、年齢別、配偶関係別]

		標本数	いる主 に妻が 行って	し夫が 主の一 部を行 い分け	妻と夫 が同程 度	し妻が 主の一 部を行 い分け	いる主 に夫が 行って	その他 ／非該 当	無回 答	『主 に妻』	『主 に夫』
全体		1,096 100.0	556 50.7	338 30.8	86 7.8	10 0.9	8 0.7	60 5.5	38 3.5	<b>894</b> <b>81.5</b>	<b>18</b> <b>1.6</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	43.8	34.4	6.3	-	-	9.4	6.3	<b>78.2</b>	-
	女性:30歳代	57	66.7	21.1	5.3	-	-	3.5	3.5	<b>87.8</b>	-
	女性:40歳代	74	52.7	29.7	8.1	1.4	-	6.8	1.4	<b>82.4</b>	<b>1.4</b>
	女性:50歳代	80	70.0	22.5	5.0	-	-	2.5	-	<b>92.5</b>	-
	女性:60歳代	155	56.8	29.0	7.7	1.9	-	3.9	0.6	<b>85.8</b>	<b>1.9</b>
	女性:70歳以上	245	60.4	24.9	5.3	0.4	-	4.1	4.9	<b>85.3</b>	<b>0.4</b>
	男性:29歳以下	29	34.5	24.1	13.8	-	-	20.7	6.9	<b>58.6</b>	-
	男性:30歳代	29	34.5	55.2	3.4	-	-	3.4	3.4	<b>89.7</b>	-
	男性:40歳代	45	37.8	37.8	11.1	-	-	13.3	-	<b>75.6</b>	-
	男性:50歳代	57	22.8	42.1	17.5	1.8	-	10.5	5.3	<b>64.9</b>	<b>1.8</b>
	男性:60歳代	113	32.7	43.4	8.8	0.9	2.7	5.3	6.2	<b>76.1</b>	<b>3.6</b>
男性:70歳以上	158	48.1	32.3	8.9	1.3	3.2	3.2	3.2	<b>80.4</b>	<b>4.5</b>	
無回答	22	45.5	22.7	9.1	4.5	-	9.1	9.1	<b>68.2</b>	<b>4.5</b>	
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	172	58.7	28.5	9.3	1.2	-	0.6	1.7	<b>87.2</b>	<b>1.2</b>
	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	236	63.1	27.1	4.7	1.3	-	1.3	2.5	<b>90.2</b>	<b>1.3</b>
	女性:配偶者はいない (離別)	56	57.1	21.4	5.4	-	-	14.3	1.8	<b>78.5</b>	-
	女性:配偶者はいない (死別)	87	58.6	26.4	5.7	-	-	4.6	4.6	<b>85.0</b>	-
	女性:結婚していない	75	52.0	25.3	4.0	-	-	16.0	2.7	<b>77.3</b>	-
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	94	34.0	48.9	13.8	-	-	-	3.2	<b>82.9</b>	-
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	179	46.4	39.1	7.8	1.1	2.2	-	3.4	<b>85.5</b>	<b>3.3</b>
	男性:配偶者はいない (離別)	36	25.0	30.6	13.9	-	5.6	16.7	8.3	<b>55.6</b>	<b>5.6</b>
	男性:配偶者はいない (死別)	15	26.7	26.7	20.0	6.7	6.7	6.7	6.7	<b>53.4</b>	<b>13.4</b>
	男性:結婚していない	94	26.6	34.0	8.5	-	1.1	24.5	5.3	<b>60.6</b>	<b>1.1</b>
無回答	52	59.6	15.4	9.6	3.8	-	3.8	7.7	<b>75.0</b>	<b>3.8</b>	

(イ) 生活費を稼ぐ

図表2-3 生活費を稼ぐ [全体、性別] (前回調査比較)



「生活費を稼ぐ」については『主に夫』が 56.5%、「妻と夫が同程度」が 24.1%となっており、生活費を稼ぐことについては夫の役割との認識が 5 割台半ばである。日常の家事は約 8 割が妻に偏っていたが、それほど夫に偏ってはいない。

性別で見ると、『主に夫』の割合は女性が 54.5%と男性 (60.1%) より 5.6 ポイント低く、「夫と妻が同程度」は女性が 25.4%と男性 (22.3%) よりも 3.1 ポイント高くなっている。生活費を稼ぐことについては、女性は分担して行っているという認識が男性よりもやや高い。

前回調査と比べると、男女とも『主に夫』の割合が約 3～4 ポイント低くなり、「妻と夫が同程度」が約 2 ポイント高くなるなど、前回調査よりもやや夫への偏りが低くなっている。

II 調査結果

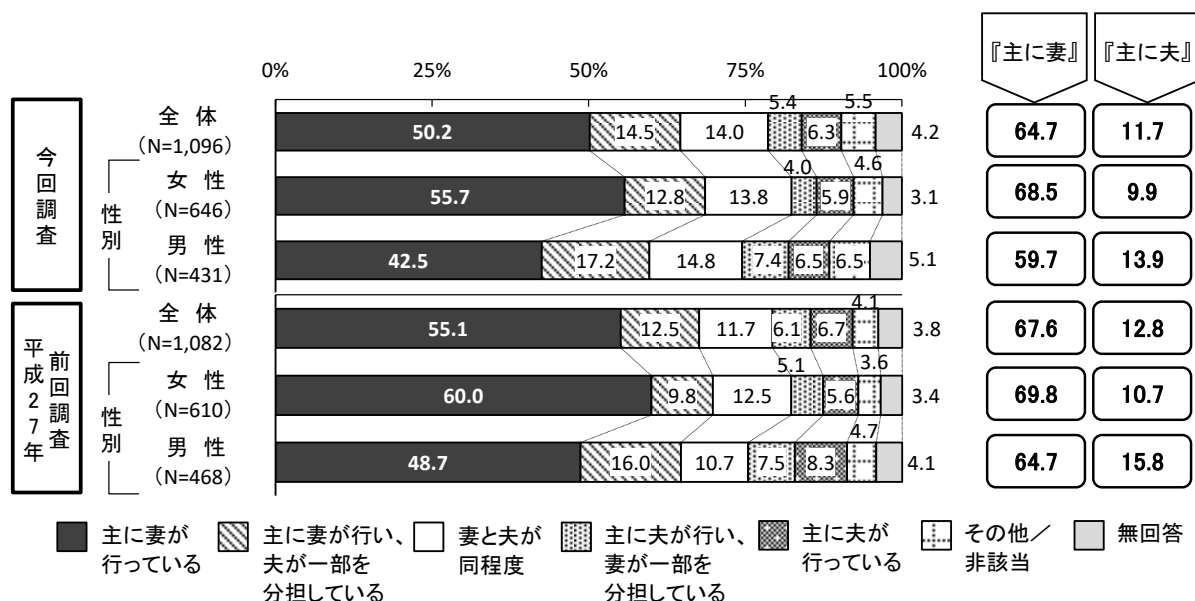
配偶関係別でみると、女性の共働きの場合は『主に夫』は46.5%と5割を下回り、「夫と妻が同程度」は41.3%と分担して行っているとの割合が他の配偶関係よりも高い。男性の共働きは『主に夫』が60.6%、「妻と夫が同程度」は34.0%と女性より分担して行っているとの認識は低い。

図表2-4 生活費を稼ぐ [全体、配偶関係別]

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に妻が行い、夫が一部を分担している	主に夫が行っている	その他／非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,096 100.0	27 2.5	28 2.6	264 24.1	357 32.6	262 23.9	105 9.6	53 4.8	55 5.1	619 56.5
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	172	2.9	4.7	41.3	36.0	10.5	2.3	2.3	7.6	46.5
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	236	3.0	3.4	16.9	29.2	32.2	9.7	5.5	6.4	61.4
	女性:配偶者はいない(離別)	56	5.4	-	23.2	32.1	14.3	23.2	1.8	5.4	46.4
	女性:配偶者はいない(死別)	87	5.7	2.3	21.8	28.7	26.4	9.2	5.7	8.0	55.1
	女性:結婚していない	75	1.3	4.0	20.0	41.3	16.0	14.7	2.7	5.3	57.3
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	94	-	2.1	34.0	46.8	13.8	-	3.2	2.1	60.6
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	179	1.7	1.1	19.6	26.3	37.4	8.9	5.0	2.8	63.7
	男性:配偶者はいない(離別)	36	5.6	-	19.4	25.0	27.8	16.7	5.6	5.6	52.8
	男性:配偶者はいない(死別)	15	-	-	13.3	46.7	33.3	-	6.7	-	80.0
	男性:結婚していない	94	1.1	1.1	19.1	33.0	18.1	22.3	5.3	2.2	51.1
	無回答	52	-	3.8	23.1	26.9	25.0	5.8	15.4	3.8	51.9

(ウ) 家計の管理

図表2-5 家計の管理 [全体、性別] (前回調査比較)



「家計の管理」では『主に妻』は64.7%と炊事・掃除・洗濯などの家事に次いで2番目に高い。「妻と夫が同程度」は14.0%、『主に夫』は11.7%で日々の家計の管理は妻の仕事となっている場合が多い。

性別でみると、女性は『主に妻』が68.5%で男性(59.7%)を8.8ポイント上回り、そのうち「主に妻が行っている」(女性55.7%、男性42.5%)は女性の方が13.2ポイント高く、女性において妻の役割との認識が高い。

前回調査と比べると、男性の『主に妻』の割合は5ポイント減っているが、女性ではあまり変化はみられない。

配偶関係別でみると、男女とも共働きの場合、『主に妻』の割合が共働きでない場合よりも高くなっている。

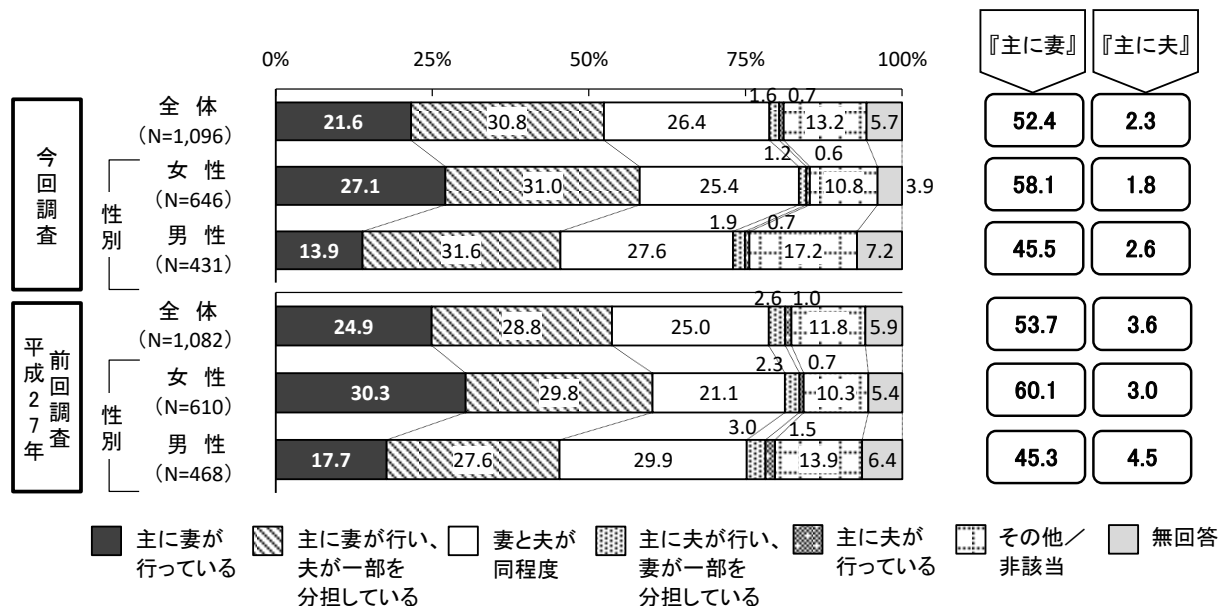
図表2-6 家計の管理 [全体、配偶関係別]

(%)

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行っている部分	妻と夫が同程度	主に妻が行っている部分	主に夫が行っている	その他/非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,096	550	159	153	59	69	60	46	<b>709</b>	<b>128</b>
		100.0	50.2	14.5	14.0	5.4	6.3	5.5	4.2	<b>64.7</b>	<b>11.7</b>
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	172	64.0	9.3	16.3	2.9	2.9	2.3	2.3	<b>73.3</b>	<b>5.8</b>
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	236	54.7	12.3	13.1	5.9	10.6	1.3	2.1	<b>67.0</b>	<b>16.5</b>
	女性:配偶者はいない(離別)	56	46.4	16.1	16.1	-	3.6	16.1	1.8	<b>62.5</b>	<b>3.6</b>
	女性:配偶者はいない(死別)	87	57.5	16.1	10.3	3.4	1.1	4.6	6.9	<b>73.6</b>	<b>4.5</b>
	女性:結婚していない	75	46.7	18.7	13.3	4.0	1.3	13.3	2.7	<b>65.4</b>	<b>5.3</b>
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	94	52.1	17.0	14.9	5.3	7.4	-	3.2	<b>69.1</b>	<b>12.7</b>
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	179	46.4	15.1	14.5	11.7	7.3	1.1	3.9	<b>61.5</b>	<b>19.0</b>
	男性:配偶者はいない(離別)	36	30.6	25.0	13.9	-	5.6	16.7	8.3	<b>55.6</b>	<b>5.6</b>
	男性:配偶者はいない(死別)	15	40.0	-	26.7	13.3	13.3	-	6.7	<b>40.0</b>	<b>26.6</b>
	男性:結婚していない	94	31.9	20.2	14.9	2.1	3.2	21.3	6.4	<b>52.1</b>	<b>5.3</b>
	無回答	52	40.4	11.5	5.8	7.7	15.4	3.8	15.4	<b>51.9</b>	<b>23.1</b>

(エ) 育児、子どものしつけ

図表2-7 育児、子どもしつけ [全体、性別] (前回調査比較)



「育児、子どもしつけ」については『主に妻』が52.4%で、育児や子どものしつけは約半数が妻の役割となっている。「妻と夫が同程度」は26.4%である。

性別でみると、女性の『主に妻』の割合は58.1%と男性(45.5%)を12.6ポイント上回っている。「妻と夫が同程度」は男女ともに2割台半ばとなっている。

前回調査と比べると、男性はあまり大きな差はみられないが、女性は「妻と夫が同程度」が4.3ポイント増えている。

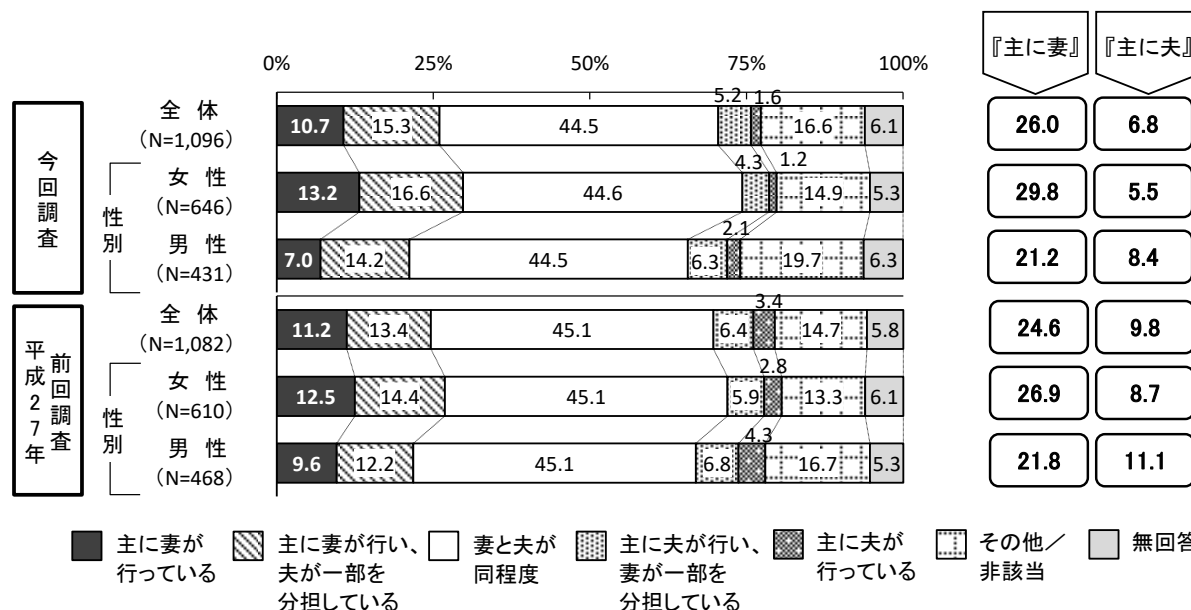
同居家族別でみると、男女とも乳幼児や未就学児がいる場合『主に妻』は6割から7割台半ばと高率で、手のかかる子どもがいる場合は育児やしつけは妻の仕事との認識が高い。

図表2-8 育児、子どもしつけ [全体、同居家族別]

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他/非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,096	237	338	289	17	8	145	62	575	25
		100.0	21.6	30.8	26.4	1.6	0.7	13.2	5.7	52.4	2.3
同居家族別	女性:乳幼児(3歳未満)	26	7.7	53.8	38.5	-	-	-	-	61.5	-
	女性:未就学児	28	28.6	46.4	25.0	-	-	-	-	75.0	-
	女性:小・中学生	82	25.6	35.4	26.8	4.9	2.4	1.2	3.7	61.0	7.3
	女性:高校生	32	28.1	37.5	28.1	-	-	-	6.3	65.6	-
	女性:専門学校生	9	22.2	22.2	44.4	-	-	11.1	-	44.4	-
	女性:大学・短大生	23	30.4	43.5	17.4	4.3	-	-	4.3	73.9	4.3
	女性:65歳以上の人	407	27.3	27.8	26.0	1.2	0.5	12.5	4.7	55.1	1.7
	女性:上記以外の人	391	25.1	36.3	24.8	1.5	1.0	9.2	2.0	61.4	2.5
	男性:乳幼児(3歳未満)	15	33.3	26.7	33.3	-	-	-	-	60.0	-
	男性:未就学児	13	23.1	46.2	30.8	-	-	-	-	69.3	-
	男性:小・中学生	45	20.0	33.3	35.6	4.4	-	2.2	4.4	53.3	4.4
	男性:高校生	28	3.6	39.3	28.6	3.6	-	17.9	7.1	42.9	3.6
	男性:専門学校生	7	14.3	14.3	42.9	-	-	28.6	-	28.6	-
	男性:大学・短大生	15	-	46.7	33.3	-	-	6.7	13.3	46.7	-
男性:65歳以上の人	268	13.4	31.0	25.4	2.2	0.7	17.9	9.3	44.4	2.9	
男性:上記以外の人	267	15.4	33.0	29.2	1.9	0.4	15.0	5.2	48.4	2.3	
無回答	2	11.8	11.8	35.3	5.9	5.9	5.9	23.5	23.6	11.8	

(オ) 子どもの教育方針や進学目標の決定

図表2-9 子どもの教育方針や進学目標の決定〔全体、性別〕(前回調査比較)



「子どもの教育方針や進学目標の決定」については「妻と夫が同程度」が44.5%と9つの家庭内の役割の中で最も高くなっている。

性別で見ると、男女とも「妻と夫が同程度」が4割台半ばで、女性は『主に妻』が29.8%で男性(21.2%)より8.6ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、「妻と夫が同程度」は同程度であるが、『主に妻』の割合が女性でやや増えている。

II 調査結果

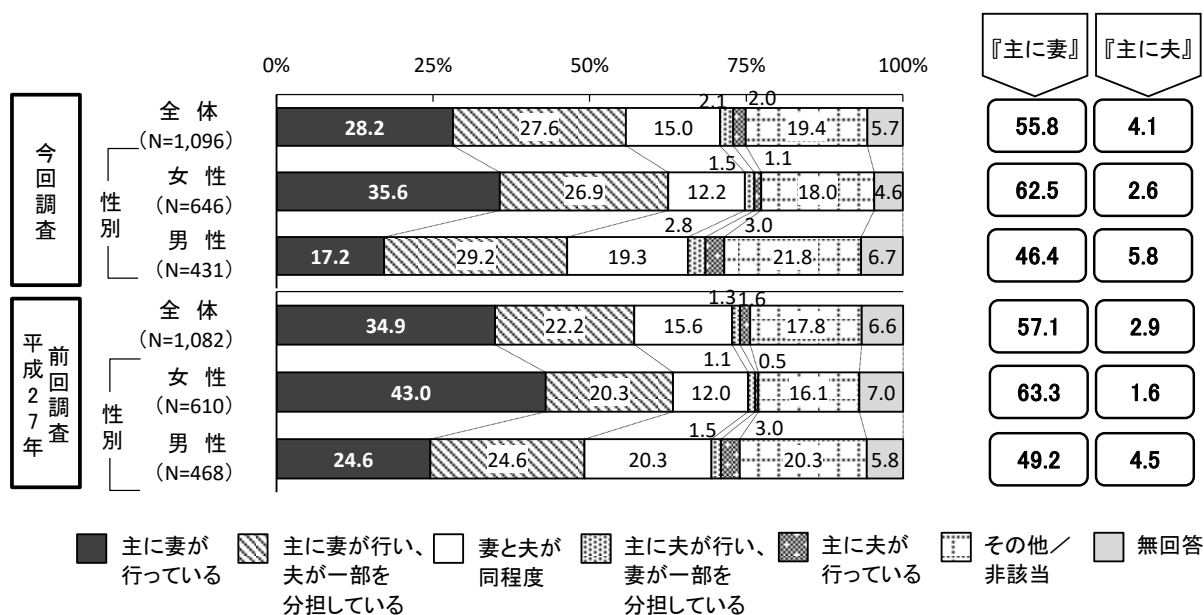
同居家族別にみると、乳幼児がいる場合「妻と夫が同程度」が男女とも6割台半ばと高率であるが、未就学児の場合男性は61.5%に対し、女性は46.4%で『主に妻』が50.0%となっている。また、小・中学生や高校生がいる場合「妻と夫が同程度」は男性が約5割に対し、女性は4割台半ば、『主に妻』は男性は約2割から3割であるが女性は4割台と、男性は同程度に分担して行っているとの認識があるが、女性は妻が行っているとの認識が高く、男女での差がみられる。

図表2-10 子どもの教育方針や進学目標の決定 [全体、同居家族別]

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に妻が行い、夫が一部を分担している	主に夫が行っている	その他／非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,096	117	168	488	57	17	182	67	285	74
		100.0	10.7	15.3	44.5	5.2	1.6	16.6	6.1	26.0	6.8
同居家族別	女性:乳幼児(3歳未満)	26	15.4	15.4	65.4	3.8	-	-	-	30.8	3.8
	女性:未就学児	28	17.9	32.1	46.4	3.6	-	-	-	50.0	3.6
	女性:小・中学生	82	18.3	24.4	43.9	4.9	3.7	1.2	3.7	42.7	8.6
	女性:高校生	32	18.8	25.0	46.9	3.1	-	-	6.3	43.8	3.1
	女性:専門学校生	9	11.1	11.1	66.7	-	-	11.1	-	22.2	-
	女性:大学・短大生	23	8.7	17.4	60.9	4.3	4.3	-	4.3	26.1	8.6
	女性:65歳以上の人	407	11.5	12.3	45.5	4.9	1.2	17.7	6.9	23.8	6.1
	女性:上記以外の人	391	14.3	19.4	44.2	4.3	2.0	12.8	2.8	33.7	6.3
	男性:乳幼児(3歳未満)	15	20.0	6.7	66.7	-	-	-	6.7	26.7	-
	男性:未就学児	13	-	23.1	61.5	7.7	-	7.7	-	23.1	7.7
	男性:小・中学生	45	15.6	17.8	51.1	8.9	-	4.4	2.2	33.4	8.9
	男性:高校生	28	10.7	10.7	50.0	-	-	21.4	7.1	21.4	-
	男性:専門学校生	7	14.3	42.9	14.3	-	-	28.6	-	57.2	-
	男性:大学・短大生	15	-	20.0	46.7	13.3	-	13.3	6.7	20.0	13.3
男性:65歳以上の人	268	5.2	12.7	43.7	6.7	2.6	20.9	8.2	17.9	9.3	
男性:上記以外の人	267	9.7	14.6	47.2	4.9	1.5	17.2	4.9	24.3	6.4	
無回答		2	5.9	11.8	35.3	11.8	-	5.9	29.4	17.7	11.8

(カ) 病人・高齢者の世話（介護）

図表2-11 病人・高齢者の世話（介護） [全体、性別]（前回調査比較）





「病人・高齢者の世話（介護）」については、『主に妻』の割合は55.8%と日常の家事や日々の家計の管理に次いで高い。

性別でみると、女性は『主に妻』が62.5%に対し、男性は46.4%と16.1ポイントの差があり、そのうち、女性は「主に妻が行っている」が35.6%と男性（17.2%）の約2倍となっている。また「妻と夫が同程度」（女性12.2%、男性19.3%）は男性の方が7.1ポイント高いなど、性別による認識の差が大きい。

前回調査と比べると、あまり大きな変化はみられないが、男女とも『主に妻』のうち「主に妻が行っている」の割合が各々7.4ポイント減り、「主に妻が行い、夫が一部を分担している」が約5～7ポイント増えている。

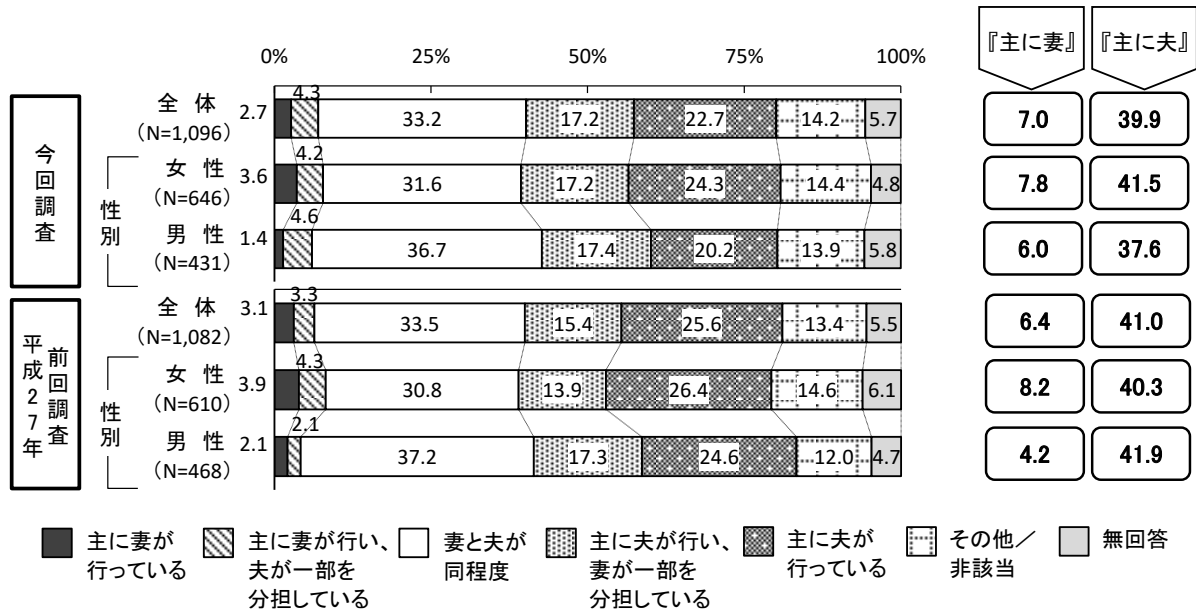
年齢別でみると、女性の30歳以上で『主に妻』が約6割から6割台半ばと高く、そのうち30歳代と60歳以上では「主に妻が行っている」が4割前後と高い。また、女性の30歳代では「妻と夫が同程度」が8.8%に対し、男性は37.9%と男女差が大きい年代となっている。

図表2-12 病人・高齢者の世話（介護）[全体、年齢別]

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に妻が行い、夫が一部を分担している	主に妻が行っている	その他／非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,096 100.0	309 28.2	303 27.6	164 15.0	23 2.1	22 2.0	213 19.4	62 5.7	<b>612</b> <b>55.8</b>	<b>45</b> <b>4.1</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	18.8	21.9	18.8	-	3.1	31.3	6.3	<b>40.7</b>	<b>3.1</b>
	女性:30歳代	57	40.4	24.6	8.8	1.8	-	21.1	3.5	<b>65.0</b>	<b>1.8</b>
	女性:40歳代	74	21.6	37.8	13.5	1.4	2.7	21.6	1.4	<b>59.4</b>	<b>4.1</b>
	女性:50歳代	80	35.0	26.3	21.3	1.3	-	16.3	-	<b>61.3</b>	<b>1.3</b>
	女性:60歳代	155	40.0	26.5	14.2	1.3	0.6	13.5	3.9	<b>66.5</b>	<b>1.9</b>
	女性:70歳以上	245	37.6	25.7	7.8	2.0	1.2	18.0	7.8	<b>63.3</b>	<b>3.2</b>
	男性:29歳以下	29	13.8	24.1	13.8	-	-	37.9	10.3	<b>37.9</b>	-
	男性:30歳代	29	13.8	20.7	37.9	3.4	-	20.7	3.4	<b>34.5</b>	<b>3.4</b>
	男性:40歳代	45	17.8	28.9	20.0	2.2	2.2	28.9	-	<b>46.7</b>	<b>4.4</b>
	男性:50歳代	57	10.5	36.8	29.8	1.8	1.8	15.8	3.5	<b>47.3</b>	<b>3.6</b>
	男性:60歳代	113	23.9	30.1	11.5	4.4	4.4	19.5	6.2	<b>54.0</b>	<b>8.8</b>
	男性:70歳以上	158	15.8	28.5	18.4	2.5	3.8	20.9	10.1	<b>44.3</b>	<b>6.3</b>
無回答		22	36.4	13.6	9.1	4.5	9.1	13.6	13.6	<b>50.0</b>	<b>13.6</b>

(キ) 高額な商品や土地・家屋の購入

図表 2-13 高額な商品や土地・家屋の購入 [全体、性別] (前回調査比較)



「高額な商品や土地・家屋の購入」については「妻と夫が同程度」が33.2%であるが、『主に夫』が39.9%で、そのうち「主に夫が行っている」が22.7%である。日々の家計の管理は6割台半ばが妻中心であったが、高額なものの決定は男性が担う場合が多い。

性別でみると、女性は『主に夫』が41.5%と男性(37.6%)より3.9ポイント高い。男性は「妻と夫が同程度」が36.7%で女性(31.6%)より5.1ポイント高く、男性の方が高額な買い物は同じ程度に分担していると認識している。

前回調査と比べると、あまり大きな変化はみられないが、男性で『主に夫』の割合が4.3ポイント減っている。

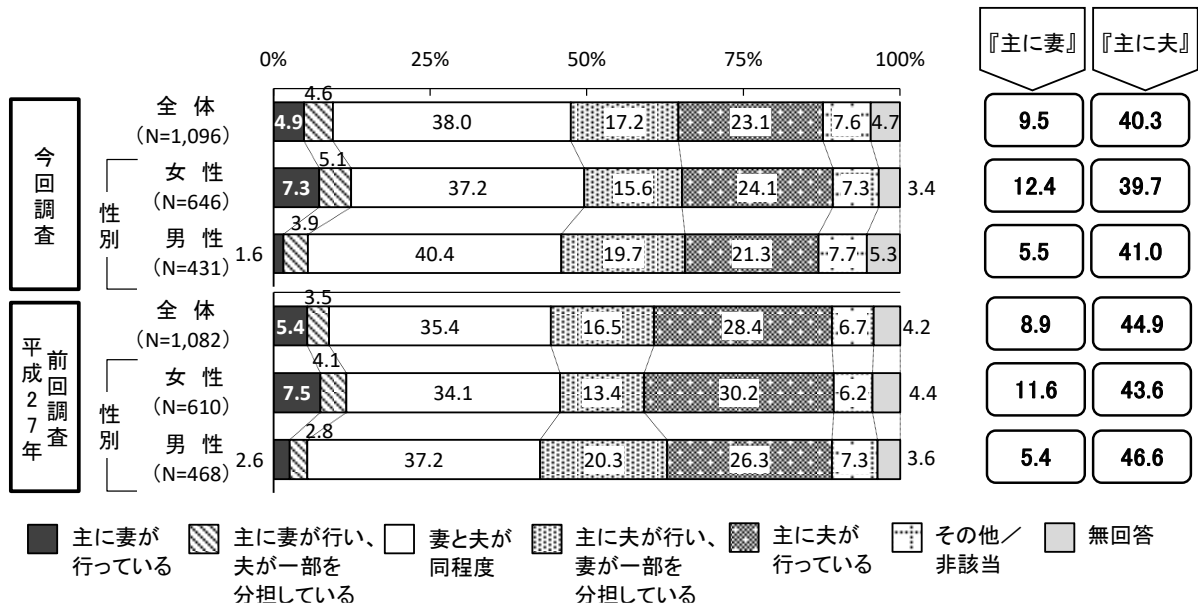
配偶関係別でみると、男性では共働き、共働きでないに関わらず「妻と夫が同程度」が4割強と同程度であるが、女性の共働きでは「妻と夫が同程度」が40.1%、共働きでない場合は28.0%と12.1ポイントの差がある。また、女性の共働きでない場合は『主に夫』が47.1%と共働き(36.6%)よりも10.5ポイント高くなっており、女性の場合、高額なものの決定には仕事の有無が関係するようである。結婚していない場合、『主に夫』(女性44.0%、男性34.0%)は女性の方が男性よりも10ポイント高く、男性の役割との認識が高い。

図表2-14 高額な商品や土地・家屋の購入〔全体、配偶関係別〕

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行っている一部を分担している	妻と夫が同程度	主に妻が行っている一部を分担している	主に夫が行っている	その他／非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,096 100.0	30 2.7	47 4.3	364 33.2	188 17.2	249 22.7	156 14.2	62 5.7	<b>77</b> <b>7.0</b>	<b>437</b> <b>39.9</b>
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	172	3.5	4.7	40.1	15.7	20.9	12.8	2.3	<b>8.2</b>	<b>36.6</b>
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	236	3.0	4.7	28.0	17.4	29.7	13.1	4.2	<b>7.7</b>	<b>47.1</b>
	女性:配偶者はいない(離別)	56	3.6	3.6	28.6	23.2	17.9	19.6	3.6	<b>7.2</b>	<b>41.1</b>
	女性:配偶者はいない(死別)	87	4.6	3.4	32.2	16.1	19.5	11.5	12.6	<b>8.0</b>	<b>35.6</b>
	女性:結婚していない	75	5.3	4.0	22.7	17.3	26.7	22.7	1.3	<b>9.3</b>	<b>44.0</b>
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	94	-	5.3	42.6	18.1	22.3	8.5	3.2	<b>5.3</b>	<b>40.4</b>
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	179	2.2	5.6	40.8	13.4	21.8	10.6	5.6	<b>7.8</b>	<b>35.2</b>
	男性:配偶者はいない(離別)	36	-	-	25.0	25.0	22.2	22.2	5.6	-	<b>47.2</b>
	男性:配偶者はいない(死別)	15	-	-	46.7	26.7	20.0	-	6.7	-	<b>46.7</b>
	男性:結婚していない	94	2.1	4.3	27.7	20.2	13.8	26.6	5.3	<b>6.4</b>	<b>34.0</b>
	無回答	52	1.9	1.9	25.0	13.5	23.1	9.6	25.0	<b>3.8</b>	<b>36.6</b>

(ク) 家庭の問題における最終決定

図表2-15 家庭の問題における最終決定〔全体、性別〕(前回調査比較)



「家庭の問題における最終決定」については「妻と夫が同程度」が38.0%あるが、『主に夫』は40.3%で、そのうち「主に夫が行っている」は23.1%ある。

性別で見ると、男女とも『主に夫』の割合は約4割であるが、女性は『主に妻』が12.4%と男性より6.9ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも『主に夫』の割合が約4～6ポイント減り、「妻と夫が同程度」が約3ポイントとやや増えている。

## II 調査結果

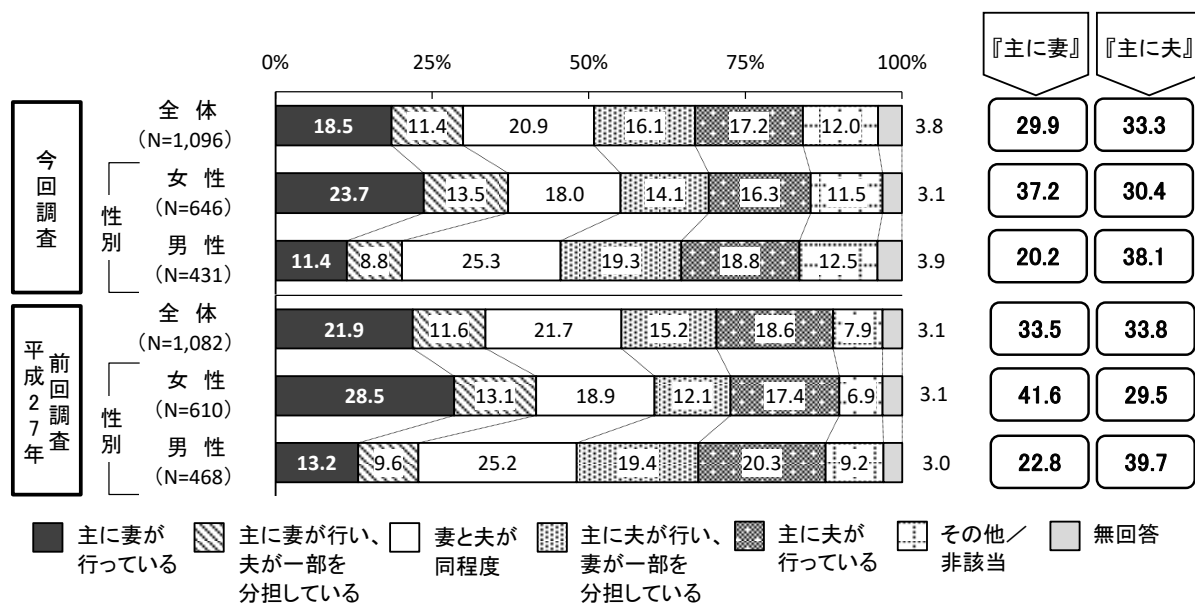
配偶関係別でみると、男性では共働き、共働きでないに関わらず「妻と夫が同程度」が4割台半ばと同程度であるが、女性の共働きでは「妻と夫が同程度」が44.8%、共働きでない場合は35.6%と9.2ポイントの差がある。また、女性の共働きでない場合は『主に夫』の割合が46.6%と共働き（35.4%）よりも11.2ポイント高くなっている。高額なものの決定と同様に女性の場合、家庭の問題における最終決定においても仕事の有無が関係するようである。結婚していない場合、男女とも「妻と夫が同程度」（女性33.3%、男性37.2%）が最も高いが、男性の方が3.9ポイント高く、『主に夫』（同29.3%、26.6%）は女性の方が2.7ポイント高いなど、未婚の女性の場合は男性の役割との認識がやや高い。

図表2-16 家庭の問題における最終決定 [全体、配偶関係別]

		標本数	主に妻が行って	主として妻が行い、夫が分担	妻と夫が同程度	主として夫が行い、妻が分担	主に夫が行って	その他／非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,096 100.0	54 4.9	50 4.6	416 38.0	189 17.2	253 23.1	83 7.6	51 4.7	<b>104 9.5</b>	<b>442 40.3</b>
配偶関係別	女性：配偶者・パートナーがいる（共働きである）	172	6.4	7.6	44.8	15.1	20.3	4.1	1.7	<b>14.0</b>	<b>35.4</b>
	女性：配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	236	8.1	3.4	35.6	15.7	30.9	3.0	3.4	<b>11.5</b>	<b>46.6</b>
	女性：配偶者はいない（離別）	56	10.7	5.4	32.1	17.9	14.3	17.9	1.8	<b>16.1</b>	<b>32.2</b>
	女性：配偶者はいない（死別）	87	4.6	4.6	34.5	19.5	20.7	8.0	8.0	<b>9.2</b>	<b>40.2</b>
	女性：結婚していない	75	8.0	6.7	33.3	9.3	20.0	21.3	1.3	<b>14.7</b>	<b>29.3</b>
	男性：配偶者・パートナーがいる（共働きである）	94	2.1	5.3	45.7	17.0	26.6	-	3.2	<b>7.4</b>	<b>43.6</b>
	男性：配偶者・パートナーがいる（共働きでない）	179	0.6	5.0	45.8	20.1	21.8	2.2	4.5	<b>5.6</b>	<b>41.9</b>
	男性：配偶者はいない（離別）	36	-	-	22.2	22.2	27.8	19.4	8.3	-	<b>50.0</b>
	男性：配偶者はいない（死別）	15	-	-	20.0	26.7	46.7	-	6.7	-	<b>73.4</b>
	男性：結婚していない	94	4.3	2.1	37.2	20.2	6.4	23.4	6.4	<b>6.4</b>	<b>26.6</b>
	無回答	52	1.9	1.9	21.2	17.3	32.7	5.8	19.2	<b>3.8</b>	<b>50.0</b>

(ケ) 行政区・隣組などの地域活動への参加

図表2-17 行政区・隣組などの地域活動への参加 [全体、性別] (前回調査比較)



「行政区・隣組などの地域活動への参加」については『主に妻』が29.9%、『主に夫』が33.3%と他の8つの項目に比べてどちらかに偏ってはいない。「妻と夫が同程度」は20.9%である。

性別で見ると、女性は『主に妻』が37.2%、男性は『主に夫』が38.1%となっており、男女とも自分が担っていると認識している。

前回調査と比べると、あまり大きな変化はみられない。

## II 調査結果

年齢別でみると、女性はいずれの年代も『主に妻』の割合が3割を超えており、特に50歳代で48.8%と最も高い。男性は60歳以上で『主に夫』が4割台半ばを超えて高く、これらの年代では自分が地域活動を行っているという認識が強い。

配偶関係別でみると、女性は共働きの場合『主に妻』が38.4%と最も高く、共働きでない場合は『主に妻』と『主に夫』が3割台半ばで同程度となっている。男性は共働き、共働きでないに関わらず『主に夫』の割合が4割台半ばから5割強と高い。

図表2-18 行政区・隣組などの地域活動への参加〔全体、年齢別、配偶関係別〕

		標本数	主に妻が行っている	主夫が妻の部分を担い、主妻が夫の部分を担い、	妻と夫が同程度	主妻が主夫の部分を担い、主夫が妻の部分を担い、	主に妻が行っている	その他／非該当	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		1,096	203	125	229	176	189	132	42	<b>328</b>	<b>365</b>
		100.0	18.5	11.4	20.9	16.1	17.2	12.0	3.8	<b>29.9</b>	<b>33.3</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	21.9	12.5	18.8	6.3	9.4	25.0	6.3	<b>34.4</b>	<b>15.7</b>
	女性:30歳代	57	19.3	17.5	15.8	15.8	14.0	12.3	5.3	<b>36.8</b>	<b>29.8</b>
	女性:40歳代	74	16.2	17.6	20.3	10.8	6.8	27.0	1.4	<b>33.8</b>	<b>17.6</b>
	女性:50歳代	80	30.0	18.8	17.5	12.5	13.8	7.5	-	<b>48.8</b>	<b>26.3</b>
	女性:60歳代	155	23.2	12.9	18.7	14.8	20.6	9.0	0.6	<b>36.1</b>	<b>35.4</b>
	女性:70歳以上	245	25.7	9.4	17.1	15.9	18.8	7.8	5.3	<b>35.1</b>	<b>34.7</b>
	男性:29歳以下	29	6.9	10.3	37.9	3.4	-	31.0	10.3	<b>17.2</b>	<b>3.4</b>
	男性:30歳代	29	17.2	3.4	37.9	17.2	3.4	13.8	6.9	<b>20.6</b>	<b>20.6</b>
	男性:40歳代	45	22.2	8.9	22.2	8.9	17.8	20.0	-	<b>31.1</b>	<b>26.7</b>
	男性:50歳代	57	10.5	8.8	31.6	17.5	10.5	19.3	1.8	<b>19.3</b>	<b>28.0</b>
	男性:60歳代	113	11.5	11.5	17.7	18.6	27.4	7.1	6.2	<b>23.0</b>	<b>46.0</b>
	男性:70歳以上	158	8.2	7.6	24.7	26.6	22.2	8.2	2.5	<b>15.8</b>	<b>48.8</b>
無回答		22	4.5	9.1	22.7	9.1	13.6	18.2	22.7	<b>13.6</b>	<b>22.7</b>
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	172	22.1	16.3	16.3	13.4	15.7	14.0	2.3	<b>38.4</b>	<b>29.1</b>
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	236	24.6	11.4	18.2	17.8	19.1	5.9	3.0	<b>36.0</b>	<b>36.9</b>
	女性:配偶者はいない(離別)	56	37.5	19.6	16.1	7.1	1.8	17.9	-	<b>57.1</b>	<b>8.9</b>
	女性:配偶者はいない(死別)	87	25.3	10.3	18.4	11.5	18.4	9.2	6.9	<b>35.6</b>	<b>29.9</b>
	女性:結婚していない	75	16.0	13.3	21.3	12.0	16.0	20.0	1.3	<b>29.3</b>	<b>28.0</b>
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	94	13.8	6.4	20.2	24.5	26.6	5.3	3.2	<b>20.2</b>	<b>51.1</b>
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	179	11.2	8.9	24.6	21.8	25.1	6.1	2.2	<b>20.1</b>	<b>46.9</b>
	男性:配偶者はいない(離別)	36	8.3	8.3	36.1	11.1	11.1	22.2	2.8	<b>16.6</b>	<b>22.2</b>
	男性:配偶者はいない(死別)	15	-	6.7	33.3	20.0	33.3	-	6.7	<b>6.7</b>	<b>53.3</b>
	男性:結婚していない	94	9.6	11.7	28.7	10.6	1.1	30.9	7.4	<b>21.3</b>	<b>11.7</b>
	無回答		52	13.5	5.8	17.3	17.3	15.4	15.4	15.4	<b>19.3</b>

2. 子育てに関する考え方

- ・「経済的自立」「個性や能力を生かす」育て方には積極的な「賛成」が約8割あるが、「生活技術を身につける」育て方は約7割と低くなる。女性は前回調査よりもいずれも「賛成」が増加。
- ・「3歳までは母親の手で育てる」は女性の「賛成」が男性よりも高いが、前回調査よりも減少。

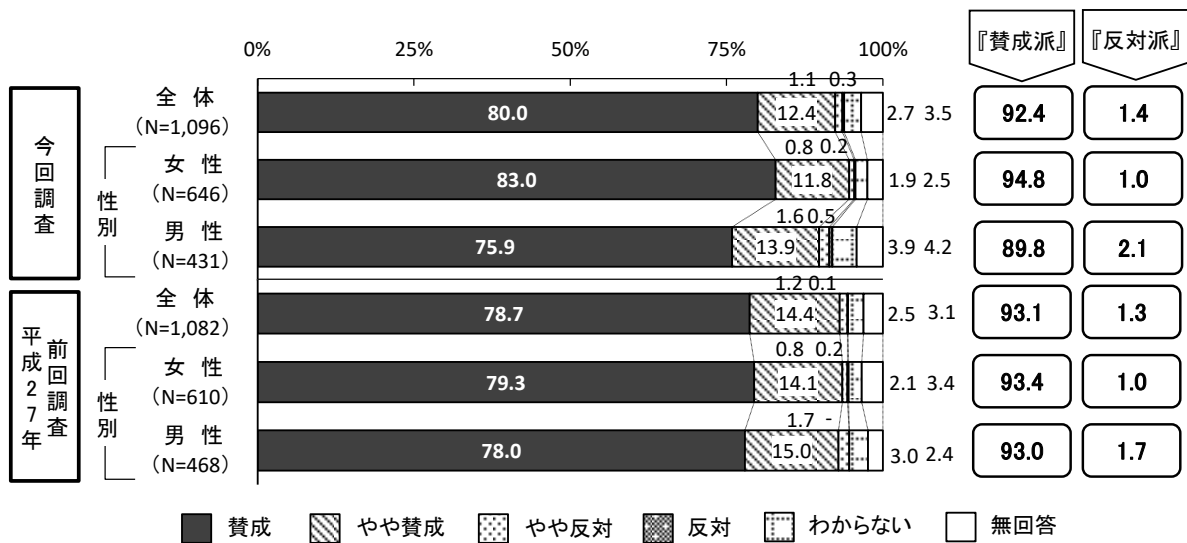
問4 子どもを育てるうえで大切だと思うことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の(ア)～(エ)の各項目について、あなたの考え方に最も近いものを選んでください。子どものいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。  
(○印は1つずつ)

子どもの育て方について4つの考え方について5段階でたずねた。

「賛成」と「やや賛成」の合計を『賛成派』、「反対」と「やや反対」の合計を『反対派』とする。

(ア) 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるように育てる

図表2-19 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるように育てる  
[全体、性別] (前回調査比較)



「女の子も男の子も同等に経済的に自立できるように育てる」という考え方については、「賛成」が80.0%と最も高く、『賛成派』は92.4%と9割を超えている。

性別で見ると、女性の『賛成派』は94.8%で男性(89.8%)より5ポイント高く、そのうち積極的な「賛成」は女性が83.0%で男性(75.9%)を7.1ポイント上回るなど、女性の方が男性より積極的に賛成している。

前回調査と比べると、女性は『賛成派』の割合は同程度であるが、積極的な「賛成」が3.7ポイント増えている。男性は「賛成」が2.1ポイント減り、『賛成派』も3.2ポイント減っている。

## II 調査結果

年齢別でみると、女性の30歳代と70歳以上を除く年代で積極的な「賛成」が9割前後と高い。男性は29歳以下と40歳代、50歳代で8割強あるが、その他年代では7割台となっている。

性別役割分担意識別でみると、女性では性別役割分担を容認しない人で積極的な「賛成」が8割台半ばから9割台半ばと高率であるが、容認する人でも7割台半ばから8割台半ばある。男性では容認しない人は積極的な「賛成」が6割台半ばから7割強と女性よりも低い。

図表2-20 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう育てる  
[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

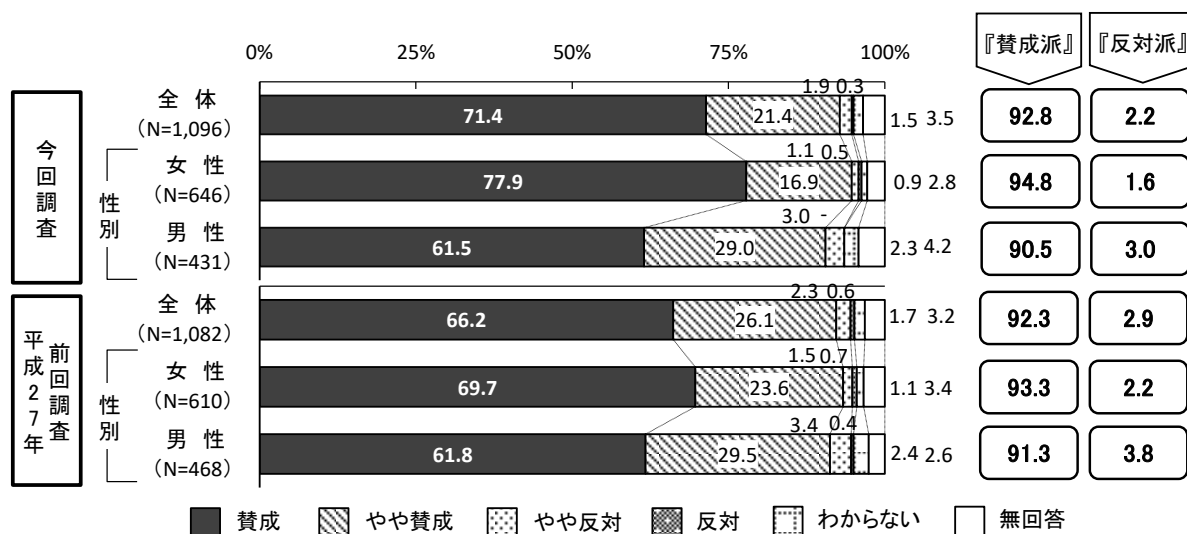
		標本数	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない	無回答	『賛成派』	『反対派』
全体		1,096 100.0	877 80.0	136 12.4	12 1.1	3 0.3	30 2.7	38 3.5	<b>1,013</b> <b>92.4</b>	<b>15</b> <b>1.4</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	87.5	3.1	-	-	3.1	6.3	<b>90.6</b>	-
	女性:30歳代	57	78.9	15.8	-	-	1.8	3.5	<b>94.7</b>	-
	女性:40歳代	74	87.8	9.5	-	-	1.4	1.4	<b>97.3</b>	-
	女性:50歳代	80	90.0	7.5	-	-	2.5	-	<b>97.5</b>	-
	女性:60歳代	155	89.7	8.4	-	-	1.3	0.6	<b>98.1</b>	-
	女性:70歳以上	245	75.1	16.3	2.0	0.4	2.0	4.1	<b>91.4</b>	<b>2.4</b>
	男性:29歳以下	29	82.8	3.4	-	3.4	3.4	6.9	<b>86.2</b>	<b>3.4</b>
	男性:30歳代	29	79.3	10.3	6.9	-	-	3.4	<b>89.6</b>	<b>6.9</b>
	男性:40歳代	45	82.2	11.1	2.2	-	4.4	-	<b>93.3</b>	<b>2.2</b>
	男性:50歳代	57	82.5	7.0	1.8	-	7.0	1.8	<b>89.5</b>	<b>1.8</b>
	男性:60歳代	113	72.6	17.7	-	0.9	3.5	5.3	<b>90.3</b>	<b>0.9</b>
男性:70歳以上	158	72.2	17.1	1.9	-	3.8	5.1	<b>89.3</b>	<b>1.9</b>	
	無回答	22	77.3	-	-	-	4.5	18.2	<b>77.3</b>	-
性別役割分担意識別	女性:同感する	27	85.2	7.4	-	-	-	7.4	<b>92.6</b>	-
	女性:ある程度同感する	153	75.2	18.3	1.3	-	3.9	1.3	<b>93.5</b>	<b>1.3</b>
	女性:あまり同感しない	195	84.1	13.3	1.0	-	1.5	-	<b>97.4</b>	<b>1.0</b>
	女性:同感しない	226	93.4	4.0	0.4	0.4	0.9	0.9	<b>97.4</b>	<b>0.8</b>
	男性:同感する	30	73.3	6.7	-	3.3	6.7	10.0	<b>80.0</b>	<b>3.3</b>
	男性:ある程度同感する	99	66.7	28.3	2.0	-	2.0	1.0	<b>95.0</b>	<b>2.0</b>
	男性:あまり同感しない	137	77.4	15.3	1.5	-	3.6	2.2	<b>92.7</b>	<b>1.5</b>
	男性:同感しない	128	88.3	5.5	1.6	0.8	3.9	-	<b>93.8</b>	<b>2.4</b>
	無回答	101	56.4	12.9	1.0	-	5.0	24.8	<b>69.3</b>	<b>1.0</b>



(イ) 男の子にも炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい

図表2-21 男の子にも炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい

[全体、性別] (前回調査比較)



「男の子にも炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい」という考え方については『賛成派』が92.8%と9割を超えているが、そのうち積極的な「賛成」は71.4%と経済的な自立と比べると8.6ポイント低くなっている。

性別でみると、女性の積極的な「賛成」は77.9%で男性(61.5%)を16.4ポイント上回り、男性は保留付きの「やや賛成」が29.0%と女性(16.9%)を12.1ポイント上回っている。男性の生活自立への消極的な姿勢がうかがえる。

前回調査と比べると、女性は『賛成派』の割合は同程度であるが、積極的な「賛成」が8.2ポイント高くなっており、保留付きの「やや賛成」が6.7ポイント減っている。男性は大きな変化はみられない。

## II 調査結果

年齢別でみると、女性の70歳以上、男性の60歳以上で積極的な「賛成」が5割強から6割台半ばと他の年代比べて低く、保留つきの「やや賛成」が2割台半ばから4割近くと高くなっており、高齢者では男性の生活自立にやや消極的である。

性別役割分担意識別でみると、女性では性別役割分担を容認しない人で積極的な「賛成」が8割弱から9割弱と高率であるが、容認する人でも約7割から8割強ある。男性ではあまり同感しない人でも積極的な「賛成」は56.2%と低い。

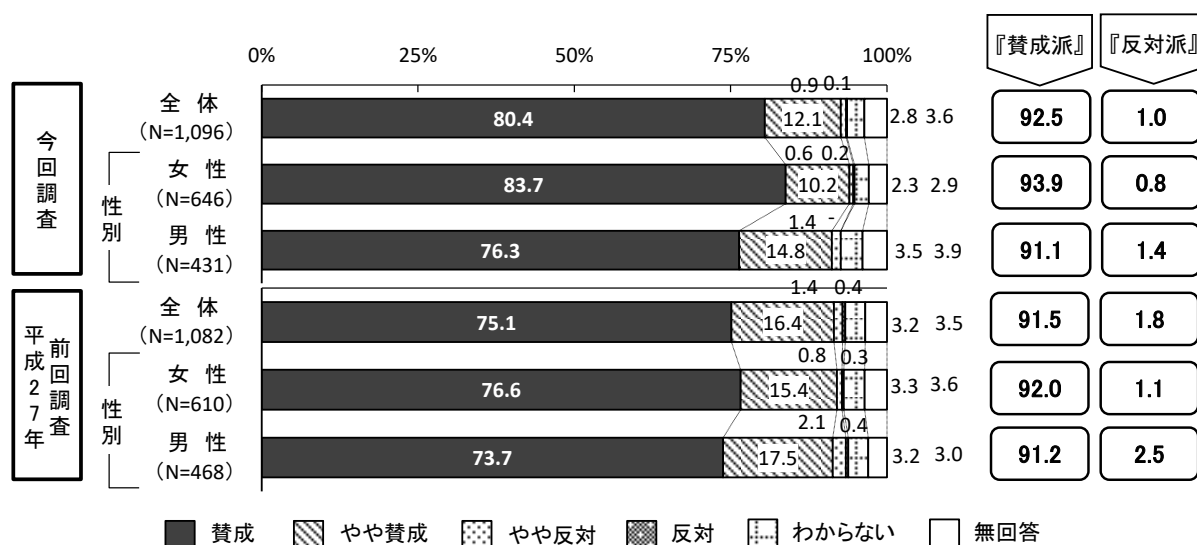
図表2-22 男の子にも炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい

[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

		標本数	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない	無回答	『賛成派』	『反対派』
全体		1,096 100.0	783 71.4	235 21.4	21 1.9	3 0.3	16 1.5	38 3.5	<b>1,018</b> <b>92.8</b>	<b>24</b> <b>2.2</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	78.1	9.4	-	3.1	3.1	6.3	<b>87.5</b>	<b>3.1</b>
	女性:30歳代	57	80.7	14.0	-	1.8	-	3.5	<b>94.7</b>	<b>1.8</b>
	女性:40歳代	74	91.9	4.1	-	-	2.7	1.4	<b>96.0</b>	-
	女性:50歳代	80	86.3	12.5	-	-	1.3	-	<b>98.8</b>	-
	女性:60歳代	155	83.2	15.5	-	-	0.6	0.6	<b>98.7</b>	-
	女性:70歳以上	245	66.5	24.9	2.9	0.4	0.4	4.9	<b>91.4</b>	<b>3.3</b>
	男性:29歳以下	29	72.4	10.3	3.4	-	6.9	6.9	<b>82.7</b>	<b>3.4</b>
	男性:30歳代	29	69.0	27.6	-	-	-	3.4	<b>96.6</b>	-
	男性:40歳代	45	80.0	15.6	-	-	4.4	-	<b>95.6</b>	-
	男性:50歳代	57	70.2	17.5	1.8	-	7.0	3.5	<b>87.7</b>	<b>1.8</b>
	男性:60歳代	113	59.3	31.9	1.8	-	0.9	6.2	<b>91.2</b>	<b>1.8</b>
男性:70歳以上	158	51.3	38.6	5.7	-	0.6	3.8	<b>89.9</b>	<b>5.7</b>	
	無回答	22	81.8	4.5	4.5	-	-	9.1	<b>86.3</b>	<b>4.5</b>
性別役割分担意識別	女性:同感する	27	81.5	11.1	-	-	-	7.4	<b>92.6</b>	-
	女性:ある程度同感する	153	69.3	26.8	0.7	0.7	0.7	2.0	<b>96.1</b>	<b>1.4</b>
	女性:あまり同感しない	195	77.4	20.0	1.0	-	1.5	-	<b>97.4</b>	<b>1.0</b>
	女性:同感しない	226	88.9	8.4	0.4	0.9	0.4	0.9	<b>97.3</b>	<b>1.3</b>
	男性:同感する	30	56.7	33.3	-	-	3.3	6.7	<b>90.0</b>	-
	男性:ある程度同感する	99	53.5	41.4	4.0	-	-	1.0	<b>94.9</b>	<b>4.0</b>
	男性:あまり同感しない	137	56.2	38.0	3.6	-	0.7	1.5	<b>94.2</b>	<b>3.6</b>
	男性:同感しない	128	78.9	14.1	2.3	-	4.7	-	<b>93.0</b>	<b>2.3</b>
	無回答	101	54.5	11.9	5.0	-	3.0	25.7	<b>66.4</b>	<b>5.0</b>

(ウ) 男女ともに一人ひとりが持つ個性や能力を生かして育てる

図表2-23 男女ともに一人ひとりが持つ個性や能力を生かして育てる  
[全体、性別] (前回調査比較)



「男女ともに一人ひとりが持つ個性や能力を生かして育てる」という考え方については、積極的な「賛成」が80.4%と経済的自立と同程度で高い。保留付きの「やや賛成」は12.1%で『賛成派』は92.5%となっている。

性別で見ると、積極的な「賛成」は女性が83.7%と男性(76.3%)を7.4ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも積極的な「賛成」が約3~7ポイント増えている。

## II 調査結果

年齢別でみると、女性は40歳代から60歳代で積極的な「賛成」が9割を超え、男性は40歳代以下で8割を超えて高くなっている。

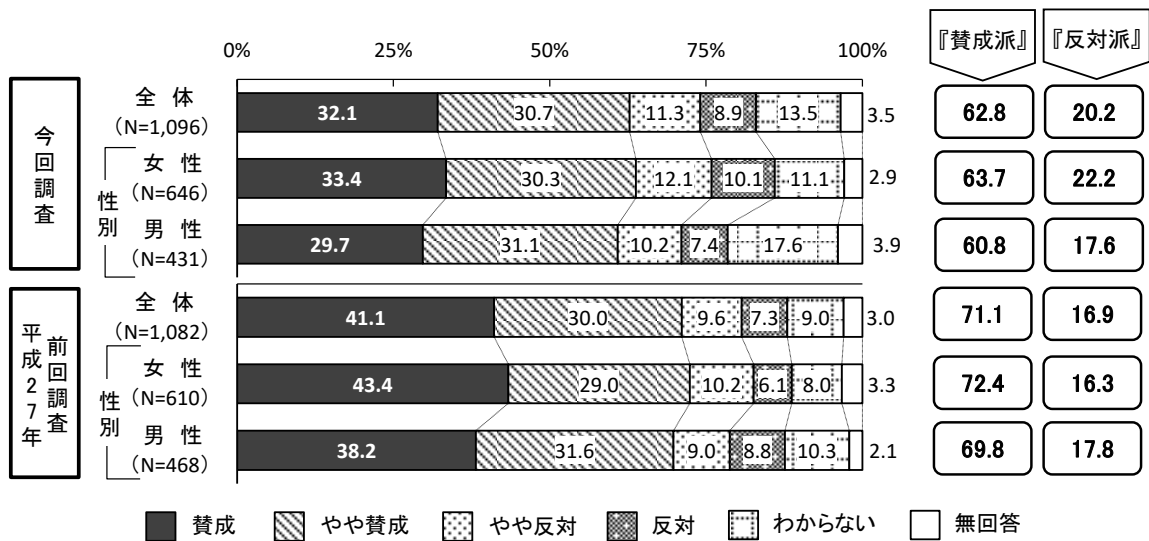
性別役割分担意識別でみると、女性では性別役割分担を容認しない人で積極的な「賛成」が8割強から9割強と高率であるが、容認する人でも約8割から8割台半ばある。

図表2-24 男女ともに一人ひとりが持つ個性や能力を生かして育てる  
[全体、年齢別、同居家族別、性別役割分担意識別]

		標本数	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない	無回答	『賛成派』	『反対派』
全体		1,096	881	133	10	1	31	40	<b>1,014</b>	<b>11</b>
		100.0	80.4	12.1	0.9	0.1	2.8	3.6	<b>92.5</b>	<b>1.0</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	87.5	3.1	-	3.1	-	6.3	<b>90.6</b>	<b>3.1</b>
	女性:30歳代	57	80.7	12.3	-	-	3.5	3.5	<b>93.0</b>	-
	女性:40歳代	74	97.3	-	-	-	1.4	1.4	<b>97.3</b>	-
	女性:50歳代	80	92.5	5.0	-	-	2.5	-	<b>97.5</b>	-
	女性:60歳代	155	90.3	7.1	-	-	1.9	0.6	<b>97.4</b>	-
	女性:70歳以上	245	72.7	17.6	1.6	-	2.9	5.3	<b>90.3</b>	<b>1.6</b>
	男性:29歳以下	29	82.8	6.9	-	-	3.4	6.9	<b>89.7</b>	-
	男性:30歳代	29	89.7	6.9	-	-	-	3.4	<b>96.6</b>	-
	男性:40歳代	45	80.0	15.6	-	-	4.4	-	<b>95.6</b>	-
	男性:50歳代	57	71.9	15.8	1.8	-	8.8	1.8	<b>87.7</b>	<b>1.8</b>
	男性:60歳代	113	78.8	14.2	-	-	1.8	5.3	<b>93.0</b>	-
男性:70歳以上	158	71.5	17.7	3.2	-	3.2	4.4	<b>89.2</b>	<b>3.2</b>	
	無回答	22	63.6	13.6	-	-	4.5	18.2	<b>77.2</b>	-
性別役割分担意識別	女性:同感する	27	85.2	3.7	-	-	3.7	7.4	<b>88.9</b>	-
	女性:ある程度同感する	153	79.1	16.3	0.7	-	2.6	1.3	<b>95.4</b>	<b>0.7</b>
	女性:あまり同感しない	195	82.6	14.4	0.5	-	2.6	-	<b>97.0</b>	<b>0.5</b>
	女性:同感しない	226	91.6	4.0	0.9	0.4	1.8	1.3	<b>95.6</b>	<b>1.3</b>
	男性:同感する	30	80.0	6.7	3.3	-	3.3	6.7	<b>86.7</b>	<b>3.3</b>
	男性:ある程度同感する	99	68.7	26.3	1.0	-	3.0	1.0	<b>95.0</b>	<b>1.0</b>
	男性:あまり同感しない	137	75.9	19.7	1.5	-	0.7	2.2	<b>95.6</b>	<b>1.5</b>
	男性:同感しない	128	87.5	7.0	0.8	-	4.7	-	<b>94.5</b>	<b>0.8</b>
	無回答	101	60.4	5.9	1.0	-	5.9	26.7	<b>66.3</b>	<b>1.0</b>

(エ) 3歳までは母親の手で育てる方がよい

図表2-25 3歳までは母親の手で育てる方がよい [全体、性別] (前回調査比較)



「3歳までは母親の手で育てる方がよい」という考え方については、積極的な「賛成」が32.1%、保留つきの「やや賛成」が30.7%と『賛成派』は62.8%である。『反対派』は20.2%でとなっている。

性別で見ると、積極的な「賛成」は女性が33.4%と男性(29.7%)を3.7ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも積極的な「賛成」が8.5~10ポイント減り、女性は『反対派』が5.9ポイント、男性は「わからない」が7.3ポイント増えている。

II 調査結果

年齢別でみると、女性は年齢が高くなるほど『賛成派』の割合が増え、年齢が低くなるほど『反対派』の割合が増える結果となっている。男性は70歳以上で『賛成派』が77.2%と高く、年齢が低い層では『反対派』の割合も高くなっているが、女性ほど割合は高くない。

同居家族別でみると、乳幼児や未就学児が同居家族にいる場合、女性の『反対派』は4割強から6割強で『賛成派』の割合を上回っている。男性は『賛成派』の方が割合は高く、乳幼児では66.7%となっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担を容認しない人ほど積極的な「賛成」の割合は低くなり、『反対派』の割合が高くなっている。

図表2-26 3歳までは母親の手で育てる方がよい [全体、年齢別、同居家族別、性別役割分担意識別]

		標本数	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない	無回答	『賛成派』	『反対派』
全体		1,096	352	336	124	98	148	38	<b>688</b>	<b>222</b>
		100.0	32.1	30.7	11.3	8.9	13.5	3.5	<b>62.8</b>	<b>20.2</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	6.3	25.0	21.9	18.8	21.9	6.3	<b>31.3</b>	<b>40.7</b>
	女性:30歳代	57	19.3	14.0	19.3	21.1	21.1	5.3	<b>33.3</b>	<b>40.4</b>
	女性:40歳代	74	20.3	27.0	12.2	23.0	16.2	1.4	<b>47.3</b>	<b>35.2</b>
	女性:50歳代	80	36.3	27.5	15.0	8.8	12.5	-	<b>63.8</b>	<b>23.8</b>
	女性:60歳代	155	35.5	29.7	14.2	8.4	11.6	0.6	<b>65.2</b>	<b>22.6</b>
	女性:70歳以上	245	42.0	37.1	6.9	3.7	5.3	4.9	<b>79.1</b>	<b>10.6</b>
	男性:29歳以下	29	20.7	13.8	13.8	13.8	31.0	6.9	<b>34.5</b>	<b>27.6</b>
	男性:30歳代	29	27.6	27.6	17.2	6.9	17.2	3.4	<b>55.2</b>	<b>24.1</b>
	男性:40歳代	45	20.0	31.1	8.9	13.3	26.7	-	<b>51.1</b>	<b>22.2</b>
	男性:50歳代	57	19.3	28.1	14.0	8.8	28.1	1.8	<b>47.4</b>	<b>22.8</b>
	男性:60歳代	113	23.0	33.6	11.5	8.0	18.6	5.3	<b>56.6</b>	<b>19.5</b>
	男性:70歳以上	158	43.0	34.2	6.3	3.8	8.2	4.4	<b>77.2</b>	<b>10.1</b>
	無回答	22	40.9	31.8	9.1	9.1	-	9.1	<b>72.7</b>	<b>18.2</b>
同居家族別	女性:乳幼児(3歳未満)	26	11.5	19.2	15.4	46.2	7.7	-	<b>30.7</b>	<b>61.6</b>
	女性:未就学児	28	14.3	25.0	14.3	28.6	17.9	-	<b>39.3</b>	<b>42.9</b>
	女性:小・中学生	82	13.4	29.3	15.9	22.0	15.9	3.7	<b>42.7</b>	<b>37.9</b>
	女性:高校生	32	21.9	28.1	18.8	18.8	6.3	6.3	<b>50.0</b>	<b>37.6</b>
	女性:専門学校生	9	11.1	33.3	33.3	-	22.2	-	<b>44.4</b>	<b>33.3</b>
	女性:大学・短大生	23	8.7	39.1	13.0	13.0	21.7	4.3	<b>47.8</b>	<b>26.0</b>
	女性:65歳以上の人	407	39.1	31.4	10.1	7.1	9.1	3.2	<b>70.5</b>	<b>17.2</b>
	女性:上記以外の人	391	28.4	26.6	14.6	14.1	14.3	2.0	<b>55.0</b>	<b>28.7</b>
	男性:乳幼児(3歳未満)	15	26.7	40.0	6.7	6.7	13.3	6.7	<b>66.7</b>	<b>13.4</b>
	男性:未就学児	13	7.7	30.8	7.7	23.1	30.8	-	<b>38.5</b>	<b>30.8</b>
	男性:小・中学生	45	31.1	24.4	15.6	13.3	13.3	2.2	<b>55.5</b>	<b>28.9</b>
	男性:高校生	28	28.6	17.9	3.6	17.9	25.0	7.1	<b>46.5</b>	<b>21.5</b>
	男性:専門学校生	7	28.6	28.6	-	14.3	28.6	-	<b>57.2</b>	<b>14.3</b>
	男性:大学・短大生	15	33.3	13.3	13.3	6.7	26.7	6.7	<b>46.6</b>	<b>20.0</b>
	男性:65歳以上の人	268	32.8	33.6	8.2	6.7	13.8	4.9	<b>66.4</b>	<b>14.9</b>
男性:上記以外の人	267	24.0	29.2	11.6	8.6	22.8	3.7	<b>53.2</b>	<b>20.2</b>	
無回答	17	47.1	35.3	5.9	5.9	-	5.9	<b>82.4</b>	<b>11.8</b>	
性別役割分担意識別	女性:同感する	27	66.7	11.1	-	7.4	7.4	7.4	<b>77.8</b>	<b>7.4</b>
	女性:ある程度同感する	153	42.5	31.4	9.8	1.3	13.1	2.0	<b>73.9</b>	<b>11.1</b>
	女性:あまり同感しない	195	29.2	36.4	15.4	8.7	10.3	-	<b>65.6</b>	<b>24.1</b>
	女性:同感しない	226	26.1	27.4	14.6	17.7	12.8	1.3	<b>53.5</b>	<b>32.3</b>
	男性:同感する	30	50.0	23.3	3.3	-	13.3	10.0	<b>73.3</b>	<b>3.3</b>
	男性:ある程度同感する	99	44.4	30.3	7.1	4.0	13.1	1.0	<b>74.7</b>	<b>11.1</b>
	男性:あまり同感しない	137	29.2	34.3	11.7	6.6	16.8	1.5	<b>63.5</b>	<b>18.3</b>
	男性:同感しない	128	15.6	34.4	13.3	14.1	22.7	-	<b>50.0</b>	<b>27.4</b>
	無回答	101	33.7	23.8	5.0	5.9	7.9	23.8	<b>57.5</b>	<b>10.9</b>

## 第3章 就労・働き方について

---

1. 女性が職業を持つことについて
2. 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由
3. 職業について
4. 育児休業・介護休業制度の利用意向
5. 育児休業・介護休業を利用できそうにない、利用したくない理由
6. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度
7. ワーク・ライフ・バランスのための条件整備





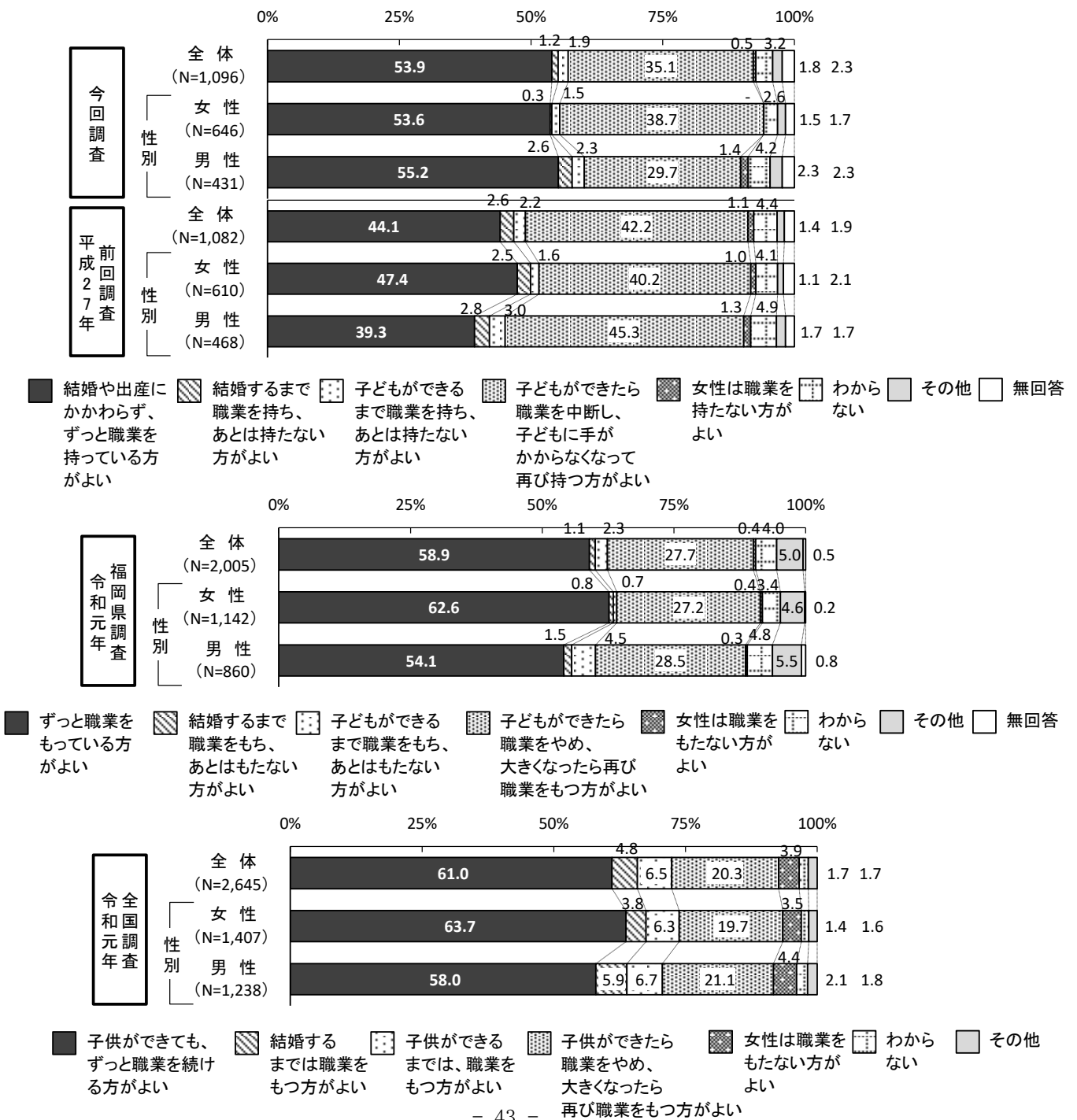
## 第3章 就労・働き方について

### 1. 女性が職業を持つことについて

- ・男女とも「就労継続」は5割を超えてやや男性の方が高い。女性は「中断・再就職」が4割弱で男性よりも9ポイント高い。
- ・前回調査に比べ「就労継続」は女性約6ポイント、男性約16ポイント増加。

問5 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。  
(○印は1つ)

図表3-1 女性が職業を持つことについて [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



## II 調査結果

---

女性が職業を持つことについて「結婚や出産にかかわらずずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が53.9%で最も高く、次いで「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がからなくなって再び持つ方がよい」という中断・再就職が35.1%となっている。「結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい」(1.2%)、「子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい」(1.9%)、「女性は職業を持たない方がよい」(0.5%)の3つは専業主婦志向の考え方であるが回答は3.6%と少なく、女性が職業を持つことについては肯定的に受け止められている。

性別でみると、就労継続は女性が53.6%、男性が55.2%と男性の方がやや高いながらも同程度の結果となっている。中断・再就職は女性が38.7%で男性(29.7%)よりも9ポイント高く、専業主婦志向は男性が6.3%で女性(1.8%)を4.5ポイント上回っている。

前回調査と比べると、就労継続は女性で6.2ポイント、男性で15.9ポイント増えており、特に男性での増加が目立つ。結果、中断・再就職は男性で15.6ポイント減っている。

福岡県調査や全国調査と比べると、いずれの調査も女性の方が就労継続の割合が男性よりも高いが、今回調査では男女差はあまりみられず、女性の就労継続の割合が県や全国と比べて10ポイント前後低く、中断・再就職の割合が約12~19ポイント高くなっている。

既未婚別でみると、女性の既婚は就労継続が54.7%で未婚(65.3%)よりも10.6ポイント低く、反対に男性の既婚は就労継続が58.2%で未婚(51.1%)より7.1ポイント高くなっている。中断・再就職は男女とも既婚(女性38.0%、男性32.2%)の方が未婚(同26.7%、24.5%)より約8~11ポイント高くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に同感しない人は就労継続が7割強と高い。一方で、同感する人でも就労継続の割合は4割台半ばから5割強と中断・再就職よりも割合は高いが、専業主婦志向の割合は同感する人が最も高いなど、標本数が少ないことが影響しているのかもしれない。ある程度同感する女性では中断・再就職の割合が59.5%と就労継続(30.1%)を29.4ポイントも上回っている。

図表3-2 女性が職業を持つことについて〔全体、既未婚別、性別役割分担意識別〕

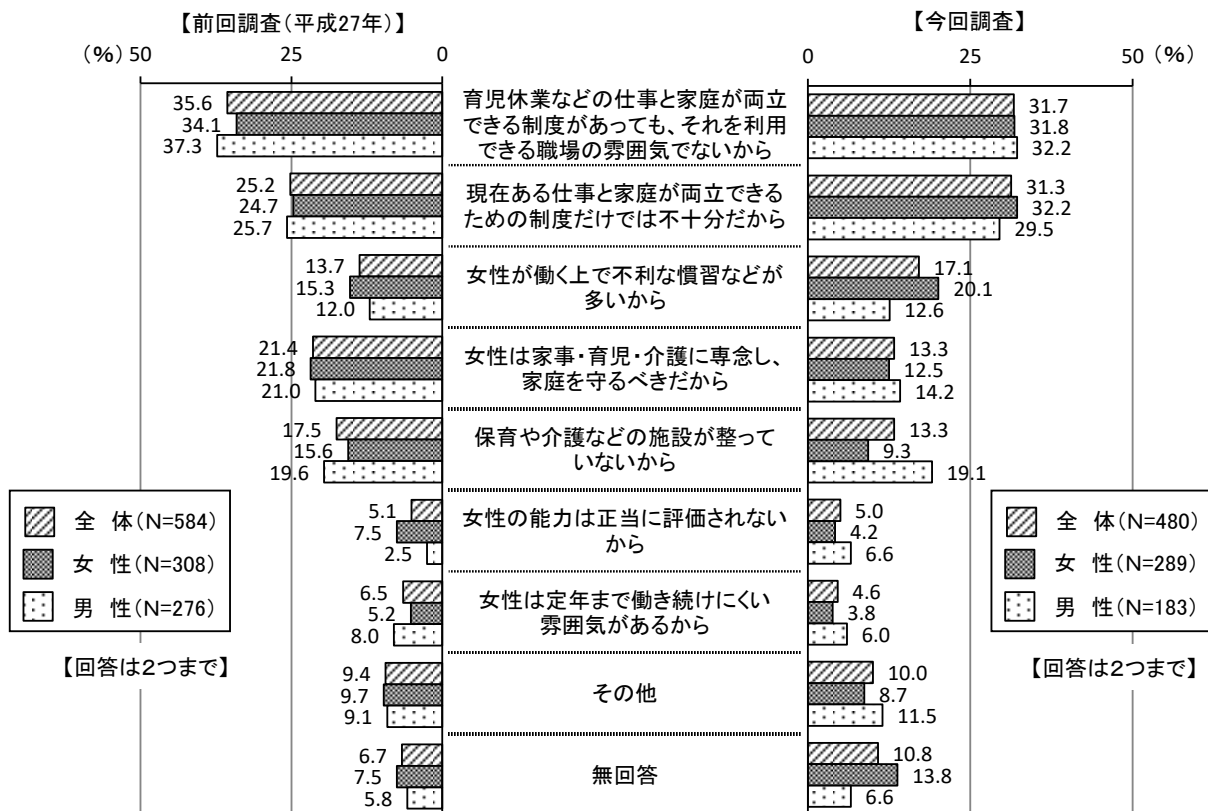
		標本数	結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を持っている方がよい	結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい	子どもがとるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい	子どもができたから職業を中断し、再び持つ方がよい	子どもがきたら職業を中断し、子どもが成長するまで職業を中断し、再び持つ方がよい	女性には職業を持たない方がよい	わからない	その他	無回答
全体		1,096 100.0	591 53.9	13 1.2	21 1.9	385 35.1	6 0.5	35 3.2	20 1.8	25 2.3	
既未婚別	女性:既婚	408	54.7	0.5	1.2	38.0	-	2.7	1.5	1.5	
	女性:離・死別	143	46.2	-	2.1	44.8	-	2.8	1.4	2.8	
	女性:未婚	75	65.3	-	2.7	26.7	-	2.7	2.7	-	
	男性:既婚	273	58.2	2.6	2.2	32.2	0.4	1.1	1.5	1.8	
	男性:離・死別	51	51.0	-	-	29.4	3.9	11.8	2.0	2.0	
	男性:未婚	94	51.1	2.1	3.2	24.5	2.1	8.5	5.3	3.2	
	無回答	52	7.3	0.7	0.7	7.3	0.4	0.4	-	2.2	
性別役割分担意識別	女性:同感する	27	44.4	3.7	3.7	40.7	-	3.7	3.7	-	
	女性:ある程度同感する	153	30.1	-	2.0	59.5	-	4.6	2.0	2.0	
	女性:あまり同感しない	195	58.5	-	1.0	36.4	-	2.1	1.0	1.0	
	女性:同感しない	226	70.8	-	1.3	23.9	-	1.8	0.4	1.8	
	男性:同感する	30	53.3	10.0	6.7	26.7	-	3.3	-	-	
	男性:ある程度同感する	99	41.4	4.0	3.0	41.4	3.0	4.0	1.0	2.0	
	男性:あまり同感しない	137	53.3	1.5	3.6	35.0	0.7	2.9	0.7	2.2	
	男性:同感しない	128	71.1	0.8	-	14.8	1.6	3.9	5.5	2.3	
	無回答	101	37.6	2.0	2.0	41.6	-	5.0	4.0	7.9	

2. 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由

女性が職業を続けられない方がよいと思う理由は「仕事と家庭の両立支援制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」「現在ある制度だけでは不十分だから」が3割強が多い。

問5付問1付問1 [問5で「2.」～「7.」のいずれかに答えた方に]  
 あなたが、そう思う理由は何ですか。(○印は2つまで)

図表3-3 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由 [全体、性別] (前回調査比較)



就労継続以外の回答をした人に、女性が職業を継続しない方がよいと考える理由をたずねた。「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」(31.7%)と「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」(31.3%)が3割強で上位にあげられている。次いで「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が17.1%、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が13.3%となっている。

性別でみると、上位2項目にあまり大差はみられない。女性は「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」(女性20.1%、男性12.6%)が男性よりも7.5ポイント高く、男性は「保育や介護などの施設が整っていないから」(同9.3%、19.1%)が9.8ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」が約4～8ポイント増加し、また、女性では「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が4.8ポイント増加している。反対に男女とも「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が約7～9ポイント減少し、前回3位から今回は4位へと順位を変えている。また、男性では「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」が5.1ポイント減少している。

年齢別でみると、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」は女性の40歳代で65.0%と最も高く、また女性の29歳以下と男性の40歳代で4割を超えて高い。「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」は女性の50歳代と男性の40歳代で約5割、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」は男性の30歳代で44.4%と最も高く、また女性の30歳代から60歳代では2割前後から2割台半ばある。「保育や介護などの施設が整っていないから」は女性の29歳以下と男性の40歳代、50歳代、70歳以上で2割を超えて他の年代に比べて高くなっている。

図表3-4 女性が職業を続けない方がよいと思う理由 [全体、年齢別]

		(%)									
		標本数	し女性、家庭を守るべきだから	囲女性があるから働き続けにくい雰囲気	か女性の能力は正当に評価されない	多女性から働く上で不利な慣習などが	用で育児休業などの仕事と家庭が両立	た現在ある制度だけでは不十分だから	ない保育や介護などの施設が整っていない	その他	無回答
全体		480 100.0	64 13.3	22 4.6	24 5.0	82 17.1	152 31.7	150 31.3	64 13.3	48 10.0	52 10.8
年齢別	女性:29歳以下	12	16.7	-	-	8.3	41.7	16.7	25.0	16.7	8.3
	女性:30歳代	20	10.0	5.0	5.0	25.0	20.0	15.0	5.0	30.0	10.0
	女性:40歳代	20	15.0	5.0	-	20.0	65.0	45.0	-	15.0	-
	女性:50歳代	21	4.8	-	4.8	19.0	28.6	52.4	4.8	14.3	9.5
	女性:60歳代	69	10.1	1.4	5.8	26.1	30.4	31.9	15.9	8.7	14.5
	女性:70歳以上	147	14.3	5.4	4.1	17.7	29.3	31.3	7.5	3.4	17.0
	男性:29歳以下	13	7.7	-	-	7.7	15.4	30.8	7.7	38.5	7.7
	男性:30歳代	9	11.1	11.1	-	44.4	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1
	男性:40歳代	14	7.1	7.1	7.1	7.1	42.9	50.0	28.6	7.1	-
	男性:50歳代	24	8.3	8.3	-	8.3	37.5	37.5	20.8	12.5	4.2
男性:60歳代	47	14.9	10.6	17.0	19.1	29.8	21.3	12.8	8.5	4.3	
男性:70歳以上	76	18.4	2.6	3.9	7.9	34.2	28.9	23.7	9.2	9.2	
無回答		8	25.0	-	-	12.5	12.5	37.5	25.0	25.0	-

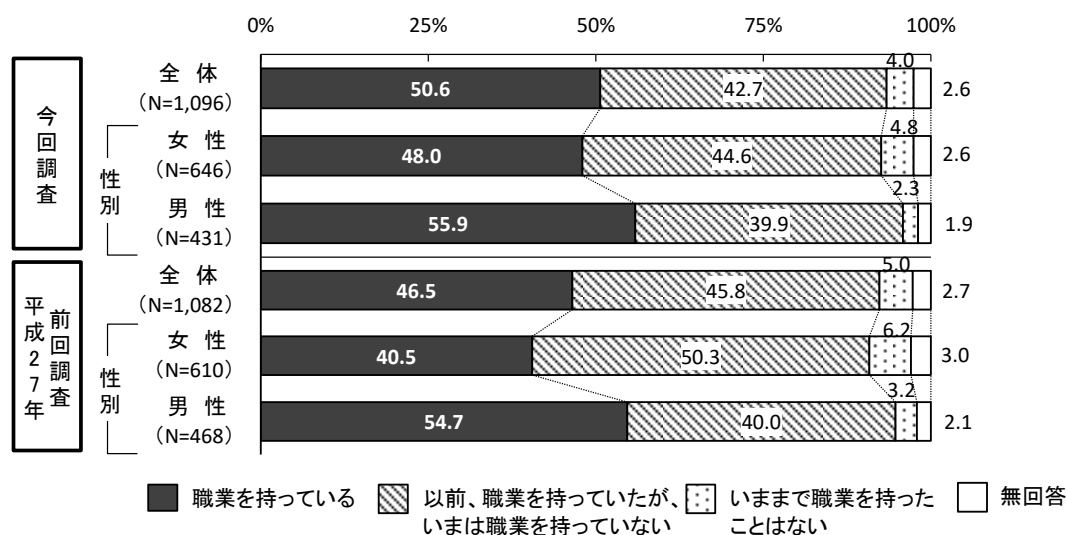
3. 職業について

(1) 職業の有無

女性で「職業を持っている」人は48.0%で、特に30歳代から50歳代は8割台半ばと高い。前回調査よりも女性の有職者は7.5ポイント増えている。

問6 あなたは、いま職業（収入のある仕事）を持っていますか（育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします）。（○印は1つ）

図表3-5 職業の有無 [全体、性別] (前回調査比較)



現在「職業を持っている」人は50.6%、「以前、職業を持っていたが、いまは職業を持っていない」が42.7%である。

性別で見ると、女性で「職業を持っている」人は48.0%と、男性の55.9%より7.9ポイント低い。女性は「以前、職業を持っていたが、いまは職業を持っていない」が44.6%と男性(39.9%)よりも4.7ポイント高い。

前回調査と比べると、女性で「職業を持っている」人は7.5ポイント増えている。

年齢別でみると、女性の30歳代から50歳代では「職業を持っている」が8割台半と高い。「以前、職業を持っていたが、いまは職業を持っていない」は女性の29歳以下で25.0%あり、結婚や出産を機に仕事を辞めた人と思われる。

図表3-6 職業の有無 [全体、年齢別]

		(%)				
		標本数	職業を持っている	を以前持っていたが、いまは持っていない	たいままで職業を持っていない	無回答
全 体		1,096 100.0	555 50.6	468 42.7	44 4.0	29 2.6
年 齢 別	女性:29歳以下	32	53.1	25.0	21.9	-
	女性:30歳代	57	87.7	10.5	1.8	-
	女性:40歳代	74	83.8	16.2	-	-
	女性:50歳代	80	85.0	11.3	2.5	1.3
	女性:60歳代	155	45.2	50.3	1.3	3.2
	女性:70歳以上	245	17.1	70.6	7.8	4.5
	男性:29歳以下	29	69.0	-	31.0	-
	男性:30歳代	29	96.6	3.4	-	-
	男性:40歳代	45	82.2	17.8	-	-
	男性:50歳代	57	70.2	28.1	-	1.8
	男性:60歳代	113	67.3	31.0	0.9	0.9
	男性:70歳以上	158	25.3	70.9	-	3.8
無回答		22	22.7	45.5	13.6	18.2

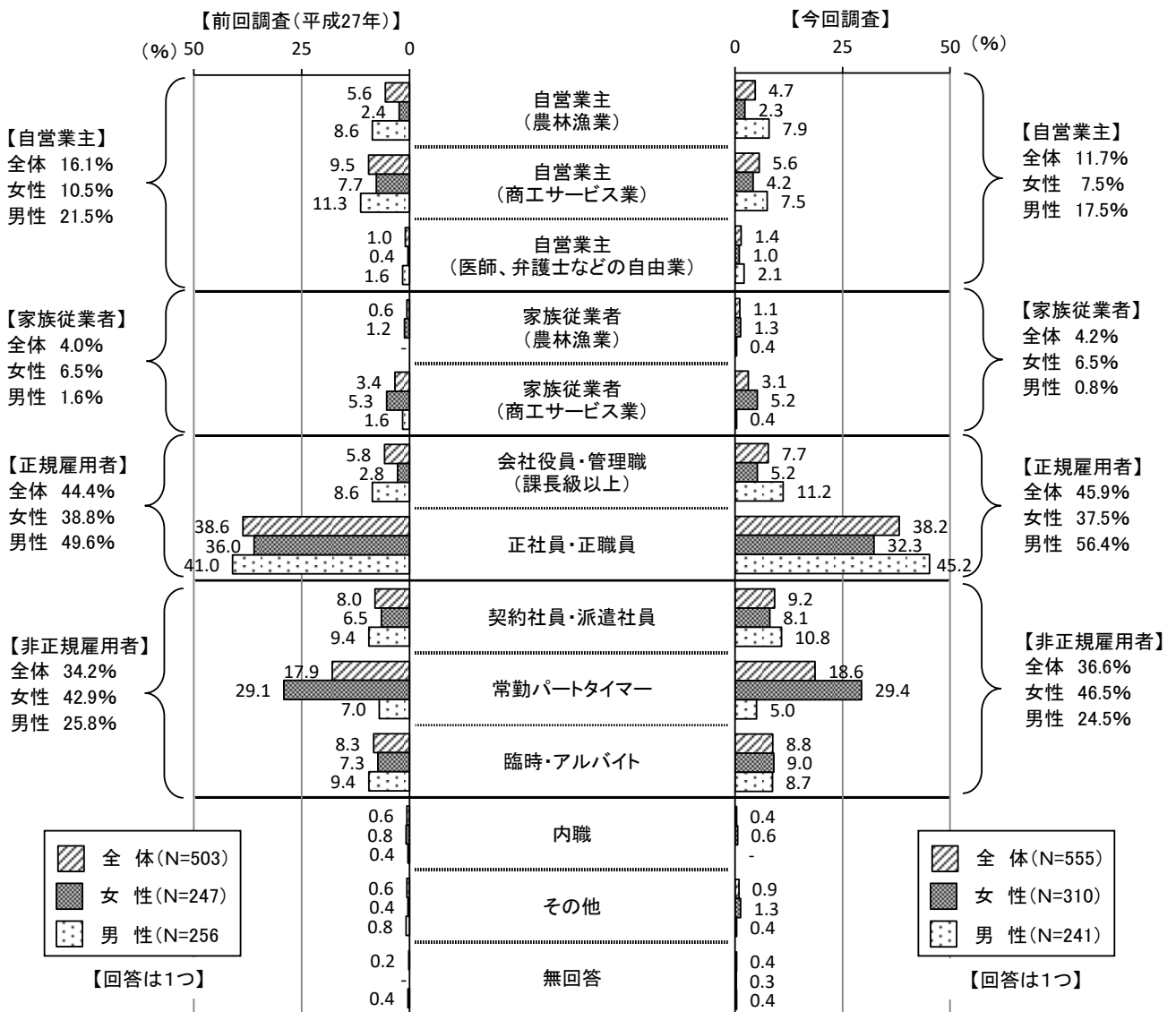
(2) 就労形態

- ・男性は『正規雇用者』『自営業主』、女性は『非正規雇用者』、自営業の『家族従業者』での就労形態の割合が多い。
- ・前回調査に比べ、女性は『非正規雇用者』が 3.6 ポイント、男性は『正規雇用者』が 6.8 ポイント増えている。

問6付問1 [問6で「1. 職業を持っている」と答えた方に]

あなたの職業は次のどれですか。(○印は1つ)

図表3-7 就労形態 [全体、性別] (前回調査比較)



「職業を持っている」人の就労形態は雇用者が 82.5%で最も多く、その内訳は『正規雇用者』が 45.9%で、次いで『非正規雇用者』が 36.6%である。自営業は 15.9%でそのうち『自営業主』が 11.7%、『家族従業者』が 4.2%となっている。



性別でみると、女性は『非正規雇用者』の割合が46.5%で男性(24.5%)よりも高く、非正規雇用の中でも「常勤パートタイマー」が29.4%と男性の5.0%よりも24.4ポイントも高い。男性は『正規雇用者』の割合が56.4%で女性(37.5%)よりも高く、そのうち「正社員、正職員」(女性32.3%、男性45.2%)は12.9ポイント、「会社役員・管理職(課長級以上)」(同5.2%、11.2%)は6ポイント男性の方が高い。また、『自営業主』(同7.5%、17.5%)も10ポイント差で男性の方が多いが、自営業の中でも『家族従業者』(同6.5%、0.8%)は女性の方が7.3ポイント多くなっている。

前回調査と比べると、女性は『非正規雇用者』が3.6ポイント、男性は『正規雇用者』が6.8ポイント増えている。『自営業主』は男女とも3～4ポイント減っている。

年齢別でみると、「正社員・正職員」は女性の40歳代で53.2%と最も高く、30歳代で42.0%、29歳以下で47.1%となっている。女性の60歳以上では『非正規雇用者』が6割近くと高く、40歳代を除くその他の年代は4割台である。また、男性の29歳以下でも『非正規雇用者』が55.0%と『正規雇用者』(45.0%)を上回っている。『自営業主』は男女とも年齢が高い層での割合が高い。また、女性では商工サービス業での家族従業者が29歳以下を除く各年代にみられる。

図表3-8 就労形態 [全体、年齢別]

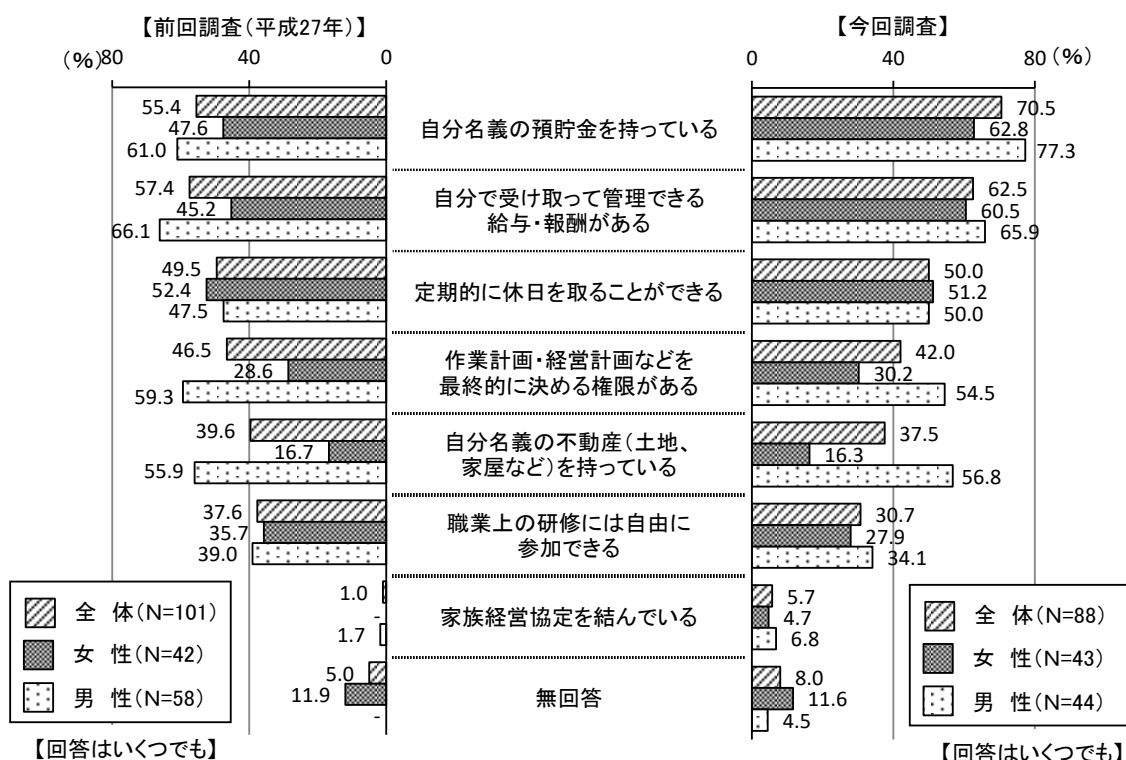
		標本数	自営業主 (農林漁業)	自営業主 (商工サービス)	自営業主 (医師、弁護士 などの自由業)	家族従業者 (農林漁業)	家族従業者 (商工サービス業)	会社役員・管理職 (課長級以上)	正社員・正職員	契約社員・派遣社員	常勤パートタイマー	臨時・アルバイト	内職	その他	無回答	『自営業主』	『家族従業者』	『正規雇用者』	『非正規雇用者』
全体		555 100.0	26 4.7	31 5.6	8 1.4	6 1.1	17 3.1	43 7.7	212 38.2	51 9.2	103 18.6	49 8.8	2 0.4	5 0.9	2 0.4	65 11.7	23 4.2	255 45.9	203 36.6
年齢別	女性:29歳以下	17	-	-	-	-	-	-	47.1	5.9	17.6	17.6	5.9	5.9	-	-	-	47.1	41.1
	女性:30歳代	50	2.0	2.0	2.0	2.0	4.0	2.0	42.0	8.0	28.0	6.0	-	-	2.0	6.0	6.0	44.0	42.0
	女性:40歳代	62	1.6	-	1.6	-	6.5	3.2	53.2	4.8	24.2	4.8	-	-	-	3.2	6.5	56.4	33.8
	女性:50歳代	68	1.5	2.9	-	-	2.9	13.2	35.3	8.8	29.4	5.9	-	-	-	4.4	2.9	48.5	44.1
	女性:60歳代	70	1.4	7.1	1.4	4.3	2.9	2.9	18.6	12.9	30.0	14.3	1.4	2.9	-	9.9	7.2	21.5	57.2
	女性:70歳以上	42	7.1	11.9	-	-	14.3	4.8	2.4	4.8	40.5	11.9	-	2.4	-	19.0	14.3	7.2	57.2
	男性:29歳以下	20	-	-	-	-	-	5.0	40.0	15.0	5.0	35.0	-	-	-	-	-	45.0	55.0
	男性:30歳代	28	-	-	3.6	-	-	3.6	71.4	14.3	7.1	-	-	-	-	3.6	-	75.0	21.4
	男性:40歳代	37	5.4	13.5	-	-	-	13.5	62.2	-	-	5.4	-	-	-	18.9	-	75.7	5.4
	男性:50歳代	40	-	2.5	-	-	-	15.0	65.0	10.0	2.5	2.5	-	2.5	-	2.5	-	80.0	15.0
	男性:60歳代	76	11.8	3.9	2.6	-	-	10.5	38.2	19.7	7.9	5.3	-	-	-	18.3	-	48.7	32.9
	男性:70歳以上	40	20.0	22.5	5.0	2.5	2.5	15.0	7.5	-	5.0	17.5	-	-	2.5	47.5	5.0	22.5	22.5
無回答	5	-	-	-	20.0	-	-	60.0	-	20.0	-	-	-	-	-	20.0	60.0	20.0	

(3) 自営業の就労状況

- ・「自分名義の不動産を持っている」「作業や経営計画を最終的に決める権限がある」「自分名義の預貯金を持っている」など男性の方が女性よりも約 15～41 ポイント高い。
- ・前回調査に比べ、女性は「自分名義の預貯金を持っている」「給与・報酬がある」が約 15 ポイント増えている。

問6付付問1 [問6付問1で「1.～5.」のいずれかに答えた方におたずねします]  
 あなたの就労状況としては、次のどれがあてはまりますか。(○印はいくつでも)

図表3-9 自営業者の就労状況 [全体、性別] (前回調査比較)



自営業に従事する人の就労状況は「自分名義の預貯金を持っている」が70.5%、「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」が62.5%、「定期的に休日を取ることができる」が50.0%、「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」が42.0%となっている。

性別でみると、「定期的に休日を取ることができる」(女性51.2%、男性50.0%)は男女とも同程度となっているが、その他の項目は男性の割合の方が女性よりも高い。「自分名義の不動産(土地、家屋など)を持っている」(同16.3%、56.8%)は40.5ポイント差、「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」(同30.2%、54.5%)は24.3ポイント差、「自分名義の預貯金を持っている」(同62.8%、77.3%)は14.5ポイント差、「職業上の研修には自由に参加できる」(同27.9%、34.1%)は6.2ポイント差、「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」(同60.5%、65.9%)は5.4ポイント差などとなっている。

前回調査と比べると、男女とも「自分名義の預貯金を持っている」が約15～16ポイント増え、また女性では「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」が15.3ポイント増えている。

年齢別で見ると、標本数は少ないが、女性の30歳代では「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」「定期的に休日を取ることができる」「職業上の研修には自由に参加できる」「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」「自分名義の預貯金を持っている」などの割合が他の年代に比べて高く、「家族経営協定を結んでいる」も16.7%みられる。

図表3-10 自営業者の就労状況 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	が理自 ある自分で 受け取って 報酬管	こ定期 ものができ る休日を取 る	由職業 に参加でき る研修には 自	るな作 業計画・経 営的に営 計め画	持自分 つて名義の 預貯金を	を(自分 土地、家 の不動産 など)	で家族 経営協定 を結ん	無回 答
全体		88 100.0	55 62.5	44 50.0	27 30.7	37 42.0	62 70.5	33 37.5	5 5.7	7 8.0
年齢別	女性:29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:30歳代	6	66.7	66.7	50.0	66.7	83.3	-	16.7	-
	女性:40歳代	6	66.7	50.0	33.3	16.7	33.3	-	-	16.7
	女性:50歳代	5	60.0	60.0	20.0	40.0	60.0	-	-	20.0
	女性:60歳代	12	58.3	41.7	16.7	16.7	75.0	16.7	8.3	8.3
	女性:70歳以上	14	57.1	50.0	28.6	28.6	57.1	35.7	-	14.3
	男性:29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30歳代	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-
	男性:40歳代	7	71.4	71.4	14.3	71.4	71.4	42.9	14.3	-
	男性:50歳代	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-
男性:60歳代	14	64.3	50.0	42.9	50.0	78.6	57.1	7.1	7.1	
男性:70歳以上	21	61.9	38.1	28.6	47.6	76.2	61.9	-	4.8	
無回答		1	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-

(4) 雇用者の職場環境

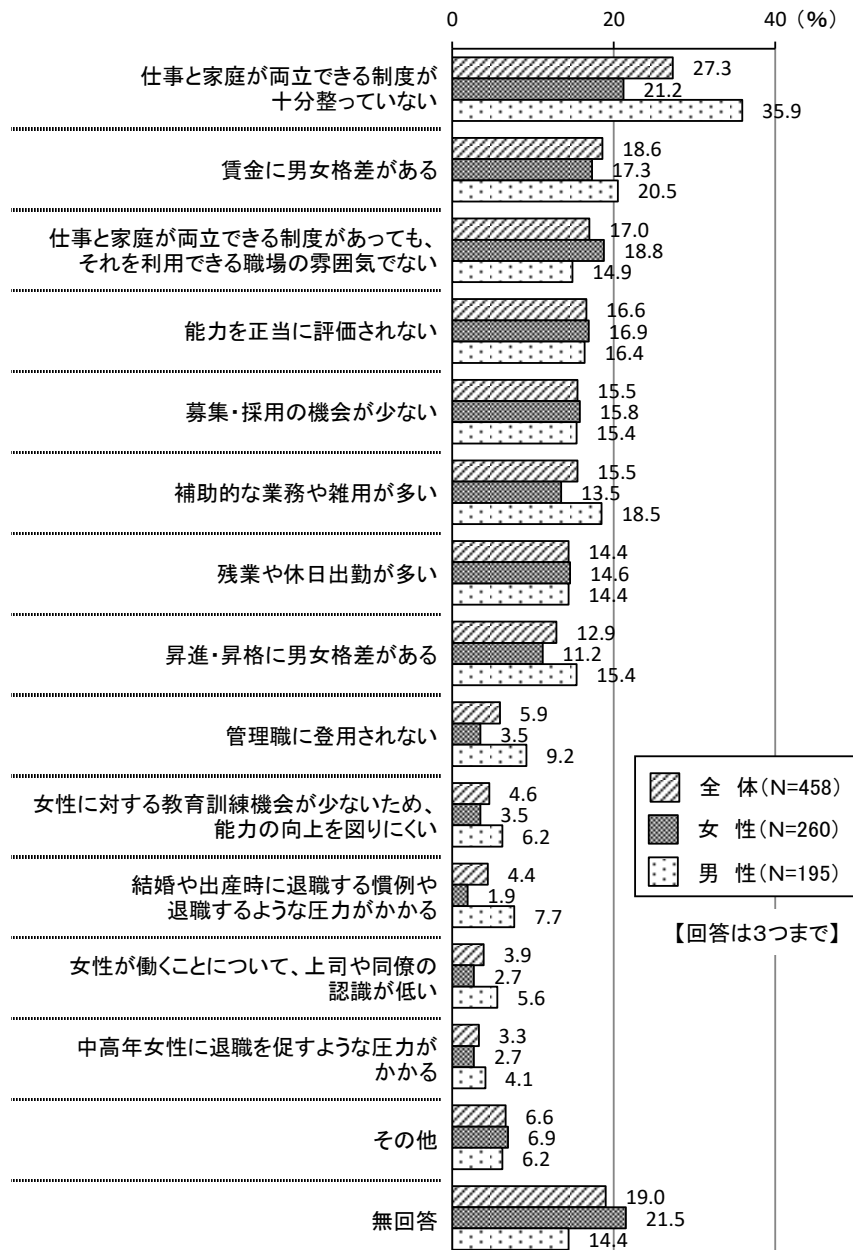
正規や非正規で働く女性にとって働きにくい点は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」「賃金に男女格差がある」「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」が上位3位。

問6付付問2 [問6付問1で「6.~10.」のいずれかに答えた方におたずねします]

今の職場で女性にとって働きにくい点はどのようなことだと思いますか。

(○印は3つまで)

図表3-11 雇用者の職場環境 [全体、性別]



雇用者に対して、今の職場が女性にとって働きにくい点をたずねた。「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が27.3%で最も高く、次いで「賃金に男女格差がある」(18.6%)、「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」(17.0%)などが2割弱、「能力を正に評価されない」(16.6%)、「募集・採用の機会が少ない」「補助的な業務や雑用が多い」(同率15.5%)、「残業や休日出勤が多い」(14.4%)などが1割台半ばであげられている。

性別でみると、女性は「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」(女性18.8%、男性14.9%)が3.9ポイント男性よりも高く、男性は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」(同21.2%、35.9%)が14.7ポイント、「補助的な業務や雑用が多い」(同13.5%、18.5%)が5ポイント、「昇進・昇格に男女格差がある」(同11.2%、15.4%)が4.2ポイント、「賃金に男女格差がある」(同17.3%、20.5%)が3.2ポイント女性よりも高い。

就業形態別でみると、女性の正社員・正職員では「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」や「残業や休日出勤が多い」が2割台半ば前後で男性の正社員よりも割合が高い。女性の契約社員・派遣社員と常勤パートタイマーでは「能力を正に評価されない」、また契約社員・派遣社員では「募集・採用の機会が少ない」「昇進・昇格に男女格差がある」などが2割台で他の就業形態に比べて割合が高い。

図表3-12 雇用者の職場環境 [全体、就業形態別]

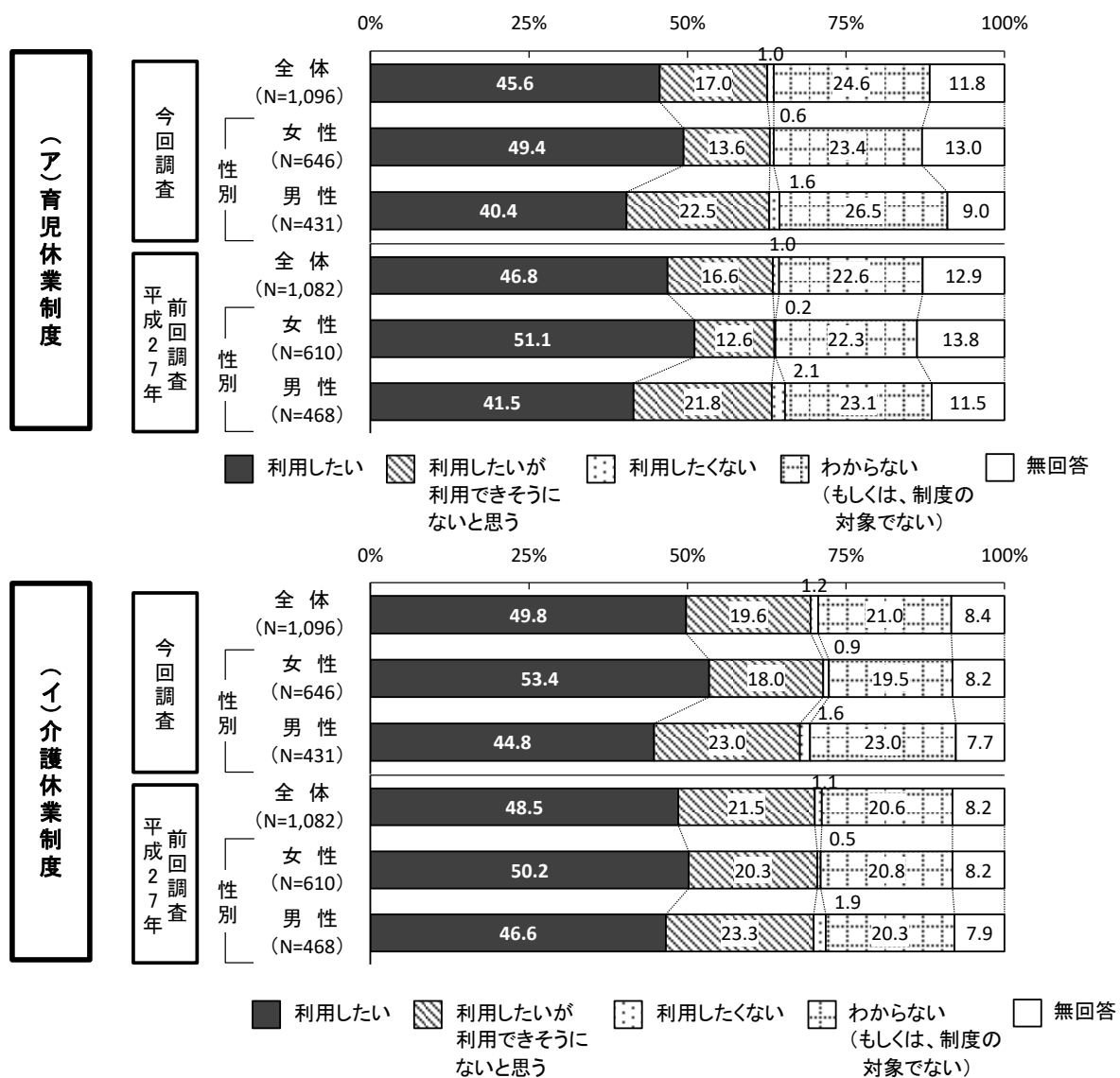
		標本数	募集・採用の機会が少ない	賃金に男女格差がある	補助的な業務や雑用が多い	能力を正に評価されない	昇進・昇格に男女格差がある	管理職に任用されない	結婚や出産時に退職するような圧力がかかる慣例や	中高年女性に退職を促すような圧力がかかる	女性に対する教育訓練機会が少ないため、能力の向上を図りにくい	仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない	残業や休日出勤が多い	あっても、それを利用できる職場の雰囲気でない	女性や同僚の認識が低い	その他	無回答
全体		458 100.0	71 15.5	85 18.6	71 15.5	76 16.6	59 12.9	27 5.9	20 4.4	15 3.3	21 4.6	125 27.3	66 14.4	78 17.0	18 3.9	30 6.6	87 19.0
就業形態別	女性:会社役員・管理職	16	12.5	12.5	6.3	-	6.3	-	-	-	6.3	25.0	37.5	6.3	-	-	31.3
	女性:正社員・正職員	100	12.0	18.0	15.0	9.0	14.0	3.0	1.0	-	2.0	28.0	24.0	28.0	4.0	5.0	17.0
	女性:契約社員・派遣社員	25	28.0	16.0	12.0	24.0	20.0	4.0	-	-	-	4.0	4.0	8.0	8.0	16.0	24.0
	女性:常勤パートタイマー	91	14.3	22.0	7.7	26.4	8.8	5.5	3.3	6.6	6.6	16.5	7.7	15.4	-	6.6	25.3
	女性:臨時・アルバイト	28	25.0	3.6	32.1	17.9	3.6	-	3.6	3.6	-	25.0	-	14.3	3.6	10.7	17.9
	男性:会社役員・管理職	27	-	25.9	18.5	18.5	29.6	11.1	7.4	7.4	14.8	51.9	14.8	7.4	-	7.4	7.4
	男性:正社員・正職員	109	19.3	22.0	15.6	16.5	13.8	8.3	8.3	2.8	5.5	34.9	12.8	18.3	6.4	4.6	14.7
	男性:契約社員・派遣社員	26	19.2	23.1	15.4	15.4	7.7	7.7	7.7	3.8	3.8	19.2	23.1	3.8	3.8	7.7	19.2
男性:常勤パートタイマー	12	8.3	8.3	50.0	25.0	16.7	25.0	8.3	8.3	8.3	33.3	8.3	8.3	8.3	-	8.3	
男性:臨時・アルバイト	21	14.3	9.5	19.0	9.5	14.3	4.8	4.8	4.8	-	42.9	14.3	23.8	9.5	14.3	19.0	
無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

4. 育児休業・介護休業制度の利用意向

「育児休業制度」「介護休業制度」の利用意向は女性の方が男性よりも高い。前回調査に比べ女性の「介護休業制度」の利用意向がやや増えている。

問7 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。  
(○印は1つつ)

図表3-13 育児休業・介護休業制度の利用意向 [全体、性別] (前回調査比較)



育児休業制度、介護休業制度の利用意向についてたずねたところ、いずれの制度も「利用したい」が4割台半ばを超えているが、「利用したいが利用できそうにないと思う」は育児休業制度が17.0%、介護休業制度が19.6%となっている。「利用したくない」はいずれの制度もわずかである。

性別でみると、女性は「利用したい」がいずれの制度も5割前後あるが、男性は4割台と約9ポイント女性より低い。男性は「利用したいが利用できそうにないと思う」が2割強と女性よりも約5～9ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、育児休業制度ではあまり大きな変化はみられない。介護休業制度は「利用したい」が女性で3.2ポイント増えている。

年齢別でみると、女性の29歳以下では育児休業制度を「利用したい」が78.1%、介護休業制度が68.8%と利用意向が最も高い。同じ年代の男性もいずれの制度とも51.7%と男性の中では最も高い。男性の40歳代ではいずれの制度も「利用したいが利用できそうにないと思う」が4割台と最も高くなっている。

就業形態別でみると、女性の正社員・正職員の「利用したい」はいずれの制度も6割台半ばを超えている。また、非正規雇用者でも介護休業制度を「利用したい」は60.4%と高い。男性の正社員・正職員ではいずれの制度も「利用したい」が4割前後と男性の会社役員・管理職よりも低く、「利用したいが利用できそうにないと思う」が3割台半ばで高い。

図表3-14 育児休業・介護休業制度の利用意向 [全体、年齢別、就業形態別]

(%)

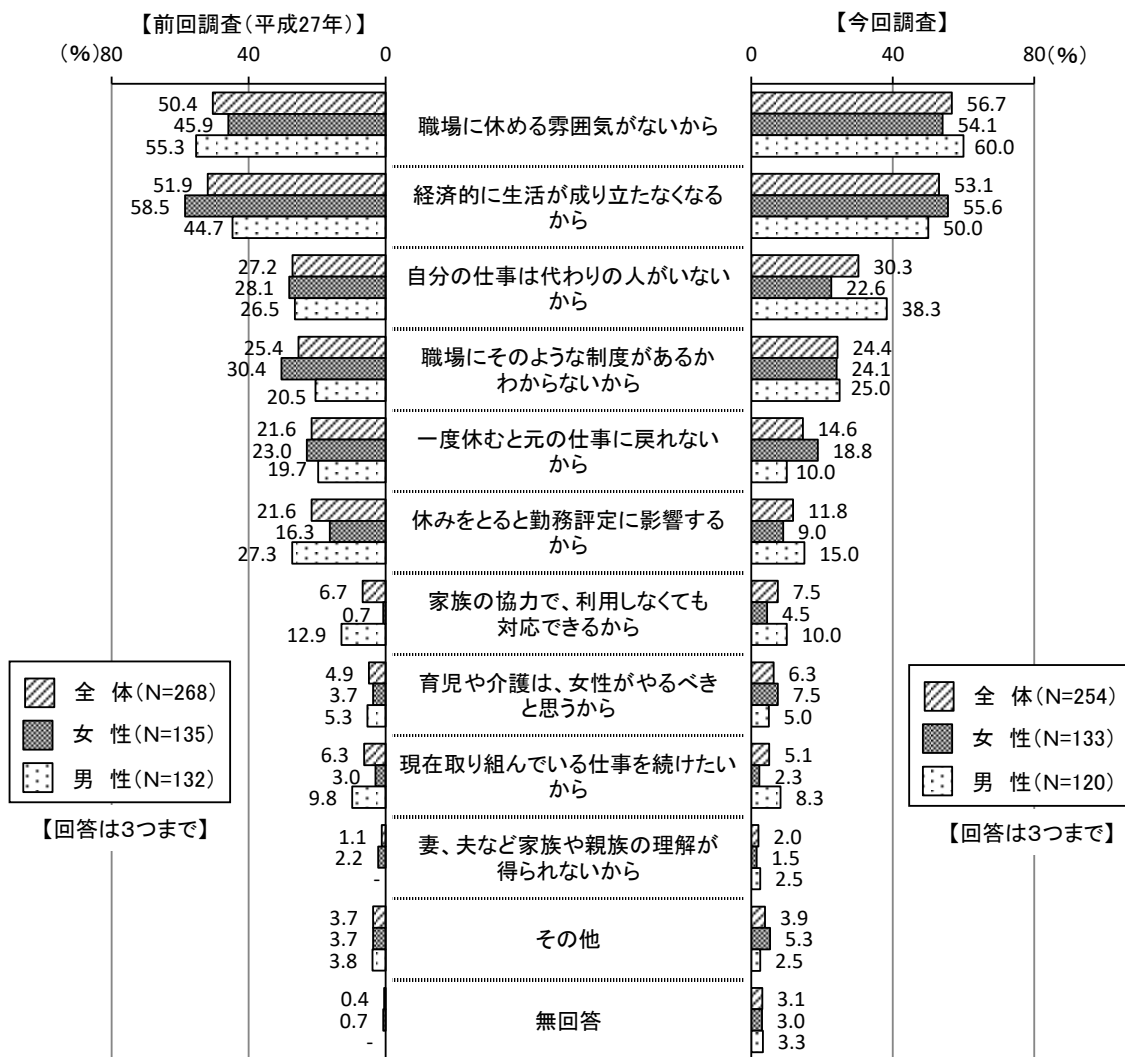
	標本数	(ア)育児休業制度の利用意向					(イ)介護休業制度の利用意向					
		利用したい	き利用しうしないが利用うで	利用したくない	いはわ( )、から制ら度のい対( )もでなく	無回答	利用したい	き利用しうしないが利用うで	利用したくない	いはわ( )、から制ら度のい対( )もでなく	無回答	
全体	1,096	500	186	11	270	129	546	215	13	230	92	
	100.0	45.6	17.0	1.0	24.6	11.8	49.8	19.6	1.2	21.0	8.4	
年齢別	女性:29歳以下	32	78.1	6.3	-	12.5	3.1	68.8	6.3	3.1	18.8	3.1
	女性:30歳代	57	54.4	24.6	-	17.5	3.5	50.9	26.3	-	19.3	3.5
	女性:40歳代	74	67.6	13.5	-	17.6	1.4	63.5	25.7	-	10.8	-
	女性:50歳代	80	46.3	20.0	-	31.3	2.5	51.3	31.3	-	15.0	2.5
	女性:60歳代	155	47.1	13.5	-	25.2	14.2	51.6	18.1	-	23.2	7.1
	女性:70歳以上	245	41.6	9.8	1.6	24.5	22.4	50.6	10.6	2.0	21.6	15.1
	男性:29歳以下	29	51.7	17.2	-	31.0	-	51.7	20.7	3.4	24.1	-
	男性:30歳代	29	41.4	37.9	3.4	10.3	6.9	44.8	34.5	-	13.8	6.9
	男性:40歳代	45	26.7	44.4	2.2	22.2	4.4	37.8	42.2	2.2	15.6	2.2
	男性:50歳代	57	38.6	22.8	1.8	31.6	5.3	47.4	22.8	-	24.6	5.3
	男性:60歳代	113	44.2	18.6	1.8	29.2	6.2	48.7	22.1	1.8	25.7	1.8
男性:70歳以上	158	39.9	17.1	1.3	25.9	15.8	41.8	16.5	1.9	24.1	15.8	
無回答	22	36.4	9.1	-	22.7	31.8	45.5	4.5	-	22.7	27.3	
就業形態別	女性:自営業主	23	39.1	17.4	-	21.7	21.7	47.8	17.4	-	21.7	13.0
	女性:家族従業者	20	35.0	5.0	-	45.0	15.0	45.0	5.0	-	40.0	10.0
	女性:会社役員・管理職	16	43.8	25.0	-	25.0	6.3	37.5	43.8	-	12.5	6.3
	女性:正社員・正職員	100	69.0	14.0	-	14.0	3.0	66.0	26.0	-	7.0	1.0
	女性:非正規雇用者	144	50.7	18.1	0.7	22.9	7.6	60.4	21.5	1.4	14.6	2.1
	女性:内職・その他	6	66.7	-	-	16.7	16.7	66.7	-	-	16.7	16.7
	男性:自営業主	42	47.6	19.0	-	19.0	14.3	52.4	23.8	-	16.7	7.1
	男性:家族従業者	2	-	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0
	男性:会社役員・管理職	27	44.4	22.2	-	22.2	11.1	51.9	25.9	3.7	11.1	7.4
	男性:正社員・正職員	109	38.5	35.8	4.6	17.4	3.7	44.0	33.9	2.8	16.5	2.8
	男性:非正規雇用者	59	42.4	22.0	-	30.5	5.1	44.1	28.8	1.7	18.6	6.8
男性:内職・その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	
無回答	547	42.4	12.8	0.9	27.8	16.1	46.1	13.7	1.1	26.7	12.4	

5. 育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、利用したくない理由

育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、しない理由の第1位は、女性は「経済的に生活が成り立たなくなるから」(55.6%)、男性は「職場に休める雰囲気がないから」(60.0%)。

問7付問1 [問7のいずれかで「2.」または「3.」と答えた方に]  
 あなたがそう思う理由は何ですか。(○印は3つまで)

図表3-15 育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、利用したくない理由  
 [全体、性別] (前回調査比較)



「育児休業制度」「介護休業制度」を「利用したいが利用できそうにないと思う」「利用したくない」と思う理由は「職場に休める雰囲気がないから」が56.7%、「経済的に生活が成り立たなくなるから」が53.1%と5割を超えて多い。以下、「自分の仕事は代わりに人がいないから」が30.3%、「職場にそのような制度があるかわからないから」が24.4%となっている。



性別で見ると、女性の第1位の理由は「経済的に生活が成り立たなくなるから」が55.6%、男性は「職場に休める雰囲気がないから」が60.0%と性別による違いがある。また、男性は「自分の仕事は代わりに人がいないから」（女性22.6%、男性38.3%）、「休みをとると勤務評定に影響するから」（同9.0%、15.0%）、「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」（同4.5%、10.0%）、「現在取り組んでいる仕事を続けたいから」（同2.3%、8.3%）などが女性よりも約6～16ポイント高く、女性は「一度休むと元の仕事に戻れないから」（同18.8%、10.0%）が男性よりも8.8ポイント高いなど性別による違いが大きい。

前回調査と比べると、前回2位の「職場に休める雰囲気がないから」は男女とも約5～8ポイント割合が増えて今回第1位の理由となっている。第2位の「経済的に生活が成り立たなくなるから」は男性で5.3ポイント増えている。また、男性では「自分の仕事は代わりに人がいないから」が11.8ポイント増えているのが目立つ。

## II 調査結果

年齢別でみると、女性の60歳代と男性の30歳代と50歳代で「経済的に生活が成り立たなくなるから」が7割台、また男女の40歳代でも6割台と高い。「職場に休める雰囲気がないから」は女性の40歳代と男性の60歳で7割近く、また女性の50歳代と男性の40歳以下と70歳以上で6割前後と高い。「自分の仕事は代わり的人がいいるから」は男性の40歳代で61.9%、「休みをとると勤務評定に影響するから」は男性の50歳代で41.2%、「職場にそのような制度があるかわからないから」は男女とも30歳代で約4割から5割と高い。

就業形態別でみると、男性の正社員・正職員では「経済的に生活が成り立たなくなるから」が65.2%、また女性でも66.7%と高い。「職場に休める雰囲気がないから」は女性の正社員・正職員で66.7%と男性(56.5%)よりも10.2ポイント高い。男女とも自営業主や会社役員・管理職では「自分の仕事は代わり的人がいいるから」の割合が高い。非正規雇用者では「職場にそのような制度があるかわからないから」「一度休むと元の仕事に戻れないから」の割合が他の就業形態に比べて高い。

図表3-16 育児休業・介護休業制度を利用できそうにない、利用したくない理由

[全体、年齢別、就業形態別]

		標本数	な経済的に生活が成り立たなくなるから	い職場に休める雰囲気がないから	影休みをとると勤務評定に影響するから	が自分の仕事は代わり的人がいいるから	れ一度休むと元の仕事に戻れないから	を現在取りたい組んでいる仕事を続けたいから	理妻、夫など家族や親族の理解が得られないから	く家族の協力できないから	ある職場にそのような制度がないから	る育児や介護は、女性がやるべきと思うから	その他	無回答
全体		254 100.0	135 53.1	144 56.7	30 11.8	77 30.3	37 14.6	13 5.1	5 2.0	19 7.5	62 24.4	16 6.3	10 3.9	8 3.1
年齢別	女性:29歳以下	3	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	33.3	33.3	-	-	-
	女性:30歳代	17	52.9	41.2	5.9	23.5	23.5	5.9	-	-	41.2	-	11.8	5.9
	女性:40歳代	19	63.2	68.4	10.5	5.3	10.5	5.3	-	-	21.1	5.3	10.5	-
	女性:50歳代	27	44.4	63.0	7.4	33.3	14.8	3.7	-	-	33.3	-	3.7	3.7
	女性:60歳代	29	72.4	58.6	13.8	27.6	13.8	-	3.4	3.4	27.6	10.3	3.4	-
	女性:70歳以上	37	48.6	45.9	8.1	18.9	24.3	-	2.7	10.8	8.1	13.5	2.7	5.4
	男性:29歳以下	7	42.9	57.1	-	14.3	14.3	14.3	-	-	14.3	-	-	-
	男性:30歳代	12	75.0	58.3	8.3	33.3	-	8.3	-	25.0	50.0	-	-	-
	男性:40歳代	21	66.7	57.1	4.8	61.9	4.8	9.5	4.8	9.5	28.6	-	4.8	-
	男性:50歳代	17	70.6	52.9	41.2	23.5	11.8	-	-	5.9	5.9	-	-	-
男性:60歳代	28	42.9	67.9	21.4	39.3	17.9	-	3.6	7.1	28.6	10.7	7.1	-	
男性:70歳以上	35	28.6	60.0	8.6	37.1	8.6	17.1	2.9	11.4	22.9	8.6	-	11.4	
	無回答	2	100.0	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-	-
就業形態別	女性:自営業主	4	50.0	-	-	75.0	-	-	-	25.0	-	-	-	-
	女性:家族従業者	2	50.0	-	-	100.0	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-
	女性:会社役員・管理職	7	42.9	42.9	-	57.1	-	-	-	-	14.3	-	14.3	-
	女性:正社員・正職員	27	66.7	66.7	18.5	22.2	11.1	3.7	-	-	29.6	-	7.4	-
	女性:非正規雇用者	37	54.1	56.8	5.4	16.2	18.9	5.4	-	2.7	43.2	-	2.7	2.7
	女性:内職・その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:自営業主	10	50.0	20.0	-	70.0	-	40.0	10.0	10.0	-	10.0	10.0	-
	男性:家族従業者	1	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:会社役員・管理職	8	37.5	87.5	-	62.5	-	12.5	12.5	-	37.5	-	-	-
	男性:正社員・正職員	46	65.2	56.5	19.6	37.0	4.3	2.2	-	10.9	32.6	2.2	2.2	-
男性:非正規雇用者	19	57.9	73.7	15.8	21.1	26.3	5.3	-	5.3	31.6	5.3	-	-	
男性:内職・その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無回答	93	44.1	55.9	11.8	23.7	21.5	3.2	3.2	9.7	14.0	14.0	3.2	7.5

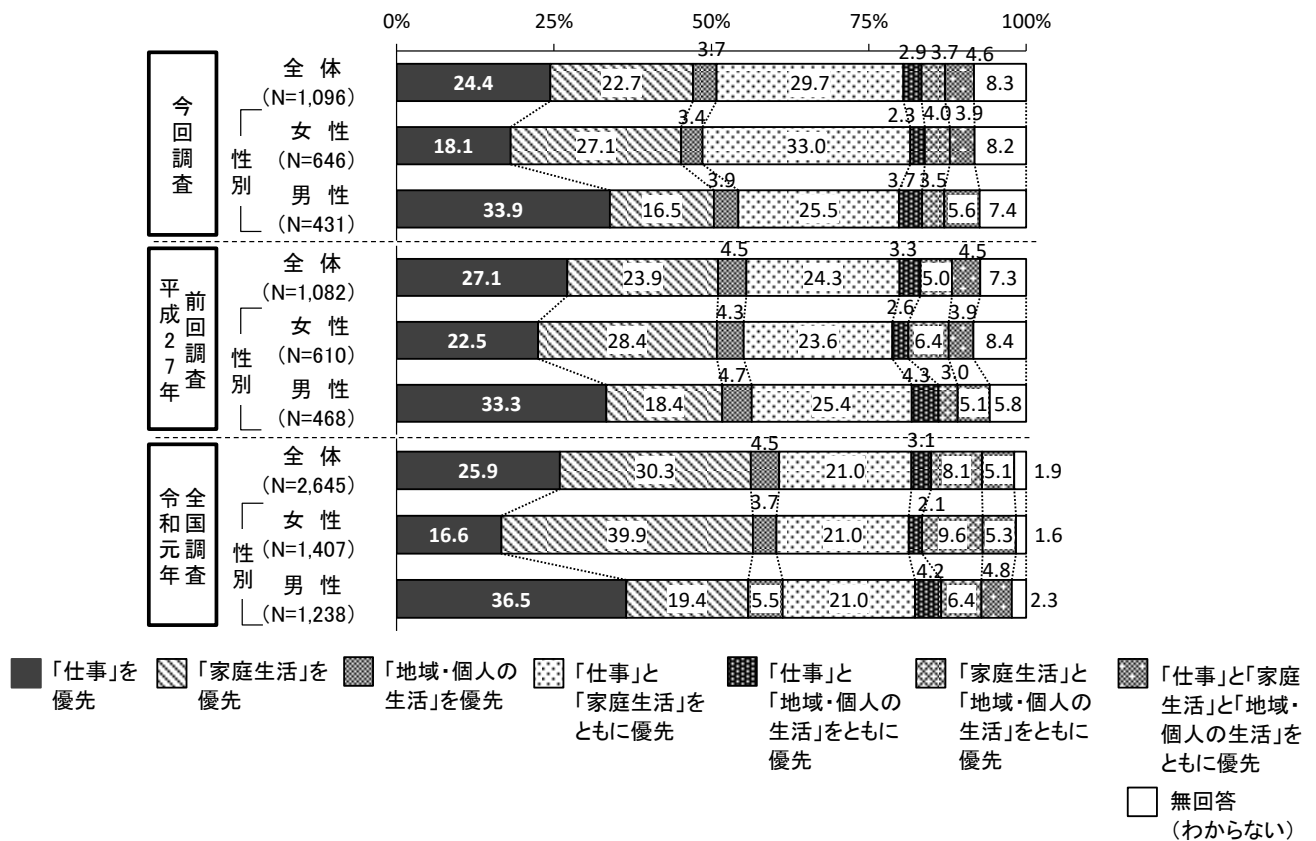
6. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」の理想は26.4%に対し、実際の生活では4.6%、「仕事を優先」の理想は2.1%に対し、実際は24.4%と理想と実際の差が大きい。

問8 あなたの生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、おたずねします。(ア) 実際の生活、(イ) 理想の生活のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つずつ)

(ア) 実際の生活

図表3-17 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 [全体、性別] (前回・全国調査比較)



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について実際と理想のそれぞれについてたずねた。

実際の生活では「仕事を優先」が24.4%、「仕事と家庭生活をともに優先」が29.7%、「家庭生活を優先」が22.7%となっていた。

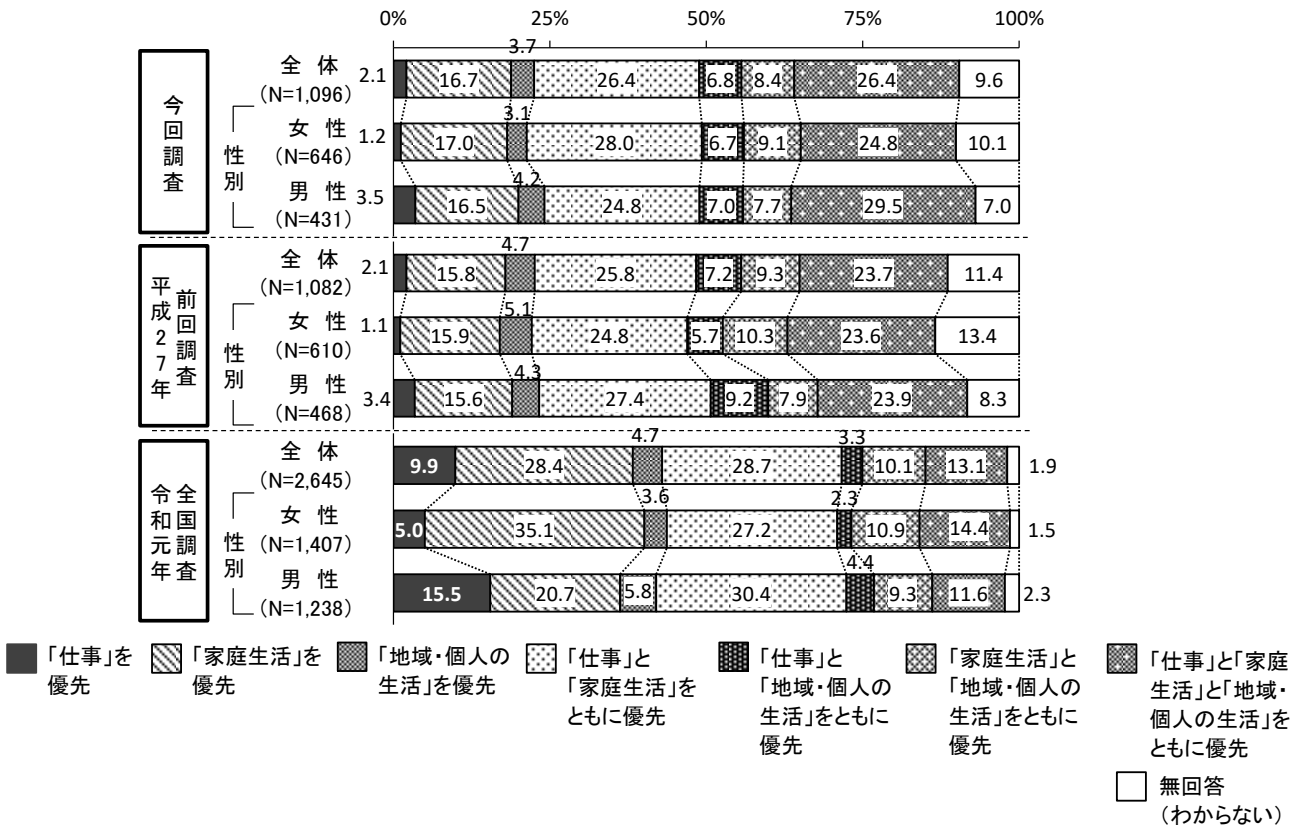
性別で見ると、女性は「仕事と家庭生活をともに優先」(女性33.0%、男性25.5%)や「家庭生活を優先」(同27.1%、16.5%)などが男性よりも約8~11ポイント高く、男性は「仕事を優先」(同18.1%、33.9%)が女性よりも15.8ポイント高い。

前回調査と比べると、女性で「仕事と家庭生活をともに優先」が9.4ポイント増えている。

全国調査と比べると、女性は「家庭生活を優先」が今回調査の方が12.8ポイント低く、「仕事と家庭生活をともに優先」が12ポイント高い。

(イ) 理想の生活

図表 3-18 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 [全体、性別] (前回・全国調査比較)



一方、理想の生活では「仕事と家庭生活をともに優先」と「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が同率の 26.4%で、「家庭生活を優先」が 16.7%となっている。「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」は実際の生活では 4.6%と低く、理想と現実の差が大きい。

性別で見ると、女性は「仕事と家庭生活をともに優先」(女性 28.0%、男性 24.8%) が 3.2 ポイント男性よりも高く、男性は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」(同 24.8%、29.5%) が 4.7 ポイント女性よりも高い。

前回調査と比べると、男性は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が 5.6 ポイント、女性は「仕事と家庭生活をともに優先」が 3.2 ポイント増えている。

全国調査と比べると、女性は「家庭生活を優先」が今回調査の方が 18.1 ポイント低く、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が 10.4 ポイント高い。男性は今回調査の方が「仕事を優先」が 12 ポイント、「家庭生活を優先」が 4.2 ポイント、「仕事と家庭生活をともに優先」が 5.6 ポイント低い、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が 17.9 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、実際の生活では男性の30歳代と40歳代で「仕事を優先」が4割台半ばから5割弱で最も高い。女性の50歳代以下では「仕事と家庭生活をともに優先」が4割台で最も高い。29歳以下の男性は「仕事を優先」と「仕事と家庭生活をともに優先」が同率31.0%となっている。

理想の生活では女性の30歳以下では「仕事と家庭生活をともに優先」が4割強から5割と高く、女性の50歳代と60歳代、男性の70歳以上を除く各年代で「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が約3割から3割台半ばで最も高くなっている。

図表3-19 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度〔全体、年齢別〕

(%)

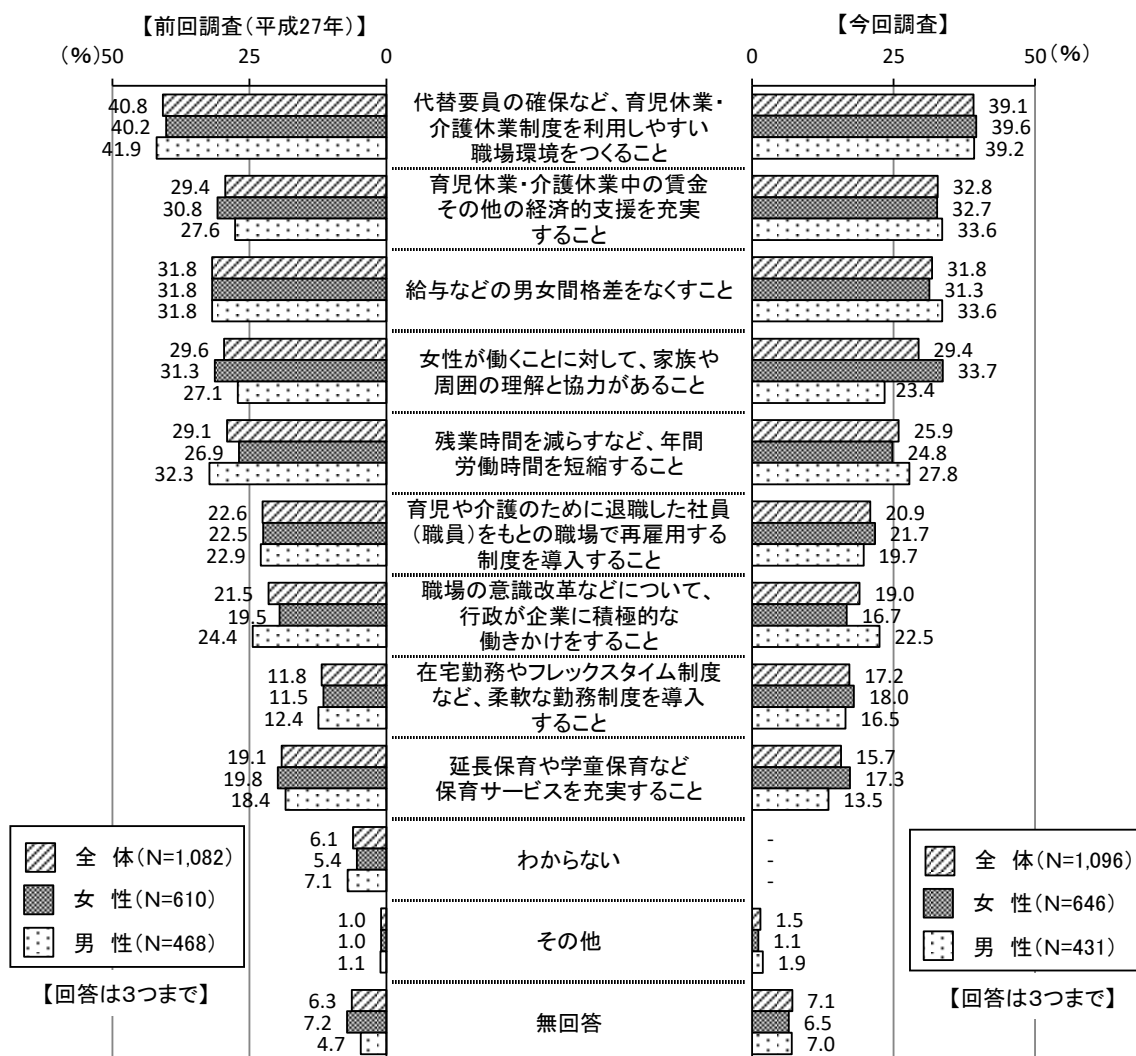
	標本数	(ア)実際の生活								(イ)理想の生活								
		仕事を優先	家庭生活を優先	地域・個人の生活を優先	優先と家庭生活をともに	仕事と地域・個人の生活をともに優先	家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	無回答	仕事を優先	家庭生活を優先	地域・個人の生活を優先	優先と家庭生活をともに	仕事と地域・個人の生活をともに優先	家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	無回答	
全体	1,096 100.0	267 24.4	249 22.7	41 3.7	325 29.7	32 2.9	41 3.7	50 4.6	91 8.3	23 2.1	183 16.7	41 3.7	289 26.4	74 6.8	92 8.4	289 26.4	105 9.6	
年齢別	女性:29歳以下	32	34.4	15.6	-	43.8	-	-	6.3	-	-	6.3	3.1	50.0	6.3	9.4	25.0	-
	女性:30歳代	57	24.6	17.5	1.8	45.6	1.8	-	1.8	7.0	-	22.8	1.8	42.1	1.8	5.3	17.5	8.8
	女性:40歳代	74	25.7	25.7	1.4	41.9	1.4	-	4.1	-	2.7	37.8	1.4	27.0	4.1	6.8	18.9	1.4
	女性:50歳代	80	28.8	16.3	1.3	41.3	2.5	1.3	6.3	2.5	2.5	21.3	2.5	25.0	7.5	6.3	32.5	2.5
	女性:60歳代	155	16.8	31.6	1.3	33.5	2.6	3.2	5.2	5.8	-	15.5	2.6	28.4	5.8	8.4	32.3	7.1
	女性:70歳以上	245	9.8	32.2	6.9	22.0	2.9	8.2	2.4	15.5	1.6	10.6	4.5	23.3	8.6	12.2	20.4	18.8
	男性:29歳以下	29	31.0	10.3	13.8	31.0	-	-	10.3	3.4	-	13.8	10.3	27.6	6.9	3.4	34.5	3.4
	男性:30歳代	29	48.3	6.9	-	24.1	6.9	3.4	3.4	6.9	3.4	20.7	3.4	17.2	10.3	6.9	31.0	6.9
	男性:40歳代	45	44.4	8.9	2.2	35.6	4.4	-	2.2	2.2	2.2	20.0	2.2	26.7	6.7	2.2	37.8	2.2
	男性:50歳代	57	29.8	15.8	1.8	35.1	3.5	1.8	3.5	8.8	7.0	19.3	1.8	26.3	5.3	3.5	29.8	7.0
	男性:60歳代	113	37.2	15.0	1.8	24.8	1.8	3.5	12.4	3.5	4.4	15.9	3.5	25.7	4.4	7.1	35.4	3.5
	男性:70歳以上	158	27.8	22.8	5.7	19.0	5.1	5.7	1.9	12.0	2.5	14.6	5.1	24.1	8.9	12.0	21.5	11.4
	無回答	22	18.2	13.6	9.1	22.7	4.5	-	4.5	27.3	-	9.1	13.6	4.5	9.1	-	18.2	45.5

7. ワーク・ライフ・バランスのための条件整備

ワーク・ライフ・バランスのための条件整備の第1位は「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」が約4割。第2位は「育児休業・介護休業中の経済的支援の充実」が3割強、第3位は「給与などの男女間格差をなくすこと」が約3割。

問9 男女がともに「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」を充実させる「ワーク・ライフ・バランス※2」（仕事と生活の調和）を実現するためには、どのような条件整備が必要だと思いますか。（○印は3つまで）

図表3-20 ワーク・ライフ・バランスのための条件整備 [全体、性別] (前回調査比較)



男女がともに「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」を充実させるため必要な条件整備として「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」が39.1%で最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」が32.8%、「給与などの男女間格差をなくすこと」が31.8%、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」が29.4%、「残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」が25.9%と多岐にわたってあげられている。

性別で見ると、女性は「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」（女性33.7%、男性23.4%）や「延長保育や学童保育など保育サービスを充実すること」（同17.3%、13.5%）が男性よりも約4～10ポイント高い。男性は「残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」（同24.8%、27.8%）や「職場の意識改革などについて、行政が企業に積極的な働きかけをすること」（同16.7%、22.5%）が女性よりも約3～6ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が約4～6ポイント、男性は「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」が6ポイント前回調査より増えている。

II 調査結果

年齢別でみると、男女の30歳代と女性の50歳代で「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」が5割台と高い。女性の29歳以下では「残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」と「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」が同率46.9%、男性の29歳以下で「給与などの男女間格差をなくすこと」が44.8%、女性の60歳以上では「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」が4割前後で高くなっている。

配偶関係別でみると、男女とも共働きでは「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」や「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」「残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」などが共働きでない人より割合が高くなっている。共働きでない人では「給与などの男女間格差をなくすこと」や「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」、また男性の共働きでない人では「育児や介護のために退職した社員（職員）をもとの職場で再雇用する制度を導入すること」などが共働きの人より割合が高い。

図表3-21 ワーク・ライフ・バランスのための条件整備 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	給与などの男女間格差をなくすこと	残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること	代替要員の確保など、育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること	延長保育や学童保育など保育サービス	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること	職場の意識改革などにつなげて、積極的に働きかけを行うこと	わからない	その他	無回答
全体		1,096 100.0	348 31.8	284 25.9	428 39.1	229 20.9	359 32.8	172 15.7	188 17.2	322 29.4	208 19.0	-	16 1.5	78 7.1
年齢別	女性:29歳以下	32	18.8	46.9	34.4	25.0	46.9	18.8	37.5	18.8	18.8	-	-	-
	女性:30歳代	57	26.3	28.1	52.6	17.5	38.6	17.5	19.3	24.6	15.8	-	3.5	3.5
	女性:40歳代	74	31.1	35.1	39.2	16.2	31.1	17.6	28.4	27.0	20.3	-	2.7	-
	女性:50歳代	80	36.3	26.3	51.3	15.0	38.8	12.5	28.8	28.8	22.5	-	1.3	1.3
	女性:60歳代	155	29.7	18.1	42.6	25.2	37.4	20.0	16.1	40.0	18.7	-	-	3.9
	女性:70歳以上	245	33.5	21.6	32.2	23.3	25.3	17.1	9.4	38.0	11.8	-	0.8	13.5
	男性:29歳以下	29	44.8	27.6	44.8	20.7	27.6	10.3	10.3	13.8	24.1	-	3.4	-
	男性:30歳代	29	10.3	31.0	55.2	17.2	37.9	27.6	17.2	31.0	13.8	-	3.4	6.9
	男性:40歳代	45	37.8	31.1	37.8	13.3	35.6	8.9	26.7	11.1	22.2	-	11.1	2.2
	男性:50歳代	57	33.3	35.1	45.6	12.3	33.3	10.5	24.6	19.3	24.6	-	-	8.8
男性:60歳代	113	38.9	27.4	38.1	23.9	34.5	17.7	16.8	18.6	28.3	-	-	3.5	
男性:70歳以上	158	31.0	24.1	34.2	21.5	32.9	10.8	11.4	32.3	19.0	-	0.6	11.4	
無回答		22	9.1	22.7	13.6	27.3	13.6	9.1	9.1	13.6	22.7	-	4.5	27.3
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	172	27.3	25.6	40.1	19.8	39.5	19.2	23.3	28.5	15.1	-	2.9	2.9
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	236	32.2	22.9	41.5	22.0	31.4	17.4	16.5	41.1	17.8	-	0.8	6.4
	女性:配偶者はいない(離別)	56	48.2	21.4	32.1	32.1	28.6	16.1	17.9	30.4	19.6	-	-	3.6
	女性:配偶者はいない(死別)	87	35.6	23.0	39.1	18.4	27.6	14.9	6.9	37.9	13.8	-	-	12.6
	女性:結婚していない	75	25.3	37.3	45.3	20.0	37.3	18.7	24.0	24.0	18.7	-	-	2.7
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	94	30.9	29.8	40.4	14.9	37.2	13.8	28.7	19.1	27.7	-	5.3	3.2
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	179	34.6	25.1	39.1	23.5	35.2	13.4	14.5	26.8	21.2	-	-	6.1
	男性:配偶者はいない(離別)	36	30.6	25.0	36.1	22.2	36.1	13.9	13.9	27.8	16.7	-	-	8.3
	男性:配偶者はいない(死別)	15	26.7	33.3	33.3	20.0	53.3	20.0	13.3	26.7	40.0	-	-	-
	男性:結婚していない	94	39.4	33.0	41.5	18.1	25.5	13.8	10.6	19.1	20.2	-	3.2	10.6
無回答		52	9.6	15.4	19.2	19.2	11.5	7.7	9.6	19.2	15.4	-	1.9	30.8



## 第4章 地域活動について

---

1. 地域の役職に推薦された場合の対処
2. 地域の役職を断る理由
3. 地域で感じる男女の差
4. 地域活動での男女の役割分担
5. 地域の長に女性が就くことが少ない理由
6. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点



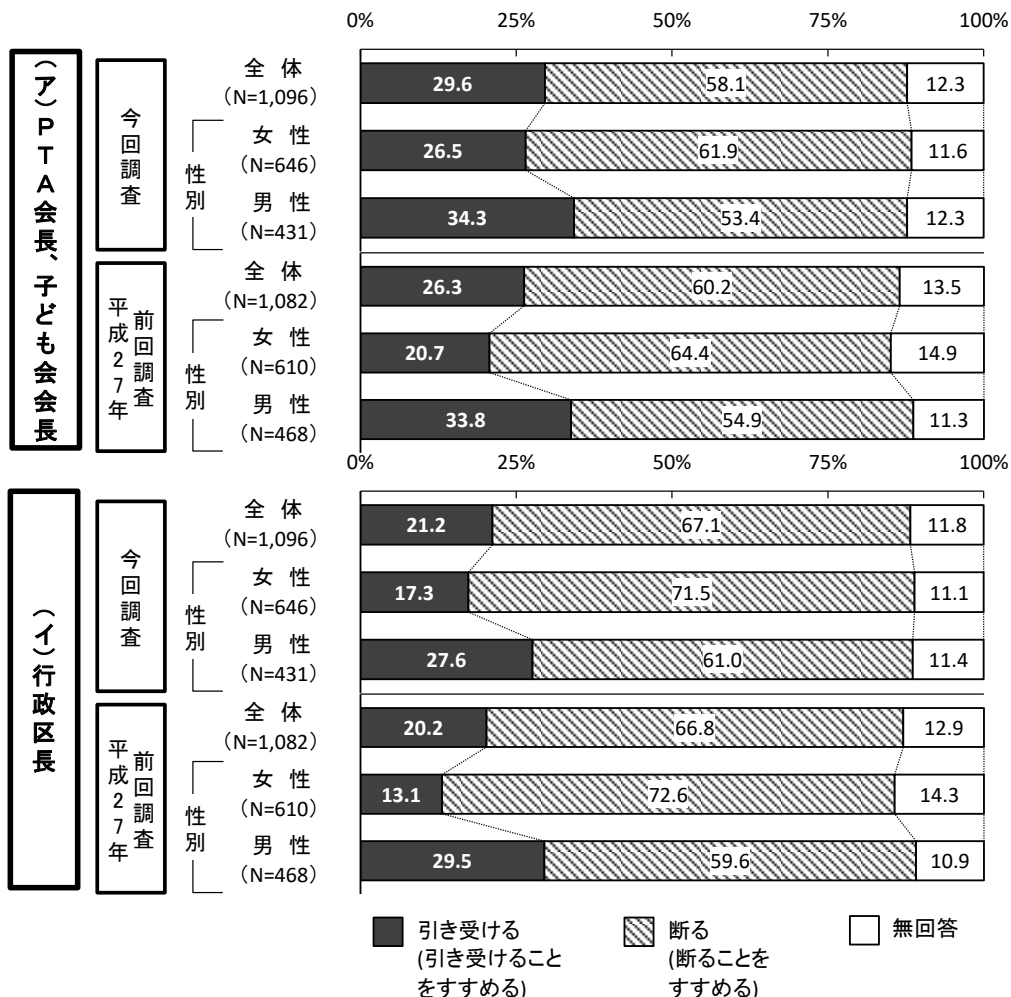
## 第4章 地域活動について

### 1. 地域の役職に推薦された場合の対処

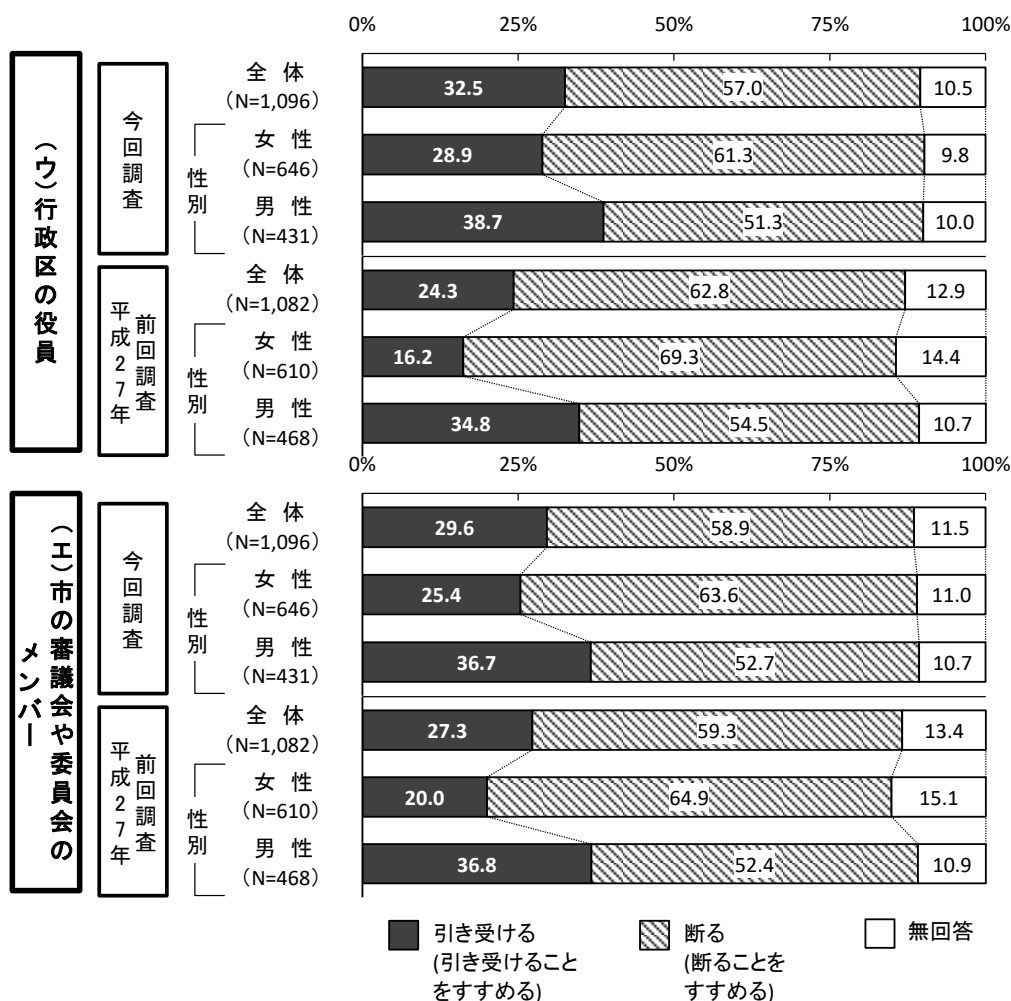
地域の役職に推薦された場合、女性の「引き受ける」は2割弱から3割弱と男性の「引き受けることをすすめる」よりも1割前後低い。前回調査に比べ、女性の「引き受ける」はいずれの役職も約4～13ポイント増えている。

問10 次の(ア)～(エ)の地域の役職について、女性は自分自身が、男性は妻など身近な女性が推薦されたとしたら、あなたはどのように思いますか。(○印はそれぞれ1つつ)

図表4-1(1) 地域の役職に女性が推薦された場合の対処 [全体、性別] (前回調査比較)



図表 4-1 (2) 地域の役職に女性が推薦された場合の対処 [全体、性別] (前回調査比較)



地域の役職に女性が推薦された場合の対処について、「PTA会長、子ども会会長」や「行政区長」「行政区の役員」「市の審議会や委員会のメンバー」などの役職についてたずねた。

「引き受ける (引き受けることをすすめる)」は「行政区の役員」が 32.5%、「PTA会長、子ども会会長」と「市の審議会や委員会のメンバー」が同率の 29.6%、「行政区長」が 21.2%となっている。いずれの役職も「断る (断ることをすすめる)」が約 6 割から 7 割近くを占めている。

性別でみると、いずれの役職も男性の「引き受けることをすすめる」は「行政区長」が 27.6%で、それ以外の役職は 3 割台半ばとなっている。女性の「引き受ける」は「行政区の役員」が 28.9%と最も高く、「PTA会長、子ども会会長」(26.5%)と「市の審議会や委員会のメンバー」(25.4%)は 2 割台半ば、「行政区長」は 17.3%となっている。

前回調査と比べると、女性の「引き受ける」の割合は、「PTA会長、子ども会会長」で 5.8 ポイント、「行政区長」で 4.2 ポイント、「市の審議会や委員会のメンバー」で 5.4 ポイント前回調査から増加している。「行政区の役員」については前回調査では「公民館長、行政区の役員」となっており、正確な比較はできないが 12.7 ポイントと大幅に増えている。

年齢別で「引き受ける」の割合をみると、女性では29歳以下で「PTA会長、子ども会長」が31.3%と高く、「行政区長」は30歳以下で2割強、「行政区の役員」は30歳代と50歳以上で3割前後、「市の審議会や委員会のメンバー」は29歳以下と60歳代で3割前後と比較的高い。男性はいずれの役職も29歳以下で「引き受けることをすすめる」が4割台と高く、また「PTA会長、子ども会長」は男性の40歳代、「行政区の役員」と「市の審議会や委員会のメンバー」は男性の60歳代でも4割台と高い。

図表4-2 地域の役職に推薦された場合の対処 [全体、年齢別]

		標本数	(ア)PTA会長、子ども会会長			(イ)行政区長		
			と(引き受けることをすすめる)	す(断ることを)	無回答	と(引き受けることをすすめる)	す(断ることを)	無回答
全体		1,096 100.0	324 29.6	637 58.1	135 12.3	232 21.2	735 67.1	129 11.8
年齢別	女性:29歳以下	32	31.3	65.6	3.1	21.9	75.0	3.1
	女性:30歳代	57	26.3	68.4	5.3	21.1	73.7	5.3
	女性:40歳代	74	23.0	74.3	2.7	13.5	83.8	2.7
	女性:50歳代	80	25.0	73.8	1.3	16.3	82.5	1.3
	女性:60歳代	155	25.8	67.1	7.1	17.4	77.4	5.2
	女性:70歳以上	245	27.8	49.4	22.9	17.1	59.6	23.3
	男性:29歳以下	29	48.3	51.7	-	41.4	58.6	-
	男性:30歳代	29	31.0	55.2	13.8	24.1	62.1	13.8
	男性:40歳代	45	46.7	48.9	4.4	26.7	68.9	4.4
	男性:50歳代	57	24.6	66.7	8.8	24.6	66.7	8.8
	男性:60歳代	113	39.8	52.2	8.0	32.7	60.2	7.1
	男性:70歳以上	158	28.5	50.6	20.9	23.4	57.6	19.0
	無回答		22	27.3	36.4	36.4	9.1	54.5
		標本数	(ウ)行政区の役員			(エ)市の審議会や委員会のメンバー		
			と(引き受けることをすすめる)	す(断ることを)	無回答	と(引き受けることをすすめる)	す(断ることを)	無回答
全体		1,096 100.0	356 32.5	625 57.0	115 10.5	324 29.6	646 58.9	126 11.5
年齢別	女性:29歳以下	32	25.0	71.9	3.1	28.1	68.8	3.1
	女性:30歳代	57	28.1	68.4	3.5	22.8	71.9	5.3
	女性:40歳代	74	16.2	81.1	2.7	21.6	75.7	2.7
	女性:50歳代	80	28.8	68.8	2.5	26.3	71.3	2.5
	女性:60歳代	155	30.3	64.5	5.2	30.3	63.9	5.8
	女性:70歳以上	245	32.7	47.8	19.6	23.3	54.7	22.0
	男性:29歳以下	29	44.8	55.2	-	41.4	58.6	-
	男性:30歳代	29	31.0	55.2	13.8	27.6	58.6	13.8
	男性:40歳代	45	31.1	64.4	4.4	33.3	62.2	4.4
	男性:50歳代	57	31.6	57.9	10.5	33.3	57.9	8.8
	男性:60歳代	113	44.2	49.6	6.2	43.4	47.8	8.8
	男性:70歳以上	158	39.9	44.9	15.2	34.8	49.4	15.8
	無回答		22	13.6	45.5	40.9	13.6	45.5

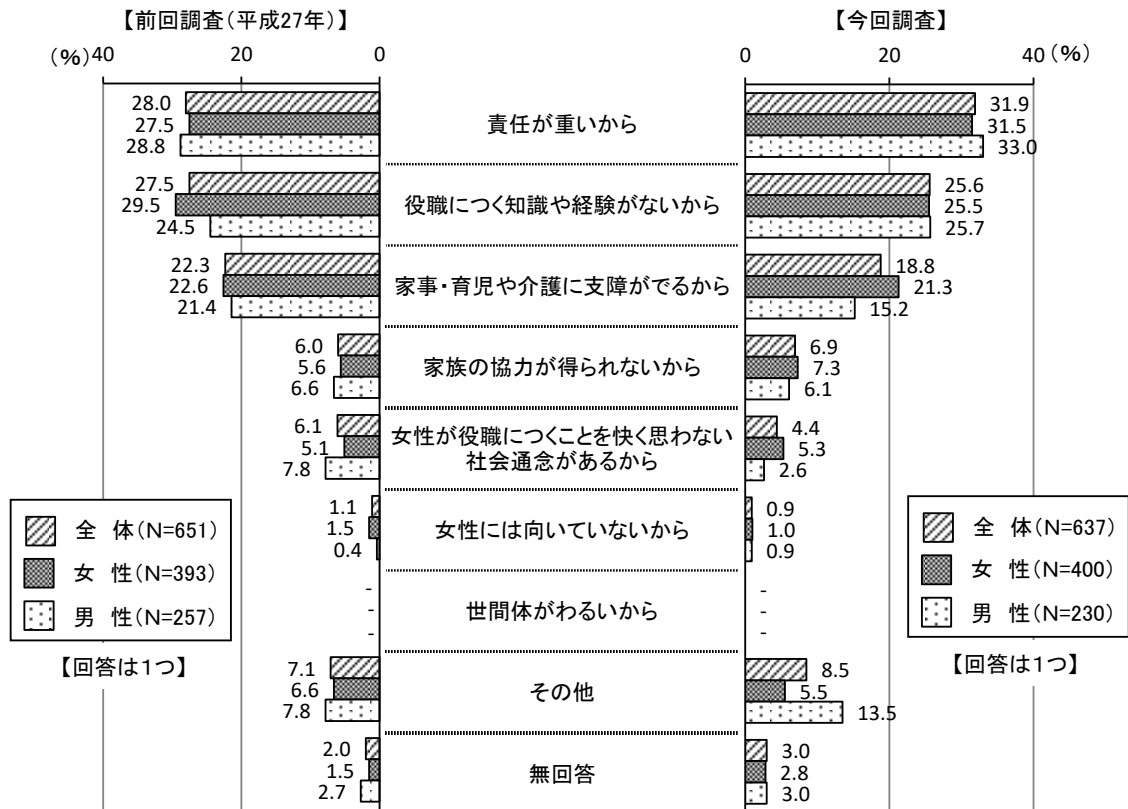
2. 地域の役職を断る理由

地域の役職を断る理由は「責任が重いから」「役職につく知識や経験がないから」が上位の理由。「家事・育児や介護に支障がでるから」はいずれの役職でも女性の割合が男性よりも約4～6ポイント高い。

問10 また、「2. 断る（断ることをすすめる）」を選んだ方はその理由についてもご記入ください。（下記「断る理由」の中から1つ選び、番号を記入してください）

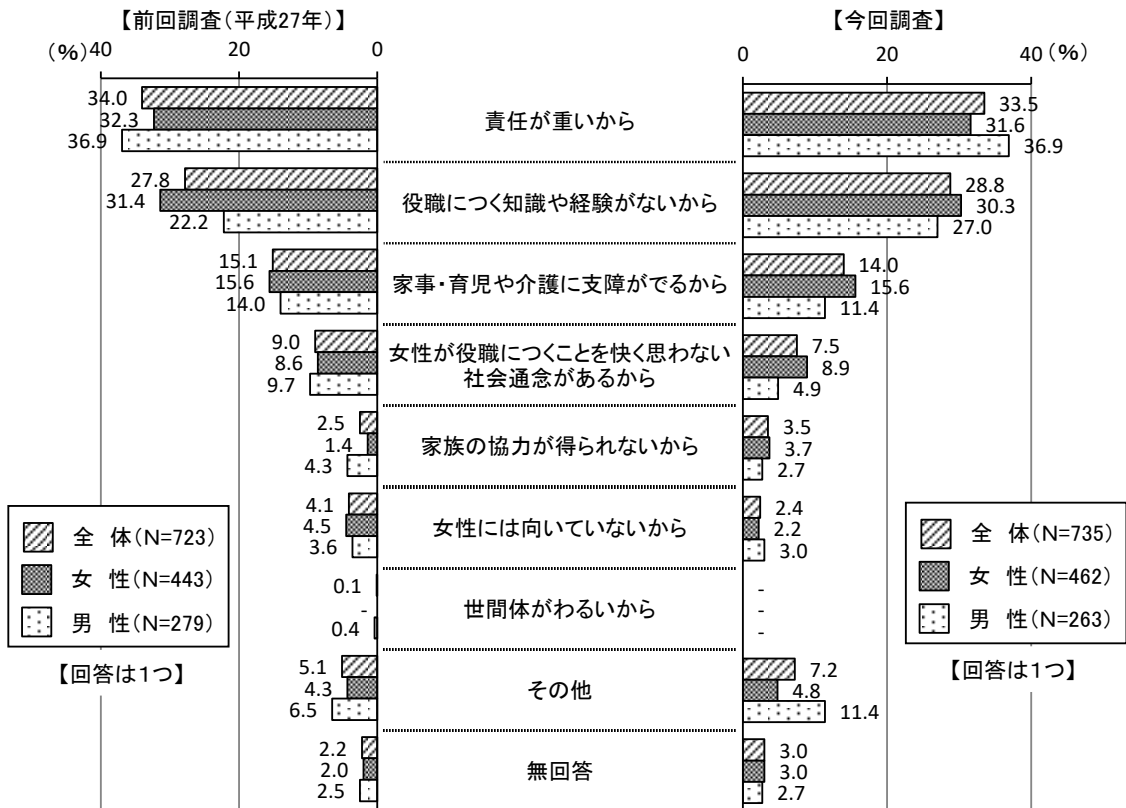
(ア) PTA会長、子ども会会長

図表4-3 PTA会長、子ども会会長の役職を断る理由【全体、性別】（前回調査比較）



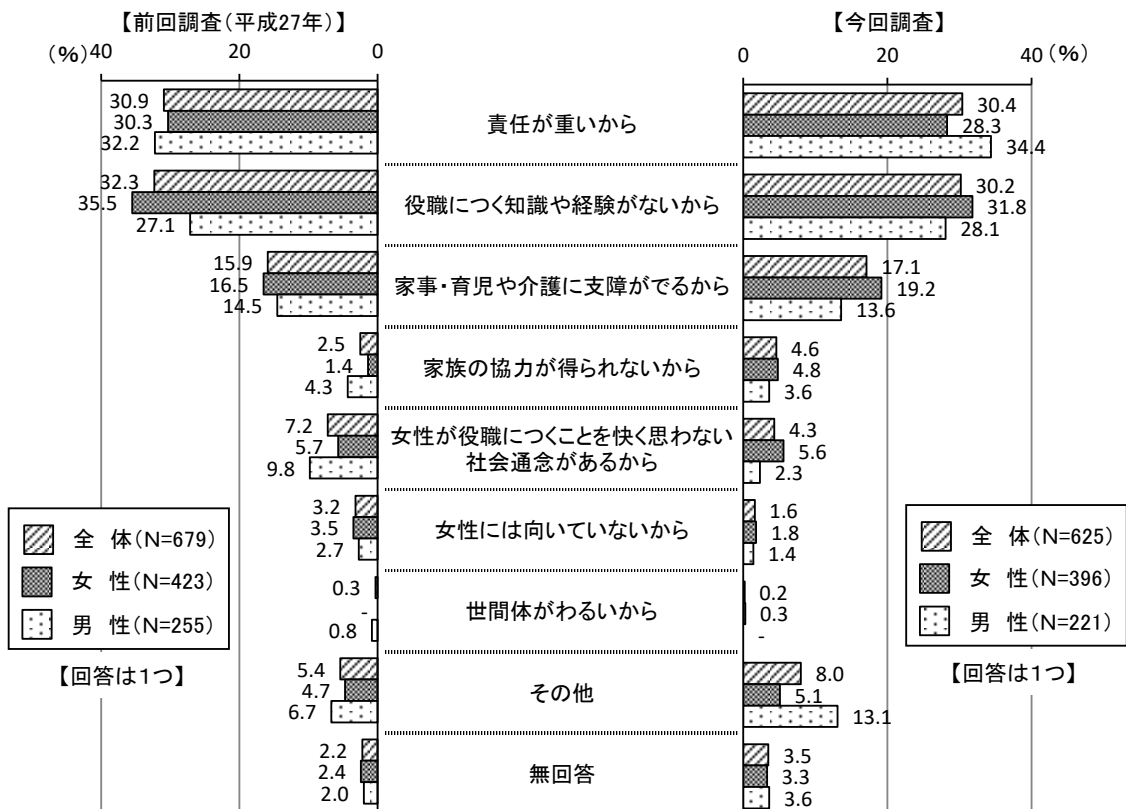
(イ) 行政区長

図表4-4 行政区長の役職を断る理由〔全体、性別〕(前回調査比較)



(ウ) 行政区の役員

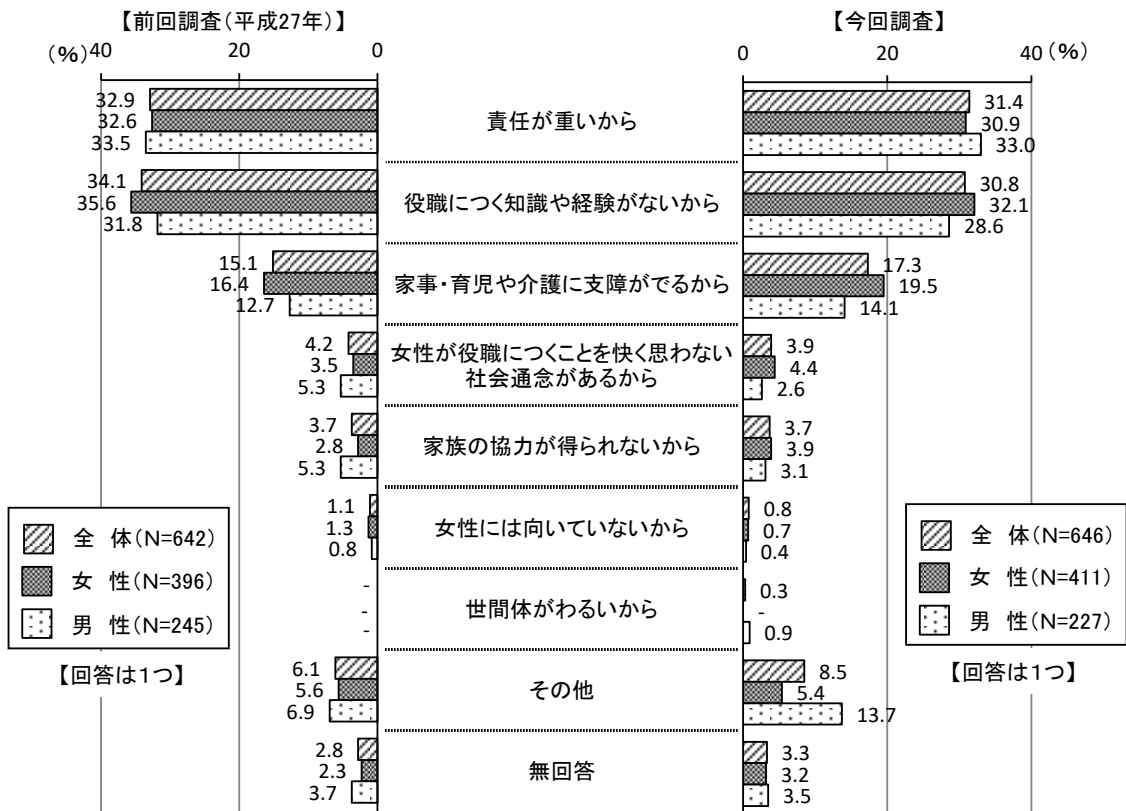
図表4-5 公民館長、行政区の役員の役職を断る理由〔全体、性別〕(前回調査比較)



II 調査結果

(エ) 市の審議会や委員会のメンバー

図表4-6 市の審議会や委員会のメンバーの役職を断る理由〔全体、性別〕（前回調査比較）



地域の役職に推薦された場合「断る（断ることをすすめる）」と回答した人にその理由をたずねたところ、いずれの役職でも「責任が重いから」が3割強、「役職につく知識や経験がないから」が2割台半ばから3割強で上位の理由となっている。

性別で見ると、女性は「PTA会長、子ども会会長」以外の役職で「役職につく知識や経験がないから」が3割強と男性よりも約3～4ポイント高くなっている。また、「家事・育児や介護に支障がでるから」はいずれの役職でも男性よりも約4～6ポイント高い。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな変化はみられない。



年齢別でみると、いずれの役職でも「責任が重いから」は女性の年齢が低い層で、「役職につく知識や経験がないから」は年齢が高い層で割合が高い傾向がみられる。また、女性の30歳代と40歳代でいずれの役職でも「家事・育児や介護に支障がでるから」が2割台半ばから4割台と他の年代に比べて高くなっている。

図表4-7 地域の役職を断る理由〔全体、年齢別〕

(%)

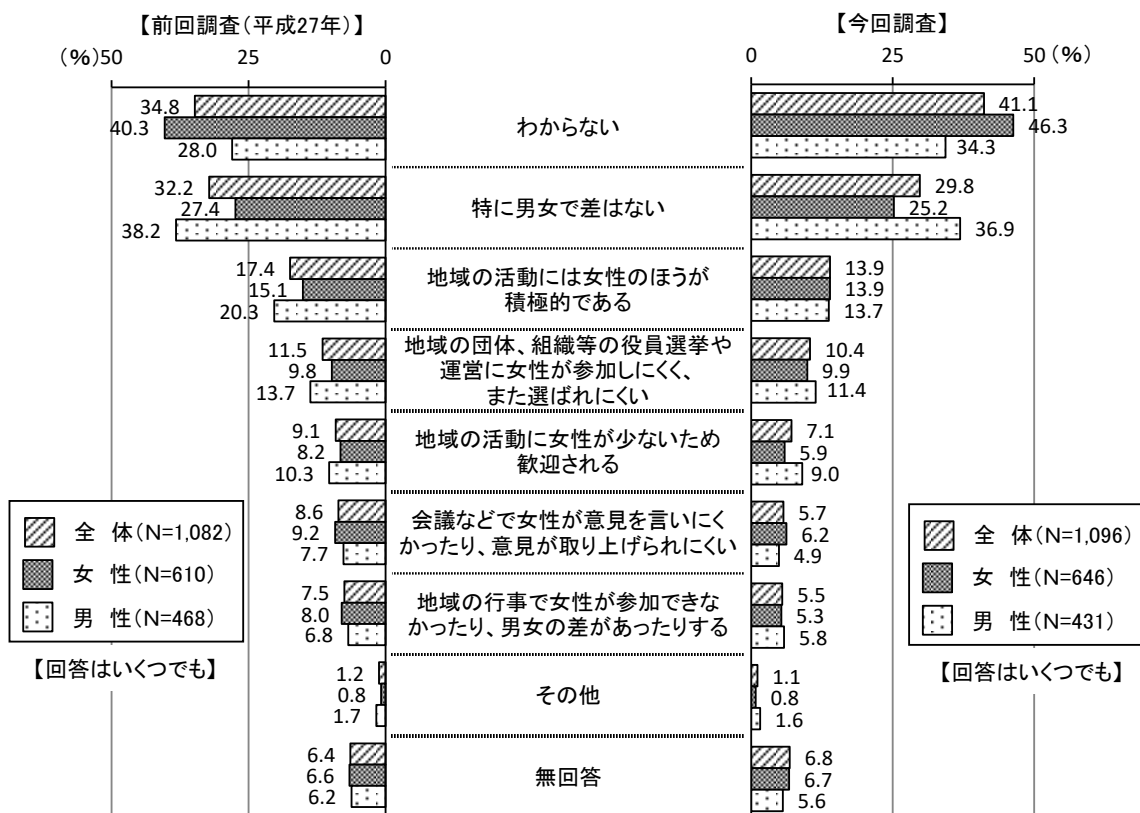
	標本数	(ア)PTA会長、子ども会会長										標本数	(イ)行政区域長									
		家族の協力が得られないから	女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	世間体がわるいから	責任が重いから	その他	無回答	家族の協力が得られないから		女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	世間体がわるいから	責任が重いから	その他	無回答		
全体	637 100.0	44 6.9	28 4.4	120 18.8	163 25.6	6 0.9	-	203 31.9	54 8.5	19 3.0	735 100.0	26 3.5	55 7.5	103 14.0	212 28.8	18 2.4	-	246 33.5	53 7.2	22 3.0		
年齢別	女性:29歳以下	21	-	4.8	19.0	14.3	-	-	47.6	14.3	-	24	-	4.2	12.5	20.8	-	-	50.0	12.5	-	
	女性:30歳代	39	-	-	41.0	17.9	-	-	28.2	12.8	-	42	-	4.8	26.2	33.3	-	-	28.6	7.1	-	
	女性:40歳代	55	9.1	3.6	29.1	12.7	-	-	38.2	3.6	3.6	62	4.8	3.2	24.2	24.2	-	-	33.9	6.5	3.2	
	女性:50歳代	59	5.1	5.1	27.1	27.1	1.7	-	30.5	1.7	1.7	66	1.5	9.1	18.2	28.8	4.5	-	33.3	3.0	1.5	
	女性:60歳代	104	9.6	6.7	16.3	28.8	1.0	-	32.7	1.9	2.9	120	5.8	10.0	14.2	30.8	2.5	-	33.3	0.8	2.5	
	女性:70歳以上	121	8.3	6.6	13.2	32.2	1.7	-	26.4	7.4	4.1	146	3.4	12.3	8.9	34.2	2.7	-	26.7	6.2	5.5	
	男性:29歳以下	15	-	6.7	20.0	20.0	-	-	33.3	13.3	6.7	17	-	5.9	23.5	17.6	-	-	35.3	5.9	11.8	
	男性:30歳代	16	-	-	31.3	6.3	-	-	37.5	25.0	-	18	-	-	27.8	16.7	-	-	27.8	27.8	-	
	男性:40歳代	22	-	-	36.4	9.1	-	-	36.4	18.2	-	31	-	3.2	22.6	9.7	-	-	51.6	12.9	-	
	男性:50歳代	38	10.5	2.6	18.4	18.4	-	-	31.6	13.2	5.3	38	2.6	2.6	13.2	18.4	5.3	-	47.4	7.9	2.6	
	男性:60歳代	59	5.1	1.7	8.5	27.1	1.7	-	39.0	15.3	1.7	68	2.9	4.4	5.9	27.9	2.9	-	44.1	11.8	-	
	男性:70歳以上	80	8.8	3.8	8.8	37.5	1.3	-	27.5	8.8	3.8	91	4.4	7.7	5.5	39.6	4.4	-	24.2	9.9	4.4	
無回答	8	25.0	12.5	-	25.0	-	-	12.5	12.5	12.5	12	25.0	8.3	16.7	8.3	-	-	25.0	8.3	8.3		
	標本数	(ウ)行政区の役員										標本数	(エ)市の審議会や委員会のメンバー									
		家族の協力が得られないから	女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	世間体がわるいから	責任が重いから	その他	無回答	家族の協力が得られないから		女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	世間体がわるいから	責任が重いから	その他	無回答		
全体	625 100.0	29 4.6	27 4.3	107 17.1	189 30.2	10 1.6	1	190 30.4	50 8.0	22 3.5	646 100.0	24 3.7	25 3.9	112 17.3	199 30.8	5 0.8	2	203 31.4	55 8.5	21 3.3		
年齢別	女性:29歳以下	23	-	-	17.4	30.4	-	-	39.1	13.0	-	22	-	-	22.7	18.2	-	-	45.5	13.6	-	
	女性:30歳代	39	-	2.6	28.2	30.8	2.6	-	25.6	7.7	2.6	41	-	2.4	29.3	26.8	-	-	31.7	7.3	2.4	
	女性:40歳代	60	8.3	1.7	25.0	23.3	-	-	33.3	5.0	3.3	56	5.4	5.4	30.4	19.6	-	-	28.6	7.1	3.6	
	女性:50歳代	55	1.8	5.5	21.8	32.7	-	-	32.7	3.6	1.8	57	5.3	3.5	22.8	29.8	-	-	33.3	3.5	1.8	
	女性:60歳代	100	8.0	8.0	20.0	26.0	4.0	1.0	30.0	1.0	2.0	99	6.1	6.1	17.2	32.3	1.0	-	34.3	1.0	2.0	
	女性:70歳以上	117	3.4	7.7	11.1	41.9	1.7	-	21.4	6.8	6.0	134	2.2	4.5	11.2	42.5	1.5	-	26.1	6.7	5.2	
	男性:29歳以下	16	-	-	31.3	18.8	-	-	31.3	6.3	12.5	17	-	5.9	29.4	23.5	-	-	29.4	5.9	5.9	
	男性:30歳代	16	-	-	25.0	31.3	-	-	18.8	25.0	-	17	-	-	29.4	23.5	-	5.9	17.6	23.5	-	
	男性:40歳代	29	-	-	24.1	10.3	-	-	51.7	13.8	-	28	-	-	25.0	10.7	-	-	50.0	14.3	-	
	男性:50歳代	33	6.1	-	9.1	30.3	-	-	39.4	12.1	3.0	33	3.0	3.0	15.2	24.2	-	-	39.4	12.1	3.0	
	男性:60歳代	56	3.6	1.8	8.9	23.2	3.6	-	39.3	16.1	3.6	54	1.9	3.7	9.3	25.9	-	-	42.6	14.8	1.9	
	男性:70歳以上	71	5.6	5.6	8.5	39.4	1.4	-	25.4	9.9	4.2	78	6.4	2.6	6.4	41.0	1.3	1.3	21.8	12.8	6.4	
無回答	10	30.0	-	20.0	10.0	-	-	20.0	10.0	10.0	10	20.0	10.0	10.0	20.0	10.0	-	10.0	20.0	-		

3. 地域で感じる男女の差

- ・地域で感じる男女の差について、女性は「わからない」、男性は「特に男女で差はない」が第1位。
- ・前回調査に比べ、「わからない」が男女とも約6ポイント増加し、全体の割合は減少傾向。

問 1 1 あなたが住んでいる地域で、現在次のようなことがありますか。  
 (○印はいくつでも)

図表 4-8 地域で感じる男女の差 [全体、性別] (前回調査比較)



住んでいる地域で活動や行事などを通じて男女の差を感じるかどうかはずねたところ、「わからない」が41.1%と最も高かった。これは地域活動に参加していない人の回答と思われる。実際に活動に参加している人では「特に男女で差はない」が29.8%、次いで「地域の活動には女性のほうが積極的である」が13.9%と女性が地域活動に参加する上で、特に男女差を感じることなく行われている様子がうかがえる。一方で、「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい」(10.4%)、「会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくい」(5.7%)、「地域の行事で女性が参加できなかったり、男女の差があったりする」(5.5%)など割合は低いものの男女の差が明らかなものもある。

性別で見ると、女性は「わからない」が46.3%と男性(34.3%)を12ポイント上回り、男性は「特に男女で差はない」が36.9%で女性(25.2%)を11.7ポイント上回っている。

前回調査と比べると、「わからない」が男女とも約6ポイント増え、その他の項目の割合はやや低くなっている。

年齢別でみると、男女とも年齢の低い層で「わからない」の割合が高い傾向がみられ、特に女性の40歳代以下と男性の29歳以下では6割を超えている。「特に男女で差はない」は女性の60歳以上と男性のいずれの年代も3割を超え、特に男性の70歳以上では41.8%と最も高い。「地域の活動には女性のほうが積極的である」「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい」は男女とも年齢の高い層で、また、「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」「地域の行事で女性が参加できなかつたり、男女の差があつたりする」などは男性の60歳以上の割合が他の年代に比べて高くなっている。

居住地区別でみると、稲築地区で「わからない」が48.8%と最も高い。「特に男女で差はない」は山田地区が36.6%と最も高く、「地域の活動には女性のほうが積極的である」はいずれの地域も1割強から1割台半ばとなっている。「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい」は碓井地区と嘉穂地区で1割台半ば、「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」は碓井地区で10.2%と他の地域に比べて高くなっている。

図表4-9 地域で感じる男女の差 [全体、年齢別、居住地区別]

		標本数	に選地 く挙域 やの 、運団 ま営体 たに、 選女組 ば性が れが等 に参の く加役 いし員	あき地 った域 たかの りっ行 すたり 、女 男性 女の の参 差加 がで	りい会 上に議 げくな らかど れつで にた女 くり、 い、意 見見 がを 取言	た地 め域 の飲 迎の され るに 女性 が少 ない	が地 積域 極の 的活 動動 では 女性 のほ う	特に 男女 で差 はない	わ から ない	そ の 他	無 回 答
全体		1,096 100.0	114 10.4	60 5.5	62 5.7	78 7.1	152 13.9	327 29.8	450 41.1	12 1.1	74 6.8
年齢別	女性:29歳以下	32	3.1	3.1	3.1	6.3	9.4	25.0	62.5	-	-
	女性:30歳代	57	7.0	5.3	7.0	5.3	3.5	8.8	66.7	-	3.5
	女性:40歳代	74	2.7	5.4	4.1	1.4	6.8	13.5	68.9	-	6.8
	女性:50歳代	80	7.5	7.5	7.5	8.8	10.0	21.3	53.8	2.5	2.5
	女性:60歳代	155	12.3	1.9	5.8	5.2	12.9	31.0	40.6	1.3	6.5
	女性:70歳以上	245	13.1	6.1	6.9	6.5	20.8	30.6	34.3	0.4	9.8
	男性:29歳以下	29	-	3.4	-	-	-	31.0	62.1	-	3.4
	男性:30歳代	29	6.9	-	3.4	-	3.4	31.0	48.3	-	6.9
	男性:40歳代	45	2.2	2.2	4.4	6.7	8.9	37.8	40.0	4.4	-
	男性:50歳代	57	10.5	1.8	5.3	1.8	7.0	33.3	45.6	3.5	5.3
男性:60歳代	113	16.8	11.5	7.1	12.4	15.0	34.5	33.6	2.7	2.7	
男性:70歳以上	158	13.3	5.7	4.4	13.3	20.9	41.8	21.5	-	9.5	
	無回答	22	4.5	13.6	4.5	9.1	18.2	22.7	13.6	-	31.8
居住地区別	山田地区	235	9.4	4.7	6.0	6.8	14.5	36.6	39.1	1.3	5.1
	稲築地区	432	7.4	2.8	5.6	5.1	13.7	24.5	48.8	0.9	8.1
	碓井地区	167	13.2	8.4	6.6	10.2	15.6	32.9	33.5	0.6	6.6
	嘉穂地区	236	15.7	8.5	5.1	8.9	12.3	32.2	34.7	1.7	4.2
	わからない	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	無回答	25	4.0	12.0	4.0	8.0	16.0	16.0	32.0	-	24.0

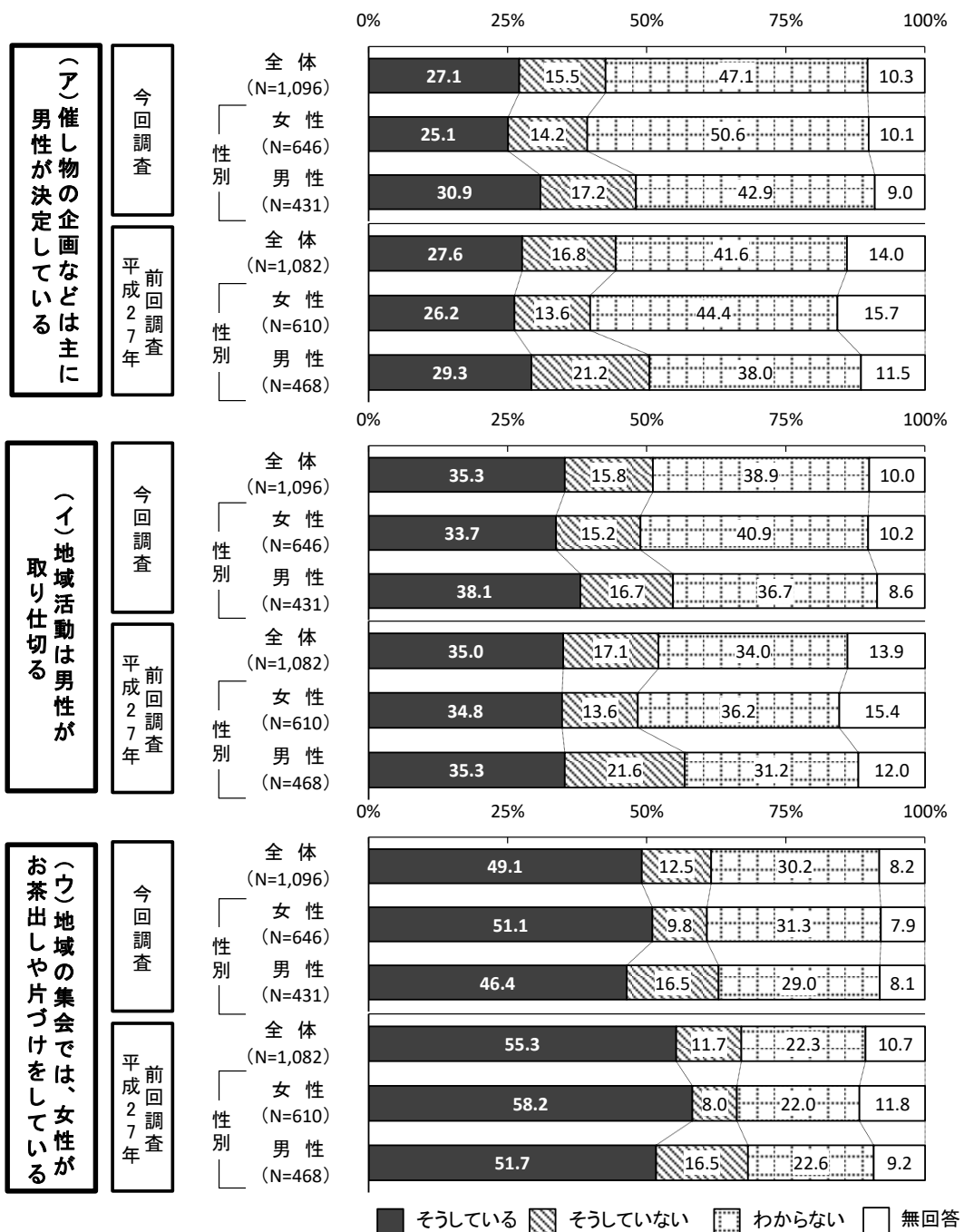
4. 地域活動での男女の役割分担

- ・地域活動での男女の役割分担の現状について「わからない」が約3割から5割近くと、前回調査に比べて約5～11ポイント増加。
- ・「そうしている」が多い項目は「女性がお茶出しや片づけをする」が5割弱、「地域の役員はほとんど男性」「地域活動は男性が取り仕切る」が3割台半ば。

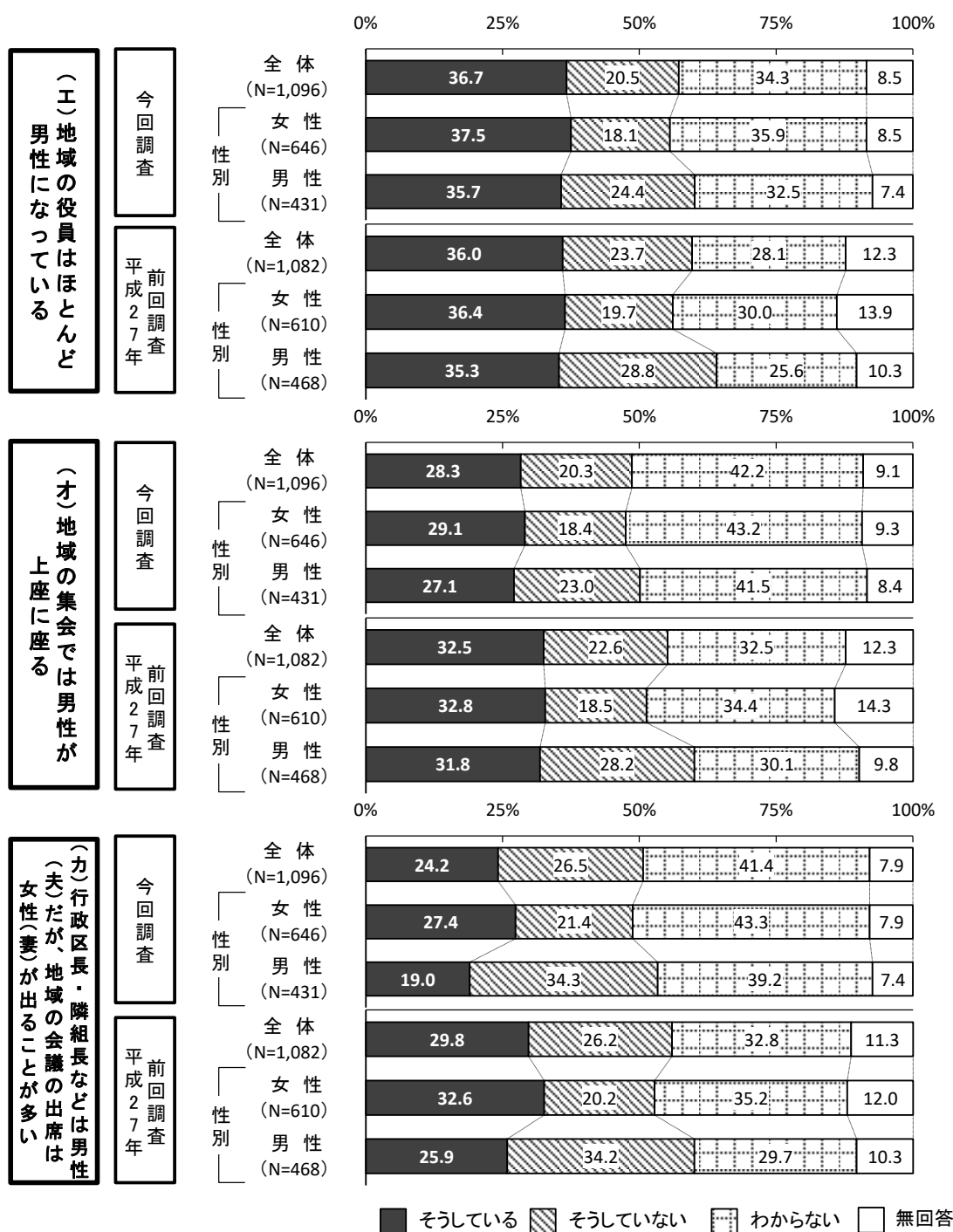
問12 地域活動での男女の役割分担についておたずねします。

(1) 現状：あなたが参加している地域活動の現状について (ア)～(カ) のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つつ)

図表4-10 (1) 【現状】地域活動での男女の役割分担 [全体、性別] (前回調査比較)



図表4-10(2) 【現状】地域活動での男女の役割分担 [全体、性別] (前回調査比較)



地域活動での男女の役割分担の現状を6つの項目でたずねた。地域活動に参加していない人が多いためか、全項目にわたって「わからない」が約3割から5割近くある。

「そうしている」との回答が最も多かったのは「地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」で49.1%と5割近くを占めている。次いで「地域の役員はほとんど男性になっている」(36.7%)と「地域活動は男性が取り仕切る」(35.3%)が3割台半ば、「地域の集会では男性が上座に座る」(28.3%)と「催し物の企画などは主に男性が決定している」(27.1%)は3割弱、「行政区長・隣組長などは男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性(妻)が出る人が多い」(24.2%)は2割台半ばとなっている。

II 調査結果

性別でみると、女性は「地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」と「行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」の「そうしている」が男性よりも約5～8ポイント高い。男性は「催し物の企画などは主に男性が決定している」と「地域活動は男性が取り仕切る」の「そうしている」が女性よりも4～6ポイント高い。「地域の役員はほとんど男性になっている」と「地域の集会では男性が上座に座る」については男女とも「そうしている」の割合に差はあまりみられない。

前回調査と比べると、いずれの項目も「わからない」が男女とも約5～11ポイント高くなっている。「地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」や「地域の集会では男性が上座に座る」「行政区長・隣組長などは男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出るが多い」の「そうしている」は男女とも約4～7ポイント減少し、「催し物の企画などは主に男性が決定している」や「地域活動は男性が取り仕切る」「地域の役員はほとんど男性になっている」などは大差はみられない。

**地域活動で役割分担がなされている場合、いずれの項目も「改善すべき」の割合が4割台半ばから5割強と最も高い。「地域活動は男性が取り仕切る」は「改善すべき」が4割台半ばあるが、他方「現状のままでいい」も3割台半ばと他の項目に比べて割合が高い。**

問12 地域活動での男女の役割分担についておたずねします。

(2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。(ア)～(カ)のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つずつ)

図表4-11 (1) 【意識】地域活動での男女の役割分担 [全体、現状別]

		【意識】(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している				【意識】(イ)地域活動は男性が取り仕切る							
		標本数	い現状のままで	改善すべき	わからない	無回答	標本数	い現状のままで	改善すべき	わからない	無回答		
全体		1,096 100.0	236 21.5	266 24.3	395 36.0	199 18.2	全体	1,096 100.0	263 24.0	273 24.9	365 33.3	195 17.8	
現状別	(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している	297	31.0	49.8	8.1	11.1	現状別	(イ)地域活動は男性が取り仕切る	387	35.7	45.7	9.6	9.0
	そうしている	170	64.1	13.5	5.9	16.5		そうしている	173	57.8	13.3	10.4	18.5
	そうしていない	516	5.8	17.2	69.4	7.6		そうしていない	426	5.4	15.3	71.8	7.5
	わからない	113	4.4	5.3	2.7	87.6		わからない	110	1.8	7.3	3.6	87.3
全体		1,096 100.0	277 25.3	333 30.4	296 27.0	190 17.3	全体	1,096 100.0	248 22.6	313 28.6	342 31.2	193 17.6	
現状別	(ウ)地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている	538	30.5	50.0	9.7	9.9	現状別	(エ)地域の役員はほとんど男性になっている	402	25.1	52.0	11.9	10.9
	そうしている	137	67.2	11.7	8.0	13.1		そうしている	225	55.6	20.4	6.7	17.3
	そうしていない	331	5.7	14.5	69.2	10.6		そうしていない	376	5.9	14.4	72.6	7.2
	わからない	90	2.2	-	4.4	93.3		わからない	93	-	4.3	6.5	89.2

図表4-11(2) 【意識】地域活動での男女の役割分担 [全体、現状別]

		【意識】(オ)地域の集會では男性が上座に座る					【意識】(カ)行政区長・隣組長などは男性(夫)だが、地域の會議の出席は女性(妻)が出ることが多い							
		標本数	い現状のまま	改善すべき	わからない	無回答	標本数	い現状のまま	改善すべき	わからない	無回答			
全体		1,096 100.0	270 24.6	234 21.4	397 36.2	195 17.8	全体	1,096 100.0	250 22.8	254 23.2	403 36.8	189 17.2		
現状別	(オ)地域の集會では男性が上座に座る	そうしている	310	30.6	45.8	13.2	10.3	(カ)行政区長・隣組長などは男性(夫)だが、地域の會議の出席は女性(妻)が出ることが多い	そうしている	265	26.8	46.8	12.5	14.0
		そうしていない	223	62.3	11.7	9.4	16.6		そうしていない	290	53.1	20.0	13.8	13.1
		わからない	463	7.1	14.0	71.1	7.8		わからない	454	5.5	15.4	71.6	7.5
		無回答	100	3.0	1.0	6.0	90.0		無回答	87	-	2.3	5.7	92.0

地域活動での男女の役割分担の現状をふまえ、今度どうすべきと思うか回答をしてもらった。いずれの項目も現状で「そうしている」場合「改善すべき」との回答が4割台半ばから5割強と最も多く、「地域の役員はほとんど男性になっている」(52.0%)や「地域の集會では、女性がお茶出しや片づけをしている」(50.0%)、「催し物の企画などは主に男性が決定している」(49.8%)などは「改善すべき」が5割前後となっている。

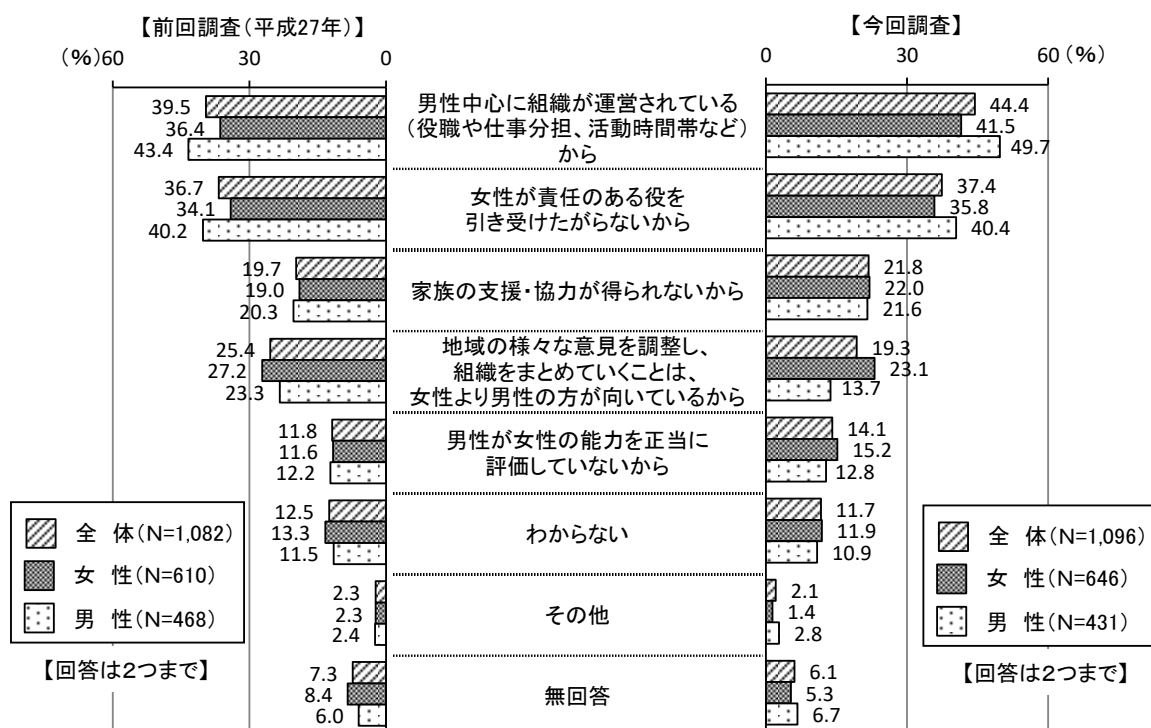
一方、「そうしている」場合に「現状のままがいい」との回答は、すべての項目で2割台半ばから3割台半ばあり、特に「地域活動は男性が取り仕切る」は35.7%と他の項目に比べて割合が高い。

5. 地域の長に女性が就くことが少ない理由

地域の長に女性が就くことが少ない理由は「男性中心に組織が運営されているから」が4割台半ば、「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」が4割弱で上位にあげられている。

問13 内閣府調査（平成31年4月1日現在）によれば、自治会役員のうち特に女性の会長については、福岡県では8.9%でした。全国的にもまだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように少ない理由は何だと思えますか。（○印は2つまで）

図表4-12 地域の長に女性が就くことが少ない理由〔全体、性別〕（前回調査比較）



行政区長や隣組長などの役職に女性が就くことが少ない理由をたずねたところ、「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」が44.4%、「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」が37.4%で上位にあげられている。以下、「家族の支援・協力が得られないから」が21.8%「地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性よりも男性の方が向いているから」が19.3%と続いている。

性別で見ると、女性は「地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性よりも男性の方が向いているから」が23.1%で男性（13.7%）より9.4ポイント高い。一方、男性は「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」（女性41.5%、男性49.7%）が8.2ポイント、「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」（同35.8%、40.4%）が4.6ポイント女性よりも高くなっている。



前回調査と比べると、男女とも「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」が約5～6ポイント高くなっている。他方、「地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性よりも男性の方が向いているから」は男女とも約4～10ポイント低くなっている。

年齢別でみると、「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」は女性の30歳代と男性の30歳代と50歳代、60歳代で5割を超えている。また、「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」や「地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性よりも男性の方が向いているから」などは男女とも年齢が高い層で割合が高い。「家族の支援・協力が得られないから」は女性の30歳代から50歳代と男性の30歳代と40歳代で3割前後と高い。「男性が女性の能力を正當に評価していないから」「わからない」などは男女とも年齢が低い層で割合が高い傾向がみられる。

居住地区別でみると、嘉穂地区で「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」が48.7%と最も高く、また「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」も42.4%、「家族の支援・協力が得られないから」が25.0%と他の地区に比べて高い。

図表4-13 地域の長に女性が就くことが少ない理由〔全体、年齢別、居住地区別〕

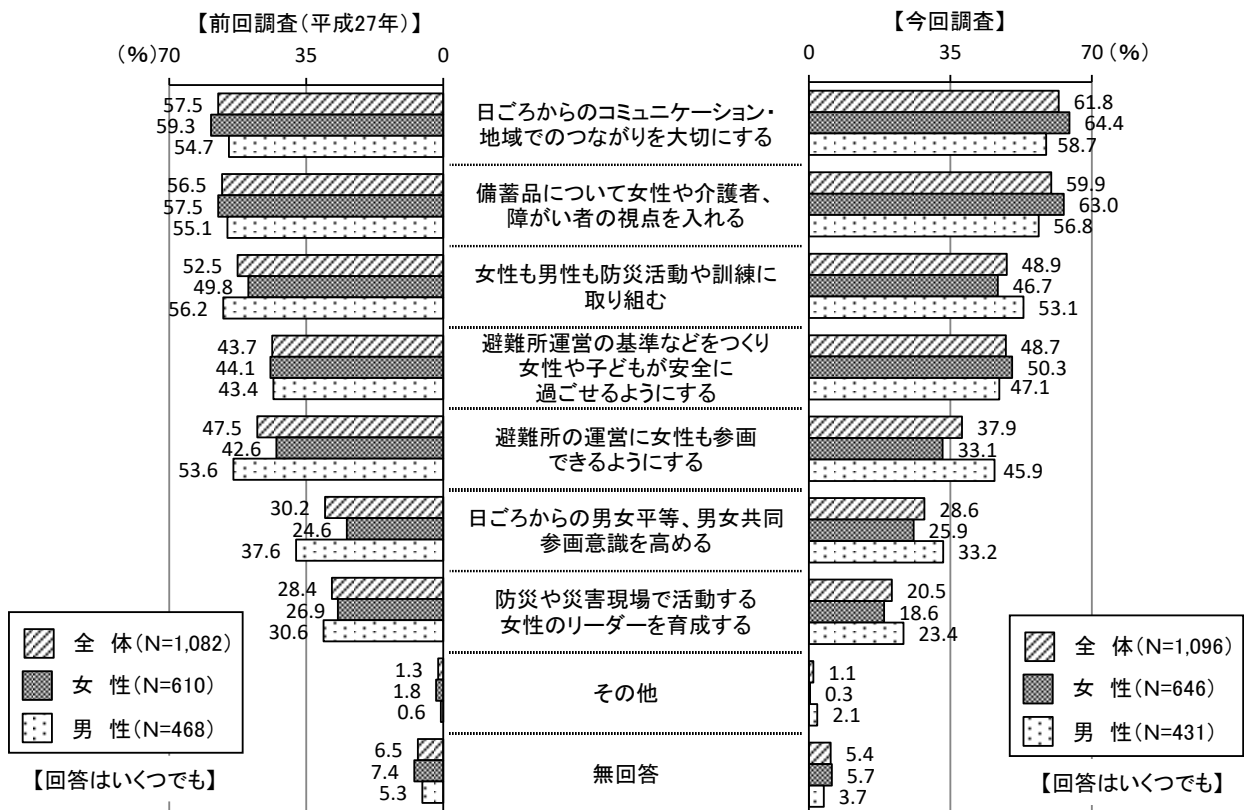
		標本数	帯る男性など（役職中心）から	し男性性が女性から能力を正當に評価	か家族の支援・協力が得られない	た女性が責任からある役を引き受け	よ織地域の様々な意見が向いてはいる、し、女性組	わわからない	その他	無回答
全体		1,096 100.0	487 44.4	154 14.1	239 21.8	410 37.4	212 19.3	128 11.7	23 2.1	67 6.1
年齢別	女性:29歳以下	32	43.8	28.1	15.6	25.0	6.3	21.9	9.4	-
	女性:30歳代	57	54.4	14.0	29.8	28.1	8.8	12.3	5.3	3.5
	女性:40歳代	74	48.6	13.5	29.7	25.7	16.2	16.2	1.4	2.7
	女性:50歳代	80	42.5	16.3	35.0	31.3	25.0	11.3	-	2.5
	女性:60歳代	155	38.7	14.8	24.5	41.9	27.1	10.3	0.6	5.8
	女性:70歳以上	245	37.1	13.9	12.7	39.6	27.3	10.6	0.4	7.8
	男性:29歳以下	29	37.9	17.2	13.8	24.1	3.4	24.1	6.9	3.4
	男性:30歳代	29	58.6	27.6	31.0	13.8	3.4	10.3	10.3	3.4
	男性:40歳代	45	46.7	11.1	31.1	35.6	6.7	15.6	2.2	6.7
	男性:50歳代	57	57.9	7.0	21.1	31.6	15.8	14.0	5.3	5.3
男性:60歳代	113	51.3	16.8	20.4	53.1	14.2	3.5	1.8	4.4	
男性:70歳以上	158	46.8	8.9	19.6	43.7	18.4	11.4	0.6	10.1	
	無回答	22	31.8	9.1	22.7	27.3	22.7	18.2	9.1	18.2
居住地区別	山田地区	235	43.8	17.4	21.7	35.3	17.0	9.8	3.4	6.0
	稲築地区	432	41.9	15.5	20.6	37.0	20.6	14.6	1.4	5.1
	碓井地区	167	46.1	13.2	19.8	38.3	18.0	12.0	1.8	8.4
	嘉穂地区	236	48.7	8.9	25.0	42.4	20.3	7.6	2.1	5.1
	わからない	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	25	40.0	12.0	28.0	12.0	20.0	16.0	4.0	20.0

6. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点

災害へ備えるために必要なことは、「コミュニケーション・地域でのつながり」「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点」が6割前後、「男女とも防災活動・訓練に取り組む」「避難所運営基準を作成し、安全に過ごせるようにする」が5割弱など多岐にわたっている。

問14 これまでの大規模災害時の経験から男女共同参画の視点による対策や対応が課題となっています。あなたは、災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇印はいくつでも)

図表4-14 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、性別]



災害に備えるために必要な男女共同参画の視点をたずねたところ、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」(61.8%)、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」(59.9%)が6割前後であげられている。以下、「女性も男性も防災活動や訓練や取り組む」(48.9%)、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」(48.7%)が5割弱、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」(37.9%)が4割弱と多岐にわたってあげられている。

性別で見ると、上位2位の項目は女性の割合が6割を超えており、男性よりも6ポイント前後高い。男性は「避難所の運営に女性も参画できるようにする」(女性33.1%、男性45.9%)や「女性も男性も防災活動や訓練や取り組む」(同46.7%、53.1%)、「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」(同25.9%、33.2%)、「防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する」(同18.6%、23.4%)などが約5~13ポイント女性よりも高い。

前回調査と比べると、女性で「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切に  
する」や「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」「避難所運営の基準など  
をつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」などが約5～6ポイント高くなっている。「避  
難所の運営に女性も参画できるようにする」や「防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育  
成する」は男女とも約7～10ポイント減っている。

年齢別でみると、男女とも年齢の高い層で「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつな  
がりを大切に」や「女性も男性も防災活動や訓練や取り組む」などの割合が高い傾向がみら  
れる。女性の40歳代と50歳代で「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が  
7割台、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」は女性の  
40歳代と男性の30歳代で6割台、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」は男性の50  
歳代と60歳代で5割台と他の年代に比べて高くなっている。

図表4-15 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、年齢別]

		(%)									
		標本数	避難所の運営に女性も参画	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	備蓄品について女性の視点を入れる	避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする	防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する	日ごろからのコミュニケーション	日ごろからの参画意識を高め、男女平等、男	その他	無回答
全体		1,096 100.0	415 37.9	536 48.9	657 59.9	534 48.7	225 20.5	677 61.8	314 28.6	12 1.1	59 5.4
年齢別	女性:29歳以下	32	34.4	46.9	53.1	59.4	18.8	53.1	37.5	-	3.1
	女性:30歳代	57	31.6	40.4	66.7	56.1	15.8	52.6	15.8	-	5.3
	女性:40歳代	74	32.4	48.6	74.3	60.8	16.2	56.8	25.7	-	-
	女性:50歳代	80	32.5	45.0	73.8	52.5	21.3	62.5	26.3	-	3.8
	女性:60歳代	155	29.0	43.9	65.2	45.2	16.8	67.7	25.8	-	5.8
	女性:70歳以上	245	36.7	50.2	55.5	47.3	20.0	69.4	26.5	0.8	8.6
	男性:29歳以下	29	27.6	48.3	62.1	27.6	6.9	37.9	31.0	6.9	3.4
	男性:30歳代	29	48.3	44.8	69.0	62.1	17.2	58.6	34.5	3.4	3.4
	男性:40歳代	45	42.2	48.9	64.4	53.3	15.6	55.6	24.4	4.4	-
	男性:50歳代	57	52.6	52.6	63.2	49.1	22.8	63.2	38.6	-	3.5
	男性:60歳代	113	51.3	58.4	55.8	47.8	31.0	61.9	33.6	0.9	1.8
	男性:70歳以上	158	43.7	53.2	50.0	44.9	24.7	59.5	33.5	1.9	6.3
無回答		22	13.6	27.3	27.3	31.8	22.7	45.5	22.7	4.5	27.3



## 第5章 暴力などの人権侵害について

---

1. セクシュアル・ハラスメントの経験
2. 暴力の経験
3. 身近で見聞きした暴力の有無
4. 身近で見聞きした暴力への対処



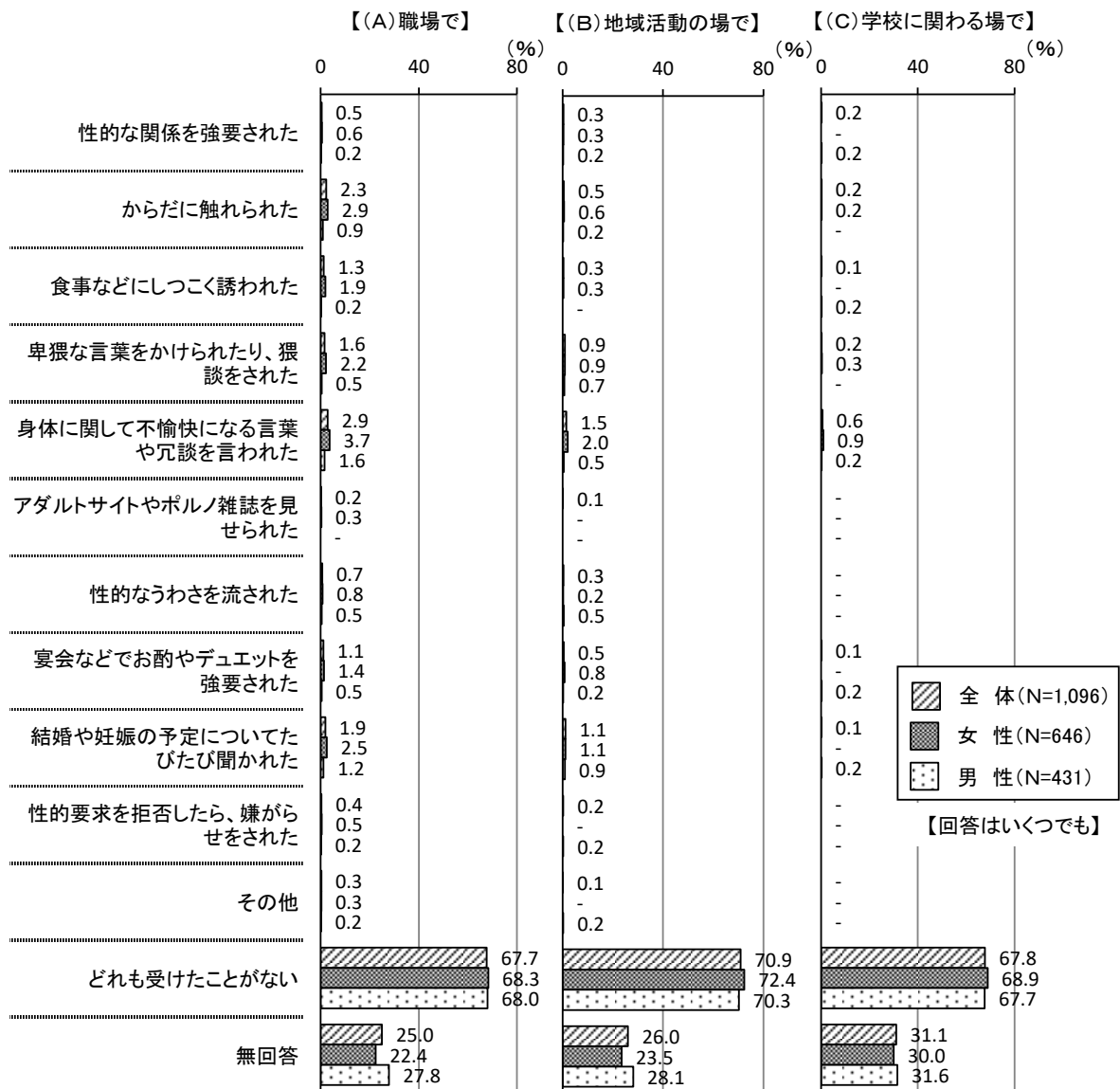
## 第5章 暴力などの人権侵害について

### 1. セクシュアル・ハラスメントの経験

- ・セクハラ被害の経験は「職場」が女性 9.3%、男性 4.2%。「地域活動の場」が女性 4.1%、男性 1.6%、「学校に関わる場」が女性 1.1%、男性 0.7%。
- ・「職場」は女性の 50 歳以下と男性の 30 歳代で 1 割以上がセクハラ被害を経験。「地域活動の場」「学校に関わる場」では女性の 29 歳以下の被害経験が高い。

問15 あなたはここ3年ぐらいの間に（A）職場、（B）地域活動の場、（C）学校に関わる場で次のようなセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがありますか。（A）（B）（C）のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれいくつでも）

図表5-1 セクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、性別]



## Ⅱ 調査結果

---

ここ3年ぐらいの間に「職場」「地域活動の場」「学校に関わる場」でセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがあるかどうかたずねた。

「職場」では「どれも受けたことがない」が67.7%で、これと無回答を除く7.3%の人がセクハラを受けた経験がある。女性の経験者は9.3%、男性は4.2%となっている。具体的にはすべての項目は女性の方が男性よりも割合が高くなっており、「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」は3.7%、「からだに触れられた」が2.9%、「結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた」が2.5%など職場でのセクハラ被害は女性の方が多い。

年齢別にみると、どれかひとつでも受けた経験があると回答した人の割合は、女性の29歳以下で21.9%、30歳代で22.8%、40歳代で14.9%、50歳代で13.7%、男性の30歳代で10.4%と1割を超えて高い。具体的な被害は、「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」「からだに触れられた」「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」「結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた」などは女性の30歳代以下での割合が高くなっている。

「地域活動の場」では「受けたことがない」が70.9%で、これと無回答を除く3.1%の人がセクハラを受けた経験があり、女性は4.1%、男性は1.6%となっている。職場に比べると、地域活動の場でのセクハラの被害経験は少ないものの女性で「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」（2.0%）での被害が多い。

年齢別でみると、女性の29歳以下で経験があるが9.4%、30歳代で7.0%と高く、内容として「結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた」が29歳以下で9.4%、30歳代で3.5%となっており、その他30歳代で「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」なども同率3.5%となっている。

「学校に関わる場」で「受けたことがない」が67.8%で、これと無回答を除く1.1%の人がセクハラを受けた経験があり、女性は1.1%、男性は0.7%となっている。職場や地域活動の場に比べてセクハラの被害経験は少ないが女性の29歳以下では9.4%と高く、具体的な内容は「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」が6.3%となっている。



図表5-2 セクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	(A)職場で													経験がある
			性的な関係を強要された	からだに触れられた	食事などにしつこく誘われた	卑猥な言葉をかけられた	言葉や冗談を言われた	身体に関して不愉快になる	誌を見せられた	アダルトサイトやポルノ雑	性的なうわさを流された	トを強要された	宴会などでお酌やデュエツ	結婚や妊娠の予定について	性的要求を拒否したら、嫌	
全体		1,096 100.0	6 0.5	25 2.3	14 1.3	17 1.6	32 2.9	2 0.2	8 0.7	12 1.1	21 1.9	4 0.4	3 0.3	742 67.7	274 25.0	7.3
年齢別	女性:29歳以下	32	-	6.3	-	3.1	6.3	-	-	-	9.4	-	-	75.0	3.1	21.9
	女性:30歳代	57	1.8	7.0	7.0	7.0	10.5	-	3.5	3.5	12.3	-	1.8	70.2	7.0	22.8
	女性:40歳代	74	-	2.7	1.4	5.4	5.4	-	1.4	-	2.7	1.4	1.4	79.7	5.4	14.9
	女性:50歳代	80	-	3.8	2.5	2.5	5.0	1.3	1.3	3.8	3.8	1.3	-	76.3	10.0	13.7
	女性:60歳代	155	1.3	3.9	1.3	0.6	3.2	0.6	0.6	1.3	0.6	0.6	-	74.2	19.4	6.4
	女性:70歳以上	245	-	0.4	0.8	0.8	1.2	-	-	0.8	-	-	-	57.6	39.6	2.8
	男性:29歳以下	29	-	-	-	-	-	-	-	-	3.4	-	-	82.8	13.8	3.4
	男性:30歳代	29	-	-	-	-	3.4	-	3.4	-	6.9	-	-	72.4	17.2	10.4
	男性:40歳代	45	-	4.4	-	2.2	6.7	-	2.2	-	4.4	-	-	82.2	8.9	8.9
	男性:50歳代	57	-	-	-	-	-	-	-	1.8	-	1.8	-	78.9	17.5	3.6
	男性:60歳代	113	0.9	0.9	0.9	0.9	-	-	-	0.9	-	-	-	70.8	26.5	2.7
男性:70歳以上	158	-	0.6	-	-	1.9	-	-	-	-	-	0.6	54.4	42.4	3.2	
無回答	22	9.1	13.6	9.1	4.5	4.5	-	4.5	4.5	-	-	-	40.9	45.5	13.6	
		標本数	(B)地域活動の場で													経験がある
			性的な関係を強要された	からだに触れられた	食事などにしつこく誘われた	卑猥な言葉をかけられた	言葉や冗談を言われた	身体に関して不愉快になる	誌を見せられた	アダルトサイトやポルノ雑	性的なうわさを流された	トを強要された	宴会などでお酌やデュエツ	結婚や妊娠の予定について	性的要求を拒否したら、嫌	
全体		1,096 100.0	3 0.3	5 0.5	3 0.3	10 0.9	16 1.5	1 0.1	3 0.3	6 0.5	12 1.1	2 0.2	1 0.1	777 70.9	285 26.0	3.1
年齢別	女性:29歳以下	32	-	-	-	-	-	-	-	-	9.4	-	-	78.1	12.5	9.4
	女性:30歳代	57	-	1.8	1.8	3.5	3.5	-	-	-	3.5	-	-	77.2	15.8	7.0
	女性:40歳代	74	-	1.4	-	-	2.7	-	-	-	1.4	-	-	82.4	12.2	5.4
	女性:50歳代	80	-	1.3	1.3	1.3	5.0	-	-	2.5	1.3	-	-	76.3	17.5	6.2
	女性:60歳代	155	0.6	-	-	1.9	1.9	-	-	1.3	-	-	-	78.1	18.7	3.2
	女性:70歳以上	245	0.4	0.4	-	-	0.8	-	0.4	0.4	-	-	-	62.9	35.1	2.0
	男性:29歳以下	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	86.2	13.8	-
	男性:30歳代	29	-	-	-	3.4	-	-	-	-	-	3.4	-	75.9	20.7	3.4
	男性:40歳代	45	-	-	-	2.2	2.2	-	2.2	-	4.4	2.2	-	80.0	15.6	4.4
	男性:50歳代	57	-	1.8	-	1.8	1.8	-	1.8	-	1.8	-	1.8	78.9	17.5	3.6
	男性:60歳代	113	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70.8	29.2	-
男性:70歳以上	158	0.6	-	-	-	-	-	-	0.6	-	-	-	60.1	38.6	1.3	
無回答	22	-	-	4.5	4.5	4.5	4.5	-	-	4.5	4.5	-	36.4	59.1	4.5	
		標本数	(C)学校に関わる場で													経験がある
			性的な関係を強要された	からだに触れられた	食事などにしつこく誘われた	卑猥な言葉をかけられた	言葉や冗談を言われた	身体に関して不愉快になる	誌を見せられた	アダルトサイトやポルノ雑	性的なうわさを流された	トを強要された	宴会などでお酌やデュエツ	結婚や妊娠の予定について	性的要求を拒否したら、嫌	
全体		1,096 100.0	2 0.2	2 0.2	1 0.1	2 0.2	7 0.6	-	-	1 0.1	1 0.1	-	-	743 67.8	341 31.1	1.1
年齢別	女性:29歳以下	32	-	3.1	-	3.1	6.3	-	-	-	-	-	-	75.0	15.6	9.4
	女性:30歳代	57	-	-	-	-	1.8	-	-	-	-	-	-	80.7	17.5	1.8
	女性:40歳代	74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	85.1	14.9	-
	女性:50歳代	80	-	-	-	-	1.3	-	-	-	-	-	-	75.0	23.8	1.2
	女性:60歳代	155	-	-	-	0.6	0.6	-	-	-	-	-	-	71.6	27.7	0.7
	女性:70歳以上	245	-	-	-	-	0.4	-	-	-	-	-	-	56.7	42.9	0.4
	男性:29歳以下	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	96.6	3.4	-
	男性:30歳代	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.9	24.1	-
	男性:40歳代	45	-	-	-	-	-	-	-	-	2.2	-	-	80.0	17.8	2.2
	男性:50歳代	57	1.8	-	1.8	-	-	-	-	1.8	-	-	-	77.2	21.1	1.7
	男性:60歳代	113	-	-	-	-	0.9	-	-	-	-	-	-	69.0	30.1	0.9
男性:70歳以上	158	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	53.2	46.8	-	
無回答	22	4.5	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36.4	54.5	9.1	

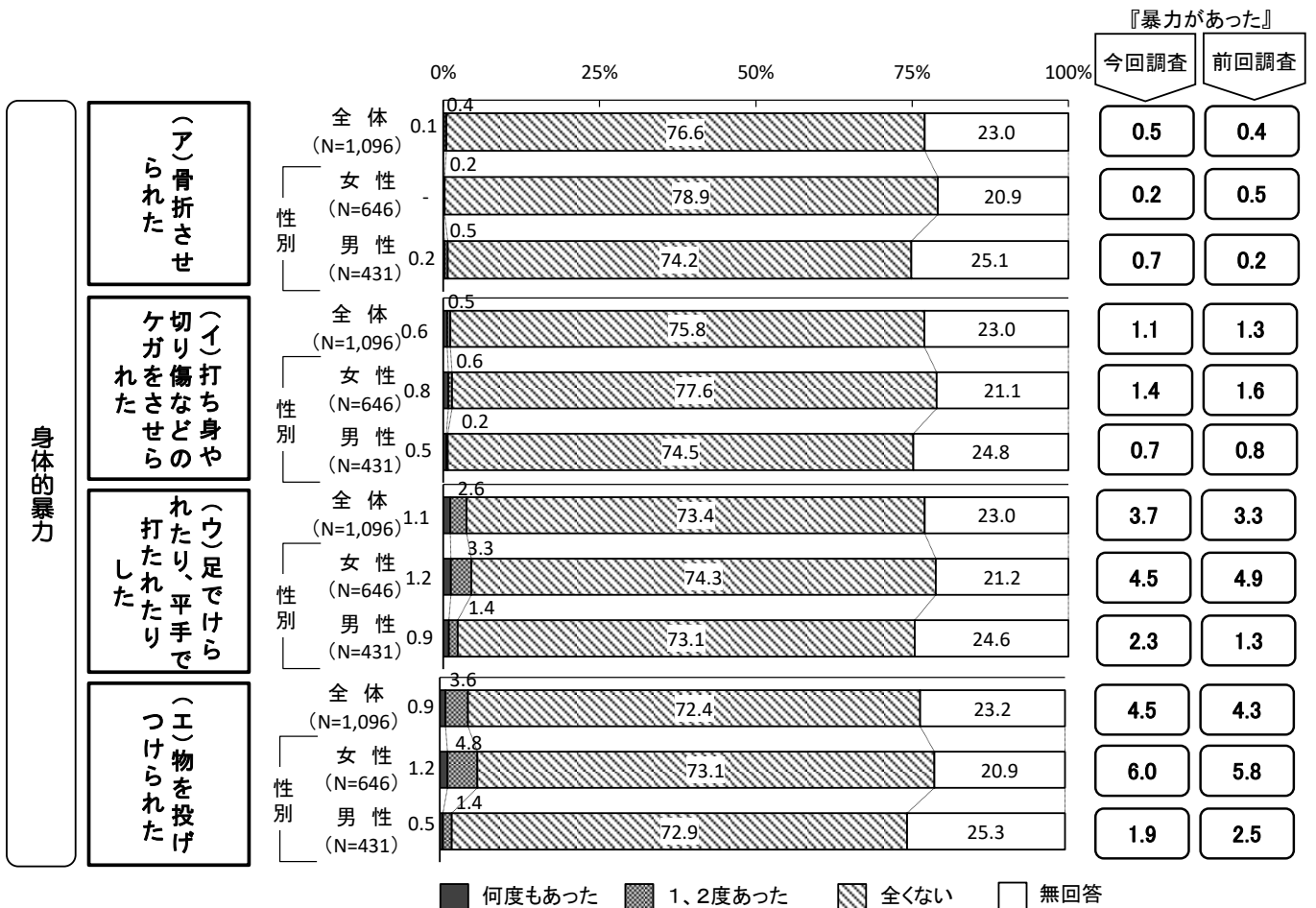
2. 暴力の経験

(1) 暴力の経験

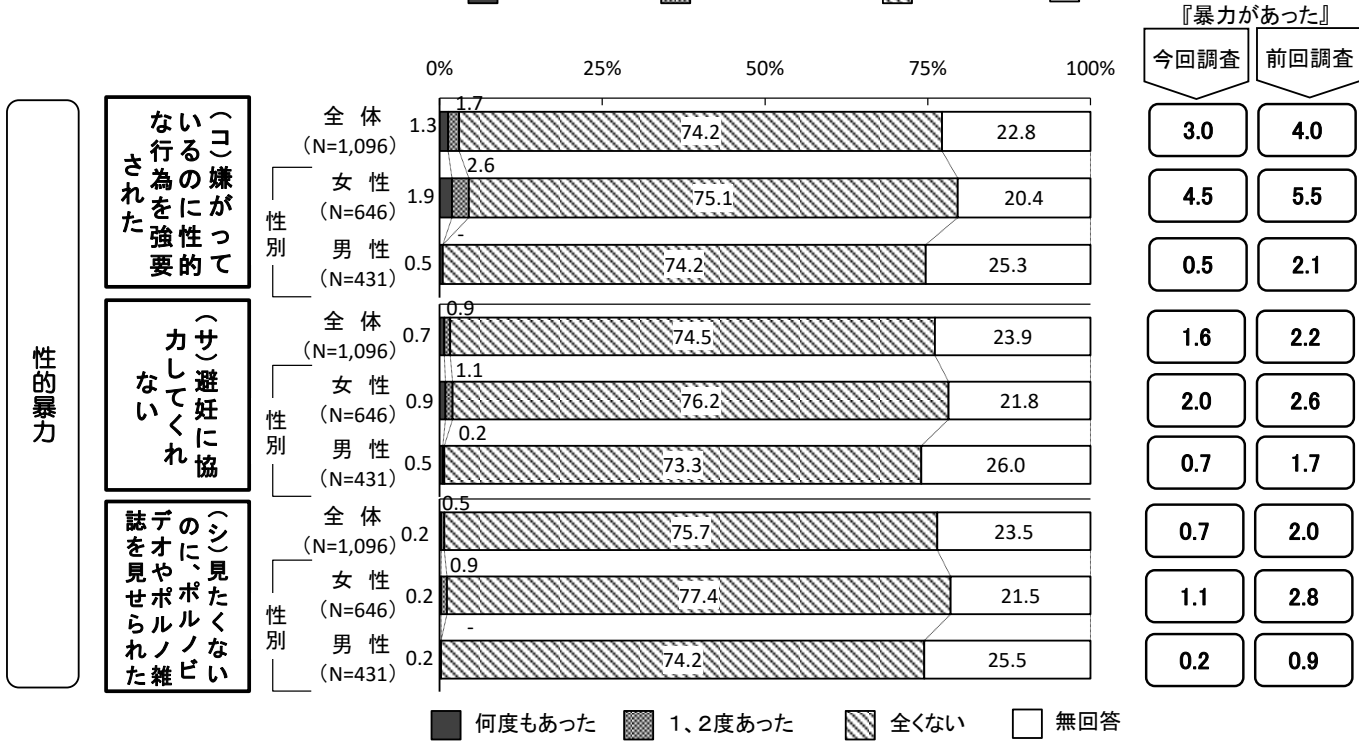
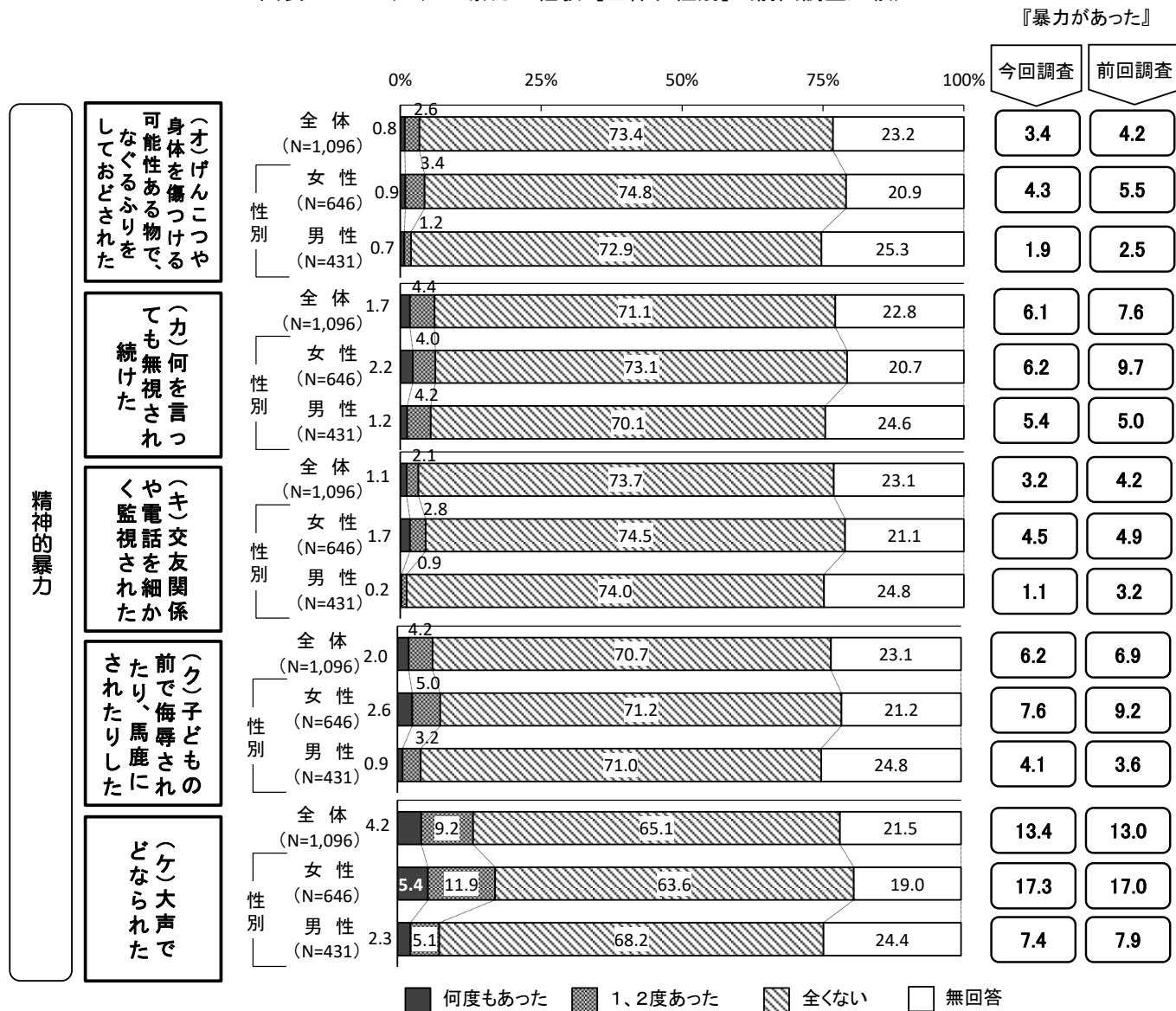
・ここ3年ぐらいに暴力を受けた人の割合は、『身体的暴力』9.8%、「精神的暴力」32.3%、  
『性的暴力』5.3%、『経済的暴力』7.2%。  
・14項目の暴力を一つでも受けたことがあると回答した人は、女性2割台半ば、男性1割強。

問16 【配偶者や交際相手が現在いる方、これまで配偶者や交際相手がいた方におたずねします】あなたは、ここ3年ぐらいの間にあなたの配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含みます）や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（ア）～（セ）のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。（○印は1つずつ）

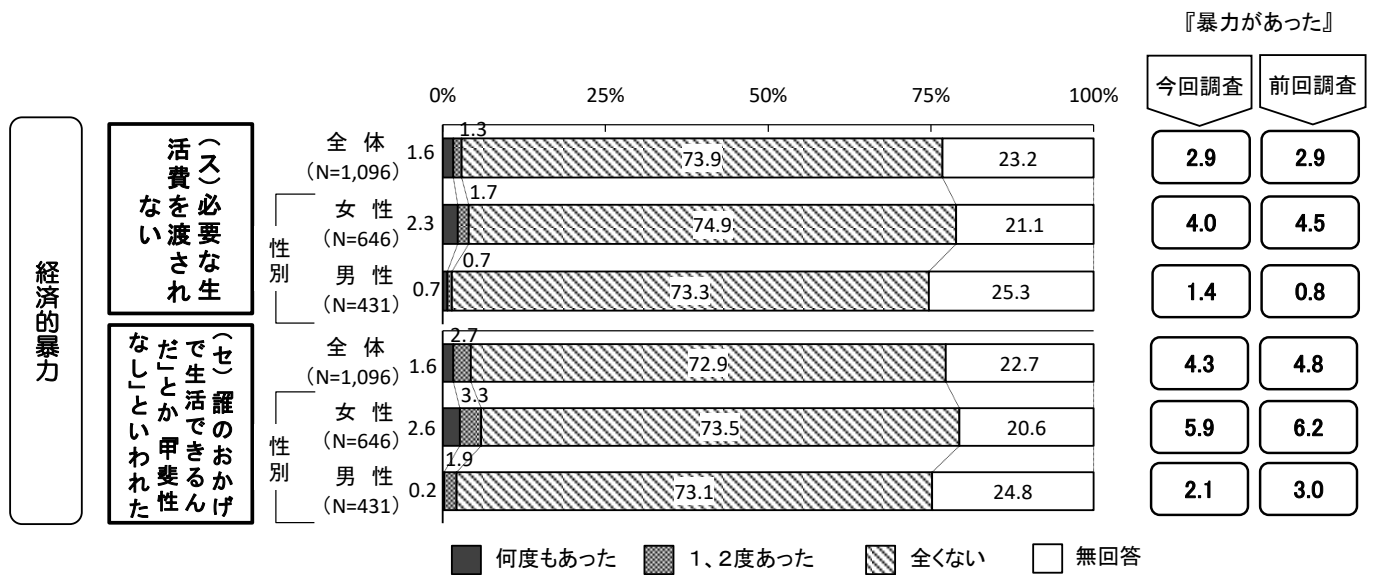
図表5-3 (1) 暴力の経験 [全体、性別] (前回調査比較)



図表5-3 (2) 暴力の経験 [全体、性別] (前回調査比較)



図表5-3 (3) 暴力の経験 [全体、性別] (前回調査比較)



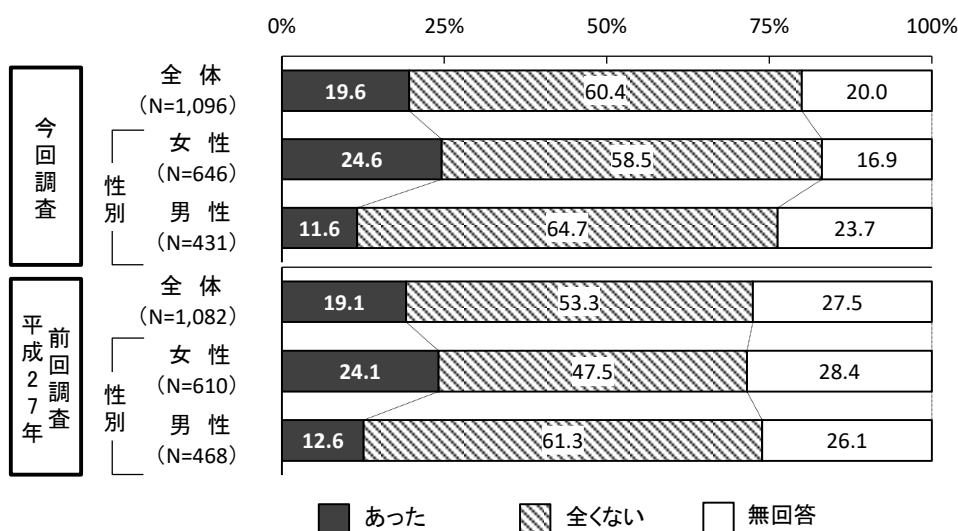
ここ3年ぐらいに配偶者や交際相手から身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力である14項目の暴力があったかどうかたずねた。

「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせた『暴力があった』人の割合をみると、「骨折させられた」(0.5%)や「打ち身や切り傷などのケガをさせられた」(1.1%)、「足でけられたり、平手で打たれたりした」(3.7%)、「物を投げつけられた」(4.5%)などの『身体的暴力』が9.8%、「げんこつや身体を傷つける可能性のある物で、なぐるふりをしておどされた」(3.4%)や「何を言っても無視され続けた」(6.1%)、「交友関係や電話を細かく監視された」(3.2%)、「子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」(6.2%)、「大声でどなられた」(13.4%)などの『精神的暴力』が32.3%、「嫌がっているのに性的な行為を強要された」(3.0%)や「避妊に協力してくれない」(1.6%)、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた」(0.7%)などの『性的暴力』が5.3%、「必要な生活費を渡されない」(2.9%)、「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」といわれた」(4.3%)などの『経済的暴力』が7.2%となっていた。

性別でみると、「骨折させられた」以外の暴力で『暴力があった』とする割合は女性の方が男性よりも高く、『身体的暴力』は女性が12.1%、男性が5.6%と6.5ポイント高い。また『精神的暴力』は女性39.9%、男性19.9%、『性的暴力』は女性7.6%、男性1.4%、『経済的暴力』は女性9.9%、男性3.5%といずれの暴力も女性の方が約6~20ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、前回調査では『身体的暴力』が9.3%、『精神的暴力』が36.0%、『性的暴力』が8.2%、『経済的暴力』が7.7%となっており、『精神的暴力』は3.7ポイント、『性的暴力』が2.9ポイント減り、『身体的暴力』と『経済的暴力』は前回調査と同程度となっている。

図表5-4 【まとめ】暴力の経験〔全体、性別〕（前回調査比較）



14項目の暴力について、「何度もあった」と「1、2度あった」のいずれかに一つでも回答した人は全体で19.6%、女性は24.6%、男性は11.6%となっており、嘉麻市においても少なくない数の人が配偶者、交際相手からの暴力を経験していることがわかる。

前回調査と比べると、「何度もあった」と「1、2度あった」のいずれかに一つでも回答した人の割合は男女ともあまり大きな差はみられない。女性の「無回答」が今回調査で11.5ポイント減り、「全くない」と回答した女性が11ポイント増えている。

年齢別でみると、女性の30歳以上で「あった」の割合2割を超え、50歳代では27.5%と最も高い。男性は40歳代で26.7%と唯一2割を超えている。

既未婚別でみると、男女とも既婚で暴力の経験が高く、女性では27.7%となっている。

図表5-5 【まとめ】暴力の経験〔全体、年齢別、既未婚別〕

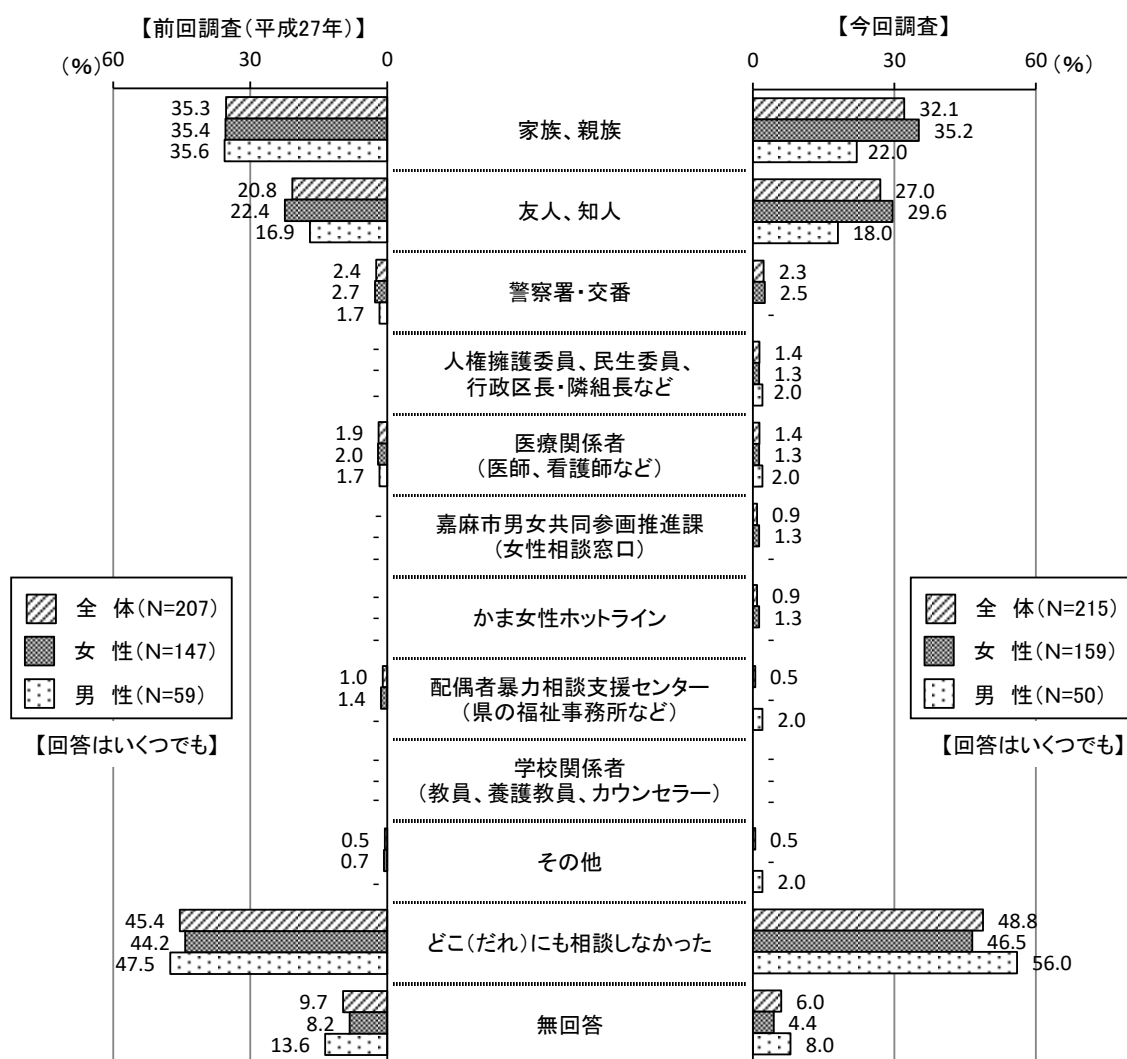
		標本数	あった (%)	全くない (%)	無回答 (%)
全体		1,096	215	662	219
		100.0	19.6	60.4	20.0
年齢別	女性:29歳以下	32	18.8	81.3	-
	女性:30歳代	57	22.8	68.4	8.8
	女性:40歳代	74	25.7	66.2	8.1
	女性:50歳代	80	27.5	62.5	10.0
	女性:60歳代	155	23.2	63.9	12.9
	女性:70歳以上	245	24.9	46.9	28.2
	男性:29歳以下	29	6.9	55.2	37.9
	男性:30歳代	29	3.4	86.2	10.3
	男性:40歳代	45	26.7	60.0	13.3
	男性:50歳代	57	12.3	61.4	26.3
	男性:60歳代	113	9.7	70.8	19.5
	男性:70歳以上	158	10.8	60.8	28.5
無回答		22	36.4	22.7	40.9
既未婚別	女性:既婚	408	27.7	63.5	8.8
	女性:離・死別	143	21.0	44.8	34.3
	女性:未婚	75	16.0	61.3	22.7
	男性:既婚	273	12.1	74.4	13.6
	男性:離・死別	51	11.8	52.9	35.3
	男性:未婚	94	10.6	46.8	42.6
無回答		52	21.2	36.5	42.3

(2) 相談の有無

暴力を受けたことについての相談は「どこ(だれ)にも相談しなかった」が約5割。相談先は「家族、親族」が3割強、「友人・知人」が約3割と身近な人への相談が主である。

問16付問1 [問16のいずれかで「1.何度もあった」または「2.1、2度あった」と答えた方に] あなたはこれまでに、問16であげたような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○印はいくつでも)

図表5-6 相談の有無 [全体、性別] (前回調査比較)



ここ3年間の間に配偶者、恋人からの暴力を経験した人に、そのことについて誰かに打ち明けたり、相談したりしたかたずねたところ、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は48.8%と約5割の人は自分が受けた暴力について相談していなかった。相談先としては「家族、親族」が32.1%と最も高く、次いで「友人、知人」が27.0%となっているが、その他の「警察署・交番」や「人権擁護委員、民生委員、行政区長・隣組長など」「医療関係者」「嘉麻市男女共同参画推進課(女性相談窓口)」「かま女性ホットライン」の利用は1%から2%程度にとどまっている。「学校関係者」への相談はみられなかった。

性別で見ると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性が56.0%で女性(46.5%)よりも9.5ポイント高く、男性の暴力経験者のうち半数以上の人はどこ（だれ）にも相談していない。女性は「家族」(女性35.2%、男性22.0%)と「友人、知人」(同29.6%、18.0%)への相談が男性よりも13ポイント前後高く、また割合はわずかではあるが「警察署・交番」「嘉麻市男女共同参画推進課(女性相談窓口)」「かま女性ホットライン」など公的機関の利用もみられる。

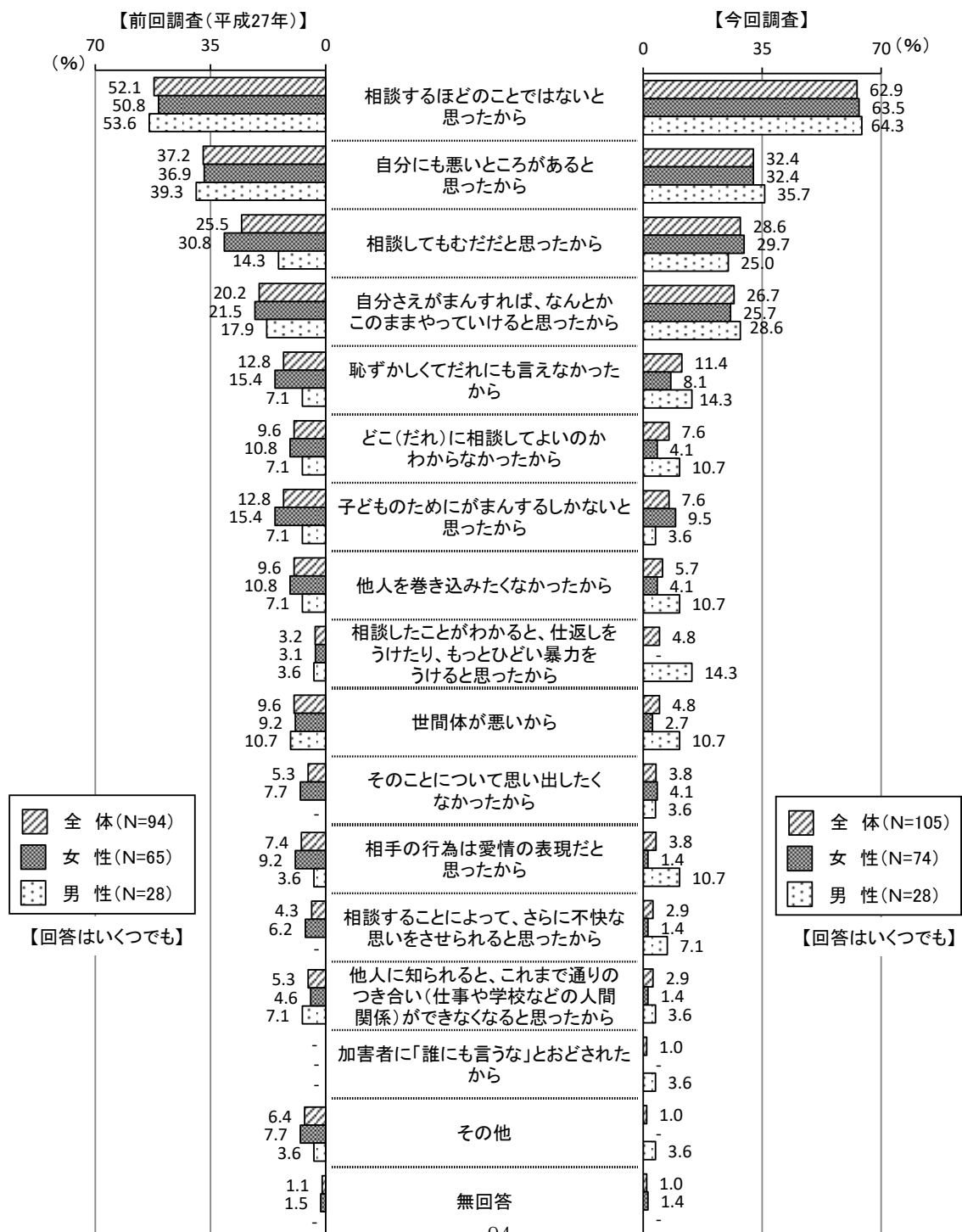
前回調査と比べると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男女とも約2～9ポイント増えている。相談先では女性は「友人、知人」への相談が7.2ポイント増え、男性は「家族、親族」への相談が13.6ポイント減っている。また前回調査では公的機関への相談がみられない場合もあったが、今回調査では割合はわずかであるがみられた。

(3) 相談しなかった理由

相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が6割強、「自分にも悪いところがあると思ったから」が3割強、「相談してもむだだと思ったから」が3割弱、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が2割台半ば。

問16付問1 [問16付問1で「11.どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方に]  
あなたがどこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。(○印はいくつでも)

図表5-7 相談しなかった理由 [全体、性別] (前回調査比較)





自分が受けた暴力の被害について「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した人に対して、その理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が62.9%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が32.4%、「相談してもむだだと思ったから」が28.6%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が26.7%であげられている。

性別で見ると、女性は「相談してもむだだと思ったから」（女性29.7%、男性25.0%）を4.7ポイント、「子どものために我慢するしかないと思ったから」（同9.5%、3.6%）が5.9ポイント上回っている。

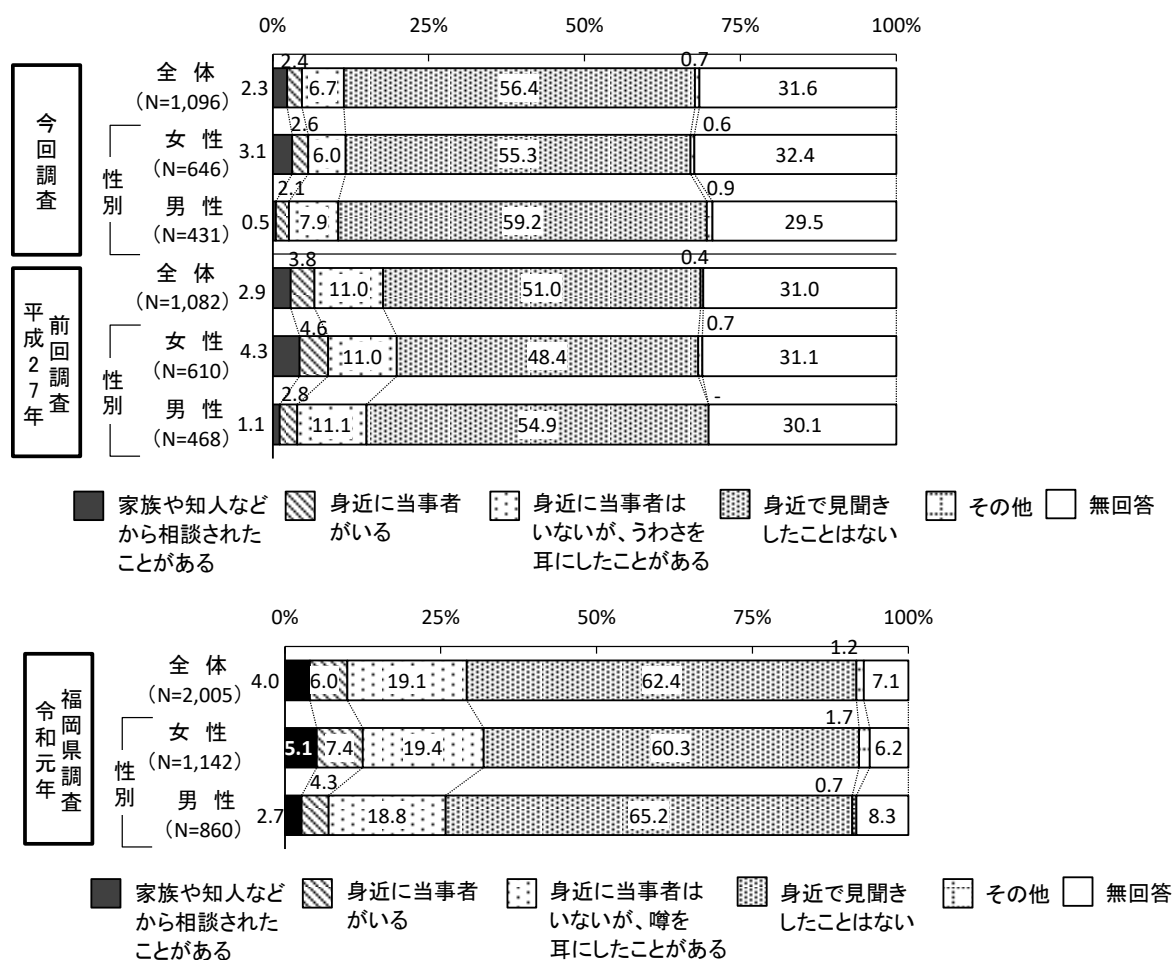
前回調査と比べると、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が約11～13ポイント、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が約4～11ポイント増えている。

3. 身近で見聞きした暴力の有無

うわさ程度でも暴力を見聞きした人は全体の1割強。男女とも比較的年齢が低い層で見聞きする割合が高くなっている。

問17 配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含みます）や交際相手からの暴力について、身近で見聞きしたことがありますか。（○印は1つ）

図表5-8 身近で見聞きした暴力の有無〔全体、性別〕（前回・福岡県調査比較）



配偶者や交際相手からの暴力の見聞きについては「身近で見聞きしたことはない」が 56.4%、「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」が 6.7%、「身近に当事者がいる」が 2.4%、「家族や知人などから相談されたことがある」が 2.3%となっており、うわさ程度でも暴力の見聞きがある人は全体の1割強となっている。

性別でみると、女性は「家族や知人などから相談されたことがある」(3.1%)の割合が男性(0.5%)よりもやや高い。

前回調査と比べると、男女とも「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」の割合は約3～5ポイント減少している。また、女性で「家族や知人などから相談されたことがある」や「身近に当事者がいる」などもやや減少している。

福岡県調査と比べると、今回調査では無回答の割合が多いため単純な比較はできないが、男女とも今回調査の方が「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」が約11～13ポイント、「身近に当事者がいる」が約2～5ポイント低い。

年齢別でみると、男女の29歳以下と男性の40歳代で「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」が1割台、女性の30歳代で「身近に当事者がいる」が12.3%と比較的年齢の低い層での割合が高くなっている。

図表5-9 身近で見聞きした暴力の有無 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	家族や知人などがあ る相談されたこと が	身近に当事者が いる	身近に当事者 がいないが、 うわさを耳に したことがある	身近で見聞き したことが ない	その他	無 回 答
全 体		1,096 100.0	25 2.3	26 2.4	73 6.7	618 56.4	8 0.7	346 31.6
年 齢 別	女性:29歳以下	32	3.1	-	12.5	71.9	-	12.5
	女性:30歳代	57	5.3	12.3	7.0	57.9	-	17.5
	女性:40歳代	74	2.7	-	6.8	75.7	-	14.9
	女性:50歳代	80	6.3	5.0	8.8	57.5	-	22.5
	女性:60歳代	155	2.6	3.9	5.8	55.5	0.6	31.6
	女性:70歳以上	245	2.0	-	4.1	45.3	1.2	47.3
	男性:29歳以下	29	3.4	-	13.8	51.7	-	31.0
	男性:30歳代	29	-	-	3.4	75.9	-	20.7
	男性:40歳代	45	-	-	17.8	71.1	2.2	8.9
	男性:50歳代	57	-	8.8	7.0	57.9	-	26.3
男性:60歳代	113	-	1.8	9.7	64.6	-	23.9	
男性:70歳以上	158	0.6	1.3	3.8	50.6	1.9	41.8	
無回答		22	13.6	-	-	36.4	-	50.0

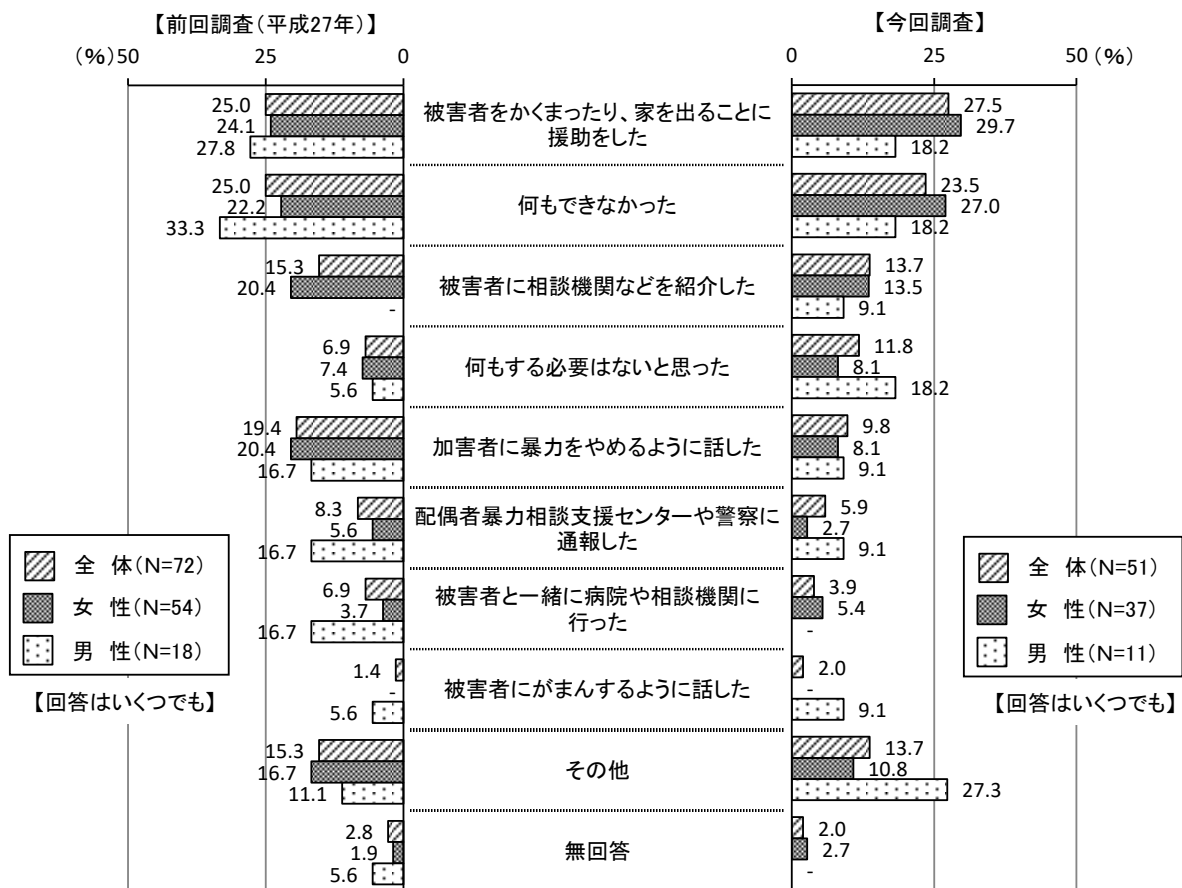
4. 身近で見聞きした暴力への対処

身近で見聞きした暴力の対処の第1位は、「被害者をかくまったり、家を出ることを援助した」が約3割、次いで「何もできなかった」が2割台半ば。

問17付問1 [問17で「1.家族や知人などから相談されたことがある」または「2.身近に当事者がいる」と答えた方に]

あなたは、そのことを知ってどうしましたか。(〇印はいくつでも)

図表5-10 身近で見聞きした暴力の対処 [全体、性別] (前回調査比較)



暴力について相談されたことがある人や身近に当事者がいると回答した人に対して、どのような行動をとったかたずねた。「被害者をかくまったり、家を出ることに援助をした」が27.5%、「何もできなかった」が23.5%、「被害者に相談機関などを紹介した」が13.7%、「何もする必要はないと思った」が11.8%となっている。

性別で見ると、女性は「何もできなかった」（女性 27.0%、男性 18.2%）が 8.8 ポイント高いものの、「被害者をかかまったり、家を出ることに援助をした」（同 29.7%、18.2%）、「被害者に相談機関などを紹介した」（同 13.5%、9.1%）、「被害者と一緒に病院や相談機関に行った」（同 5.4%、0%）などが男性よりも約 4～12 ポイント高くなっている。男性は「何もする必要はないと思った」（同 8.1%、18.2%）、「配偶者暴力相談支援センターや警察に通報した」（同 2.7%、9.1%）、「被害者ががまんするように話した」（同 0%、9.1%）が約 6～10 ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、女性では「被害者をかかまったり、家を出ることに援助をした」が 5.6 ポイント高く、また「何もできなかった」が 4.8 ポイント高くなっている。男性では「何もする必要はないと思った」が 12.6 ポイント高く、また「被害者に相談機関などを紹介した」が 9.1 ポイント、「被害者ががまんするように話した」が 3.5 ポイント高くなっている。一方、男女とも「加害者に暴力をやめるように話した」の割合が前回調査よりも約 8～12 ポイント低くなっている。



## 第6章 男女共同参画社会の実現について

---

1. 男女共同参画に関する法令・制度等の認知
2. 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと
3. 「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れること





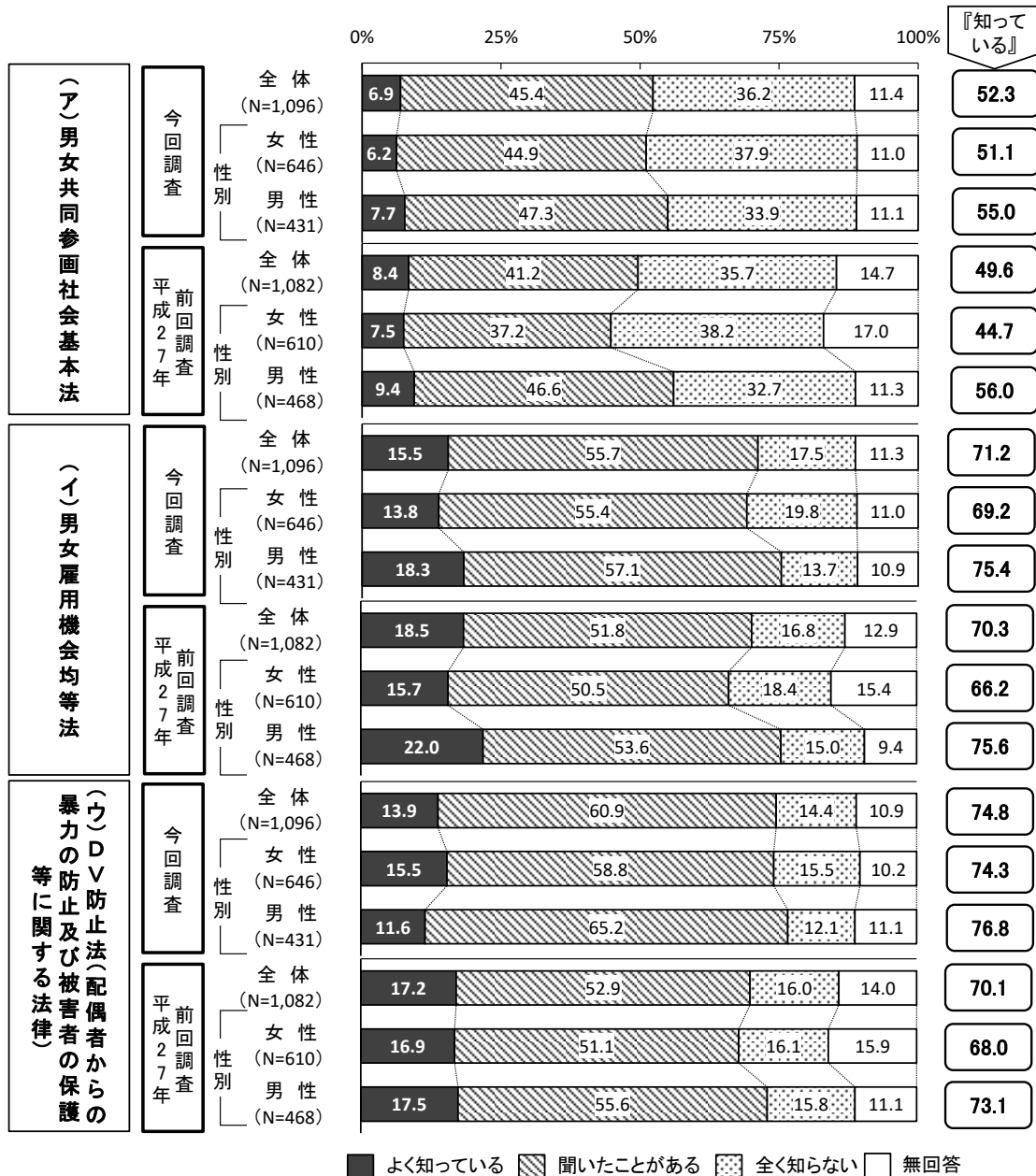
## 第6章 男女共同参画社会の実現について

### 1. 男女共同参画に関する法令・制度等の認知

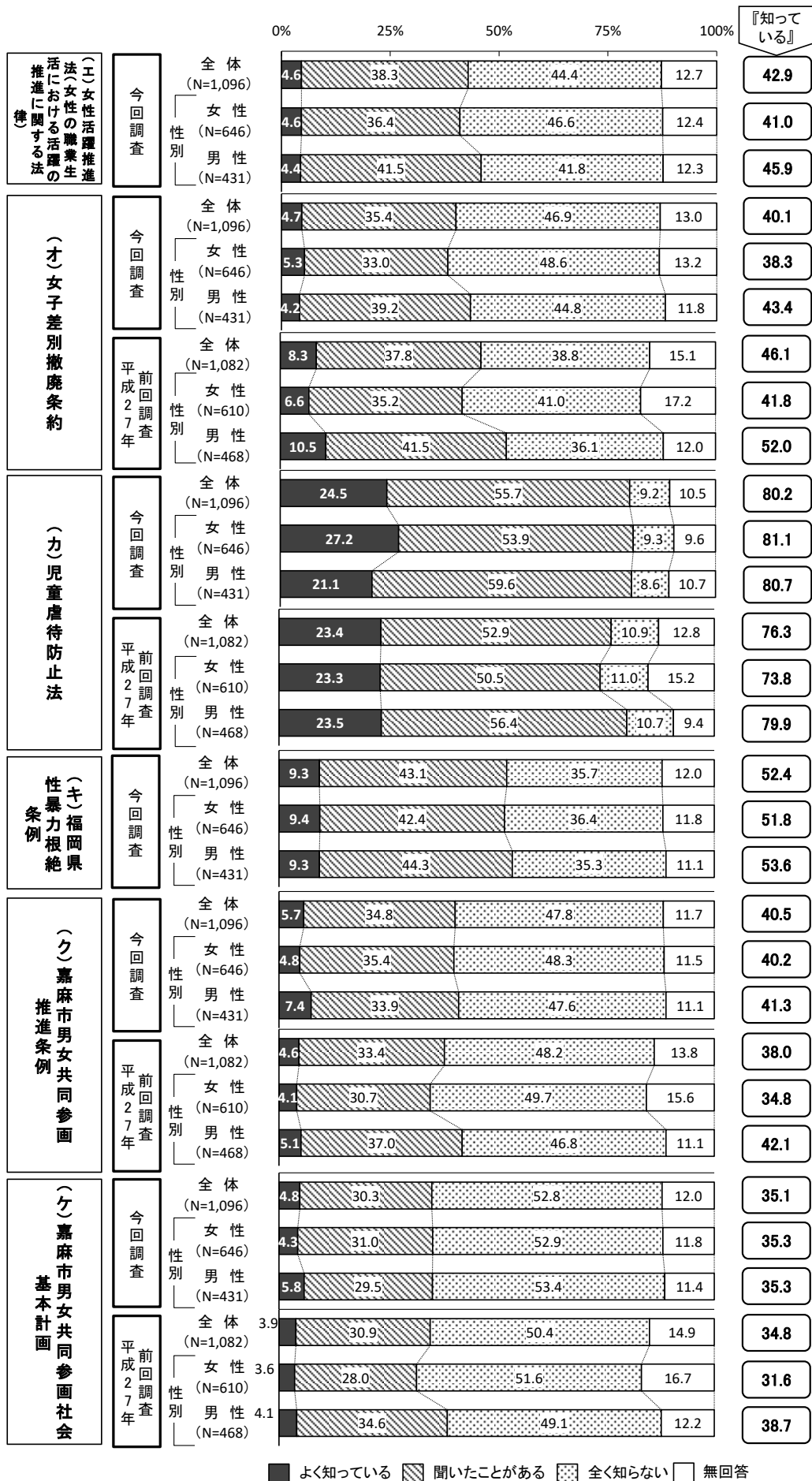
- ・男女共同参画に関する法令・制度の認知度は「児童虐待防止法」(80.2%)、「DV防止法」(74.8%)、「男女雇用機会均等法」(71.2%)などが7割を超えている。
- ・前回調査より認知があがっているものが多く、特に「ジェンダー」「LGBTQ」は男女とも約17～27ポイント増加。

問18 次の(ア)～(セ)のことがらで、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。(ア)～(セ)のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。  
(○印はそれぞれ1つずつ)

図表6-1(1) 男女共同参画に関する法令・制度の認知 [全体、性別] (前回調査比較)

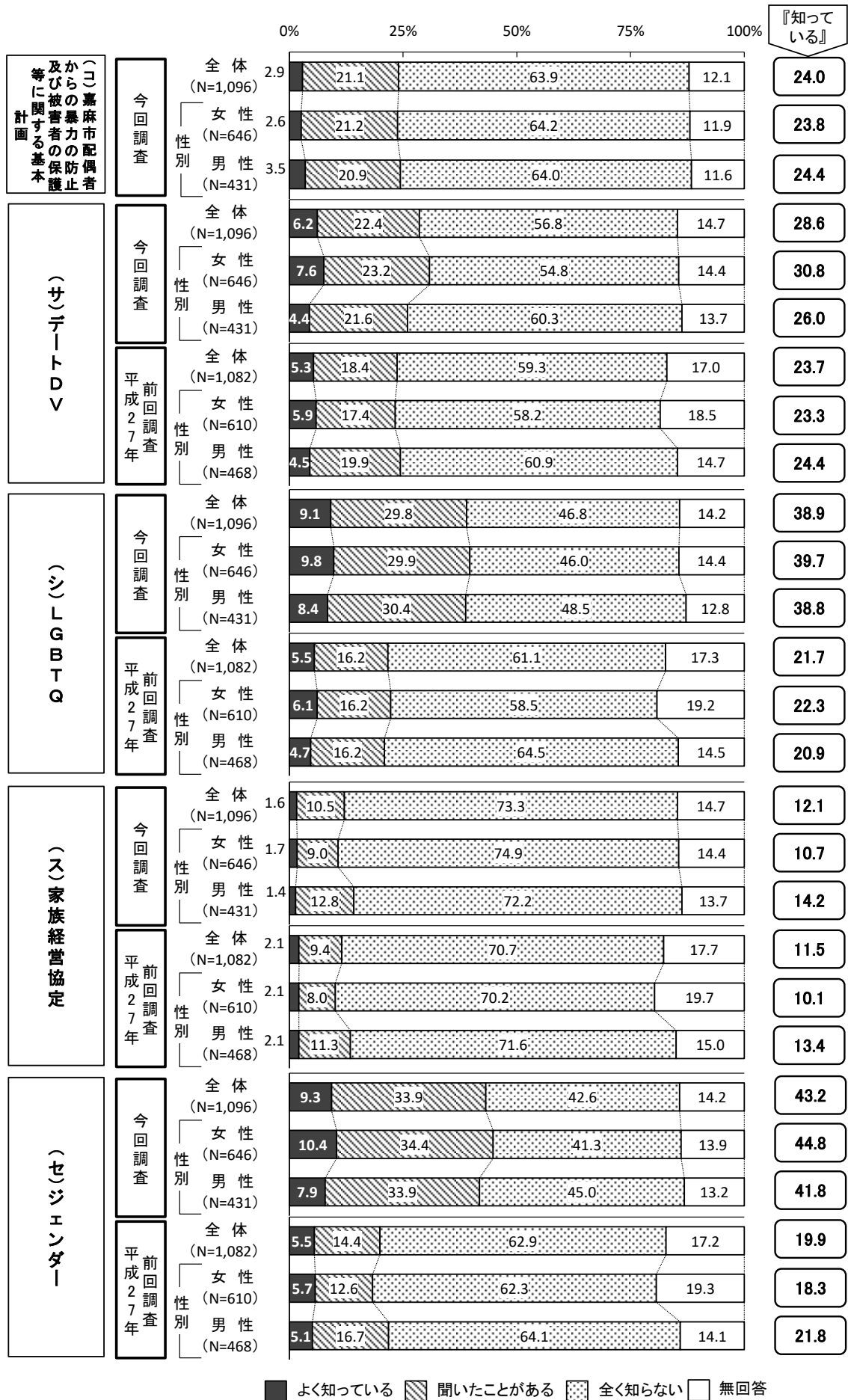


図表6-1(2) 男女共同参画に関する法令・制度の認知〔全体、性別〕(前回調査比較)



■ よく知っている    ▨ 聞いたことがある    ▤ 全く知らない    □ 無回答

図表6-1(3) 男女共同参画に関する法令・制度の認知〔全体、性別〕(前回調査比較)



■ よく知っている    ▨ 聞いたことがある    ▤ 全く知らない    □ 無回答

## II 調査結果

男女共同参画に関する法令や制度、言葉についての認知をたずねた。「よく知っている」「聞いたことがある」を合計した認知度が高いのは「児童虐待防止法」(80.2%)、「DV防止法」(74.8%)、「男女雇用機会均等法」(71.2%)などが7割を超え、「福岡県性暴力根絶条例」(52.4)と「男女共同参画社会基本法」(52.3%)が5割を超えている。「ジェンダー」(43.2%)、「女性活躍推進法」(42.9%)、「嘉麻市男女共同参画推進条例」(40.5%)、「女子差別撤廃条約」(40.1%)、「LGBTQ」(38.9%)などは4割前後の認知となっている。

性別でみると、「デートDV」(女性30.8%、男性26.0%)や「ジェンダー」(同44.8%、41.8%)などの認知は女性の方が高くなっている。「児童虐待防止法」(同81.1%、80.7%)や「嘉麻市男女共同参画推進条例」(同40.2%、41.3%)、「嘉麻市男女共同参画社会基本計画」(同35.3%、35.3%)、「嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」(同23.8%、24.4%)などは男女同程度の認知となっている。「男女共同参画社会基本法」(同51.1%、55.0%)や「男女雇用機会均等法」(同69.2%、75.4%)、「女性活躍推進法」(同41.0%、45.9%)、「女子差別撤廃条約」(同38.3%、43.4%)、「福岡県性暴力根絶条例」(同51.8%、53.6%)、「家族経営協定」(同10.7%、14.2%)などは男性の認知が高くなっている。

前回調査と比べると、「女子差別撤廃条約」の認知が男女とも約4～9ポイント減っているが、その他については同程度か認知が高くなっている。特に「ジェンダー」は男女とも20ポイント以上、「LGBTQ」は約17ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「男女共同参画社会基本法」「福岡県性暴力根絶条例」「デートDV」「LGBTQ」などは女性の29歳以下の認知が高く、「男女雇用機会均等法」「DV防止法」「児童虐待防止法」などは男女の40歳代での認知が高い。また、「ジェンダー」は女性の29歳以下と40歳代で7割強と認知が高い。「嘉麻市男女共同参画推進条例」「嘉麻市男女共同参画社会基本計画」「嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画」などは男女とも年齢の高い層での認知が高い傾向がみられる。「女性活躍推進法」は男性の40歳代から60歳代で5割前後、「女子差別撤廃条約」は男性の30歳代で51.7%と他の年代に比べて高くなっている。

図表6-2(1) 男女共同参画に関する法令・制度の認知〔全体、年齢別〕

(%)

		標本数	(ア)男女共同参画社会基本法					(イ)男女雇用機会均等法					(ウ)DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)				
			いよく知	が聞いたこと	い全く知ら	無回答	る『知』	いよく知	が聞いたこと	い全く知ら	無回答	る『知』	いよく知	が聞いたこと	い全く知ら	無回答	る『知』
全体		1,096 100.0	76 6.9	498 45.4	397 36.2	125 11.4	<b>574</b> <b>52.3</b>	170 15.5	610 55.7	192 17.5	124 11.3	<b>780</b> <b>71.2</b>	152 13.9	667 60.9	158 14.4	119 10.9	<b>819</b> <b>74.8</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	15.6	46.9	37.5	-	<b>62.5</b>	21.9	43.8	34.4	-	<b>65.7</b>	21.9	46.9	31.3	-	<b>68.8</b>
	女性:30歳代	57	3.5	47.4	45.6	3.5	<b>50.9</b>	10.5	66.7	19.3	3.5	<b>77.2</b>	10.5	63.2	22.8	3.5	<b>73.7</b>
	女性:40歳代	74	2.7	47.3	48.6	1.4	<b>50.0</b>	17.6	64.9	14.9	2.7	<b>82.5</b>	10.8	79.7	9.5	-	<b>90.5</b>
	女性:50歳代	80	8.8	48.8	38.8	3.8	<b>57.6</b>	18.8	61.3	16.3	3.8	<b>80.1</b>	22.5	63.8	10.0	3.8	<b>86.3</b>
	女性:60歳代	155	4.5	47.7	41.3	6.5	<b>52.2</b>	12.3	57.4	23.9	6.5	<b>69.7</b>	20.6	60.6	14.8	3.9	<b>81.2</b>
	女性:70歳以上	245	6.5	40.0	31.0	22.4	<b>46.5</b>	11.4	48.2	18.4	22.0	<b>59.6</b>	11.8	50.6	15.5	22.0	<b>62.4</b>
	男性:29歳以下	29	6.9	44.8	37.9	10.3	<b>51.7</b>	10.3	58.6	20.7	10.3	<b>68.9</b>	6.9	58.6	24.1	10.3	<b>65.5</b>
	男性:30歳代	29	10.3	41.4	41.4	6.9	<b>51.7</b>	20.7	55.2	17.2	6.9	<b>75.9</b>	13.8	65.5	13.8	6.9	<b>79.3</b>
	男性:40歳代	45	2.2	42.2	55.6	-	<b>44.4</b>	17.8	71.1	11.1	-	<b>88.9</b>	13.3	77.8	8.9	-	<b>91.1</b>
	男性:50歳代	57	5.3	54.4	33.3	7.0	<b>59.7</b>	14.0	63.2	17.5	5.3	<b>77.2</b>	3.5	71.9	19.3	5.3	<b>75.4</b>
	男性:60歳代	113	8.8	49.6	30.1	11.5	<b>58.4</b>	23.9	54.0	13.3	8.8	<b>77.9</b>	14.2	69.9	6.2	9.7	<b>84.1</b>
	男性:70歳以上	158	8.9	46.2	28.5	16.5	<b>55.1</b>	17.1	53.2	11.4	18.4	<b>70.3</b>	12.7	57.0	12.0	18.4	<b>69.7</b>
	無回答	22	18.2	27.3	27.3	27.3	<b>45.5</b>	13.6	36.4	22.7	27.3	<b>50.0</b>	9.1	31.8	31.8	27.3	<b>40.9</b>
			標本数	(エ)女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)					(オ)女子差別撤廃条約					(カ)児童虐待防止法			
		いよく知		が聞いたこと	い全く知ら	無回答	る『知』	いよく知	が聞いたこと	い全く知ら	無回答	る『知』	いよく知	が聞いたこと	い全く知ら	無回答	る『知』
全体		1,096 100.0	50 4.6	420 38.3	487 44.4	139 12.7	<b>470</b> <b>42.9</b>	52 4.7	388 35.4	514 46.9	142 13.0	<b>440</b> <b>40.1</b>	269 24.5	611 55.7	101 9.2	115 10.5	<b>880</b> <b>80.2</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	12.5	34.4	53.1	-	<b>46.9</b>	9.4	28.1	62.5	-	<b>37.5</b>	34.4	50.0	15.6	-	<b>84.4</b>
	女性:30歳代	57	5.3	38.6	50.9	5.3	<b>43.9</b>	5.3	40.4	49.1	5.3	<b>45.7</b>	24.6	63.2	8.8	3.5	<b>87.8</b>
	女性:40歳代	74	1.4	45.9	50.0	2.7	<b>47.3</b>	2.7	28.4	66.2	2.7	<b>31.1</b>	29.7	64.9	5.4	-	<b>94.6</b>
	女性:50歳代	80	7.5	36.3	51.3	5.0	<b>43.8</b>	5.0	28.8	60.0	6.3	<b>33.8</b>	32.5	56.3	8.8	2.5	<b>88.8</b>
	女性:60歳代	155	2.6	38.1	53.5	5.8	<b>40.7</b>	5.2	36.8	52.3	5.8	<b>42.0</b>	29.0	58.7	8.4	3.9	<b>87.7</b>
	女性:70歳以上	245	4.9	31.8	38.4	24.9	<b>36.7</b>	5.7	31.8	35.9	26.5	<b>37.5</b>	23.3	44.9	10.6	21.2	<b>68.2</b>
	男性:29歳以下	29	3.4	24.1	62.1	10.3	<b>27.5</b>	3.4	34.5	51.7	10.3	<b>37.9</b>	20.7	51.7	17.2	10.3	<b>72.4</b>
	男性:30歳代	29	6.9	37.9	48.3	6.9	<b>44.8</b>	6.9	44.8	37.9	10.3	<b>51.7</b>	24.1	55.2	13.8	6.9	<b>79.3</b>
	男性:40歳代	45	4.4	46.7	48.9	-	<b>51.1</b>	6.7	37.8	55.6	-	<b>44.5</b>	26.7	64.4	8.9	-	<b>91.1</b>
	男性:50歳代	57	3.5	45.6	43.9	7.0	<b>49.1</b>	-	43.9	50.9	5.3	<b>43.9</b>	12.3	70.2	12.3	5.3	<b>82.5</b>
	男性:60歳代	113	5.3	46.9	38.1	9.7	<b>52.2</b>	4.4	42.5	43.4	9.7	<b>46.9</b>	19.5	64.6	7.1	8.8	<b>84.1</b>
	男性:70歳以上	158	3.8	38.6	36.7	20.9	<b>42.4</b>	4.4	35.4	40.5	19.6	<b>39.8</b>	23.4	53.2	5.7	17.7	<b>76.6</b>
	無回答	22	4.5	36.4	27.3	31.8	<b>40.9</b>	-	36.4	31.8	31.8	<b>36.4</b>	13.6	36.4	18.2	31.8	<b>50.0</b>
			標本数	(キ)福岡県性暴力根絶条例					(ク)嘉麻市男女共同参画推進条例					(ケ)嘉麻市男女共同参画社会基本計画			
		てよく知		と聞いたこと	な全く知ら	無回答	る『知』	てよく知	と聞いたこと	な全く知ら	無回答	る『知』	てよく知	と聞いたこと	な全く知ら	無回答	る『知』
全体		1,096 100.0	102 9.3	472 43.1	391 35.7	131 12.0	<b>574</b> <b>52.4</b>	63 5.7	381 34.8	524 47.8	128 11.7	<b>444</b> <b>40.5</b>	53 4.8	332 30.3	579 52.8	132 12.0	<b>385</b> <b>35.1</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	15.6	46.9	37.5	-	<b>62.5</b>	3.1	15.6	81.3	-	<b>18.7</b>	3.1	21.9	75.0	-	<b>25.0</b>
	女性:30歳代	57	7.0	43.9	45.6	3.5	<b>50.9</b>	-	31.6	64.9	3.5	<b>31.6</b>	-	24.6	70.2	5.3	<b>24.6</b>
	女性:40歳代	74	8.1	43.2	45.9	2.7	<b>51.3</b>	2.7	28.4	66.2	2.7	<b>31.1</b>	4.1	24.3	67.6	4.1	<b>28.4</b>
	女性:50歳代	80	10.0	50.0	37.5	2.5	<b>60.0</b>	8.8	40.0	48.8	2.5	<b>48.8</b>	7.5	35.0	55.0	2.5	<b>42.5</b>
	女性:60歳代	155	12.3	46.5	34.8	6.5	<b>58.8</b>	4.5	43.2	46.5	5.8	<b>47.7</b>	4.5	32.9	56.1	6.5	<b>37.4</b>
	女性:70歳以上	245	7.8	36.3	31.8	24.1	<b>44.1</b>	5.3	34.3	36.3	24.1	<b>39.6</b>	4.1	32.7	39.6	23.7	<b>36.8</b>
	男性:29歳以下	29	3.4	31.0	55.2	10.3	<b>34.4</b>	3.4	13.8	72.4	10.3	<b>17.2</b>	3.4	10.3	75.9	10.3	<b>13.7</b>
	男性:30歳代	29	10.3	37.9	44.8	6.9	<b>48.2</b>	3.4	31.0	58.6	6.9	<b>34.4</b>	6.9	27.6	58.6	6.9	<b>34.5</b>
	男性:40歳代	45	6.7	42.2	51.1	-	<b>48.9</b>	8.9	22.2	68.9	-	<b>31.1</b>	6.7	20.0	73.3	-	<b>26.7</b>
	男性:50歳代	57	7.0	45.6	42.1	5.3	<b>52.6</b>	1.8	36.8	54.4	7.0	<b>38.6</b>	1.8	31.6	59.6	7.0	<b>33.4</b>
	男性:60歳代	113	9.7	46.0	34.5	9.7	<b>55.7</b>	7.1	34.5	48.7	9.7	<b>41.6</b>	7.1	29.2	54.9	8.8	<b>36.3</b>
	男性:70歳以上	158	11.4	46.8	23.4	18.4	<b>58.2</b>	10.8	39.9	31.6	17.7	<b>50.7</b>	6.3	35.4	39.2	19.0	<b>41.7</b>
	無回答	22	4.5	36.4	22.7	36.4	<b>40.9</b>	4.5	36.4	31.8	27.3	<b>40.9</b>	4.5	31.8	31.8	31.8	<b>36.3</b>

II 調査結果

図表6-2(2) 男女共同参画に関する法令・制度の認知 [全体、年齢別]

(%)

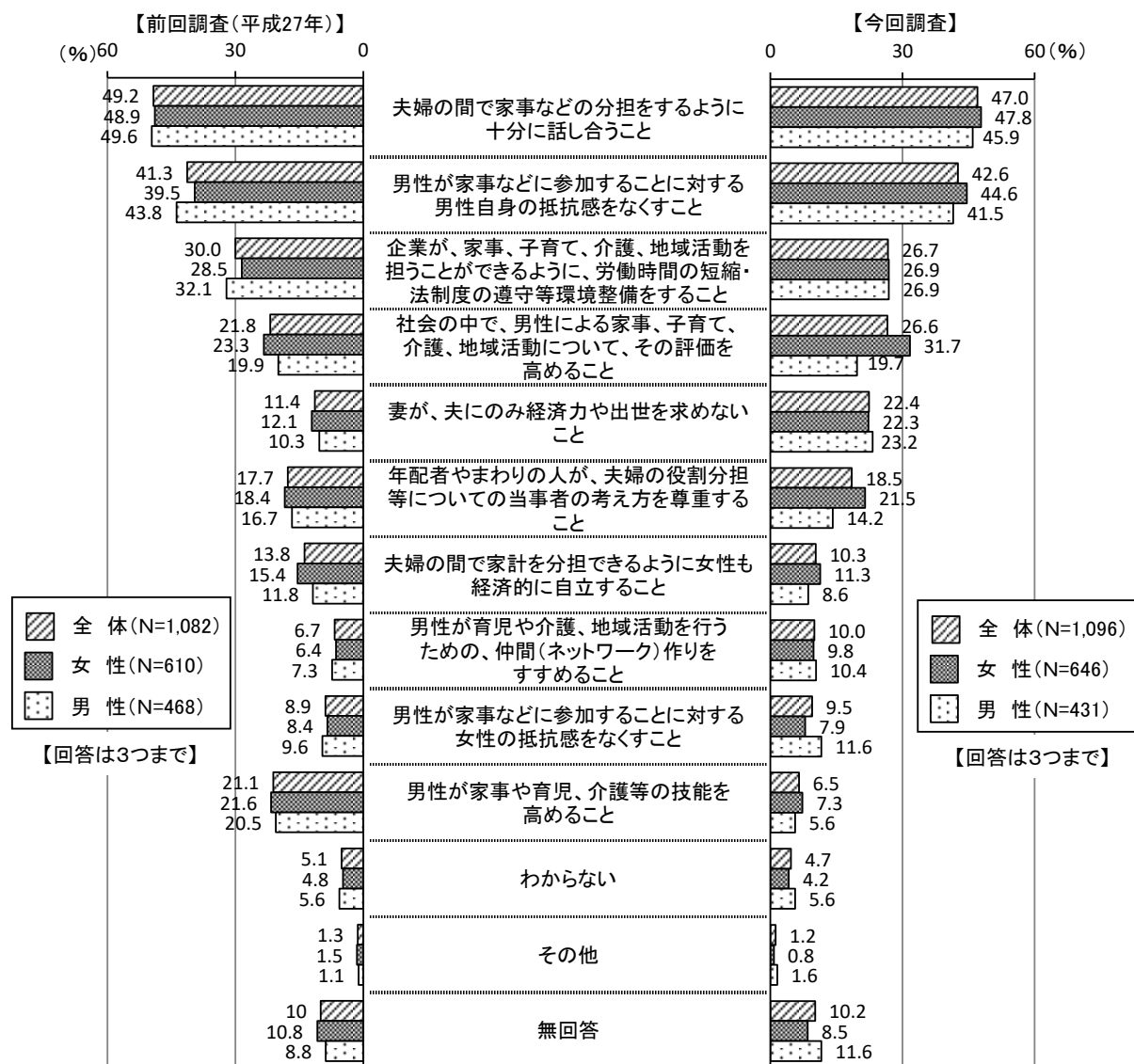
		標本数	(コ) 嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画					(サ) デートDV					(シ) LGBTQ				
			てよいくる知っ	と聞がいたるこ	な全いく知ら	無回答	いる知『って	てよいくる知っ	と聞がいたるこ	な全いく知ら	無回答	いる知『って	てよいくる知っ	と聞がいたるこ	な全いく知ら	無回答	いる知『って
全体		1,096 100.0	32 2.9	231 21.1	700 63.9	133 12.1	<b>263</b> <b>24.0</b>	68 6.2	245 22.4	622 56.8	161 14.7	<b>313</b> <b>28.6</b>	100 9.1	327 29.8	513 46.8	156 14.2	<b>427</b> <b>38.9</b>
年齢別	女性:29歳以下	32	3.1	9.4	87.5	-	<b>12.5</b>	31.3	21.9	46.9	-	<b>53.2</b>	34.4	40.6	25.0	-	<b>75.0</b>
	女性:30歳代	57	-	12.3	82.5	5.3	<b>12.3</b>	8.8	28.1	57.9	5.3	<b>36.9</b>	15.8	42.1	38.6	3.5	<b>57.9</b>
	女性:40歳代	74	2.7	24.3	70.3	2.7	<b>27.0</b>	9.5	39.2	50.0	1.4	<b>48.7</b>	14.9	44.6	39.2	1.4	<b>59.5</b>
	女性:50歳代	80	7.5	18.8	71.3	2.5	<b>26.3</b>	10.0	31.3	55.0	3.8	<b>41.3</b>	12.5	41.3	42.5	3.8	<b>53.8</b>
	女性:60歳代	155	1.3	21.9	70.3	6.5	<b>23.2</b>	5.2	22.6	63.9	8.4	<b>27.8</b>	7.7	27.1	56.1	9.0	<b>34.8</b>
	女性:70歳以上	245	2.4	24.1	49.4	24.1	<b>26.5</b>	4.5	15.1	51.0	29.4	<b>19.6</b>	4.1	19.2	47.3	29.4	<b>23.3</b>
	男性:29歳以下	29	3.4	6.9	79.3	10.3	<b>10.3</b>	10.3	13.8	65.5	10.3	<b>24.1</b>	20.7	37.9	31.0	10.3	<b>58.6</b>
	男性:30歳代	29	-	27.6	65.5	6.9	<b>27.6</b>	10.3	24.1	58.6	6.9	<b>34.4</b>	17.2	27.6	48.3	6.9	<b>44.8</b>
	男性:40歳代	45	6.7	8.9	84.4	-	<b>15.6</b>	4.4	31.1	62.2	2.2	<b>35.5</b>	11.1	33.3	53.3	2.2	<b>44.4</b>
	男性:50歳代	57	-	24.6	68.4	7.0	<b>24.6</b>	1.8	33.3	57.9	7.0	<b>35.1</b>	7.0	52.6	38.6	1.8	<b>59.6</b>
	男性:60歳代	113	4.4	23.0	62.8	9.7	<b>27.4</b>	3.5	23.9	62.8	9.7	<b>27.4</b>	8.8	31.0	50.4	9.7	<b>39.8</b>
	男性:70歳以上	158	3.8	22.8	54.4	19.0	<b>26.6</b>	3.8	13.9	58.2	24.1	<b>17.7</b>	3.8	20.3	52.5	23.4	<b>24.1</b>
無回答	22	-	22.7	45.5	31.8	<b>22.7</b>	-	13.6	40.9	45.5	<b>13.6</b>	4.5	18.2	36.4	40.9	<b>22.7</b>	
		標本数	(ス) 家族経営協定					(セ) ジェンダー									
			てよいくる知っ	と聞がいたるこ	な全いく知ら	無回答	いる知『って	てよいくる知っ	と聞がいたるこ	な全いく知ら	無回答	いる知『って					
全体		1,096 100.0	17 1.6	115 10.5	803 73.3	161 14.7	<b>132</b> <b>12.1</b>	102 9.3	371 33.9	467 42.6	156 14.2	<b>473</b> <b>43.2</b>					
年齢別	女性:29歳以下	32	6.3	9.4	84.4	-	<b>15.7</b>	31.3	40.6	28.1	-	<b>71.9</b>					
	女性:30歳代	57	3.5	8.8	82.5	5.3	<b>12.3</b>	15.8	50.9	29.8	3.5	<b>66.7</b>					
	女性:40歳代	74	-	6.8	91.9	1.4	<b>6.8</b>	17.6	55.4	27.0	-	<b>73.0</b>					
	女性:50歳代	80	2.5	13.8	80.0	3.8	<b>16.3</b>	10.0	50.0	36.3	3.8	<b>60.0</b>					
	女性:60歳代	155	1.9	11.0	78.7	8.4	<b>12.9</b>	9.0	35.5	47.1	8.4	<b>44.5</b>					
	女性:70歳以上	245	0.8	6.9	62.9	29.4	<b>7.7</b>	5.3	18.0	47.8	29.0	<b>23.3</b>					
	男性:29歳以下	29	3.4	6.9	79.3	10.3	<b>10.3</b>	20.7	41.4	27.6	10.3	<b>62.1</b>					
	男性:30歳代	29	-	24.1	69.0	6.9	<b>24.1</b>	17.2	34.5	41.4	6.9	<b>51.7</b>					
	男性:40歳代	45	2.2	13.3	82.2	2.2	<b>15.5</b>	15.6	46.7	35.6	2.2	<b>62.3</b>					
	男性:50歳代	57	-	10.5	82.5	7.0	<b>10.5</b>	3.5	54.4	36.8	5.3	<b>57.9</b>					
	男性:60歳代	113	2.7	16.8	69.9	10.6	<b>19.5</b>	6.2	34.5	49.6	9.7	<b>40.7</b>					
	男性:70歳以上	158	0.6	9.5	66.5	23.4	<b>10.1</b>	4.4	20.9	51.3	23.4	<b>25.3</b>					
無回答	22	-	9.1	45.5	45.5	<b>9.1</b>	4.5	13.6	36.4	45.5	<b>18.1</b>						

2. 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

**男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことは「夫婦の間で家事分担を十分に話し合う」が約5割、「男性の家事参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」が約4割。**

問19 男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印は3つまで)

図表6-3 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと  
[全体、性別] (前回調査比較)



## II 調査結果

---

男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこととして「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が47.0%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が42.6%、「企業が、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように、労働時間の短縮・法制度の遵守等環境整備をすること」が26.7%、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること」が26.6%となっている。

性別でみると、女性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（女性44.6%、男性41.5%）が3.1ポイント、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること」（同31.7%、19.7%）が12ポイント、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」（同21.5%、14.2%）が7.3ポイント男性よりも高い。

前回調査と比べると、「男性が家事や育児、介護等の技能を高めること」は男女とも約14ポイントが減り、他方「妻が、夫にのみ経済力や出世を求めないこと」は10ポイント以上増えている。また、女性は「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が5.1ポイント、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること」が8.4ポイント増えている。

年齢別でみると、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」は男性の40歳代で62.2%と最も高く、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性の40歳以下で約5割と高い。「企業が、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように、労働時間の短縮・法制度の遵守等環境整備をすること」は男女の30歳代と40歳代で3割台、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること」は女性の50歳代で40.0%と高い。「妻が、夫にのみ経済力や出世を求めないこと」は女性の年齢が高い層で割合が高く、「男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること」は男性の29歳以下で31.0%と高いのが目立つ。



図表6-4 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

[全体、年齢別]

(%)

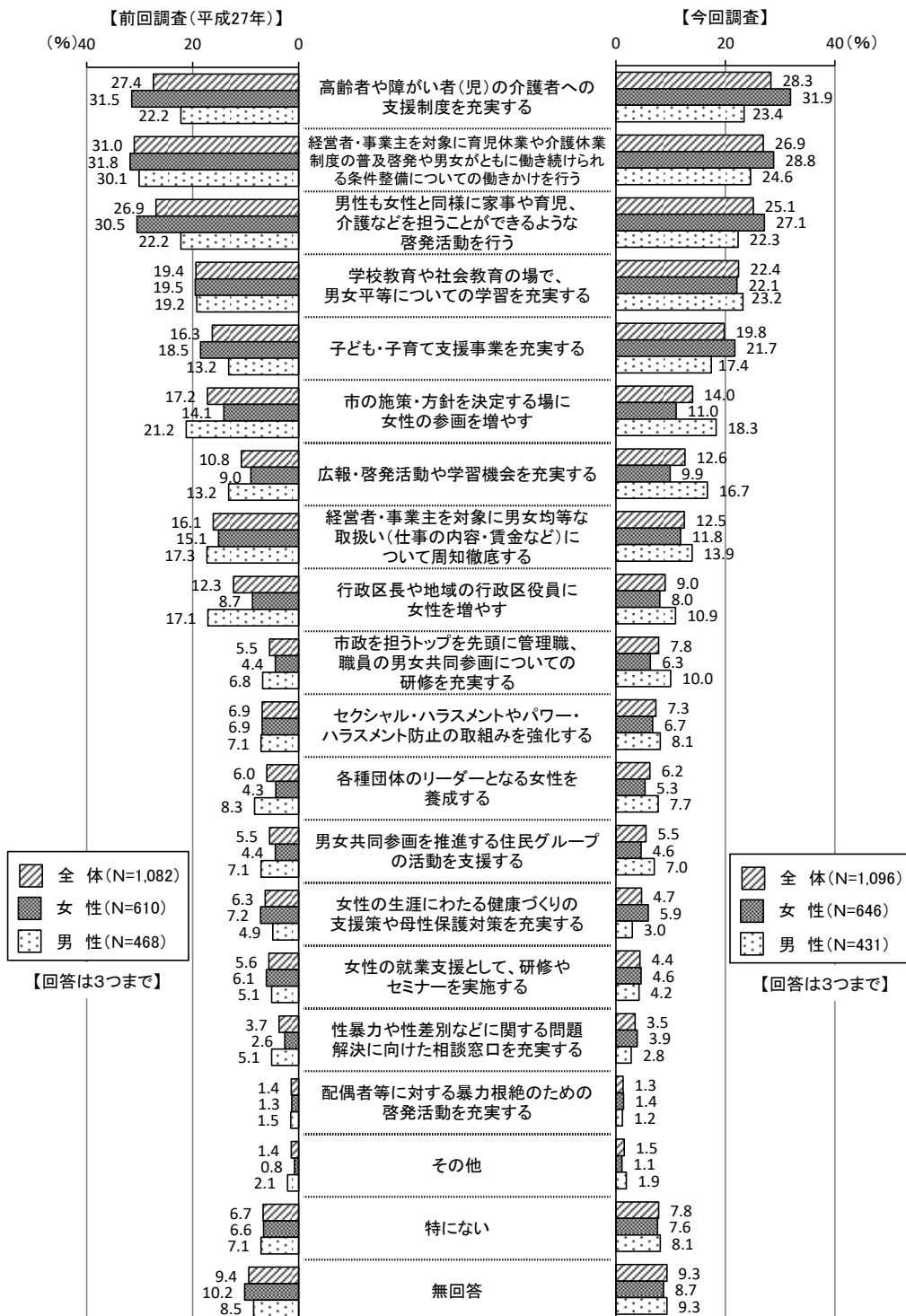
		標本数	男性が家事などの参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての方を尊重すること	夫婦の間で家計を分担できるように女性も経済的に自立すること	男性が家事や育児、介護等の技能を高めること	妻が、夫にのみ経済力や出世を求めないこと	男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること	企業が、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように、労働時間の短縮・法制度の遵守等環境整備をすること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること	わからない	その他	無回答
全体		1,096 100.0	467 42.6	104 9.5	515 47.0	203 18.5	113 10.3	71 6.5	245 22.4	110 10.0	293 26.7	291 26.6	52 4.7	13 1.2	112 10.2
年齢別	女性:29歳以下	32	50.0	6.3	50.0	15.6	3.1	12.5	12.5	9.4	25.0	28.1	9.4	6.3	3.1
	女性:30歳代	57	50.9	7.0	45.6	28.1	15.8	8.8	14.0	14.0	38.6	31.6	1.8	-	3.5
	女性:40歳代	74	51.4	8.1	50.0	21.6	9.5	4.1	28.4	9.5	32.4	29.7	2.7	-	6.8
	女性:50歳代	80	43.8	10.0	47.5	31.3	13.8	5.0	25.0	10.0	22.5	40.0	3.8	1.3	6.3
	女性:60歳代	155	43.9	7.7	45.2	21.3	9.0	5.8	26.5	11.6	33.5	34.2	3.9	-	5.2
	女性:70歳以上	245	40.8	7.3	48.6	18.0	12.7	9.0	20.0	7.8	20.0	29.0	4.9	0.8	13.9
	男性:29歳以下	29	37.9	17.2	51.7	6.9	3.4	-	20.7	31.0	17.2	13.8	13.8	6.9	6.9
	男性:30歳代	29	41.4	24.1	41.4	10.3	3.4	3.4	24.1	-	34.5	27.6	-	10.3	10.3
	男性:40歳代	45	37.8	6.7	62.2	15.6	11.1	2.2	24.4	15.6	37.8	24.4	4.4	-	-
	男性:50歳代	57	43.9	14.0	33.3	10.5	10.5	5.3	22.8	17.5	29.8	19.3	7.0	-	12.3
男性:60歳代	113	43.4	10.6	49.6	15.9	8.8	5.3	20.4	5.3	24.8	23.0	7.1	0.9	10.6	
男性:70歳以上	158	41.1	9.5	43.0	15.8	8.9	8.2	25.3	8.2	24.7	15.8	3.8	0.6	16.5	
無回答		22	9.1	18.2	50.0	13.6	13.6	-	9.1	9.1	18.2	4.5	4.5	4.5	31.8

3. 「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れること

「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れることは「高齢者・障がい者(児)の介護者への支援制度の充実」「男女がともに働き続けられる条件整備の働きかけ」「男性も家事、育児、介護を担うことができる啓発活動」が上位3位。

問20 「男女共同参画社会」の実現のために、あなたは、嘉麻市では今後どのようなことに力を入れていったら良いと思いますか。(〇印は3つまで)

図表6-5 「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れること [全体、性別] (前回調査比較)



「男女共同参画社会」の実現のために今後行政が力をいれることは「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する」が28.3%で最も高くなっている。次いで、「経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う」が26.9%「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」が25.1%で上位3位となっている。

性別でみると、女性は上位3位にあげられた項目の割合が男性よりも約4～9ポイント高い。その他「子ども・子育て支援事業を充実する」が21.7%で男性（17.4%）を4.3ポイント上回っている。男性は「市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」（女性11.0%、男性18.3%）が7.3ポイント、「広報・啓発活動や学習機会を充実する」（同9.9%、16.7%）が6.8ポイント、女性よりも高い。

前回調査と比べると、前回第2位であった「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する」が今回調査では第1位となっている。「経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う」や「市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」「経営者・事業主を対象に男女均等な取扱い（仕事の内容・賃金など）について周知徹底する」などは男女とも約3～6ポイント割合が減っており、また男性では「行政区長や地域の行政区役員に女性を増やす」が6.2ポイント減っている。反対に「学校教育や社会教育の場で、男女平等についての学習を充実する」や「子ども・子育て支援事業を充実する」などは男女とも約3～4ポイント割合が増え、また男性では「広報・啓発活動や学習機会を充実する」「市政を担うトップを先頭に管理職、職員の男女共同参画についての研修を充実する」が約3ポイント増えている。

年齢別でみると、男女とも年齢が低い層では「子ども・子育て支援事業を充実する」の割合が高く、特に女性の29歳以下では59.4%と最も高い。また、「セクシャル・ハラスメントやパワー・ハラスメント防止の取組みを強化する」も比較的高い。女性の30歳代以下では「経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う」が3割台半ばと高い。「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」は女性の30歳代と50歳代を除く年代で3割前後と高い。男女とも年齢の高い層では「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する」の割合が高い。また、男性の年齢が高い層では「市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」「行政区長や地域の行政区役員に女性を増やす」の割合が比較的高い。「学校教育や社会教育の場で、男女平等についての学習を充実する」は女性の40歳代と男性の30歳代で3割台半ばと高いのが目立つ。

II 調査結果

図表6-6 「男女共同参画社会」実現のために行政が力を入れること〔全体、年齢別〕

		(%)											
		標本数	充実する	市の施策・方針を決定する場	行政長官や地域の行政役員を増やす	学校教育や社会教育の場で、男女平等についての学習を充実する	経営者・事業主を対象に男女均等な取扱い(仕事の内容・賃金など)について周知徹底する	経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続ける条件整備についての働きかけを行う	男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う	女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する	女性の生涯にわたる健康づくりに関する支援策や母性保護対策を充実する	性別暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する	
全体		1,096 100.0	138 12.6	153 14.0	99 9.0	245 22.4	137 12.5	295 26.9	275 25.1	48 4.4	52 4.7	38 3.5	
年齢別	女性:29歳以下	32	6.3	9.4	3.1	6.3	12.5	34.4	31.3	6.3	3.1	6.3	
	女性:30歳代	57	3.5	14.0	7.0	14.0	12.3	36.8	8.8	3.5	8.8	1.8	
	女性:40歳代	74	4.1	8.1	6.8	35.1	14.9	27.0	29.7	8.1	4.1	2.7	
	女性:50歳代	80	11.3	11.3	11.3	22.5	15.0	26.3	23.8	3.8	7.5	3.8	
	女性:60歳代	155	11.0	9.0	5.8	25.8	12.9	31.6	29.0	4.5	5.2	3.9	
	女性:70歳以上	245	12.2	12.2	9.8	19.6	9.0	26.1	29.8	4.1	5.7	4.1	
	男性:29歳以下	29	10.3	13.8	6.9	13.8	6.9	17.2	24.1	6.9	6.9	6.9	
	男性:30歳代	29	27.6	10.3	3.4	37.9	10.3	10.3	13.8	3.4	3.4	13.8	
	男性:40歳代	45	20.0	13.3	13.3	24.4	24.4	24.4	8.9	8.9	-	-	
	男性:50歳代	57	19.3	19.3	8.8	19.3	14.0	28.1	29.8	3.5	5.3	1.8	
男性:60歳代	113	17.7	19.5	12.4	23.0	16.8	21.2	20.4	3.5	2.7	1.8		
男性:70歳以上	158	13.3	20.9	12.0	23.4	10.8	29.7	25.9	3.2	2.5	1.9		
無回答		22	13.6	18.2	-	13.6	4.5	13.6	22.7	-	9.1	9.1	
		標本数	配偶者の啓発活動に対する暴力根絶の取組みを強化する	セクシャル・ハラスメント防止やバウチャー・ハラースメントやセクシャル・ハラスメント防止の養成体としてのリーダーとなる女性を養成する	各種団体のリーダーとなる女性を養成する	男女共同参画の活動を推進する住民グループの活動を推進する	子ども・子育て支援事業を充実する	高齢者への支援制度を(児)の介護者への支援制度を充実する	市職員の研修を充実する	市の職員の研修を充実する	その他	特になし	無回答
全体		1,096 100.0	14 1.3	80 7.3	68 6.2	60 5.5	217 19.8	310 28.3	86 7.8	16 1.5	86 7.8	102 9.3	
年齢別	女性:29歳以下	32	-	15.6	-	-	59.4	21.9	6.3	3.1	12.5	-	
	女性:30歳代	57	1.8	1.8	7.0	1.8	42.1	19.3	3.5	3.5	12.3	5.3	
	女性:40歳代	74	-	8.1	8.1	5.4	32.4	24.3	4.1	-	2.7	5.4	
	女性:50歳代	80	2.5	8.8	10.0	5.0	23.8	28.8	7.5	-	11.3	5.0	
	女性:60歳代	155	-	6.5	3.2	3.2	18.1	39.4	8.4	1.9	9.0	5.2	
	女性:70歳以上	245	2.4	5.7	4.5	6.5	10.6	35.1	6.1	0.4	5.3	14.7	
	男性:29歳以下	29	-	13.8	6.9	3.4	37.9	20.7	-	6.9	13.8	6.9	
	男性:30歳代	29	-	10.3	-	3.4	34.5	17.2	-	6.9	10.3	10.3	
	男性:40歳代	45	-	2.2	6.7	2.2	24.4	15.6	15.6	-	17.8	2.2	
	男性:50歳代	57	3.5	10.5	8.8	3.5	19.3	17.5	8.8	-	8.8	7.0	
男性:60歳代	113	0.9	9.7	11.5	7.1	15.9	25.7	12.4	2.7	5.3	8.8		
男性:70歳以上	158	1.3	6.3	6.3	10.8	8.9	27.8	10.8	0.6	5.7	12.7		
無回答		22	-	9.1	4.5	-	9.1	13.6	9.1	4.5	9.1	31.8	

## 第7章 調査結果のまとめと今後の課題

---



## 第7章 調査結果のまとめと今後の課題

嘉麻市は、平成19年に「嘉麻市男女共同参画社会基本計画」を策定し、その後平成29年に策定した第2次基本計画では、その後の5年間を計画期間としており、終了時には見直しを行うものと定めている。

本調査は、次期計画の策定に向け、これまでの嘉麻市の取組みの成果を検証するとともに、本市における今後の男女共同参画を推進するうえでの課題を把握するための基礎データを得ることを目的として実施したものである。

本調査の結果、及び平成27年度実施の前回調査や福岡県調査、国の調査との比較をもとに、本市における男女共同参画に関する市民意識の現状と今後の課題について考察を行う。

### 1. 男女平等に関する考え方について

「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識について、『同感しない』人は女性では6割台半ば、男性も6割強で前回調査より男女とも10ポイント以上増加している。国や福岡県調査と比べても『同感しない』人の割合は本市の方が高く、性別役割分担へは否定的な考え方が多数派となっている。ほとんどの年代で『同感しない』人の割合は、女性の方が男性を上回っているが、30歳代のみが男性を下回っており、子育て世代では男性よりも女性が性別役割分担を容認する傾向がある。一方で、共働きの場合は男女とも『同感しない』が7割前後と高く、生活実態に沿った考えを持っていることがうかがえる。

各分野の平等感については、『男性優遇』と考える人の割合は「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」では7割台と高く、「家庭生活」「職場」で5割台、「地域活動・社会活動の場」「法律や制度のうえ」が4割前後となっている。ほとんどの分野で女性の方が男性より『男性優遇』の割合が高く、「平等である」の割合が低いなど女性の方が不平等感は強い。前回調査と比べると、男性は「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「法律や制度」で『男性優遇』の割合が高くなっており、これらの分野では男性が優遇されているとの認識が強くなっている。ただし、「地域活動・社会活動」では前回調査よりも男性の「平等である」の割合が高くなっているのに対し、女性は『男性優遇』が約5割と変化はなく、女性との認識の違いが依然として大きい。「職場」については、前回調査に比べて男女とも不平等感がやや低くなっているが、就労を中断した女性では『男性優遇』の割合が高く、就労中での不平等感が反映されていることも推測される。また、「家庭生活」に対する『男性優遇』は男女とも、既婚者の方が未婚者よりも高く、結婚している場合には男性が優遇されているという認識が強くなっている。

以上のことから、本市において性別役割分担意識は解消される方向へ進み、また、政治や法律、社会通念などでは、男性の『男性優遇』という認識は高くなる傾向がうかがえる。しかし、地域活動や家庭生活などの身近な場での平等は進んでおらず、子育て期、就労を中断した場合など、立場によっては平等感も異なる。今後の意識啓発に関しては、性別や生活状況に沿ったテーマや内容の工夫が必要である。また、建前としての性別役割分担意識の解消だけでなく、意識されていないレベルの偏見、いわゆる「アンコンシャスバイアス」の解消を目指すような参加型の学習が求められる。

## 2. 家庭生活や子育てについて

家庭内での役割分担をみると、『主に妻』は「日常の家事」では約8割と高く、「家計の管理」「病人・高齢者の世話」「育児、子どものしつけ」といった他の家庭内の仕事も、妻に役割が偏っている。「育児・子どものしつけ」は、乳幼児や未就学児のいる場合では『主に妻』の割合が高くなっており、小さな子どもの世話は妻の役割となっている。一方で、「生活費を稼ぐ」は、『主に夫』が5割台半ばと高く、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担の実態がうかがえる。また、「高額な商品や土地・家屋の購入」や「家庭の問題における最終的決定」という家庭内の重要な決定は『主に夫』の割合が高い。共働きの女性の状況をみると、「炊事・掃除・洗濯などの家事」は『主に妻』が約9割、「生活費を稼ぐ」は「夫と妻が同程度」が約4割と、家事も仕事も二重負担を感じている人がかなりいることがうかがえる。しかし、家庭内の重要な決定では「夫と妻が同程度」の割合が共働きでない場合より高く、職業を持って働く女性は家庭内の決定にもより関わっている状況がうかがえる。

子どもの育て方については、「女の子も男の子も同等に経済的に自立できるように育てる」は積極的な「賛成」が約8割あるが、「男の子にも炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい」は約7割と10ポイントほど低く、特に男性で61.5%と低い。「3歳までは母親の手で育てる」といういわゆる「3歳児神話」については、『賛成派』は約6割と高いが、性別役割分担意識を容認しない人では、『反対派』の割合が高くなっている。

以上のことを前節の結果と合わせてみていくと、固定的性別役割分担は意識としては解消されつつあるが、家庭生活での実態は伴っていない。また、3歳児神話という社会通念は依然として根強く、実生活でも乳幼児の世話は妻の役割となっている。これらが、「家庭生活」では『男性優遇』との認識につながっていると思われる。子どもの育て方では、固定的性別役割分担にとられない方向に意識は進んでいるが、現状では共働き女性の仕事と家事への負担感がみられる。子育ては女性という意識が再生産されず、子どもたちへのモデルとなるように家庭での男女共同参画を進めるよう、家庭教育の場や教育現場で取り組んでいく必要がある。

## 3. 就労・働き方について

女性が職業を持つことに対する考え方では、「結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が男女とも5割を超えている。「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」といういわゆる女性のM字型就労とよばれる中断・再就職は女性で約4割と男性より高い。前回調査と比べると、男女とも就労継続が増加し、特に男性では約16ポイントも高くなっている。

就労継続以外の方が女性は職業を続けない方がよいと思う理由は、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」が高く、両立支援制度が実用的でないとな女性の就労継続が難しいと考える人は多い。

女性で「職業を持っている」人は約5割で子育て期の30歳代が最も高く約9割にのぼり、子育て期に就労を中断するM字型就労の傾向は本市ではみられない。就労形態をみると、女性は『非正規雇用者』が約半数を占め、前回調査と比べて女性の有職者は7.5ポイント増えているものの、就労形態では非正規雇用が3.6ポイント増加している。雇用されている人が、職場で女性が働き



にくいと考える点は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」「賃金に男女格差がある」「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」が上位3位である。両立制度が不十分という認識は、男性が3割台半ばと高い。職場の雰囲気については、女性は男性よりやや高く、男女とも正社員・正規雇用で高い。女性の常勤パートタイマーでは賃金の男女格差や能力を正当に評価されないなどの割合が正社員・正規雇用より高くなっている。

育児休業および介護休業制度の利用意向をみると、どちらも女性の利用意向が男性より高く、男性では「利用したいが利用できそうにない」が女性よりも高くなっている。利用できそうにない、しない理由は、正社員・正規雇用者では「職場に休める雰囲気がないから」は女性が6割台半ばと高く、「経済的に生活が成り立たなくなるから」は男女とも6割台半ばで高くなっている。女性の非正規雇用者では「職場にそのような制度があるかわからないから」が4割強と高い。

自営業では、「自分名義の不動産を持っている」「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」「自分名義の預貯金を持っている」などは男性の方が女性よりも高く、また、自営業の『家族従業者』の割合は女性の方が多など、女性は男性よりも周道的な働き方をしている。しかし、前回調査よりも、女性は「自分名義の預貯金を持っている」「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」が増えており、経済的自立は進んでいる。

ワーク・ライフ・バランスについて、理想では男女とも「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が高いが、実際の生活の第1位は女性では「仕事と家庭生活をともに優先」、男性では「仕事を優先」となっており、理想と実際の差が大きい。また、前回調査と比べて女性では実際の生活では「仕事と家庭生活をともに優先」が9.4ポイント高くなっている。

ワーク・ライフ・バランスを進めるために求められる条件整備の第1位は「代替要員の確保など育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」で、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」「給与などの男女間格差をなくすこと」が続いている。

以上のことから、女性が就労を継続することへの支持は男性でも高くなっており、女性の経済的自立への期待が背景にあることが推測される。実際、本市では子育て期の女性が就労を中断する傾向はみられず、仕事と家庭生活のどちらも優先する生活を送る人が増えている。しかし、仕事と育児や介護との両立支援の不備は、依然として職場の課題としてあがっている。制度自体が利用しにくい点と利用できる雰囲気がないという点が高い。また、増加している女性の非正規雇用者に対して、利用できる両立支援制度の周知が不十分という課題もある。行政としては、市内の各事業所への情報提供、働きかけを推進するとともに、雇用主や男性に対しては、乳幼児を抱えて働く女性の負担感を理解し、男性の家庭参画の重要性を認識できるような啓発が求められる。

#### 4. 地域活動について

地域の役職に推薦された場合（男性は、妻など身近な女性が推薦された場合）、女性では「引き受ける」の割合はいずれの役職でも男性より低い。なかでも「行政区長」は2割弱で最も低かったが、逆に「行政区の役員」は3割弱と最も高くなっており、「長」ではなく「役員」であれば女性は役職を受け入れやすいことが推測される。また、前回調査に比べると女性の「引き受ける」割合は高くなっており、役職に対して積極的になっている傾向がうかがえる。地域の役職を断る人では男女とも、「責任が重いから」「役職につく知識や経験がないから」が上位の理由とな

っている。

住んでいる地域での女性と男性の活動の違いについては、男性は「特に男女で差はない」が最も高く、女性を約 12 ポイント上回っている。実際には「女性がお茶出しや片づけをする」が5割弱、「地域の役員はほとんど男性」「地域活動は男性が取り仕切る」が3割台半ばで、性別による役割の違いは地域に存在しているといえる。

また、地域の長に女性が就いていない理由としては「男性中心に組織が運営されているから」「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」が上位にあげられている。また、男女とも子育て期の30歳代と40歳代では「家族の支援・協力が得られないから」の割合が比較的高い。

災害へ備えるために地域で必要なことでは、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は女性が6割を超えて高く、前回調査よりも約5ポイント高くなっている。男性は「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「男女とも防災活動や訓練に取り組む」が女性より高く、女性の積極的な参画を男性は望んでいる傾向が伺えるが、前回調査より割合は低くなっている。

以上のことより、地域の男女共同参画については男性の方が男女差はないと認識し、第1節でみたように地域活動の平等感についての男女の意識のギャップに繋がっているものと思われる。女性にとっては、女性がお茶くみなどの裏方の仕事、男性が決定する立場にある状況は、不平等を感じる理由の一つといえる。女性の地域の役職への意欲は、少しずつ高くなっており、今後、地域の決定の場に参画する機会が増えると不平等感は解消できるかもしれない。ただし、子育て期の女性たちが仕事や家事との両立ができるよう、地域活動の時間帯を配慮したり、託児をつけるなどしたり参画しやすい環境を整備する工夫が必要である。また、地域防災への関心は高いことから、多様な視点を取り入れた地域活動における男女共同参画が地域防災につながるといったことへの理解を深める啓発を進め、日ごろの地域慣習の改善に結びつけることが求められる。

### 5. 暴力などの人権侵害について

職場でのセクシュアル・ハラスメントについては、女性の9.3%に被害経験があり、男性の被害経験も4.1%あった。被害内容は「身体に関して不愉快になる言葉や冗談をいわれた」は男女とも最も高く、また、女性では「からだに触れられた」、男性では「結婚や妊娠の予定についてたびたびきかれた」が2番目に上がった。セクシュアル・ハラスメントは、加害行為をする側はからだのことや結婚を話題にすることがハラスメントになるという自覚がない場合がある。ハラスメントに対しては、近年、法改正が重ねられており、法令順守の面からもハラスメント防止対策や情報提供を事業所対象に進めていかなければならない。

配偶者や交際相手からの暴力（以下、DVとする）を見聞きしたことがある人は全体の1割強あった。ここ3年で自分自身がなんらかのDVを受けた人は女性では2割半ばで、男性の1割強を上回り、DVは女性が受ける割合が高いことがわかる。ただし、前回よりは精神的暴力や性的暴力の被害はやや減少している。しかし、DVを受けた人の約半数は誰にも相談しておらず、また、相談した人でも大半は家族や友人・知人などの身近な人であり、専門機関の利用はわずかであった。前回調査と比べると、相談しなかった割合はやや高くなっているが、公的機関への相談はわずかながらも高くなっていた。相談しなかった人では、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が6割を超えて高い。DVについて相談を受けたり身近に当事者がいる人がとった行動としては、「被害者をかくまったり、家を出ることに援助をした」が3割弱で最も高

いが、続いて「何もできなかった」は2割強と高い。前回調査と比べると、「加害者に暴力をやめるように話した」といった、場合によっては被害者や相談を受けた人自身が危険にさらされる可能性の高い行動は低くなっていた。

以上のことから、DV相談窓口の認知の向上や身近な相談相手の不適切な行動の減少などは、この5年間の市の取り組みの成果といえる。しかし、DV被害はやや減少傾向がうかがえるものの、依然として被害を受ける人は存在する。しかも、誰にも相談しない人が増えており、DVが潜在化している状況もうかがえる。DVとされる行為や発生する背景、DV防止法の取り組みなどについて、被害者自身、また、相談相手となる家族や知人に届くように、広く啓発したり情報提供したりすることを継続的に続けていかなければならない。

## 6. 男女共同参画社会の実現について

男女共同参画に関する法や制度、用語の認知度は、「児童虐待防止法」「DV防止法」「男女雇用機会均等法」など法律が上位を占めている。前回調査より、全体的に認知が向上しており、特に「ジェンダー」と「LGBTQ」は大幅に増加している。コロナ禍において児童虐待やDVの増加がメディアに取り上げられたり、LGBTQは学校教育の場で啓発が進んでいることの影響がうかがえる。今後とも本市における男女共同参画を推進するために、これらの関連する法律や条例、用語の啓発を状況に応じて、工夫を重ねながら継続的に取り組んでいくことが必要である。

男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことは「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が約5割、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が4割強と高くなっていた。また、男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れることとして、「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する」「経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う」「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」などが上位にあがっている。

コロナ禍において男女を問わず在宅ワークが拡大する中で、家庭内では妻にのみ家事や育児の負担がかかる問題が指摘されている。本市においても、就労する女性の増加とともに男性の家事への参画の重要性は増しているといえる。これらの状況を踏まえた、本市の両立支援策を充実するとともに、男性が家事や育児、介護に積極的に関わられるような実践的な学習の場の提供も必要である。事業所に対しても、持続可能な経営という視点で、女性の就労継続のための取り組みや男性の家庭責任を果たすための支援策についての啓発や情報提供が重要となってくるだろう。



### III 參考資料



## ◎ 自由記述の抜粋





性別	年齢	男女共同参画社会実現に向けての取組、日ごろ感じていること
女性	20 歳代	保育の現場に携わっていますが、子育てに関することは母親の負担が非常に大きいと感じる。各家庭内でバランスが取れていれば問題はないと思うが。女性の働き方についても預かりの保育の時間を延ばせば良いという単純なものではなく、そもそも保育士になる人材が少なすぎるのが現状である。教育現場で働きたいと思う人が増えないことには、母親(女性)の働き方の改革は難しいと思う。
女性	20 歳代	子どもを保育園へ迎えに行くときに、よく父親が来ている場面を目にする。それだけ男性も子育てに参加してきていると同時に、共働きで母親も仕事が大変なのだと感じている。もっと、子育てを応援してもらえる支援などがあれば、女性ももっと社会進出していける余裕が出来るのではないかと思う。女性が社会進出できにくいのは余裕がないからだと思う。
女性	20 歳代	家族で住める賃貸住宅が少ない。もっと住むところを増やしてほしい。
女性	20 歳代	嘉麻市の男女共同参画社会の実現のための取組みをよりよくするためには、嘉麻市の地域全員と嘉麻市の職員が直接話し合ったり、関係を良くしていけないと、なかなか難しいのではないかと思う。また、市役所の職員が地域の住民宅を訪問して、(感染症対策を十分に)意見を聞くなどしたらよいのではないかと思う。
女性	30 歳代	男女共同参画社会というのはよく理解できていないが、女性の立場から言わせてもらおうと、日本は女性に優しい社会だと思う。女性の人権が無視されていると大声で叫んでいる人が一番女性の人権を無視しており、おとしめていると感じ、同性として腹が立つ。今あるもの(制度など)を受け入れて感謝の心を持ち、男女関係なく皆が一人ひとりのために、一人がみんなのためにお互いがお互いを思いやる社会こそ目指すべき日本のあり方ではないかと私は思う。
女性	30 歳代	このアンケートがくるまで特に考えたこともなかった。内容を読んでみて改めて身近な地域で問題になっていること、職場のこと、社会のことなど気づくものがたくさんあり、男女共同参画社会を前向きに進めていくことを周囲にも伝えたいと思う。仕事で疲れて家に帰っても同居家族は家事を全くしない(出来ない)。時間をとられるからアンケートを捨てようとしていたが、今は回答してよかったと思う。コロナが終息し、活動する時期がまた来たら、私自身が以前行っていた活動を始めたいと思う。
女性	30 歳代	嘉麻市の男女共同参画社会自体があまり知られていないのではないか。
女性	30 歳代	男性が働き、女性が家を守るという考えを持つ高齢な義理の両親と暮らしているが、フルタイムで働いて帰宅すると「こんな時間まで働くなんて」と言われ、それを子どもに「母親が働いて家を空けるなんて恥ずかしい」と言っている。今は共働きが主流でそうしないと生活が成り立たない家庭がほとんどだと思う。意識改革をするならば地域に根付いた高齢者の保守的な考えからだと思う。そのために高齢者が集う地域の催しを行い、その中で男女共同参画のイベントをしたら良いと思う。
女性	30 歳代	何も変わらないと思う。
女性	30 歳代	男が働いて、食わしてやってやるという考えの男性は最低である。こちらも働いている。遊んで暮らしているわけではない。

Ⅲ 参考資料

女性	30 歳代	仕事や家事などにおいて、まだ男性が仕事をし、女性が家事をするといった考え方をしている人が主だと思う。男性だから、女性だからと言った考え方を一人ひとりが改善し、それぞれに適正に行っていくことが大切だと思う。考えを変え、改善していかない限り無くならない問題と思う。
女性	30 歳代	まず、男性を中心にするのが間違い、男女は平等であるべき。男性が優先ならばもっと稼いでこい。女性は家事をしているのだから、専業主婦にも少しはお金を工面してほしい。仕事ができない身体で、家事をしても、そのたびに「誰の稼ぎで」「家のことをするのが何が偉い」「金にもならん」などとモラハラを受けている。不公平である。
女性	40 歳代	男女ともに働くようになってきているが、子どもの用事や親の介護になると女性の方が仕事を休まなければならない場合が多いと思う。そのため女性は働ける条件に制限が生まれて働ける場所が限られている場合が多い。フレックスタイム制などが充実すると働きやすいと思うが、なかなか進まないだろうと感じている。
女性	40 歳代	男女共同参画について日ごろから感じていることはなかった。このアンケートで初めて考えた。男女平等は大切であると思う。男にしか女にしか出来ないこともあるが、そこを男でも、女でも出来ると考え、行動できるようになると良いと思う。
女性	40 歳代	女性の家事負担が大きい。仕事で疲れて帰った後に家で家事をするので休む暇がない。
女性	40 歳代	男女共同参画社会に向けての取組について嘉麻市が何をしているのかわからない。市役所への相談がしにくい。アンケートでいろいろなことを知ることができたが、市役所の窓口の対応が聞きやすかったらもっと理解しようと思う。
女性	40 歳代	これからも生きていく限り嘉麻市に住んでいくことを希望している。仕事をやめて楽しく生きていける嘉麻市であってほしい。60代になってから地域活動等に参加できるといいなと思っている。市民全員が一人ぼっちにならない市であってほしい。よろしくをお願いします。
女性	40 歳代	いつもこのような調査が届いているが、精神障害があり回答するのがとてもつらい。今後はこういう調査を送ってくるのは控えてもらえると助かる。
女性	40 歳代	結婚して、家庭を持ち、子どももいると女性はまだまだ家庭生活を優先せざるを得ない。そんな女性が私のまわりに多い。男女平等とはいえ、女性の立場の方が社会的にまだまだ不利だと思う。
女性	40 歳代	日本の社会自体が基本的に男性中心の社会になっていると思う。子どもや若い人が自由に自分らしく生きていけるような法律や制度を変える必要があると思う。学校で学んでも社会へ出たら男女不平等の壁に当たる。国の名前は忘れたが、若い女性が政府の主要なポストを占めている国があり、世界には新しい価値観で進んでいるところもあることを感じた。さて、日本はといえば、政治のトップは高齢の男性ばかり、女性蔑視の発言も目立つ。このような国で新しい男女平等を開拓していくことは大変エネルギーのいることだと思う。時代とともに良い方向に変わっていく必要がある。
女性	40 歳代	共働きをしても家事の負担は女性であることがおかしい。しかし、そういう男性を育てたのも女性である。ちょうど私たちの世代にはそういう女性に育てられた男性が多いように感じる。女性も意識を変えていかないといけない。

女性	40 歳代	職場で学校や子どもの病気のことで休むのはまだ女性(母親)であり、それで休みを出すと陰でいろいろ言われたりしているのが現状である。職場の上の人間には周知徹底されていても周りの下の人間にとっては「また休み」というようなことを言われたりする。まだまだ男女平等というのは難しい気がする。家庭でもほぼ女性がやっている事であり、女性は当たり前、男性がすると「よくしてくれるね」などと褒められるのがストレスにもなるのが現状である。
女性	40 歳代	いろいろな働き方、生き方があるので、質問自体がピンとこなかった。私の理解の問題かと思うが、わかりにくかった。生きにくい女性がいるように男性もいると思うので、私には難しい。
女性	50 歳代	女性と男性が協力して目標を達成していくことができ、人生を充実させることを大切に出来る社会を目指していきたい。
女性	50 歳代	市、企業、事業所などのリーダーの意識改革が急務。企業誘致も大事であるが、ジェンダー平等、多様性のないところには変化は生まれない。よって嘉麻市の未来は男女共同参画推進課にかかっている。
女性	50 歳代	主婦業としての経験値が仕事として認められていない。どうしても収入のある仕事だけが、仕事として認められている風潮がある。そのため、いざ就職をしようとしたときに、認めてもらえない。その辺りがもう少し寛容になればもっと社会参加できる人も増えるのではないかと思う。また、現在子育て中、介護中の人も収入のために無理に働くのではなく、それぞれに合った働き方、休み方が出来る社会であってほしい。人はいろいろな意味で余裕がないと人に優しく出来ないと思うため。
女性	50 歳代	男女平等ではないという考え方は昔の人の方がおおいにあると思う。一人ひとりの意識が変わってきているので、時代とともに少しずつ変わってきていると思う。小さいころから学校などで教えていけばいいのではないか。男女共同参画という言葉をもっと広めた方が良い。こういった調査を個人だけでなく、大きな会社に送り、嘉麻市住民に記入してもらうなど、こういった調査をしているだけで意識するのではないか。次につながると思う。
女性	50 歳代	この田舎ではまだまだ男性がまつりごとを行うということをしている。高齢の方は平等という教育を受けていないのでそれを変えるのは難しいところがあると思う。子どもたちに教育することで広まっていくことを願っている。でも、子どもたちは両親の姿を見て育っているので、それが当たり前と思い、大人になるころには忘れて、連鎖してしまうのかと思う。例えば、児童虐待がなくならないのもそれかと思う。この問題は難しい。男女の体の構造の違いもあり、一概に言えない。
女性	50 歳代	災害時の避難場所などで女性が使いにくいことなどをよく聞きますが、嘉麻市ではどういう取り組みをされているのでしょうか。女性の視点から考えるような仕組みが出来ているのでしょうか。毎年のように起きている災害なので、どんな計画があり、その中にどれだけ女性の意見が取り入れられているのかと思う。
女性	50 歳代	まずは男性の意識改革、そして年配者の理解です。「女性管理職を増やす」のではなく、「男女関係なく能力のある人材を登用すること」が大切である。「女性管理職を増やす」とこと自体が女性差別である。嘉麻市議が全員男性であること、まずそこが市の課題ではないか。
女性	50 歳代	私の年代にもまだまだ男尊女卑の考えが残っており、家庭内で「男女共同参画」とはほど遠い世界であることが現状で、私自身夫に対して「男女共同参画」をどう促したらよいか模索中である。

Ⅲ 参考資料

女性	50 歳代	現実には厳しい。特に高齢の男性の男尊女卑意識を治すのは困難である。逆に若い男性は事なかれ主義、女性は利己主義。弱者を思いやる教育を小さいころからしていくことが大事だと思う。
女性	50 歳代	市からのお知らせ放送について、マイクやスピーカーが古いのか数年前から放送内容が聞き取れない。「何の放送なのか」と傾聴しても全くわからず、「まあいいか」とあきらめている。市民への広報に放送は役立つと思うので、対応をお願いする。
女性	60 歳代	女性の市議会議員を増やしてほしい。そのための啓発活動に取り組んでほしいと思う。
女性	60 歳代	女性、男性の不平等を感じたことがあまりない。
女性	60 歳代	都会ではいろいろな取り組みも可能かと思うが、地方では難しいのではないですか。男性優先の社会で(特に年配の方で上に立たれている)実現しようがない。あまり期待していない。
女性	60 歳代	夫が定年になったが、妻の家庭での功労を認めない。私が姑などにおこなってきたことを理解していない。介護の大変さをわかっていない。25 年も姑をみてきたことは当たり前と思っている。
女性	60 歳代	一番わかりやすい男女共同参画社会の実現の取組は女性議員の(市・県・国)比率をあげること。市長、知事など身近なトップに女性が選ばれる選挙改革が必要だと思う。従来型の選挙では女性候補は出てこない。
女性	60 歳代	あまり真剣に考えてことがなかった。今回のアンケートでいろいろ考えさせられた。
女性	60 歳代	毎回アンケートが来る。記入するのは良いが、子育ても終わり、記入は自分の気持ちであるが、それでいいのか。男女が仲良く意見を出し合い協力出来たら最高だと思う。
女性	60 歳代	男性の意識改革も必要だが、女性も甘えを捨てて努力することが大切である。例えば男性に頼らず責任感を持つ意識が必要なのではないか。女性(若い方)の方に頑張ってもらいたい。
女性	60 歳代	男女共同参画推進課の仕事内容や取り組んでいることをわかりやすく教えてほしい。
女性	60 歳代	取り組みには関係ないが、多忙な日々の中、無作為であってもたびたびこのようなアンケートを受け取ることに負担を感じる。なるべくまじめに返信しなければと思い、心がけているが、近隣にポストの設置もなく、封書を送ることにさえストレスになる。何かほかのやり方で考慮いただけるようお願いする。
女性	60 歳代	共働き世帯が多くなる時代の中で、妻と夫がともに力を合わせ、家庭生活が円満になるように個人と行政が努力することが重要だと思う。
女性	60 歳代	専業主婦で肩身の狭い思いを夫に対してしていると思う。たまにお金の面で言われたりする。働きたいと思っても若い時にはできたこと(家庭と仕事の両立)が疲れていて出来ないと思う。完璧に出来ないことで夫に責められたり、自分自身も情けなくなると思う。料理に洗濯、掃除を毎日していても、夫には認められていない気がする。もっと力を抜いて生活できたらと思うが、性格なのかなかなか出来ず、いろいろな面で疲れている。
女性	60 歳代	より人間らしく、その人らしく生きていけるよう各々が認め合うこと。人間の尊厳を持って接することを大切にしてほしい。

女性	60 歳代	とても意義のあることだと思う。お互いに思いを話し合い、理解する良い機会になるよう、多くの人に知ってもらい、気軽に参加できればと思う。
女性	60 歳代	災害時の避難場所が具体的にわからない。文章でわかるように回覧板等で回してほしい。どの場所に空きがあるなどもメール、ライン等でわかるようにしてほしい。
女性	60 歳代	地域活動に参加したことがないので役所の内容はよくわからないが、何不自由なく暮らしている。
女性	60 歳代	一夜城のある公園へ紅葉を見に行った。山がきれいに整備され見晴らしも良かった。嘉麻市も、もっとこういう良いところを宣伝して行ってほしい。今の世の中男女共同という方向へいろいろ検討されていることは良いことだと思う。
女性	60 歳代	夫は 67 歳で昔風の考えの人間である。家の中のことは女の仕事と日ごろから言っている。私の仕事の時は手伝ってくれるが、あくまで「手伝いでやっている」という気持ちでいる。そのような考え方の人はまだたくさんいると思うが、少しずつでも男女平等という意識の改革につながるような運動に取り組んで頂けたらと思う。よろしくをお願いします。
女性	60 歳代	それぞれの家庭で問題を抱えている。行政は冷たい。男女共同参画などより子育て、介護で考える余裕さえない。テレビで介護のニュースが出るたびに、明日は我が身と思いつている。年金で進学なんてさせてやれない。すべてオンラインとかで年寄りばかりの嘉麻市でやり方などもわからない。何も助けてくれない。行政は冷たい。
女性	60 歳代	盛りだくさんの資料内容に改めて感謝します。
女性	60 歳代	行政要望として市が掲げていることと市が進めていることが違いすぎる。
女性	60 歳代	現在の嘉麻市の行政における男女共同参画推進については大変先進的で素晴らしいと思っている。市長、職員の方の努力に感謝する。また、それに協力されてきた団体の活動についても深く敬意を表す。
女性	70 歳以上	戦後、食べるものに不自由な子供時代を過ごし、結婚後は共働きをしてきた。当時は保育園も 1 歳からしか預かってもらえず、他人に給料の半分を渡して頼んだ。今は産後休暇も充実し良かったと思う。安心して子どもが産める社会が経済的にも良いことだと思う。80 歳近くになり、今は子どもや他人に迷惑をかけずに生きていきたいと思い、ボケ防止に努めていきたい。
女性	70 歳以上	1 年前に老人ホームに入居してきた。皆ほとんどが年齢が 80 歳、90 歳以上の人が多いため、朝の挨拶等ほとんどない。ほとんど付き合いもなく寂しい限りである。老人ホームでの生活の仕方指導などをしてくれる方はいないだろうか。施設の職員ともうまいかない。
女性	70 歳以上	全市民に男女共同参画について十分納得してもらえるように活発な啓発活動の機会を増やすことが大事である。男女共同参画とはどのような取り組みなのかを今以上にアピールする必要があるかと思う。関係者の今一層の精進に期待し、有意義な活動を期待している。
女性	70 歳以上	もう少し若い時なら考え方も変わっていただろうと思うが、今は動くのもやっとなで皆さんに支えられて生活をしている。心も大変である。
女性	70 歳以上	80 歳の私にはこのアンケートは向いていないと思った。
女性	70 歳以上	活動している一部の人々は熱心なのであろうが、一般の人にはほとんど伝わっていない。地域でのつながりが希薄になっているからでしょうか。

Ⅲ 参考資料

女性	70 歳以上	田舎で特に農村世帯は、因習や慣習が根強く、まだまだ男社会である。特に選挙で素晴らしい女性の方がおられても、立候補は家族や地域が許さない。
女性	70 歳以上	年齢が 70 歳以上のため、回答に違和感があり、回答は無理だと思う。
女性	70 歳以上	男女共同参画の活動について、身近ではないのでアンケートでわからない部分もあったが、自分なりに回答させてもらった。今回のアンケートで男女共同参画が少しは理解できたかと思う。これから先は女性も結婚、育児、仕事が当たり前の社会になる。男性と女性が協力しあって物事を進めていくことは難しいことである。高齢者も社会でどうかかわっていくか、考えないといけない。
女性	70 歳以上	男性が変わらないと、この問題は前へ進まないと思う。
女性	70 歳以上	情報が入らない、得られない。
女性	70 歳以上	子どもの頃からの教育に尽きるのではないか。そのうえで回りを整えていく。70 歳代の私はどうしても、内心では男女平等と思いながらも結果としては男性優先が現実である。
女性	70 歳以上	お疲れ様です。これからも頑張ってください。できることは協力したいと思っている。これからもますますの男女共同参画社会の実現を祈っている。
女性	70 歳以上	今回の意識調査について、私がもう少し若い時に回答したかった。
女性	70 歳以上	転勤族だった夫は定年退職をして故郷へ帰ってきて 10 数年になる。今はすっかり掃除魔になっている。77 歳の夫がいきいきしているように見える。妻である私は本当に助かっている。世の男性に言いたい、自分が出来そうな家事をやってみたらどうでしょうか。やっているうちに楽しくなってくるのがきっとあると思う。まず、やってみることだ。
女性	70 歳以上	すこしずつ社会も変化し、男女平等と学童からと教育もかなり変わってきた。しかし、実際はなかなか進んでいないのが現実と思う。「女だから」して当たり前といった社会情勢は根強いと思える。障がい者や老人に対して少しずつ変化してきているように今後も啓発を強く行い、改善すべきと考える。賃金でも男性に手当が厚く、役職も同じように男性中心が現在も行われている。しかし、市役所へ行くと女性の課長が業務についてあるのを目の当たりにすると嬉しくなる。今後も男女同権でありうることを根強く啓発して頂きたい。私の子どもの時は無理でも次の世代にはそうなってほしい。大変と思うのが頑張ってください。
女性	70 歳以上	昔と違い現在は男性も家庭のことを良くしていると思う。今の若い人は本当に幸せである。私たちの年代の頃は育児、仕事ほとんど女性がやっていた。
女性	70 歳以上	男女共同参画は素晴らしいことだと思う。しかし、現実を見てみると、なかなか参画が難しいのではとってしまう。まだまだ、この地域では男性優位が根強く感じる、女性が前に出ようとする男性ではなく、女性が辞めとけばと足を引っ張っているように感じる。男女共同参画の実現には幼いころからの教育しかないと思う。学校で普通に教えたらいいいのではないか。今後教育を受けた子供たちが大人になった時、男女共同参画社会が当たり前の社会になっていることを期待している。少しずつ前進である。
女性	70 歳以上	男女共同参画社会について、申し訳ないがよくわからない。
女性	70 歳以上	高齢化になったなど道を歩いていていつも思う。

女性	70 歳以上	職場では主に男性が上位、家庭生活では主に妻が炊事、掃除、洗濯などを行っている。仕事と育児と家事の両立が女性はなかなかできにくいなど、子どもの頃から学校現場や地域で少しでも格差が無くなるよう指導できるように取り組んでほしい(すでに取り組んであれば、勉強不足です)。以前は、子どもを育てているときは隣近所の交流もあったが、今は希薄になり参画社会のことも間近に感じられなくなっている。
女性	70 歳以上	夫婦の生活の中で夫も妻も平等で(家事・金銭面)ありたいと思う。しかし、昭和生まれの自分は直ぐ男性を上、一歩前にと考える。難しいものである。
女性	70 歳以上	武雄市のような図書館と喫茶店と本屋など皆が集まるようなところ、年寄りや若者が楽しめるところが嘉麻市にはない。近隣の市へ行くしかない。市長は嘉麻市のことを本当に考えてくれているとは思えない。
女性	70 歳以上	介護保険を払っているのに、使おうと思ってもなかなか使えない。もう少し手軽に使えると良いと思う。
女性	70 歳以上	これからの社会の課題に男性、女性の別なく取り組んでいただければと思う。80 歳を過ぎ、よたよたした毎日であるが、おおいに期待している。
女性	70 歳以上	私のような高齢ではわからないことがたくさんある。満足な回答が出来ず、申し訳ない。
女性	70 歳以上	男女共同参画社会という言葉はテレビ、新聞などで見聞きするが、はっきりいってよくわからない。男性でも女性でもできることをする。そしてお互い思いやりをもって社会でも家庭でも暮らして行けたらと思う。私には仕事を頑張っている娘がいる。経済的には自立しているが離婚している。最近思うのは、娘は仕事を持っていなかったら離婚をしていなかったのではと考えている。何が良くて何が悪いのかわからないが、頑張って生きていくしかないと思う。
女性	70 歳以上	男女共同参画事業についてあまり知らなかった。今回のアンケートで少しわかったような気がする。
女性	70 歳以上	男女共同参画についてはまだよく知らないのですが、ぼんやりとしかわからないが、自由、平等、多様性はとても良いと思う。しかし、人間としては平等だと思いが、男性と女性は持っているものの格や機能が違うと思うので、全く平等というわけにはいかないと思う。お互いがその特性を生かしてよく話し合い、助け合い、感謝しあう社会、家庭であるのが良い。
女性	70 歳以上	農業や林業などを広めてほしい。
女性	70 歳以上	今まで考えてこなかったことばかりだったので、これからは時間もあるので市報をゆっくり見たいと思う。
女性	70 歳以上	高齢なので、小さい文字が見にくく、いつも息子に代わりに書いてもらっている。このようなアンケートは無駄だと思うので、送付してもらいたくない。
女性	70 歳以上	取り組みについてもっと講演会などで自由に気軽に話を聞きたい。意識を高めたい。住んでいる地域では男女の格差は確実にあるし、悩んでいるが相談しない現実がある(夫婦間の問題など)恥だと思い隠している。これからますます男女共同参画の活動は大事になってくる。押し付けではなく納得できる話を聞いて勉強したい。

### Ⅲ 参考資料

女性	70 歳以上	男女共同参画社会についての内容が全くわからないため、広報、啓発活動を行い、具体的な施策をお願いしたい。
女性	70 歳以上	悔しいかな、体力も知力も男性には敵わない。出来る女性の方にはぜひ頑張ってもらいたい。素晴らしい女性がおられるはずである。応援は惜しまない。
女性	70 歳以上	70 歳の老人には質問が難しすぎた。
女性	70 歳以上	男女共同参画社会に向けての関心が薄く、勉強不足を痛感している。もっと学習の機会を持たなければいけないと思った。
女性	70 歳以上	男女共同参画のネットワークに今年から初めて参加している。いろいろな意見が聞けて良いと思う。
女性	70 歳以上	参加しやすいイベントを行い、実現できることから始める。講演会を開き、女性が参加しやすい時間、場所を工夫して男女共同参画への意識を深める。
女性	70 歳以上	まず自身の意識を変えること。世界や日本の動向に目を向ける。
女性	70 歳以上	60 歳まで共働きをした。子育てをしながら頑張り、子どもも自立できた。今は年金暮らしで当時を振り返りながらアンケートに回答した。
男性	20 歳代	まだ学生で両親と同居している。アンケートの内容にはそぐわないと思う。
男性	20 歳代	アンケートを書いていて、この意見がどのように生かされているのか、結果などが知りたい。私は 24 歳であるが、社会や政治など自分に直接関わってくることを、同じ年代の人が関心を持たないといけないと思っている。しかし、こちらが関心を持って、このような機関の人が少しでも地域を変えていかないと同じことになると思った。すべてはみんなで協力しないと何も変えられないと思う。いろいろな意見・要望が多くの人からくると思うが、頑張ってください。
男性	20 歳代	地域に限らず日本全体で男尊女卑が根強く残っている。家事、育児は女性がする世界で暮らしていた。自分がそうだったように、男女共同参画実現に向けてまず動かねばならないのは男性の方だと私は思う。
男性	20 歳代	男女を主体とする前に IT 化が過度に進んでいることを危惧した方が良いと思う。男女といった性別の前に人間があるので、考える習慣が無くなるとういうアンケートすら回答率が激減すると思う。質問内容が多すぎて、途中から雑に回答しそうになった。
男性	30 歳代	経年比較のために設問項目を変えられないことは理解できるが、あまりにも表現が固定的で非常に不愉快。また、本当に男女共同参画を実現したいのであれば、問 18 に嘉麻市の取組を紹介できるよう誘導すると良い。言葉の認識が高いからと言って、男女共同参画社会に近づいているわけではない。現代に即した市民意識調査となるよう期待する。
男性	30 歳代	社会がそういう雰囲気でない。
男性	30 歳代	女性、男性と関係なく、育児が出来るような社会になってほしい。保育園に送って職場までの距離があるので間に合わないときがある。保育園を始める時間を早めてほしい。
男性	30 歳代	男女で差別はしようと思わないが、どうしても区別は必要だと思う。また、身体的に女性は出産を機に仕事を離れざるを得なくなる時期がある。その点を行政がどう補助するかだと思う。女性、子ども、高齢者は身体的にも成人男性よりも劣るところがあり、ハラスメントを受けやすくなると思うので、ハラスメントをなくすような施策を考えていくと良い。
男性	30 歳代	こういうアンケートは良いことだと思う。



男性	30 歳代	職場でパワハラに関する正しい知識を身につける必要があると考える。何がパワハラにあたるのか、そうでないのか意識の統一を図ることは必要だと思う。男女平等は大切なことだと思う。そのうえで適材適所の考え方も取り入れていくこと良いと思う。
男性	30 歳代	LGBTに対する理解が世代間でギャップが大きいと感じる。(年齢が高い人ほど理解度が低い)LGBTである人のトイレ問題、更衣室の問題(公共施設等の)。トイレは男女別にする必要はないと思う。また、当事者がストレスなく着替えられる更衣室を考えてほしい。
男性	40 歳代	仕事内容によって、女性が参加できないような、また、男性が参加できない業種もあるので、このようなアンケートでは社会のことをわかってはもらえないと思う。このようなアンケートでは一般論しか答えは集まらないのではないかなと思う。我々一般国民には、理解しにくいアンケートである。
男性	40 歳代	市議に女性が一人もいないので、女性枠を作り試用し、問題点の改善、廃止(女性枠の)をする。問3は何が一般的かわからないから答えようがない。F1で性別を聴いているが、LGBTQ の認識が低いと思われる。男性の意見、女性の意見と分けるためだと思うが、分ける理由がわからない。メリットもない。なくした方が良い。
男性	40 歳代	最低賃金の底上げ。労働基準法で残業、休日が増えたが、収入が減るために働かざるを得ない。そのことによって家庭生活に男女の格差が出てくると思う。互いの時間が出来れば、男性は家事・介護、女性も仕事の方へと分担できる、あとは企業の雇用方針。
男性	40 歳代	男女平等は現実的に不可能だと思う。男女それぞれが生活しやすい地域社会を築くことが重要だと思う。
男性	40 歳代	職場において、男性の方が業務負担が大きいと感じる。また、年配の職員(男性、上司など)はセクハラやパワハラへの認識が薄く、男性が男性の身体に触れてきたりすることがたまにある。男性から女性にのみセクハラが成立するという認識を変えさせるために男女ともに働きやすい職場づくりに向かって教育などを充実させた方が良いと思う。
男性	40 歳代	まず経営者、事業主が研修などで学習しない限り、男女共同参画社会の実現は程遠いのではないかな。
男性	40 歳代	取組み自体を知る機会がなさすぎる。
男性	40 歳代	それぞれ考えや気持ちの持ち方も違うと思うが、女性自身、様々なところで活躍されるのを願っている。また、私の周りには我こそは、と言う男性(世帯主)が多いですが、これから女性の方も参加していく方向にいくような勉強会などが必要ではないかなと思う。私自身、今は問題なくやっていますが、問題がある方もいると思う。女性の方も自ら立候補できるような未来がいいのではないかなと思う。
男性	50 歳代	もっと若者や子どもなどの住める街を構築すること。企業や工場などの誘致を推進して若者が市外で働かなくても良い環境を作り、大きい病院を作り、お年寄りも安心して住める街づくりを推進してもらいたい。上記のようなことがない限り今後も人口が減り続けて嘉麻市の将来はないと明言したい。
男性	50 歳代	生活保護を受給しながら内縁の夫と長年住んでおり、長い間娘の虐待もあっていると聞いている。今は空き家となっている。2020年10月までに本人から聞いた話であるが、生活保護を受給しながら毎日パチンコに行く人がいる。調べてほしい。

### Ⅲ 参考資料

男性	50 歳代	男女ともに勤め人であれば、就業時間の変動により収入の増減が発生するのは困るはずである。収入面での影響を考慮したうえで働くかどうか判断されていると思う。
男性	50 歳代	お金の無い人に無料の食糧(食事券でもよい)があれば、配布して楽にしてほしい。
男性	50 歳代	男性もいろいろ家庭のことをすべきであることはわかるが、しようとしてもどうやってしたらいいのかわからないことも多く、勉強する必要があると思っている。
男性	50 歳代	高齢者にもわかりやすく、英語表示を少なくすると良い。
男性	50 歳代	日々の生活において男性、女性の区別を出来るだけでなくすようにしていくべきだと思う。LGBTQ やジェンダーについては私にはよくわからない。
男性	50 歳代	メンタル相談機関を設置してはどうでしょうか。(粕屋保健福祉センターのようなもの)
男性	60 歳代	市議などに女性が多くなってほしい。
男性	60 歳代	トップが悪い。早く代わってほしい。
男性	60 歳代	男女共同参画社会は大変良いことだと思う。実現に向けて努力してほしい。
男性	60 歳代	学校教育や社会教育、または経営者、事業主などに男女共同参画を徹底し、仕事、家庭での家事の分担、育児・介護の分担が当たり前の社会になるように希望する。特にこれから社会の中心となる次世代の方に期待する。
男性	60 歳代	家庭、地域、職場でも各々環境や体制に応じた取り組みを進めるべきで、無理に強制に転換を求めることは慎重にすべきである。ただし、男女共同参画に向けた教育、周知は積極的に進めるべきと思う。なお、行政に関する取り組みは具体的な目標値を定め、実現性を高める姿勢を市民に開示するのが望ましい。
男性	60 歳代	男女平等は経済的自立なくしてはなかなか難しいと思われる。このアンケートも素晴らしい一歩であるが、救済と自立援助との違いをもっと明確にし、自立支援体制を。救済は別の部署の仕事としないといけない。市長、副市長に女性が出てくると良い。
男性	60 歳代	LGBTQ の芸能人が市のパンプなどに使われているが、本人(芸能人)が自身でおとしめるような発言、行動をとられている姿を拝見すると、市の代表のような立場で活用するというのは如何かと思われる。
男性	60 歳代	男女共同は能力や個性を尊重しないと役に立たず、思いやりが無くなっていく。
男性	60 歳代	男女平等で頑張ってください。
男性	60 歳代	嘉麻市になった頃より、以前の稲築町の方が良かったと思う。福岡市、北九州市の方へ勤めに行っている人が多い。地元に通じる企業がもっとあればと思う。
男性	60 歳代	男女共同参画についてどのような取り組みが行われるのかよくわからない。広報の充実を求めてもらいたい。
男性	60 歳代	嘉麻市がどんなことに取り組んでいるのか情報が無い。わからない。
男性	60 歳代	嘉麻市の魅力をたくさんアピールして他県からの移住者を増やす。市内には多くの空き家がある。行政が支援をする、嘉麻市が活性化する。コロナ禍で田舎へ移住したい人が多いそうです。

男性	60 歳代	シルバー人材センターの充実をしてほしい。長らく腰を悪くして働くことはできないが、今まで培った経験というものがあり、その経験を生かして(元機械の修理、ポンプ、エンジン、モーター等)後継者の育成のためにもそのような施設を望む。
男性	60 歳代	このアンケートは女性に対してのアンケートであるのか。
男性	60 歳代	設問の量が多いのではないかと。量が多いと適当に回答したり、面倒くさくて回答しないのではないかと。
男性	60 歳代	男性にも育児休暇や介護休暇が取れるような社会になってほしい。
男性	60 歳代	男女共同参画社会は時代とともに進められてきているが、その代償として未婚、離婚率が高くなり少子化の要因になっていると思う。出産率低下につながるような取り組みは反対である。
男性	70 歳以上	継続的に進めてもらいたい。少しずつでも続けることが大事である。
男性	70 歳以上	みんなもっと優しくなろう。子どもも年寄りも宝だよ。数の上で半分になっても意識が変わらないとね。してやっているじゃなく、させてもらっている。
男性	70 歳以上	行政が遠くに感じる。もっと共同参画出来るように行事をしてほしい。
男性	70 歳以上	今回のアンケート調査を頂きましたが、人生 70 歳を超え、回答が出来るような生活内容ではないため協力できたとは思えない。ただ一つ男女共同参画社会の実現に向けての取組みについて、嘉麻市は女性の市議が一人もない状況である。しっかり取り組んでほしい。
男性	70 歳以上	表現・言葉を平易に:男女共同参画社会など裁判所、永田町の言葉、表現でなく具体的、現実的な表現で文章作成は出来ないものか。広報・啓発について:内容を具体的に数的に表すとか、普通の言葉で表現できないか。事例をあげるとか、問いかける方法とか出来ないものか。
男性	70 歳以上	男女共同参画について、私の知る限りでは女性の方が一生懸命にやっておられ、その姿は賛成であるが、男性の姿が薄いような気がする。女性もさることながら、嘉麻市の男性ももっと参加する意識を持ってほしいものである。
男性	70 歳以上	学校教育の中で低学年のうちから男女平等について教育する。生活にゆとりが無いと参画出来ないと思う。
男性	70 歳以上	嘉麻市が男女平等であるように願います。
男性	70 歳以上	心の正体知らずして、人の美醜を問うべからず。
男性	70 歳以上	市内住民に強力に広報活動を行う。
男性	70 歳以上	高齢者に優しい社会にしてほしい。例えば地域バスの無料、タクシーの無料など。わずかな年金で生活する環境ではない。スーパーも少ない、役場も近くにない、消防署もなくなる、増えるのは葬儀場だけである。
男性	70 歳以上	今年傘寿を迎えた老人であるが、男女共同参画社会の実現に向けて積極的に推進される社会の到来を喜ぶ。女性あつての男性だと年老いて実感する次第である。
男性	70 歳以上	20 年以上独り者であるので、こういう回答は難しい。相談する人、友達もいない。昔は妻もおり、共働きだったので男女共同参画社会に尽きる。調査票の後半は経験が無いのでわからなかった。

Ⅲ 参考資料

男性	70 歳以上	嘉麻市の議会は男性ばかりである。女性の枠を設けたらよいと思う。災害に備えるために備蓄品の場所を指定してもらいたい。男女共同参画はなかなかむずかしい問題である。行政機関が中心になってあらゆる機関と連携プレイすることが大切である。
男性	70 歳以上	まず、行政職員、市の管理職、市議員に女性が増えることが大事。
男性	70 歳以上	地域の役員をしているが、資質のある女性がなかなか公民館活動に参加してくれない。女性が自信をもって活動できるような政策がないものかと思っている。
男性	70 歳以上	男女共同参画については全く分からない。どなたが関わっているのでしょうか。役所の方が相談に乗ってくれているのでしょうか。私は昭和一桁生まれで関心もないが、一応提出したが、役にたてず申し訳ない。
男性	70 歳以上	最近組内でも集まるのが少なくなっているため、市が魅力ある企画を作って(何度でも)人を集めて気長に話し合いをしたらどうか。
男性	70 歳以上	日ごろから男女平等とは思っているが、年代によって内容が違ふと感じている。ただ、男女共同参画について言葉しか知らない。なぜ必要なのか。社会はいろいろな人の特性によって成り立っているようである。わざわざ事業としてしなければならぬのかよく理解できない。アンケート結果により参画事業の効果を知りたい。
男性	70 歳以上	男性、女性、年齢、障がいの有無にかかわらず、人はみな平等。平等は同じではなく、個々の財産、身体、心、技量、年齢等。個人の価値観、求めるものに違いがある。希望要望の対処に上下の差別があってはならないと思う。男と女、創造されたとき子孫を残す機能が男女一対。同じではない。同じでないところを家族、地域、社会が補い合う。男女共同参画社会には義務と責任があるということ。生活保護、身体介護の援助など必要な人に。まず自分が自立、努力、能力、技量の向上、そのうえで足りないものを公に。求める公はそれを正しく指導し、平等に対処する。
男性	70 歳以上	高齢者にはこの調査の紙が見にくいようである。もう少し質問内容を大きくしてくれると助かる。
男性	70 歳以上	人間は人間らしく。お互いの個性を尊重し、和をもって、たくましく優しくあたたかい社会を実現していかなければならない。
男性	70 歳以上	難しくわかりづらい問もあった。
男性	70 歳以上	高齢者にこのような調査は必要でない・該当しないが多すぎるため、年齢の 60 代以下の方が良いと思う。
無回答	無回答	何の目的でやっているのかわからない。市役所自体が人権を尊重していない。相手によって対応が違う。

◎ 使用した調査票



# 男女共同参画社会に向けての市民意識調査

## 調査ご協力のお願い

新型コロナウイルスの感染拡大が日ごろの生活に影響を及ぼす中、市民の皆様には市政に対して格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、本市では男女が、お互いの人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらずなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会に向けて、様々な取り組みを進めているところです。

今回の市民意識調査は、今後、本市で推進する取り組みを検討するにあたり、市民の皆様のご意見をおうかがいし、男女共同参画のまちづくりに活かすために実施いたします。

調査対象として本市にお住まいの18歳以上の方の中から3,000人を無作為に抽出したところ、あなた様に回答をお願いすることになりました。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、この調査の趣旨をご理解いただき、率直なお考えをご回答いただきますようお願い申し上げます。

令和2年11月

嘉麻市長 赤間 幸弘

### ご記入にあたってのお願い

1. この調査は、あて名のご本人のお考えでご記入ください。ただし、ご本人の記入が困難な場合は、ご本人の意見を代理の方がご記入ください。
2. 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。  
選択する○印の数は質問文の後に「1つ」「3つまで」というように指示していますので、指示にしたがってご記入ください。
3. 各項目で「その他」にお答えいただいた方は、その内容を（ ）内に具体的にご記入ください。
4. このアンケートは無記名で、調査結果は統計的に処理いたしますので、個人が特定されるなど、ご回答された方にご迷惑をおかけするようなことはございません。
5. ご記入は、黒色のボールペン、または濃い鉛筆でお願いします。
6. ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れ 11月20日（金）までにご返送ください。（切手は不要です）

なお、この調査についてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

#### 【問い合わせ先】

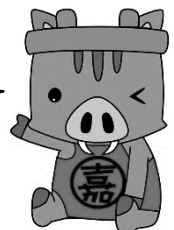
調査主体：嘉麻市 男女共同参画推進課

TEL 0948-62-5714 FAX 0948-62-5692

調査機関：特定非営利活動法人 福岡ジェンダー研究所

TEL 092-401-5811 FAX 092-401-5811

**あなたの回答が嘉麻市のまちづくりのための  
大事な意見になります！**



**男女平等に関する考え方についておたずねします。**

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。(○印は1つ)

1. 同感する
2. ある程度同感する
3. あまり同感しない
4. 同感しない

問2 あなたは、次の(ア)～(キ)の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)～(キ)の各分野について、最もあてはまるものを選んでください。

(○印はそれぞれ1つずつ)

あなたの考え 分野	優遇されている 女性の方が	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	優遇されている 男性の方が	わからない
【記入例】 ○○の場では	1	2	③	4	5	6
(ア) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場では	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(エ) 地域活動・社会活動の場では	1	2	3	4	5	6
(オ) 政治の場では	1	2	3	4	5	6
(カ) 法律や制度のうえでは	1	2	3	4	5	6
(キ) 社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6





<b>家庭生活や子育てについておたずねします。</b>
-----------------------------

問3 あなたのご家庭では、次の（ア）～（ケ）のような家庭内の仕事を、主にどなたが行っていますか。（ア）～（ケ）の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。

配偶者（パートナー）や子どもがいない方も、一般的にどう思うかお答えください。

（○印はそれぞれ1つずつ）

あなたのご家庭	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	妻と夫が同程度	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他／非該当
【記入例】 ○○○	1	2	③	4	5	6
（ア）炊事・掃除・洗濯などの家事	1	2	3	4	5	6
（イ）生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
（ウ）家計の管理	1	2	3	4	5	6
（エ）育児、子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
（オ）子どもの教育方針や進学目標の決定	1	2	3	4	5	6
（カ）病人・高齢者の世話（介護）	1	2	3	4	5	6
（キ）高額な商品や土地・家屋の購入	1	2	3	4	5	6
（ク）家庭の問題における最終決定	1	2	3	4	5	6
（ケ）行政区・隣組などの地域活動への参加	1	2	3	4	5	6

問4 子どもを育てるうえで大切だと思うことについて、あなたはどうお考えですか。次の（ア）～（エ）の各項目について、あなたの考え方に最も近いものを選んでください。子どものいない方も、一般的にどう思われるかお答えください。（○印はそれぞれ1つずつ）

あなたの考え	賛成	やや賛成	やや反対	反対	ないから
分野					
【記入例】 ○○○	1	2	③	4	5
（ア）女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう育てる	1	2	3	4	5
（イ）男の子にも炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい	1	2	3	4	5
（ウ）男女ともに一人ひとりが持つ個性や能力を生かして育てる	1	2	3	4	5
（エ）3歳までは母親の手で育てるほうがよい	1	2	3	4	5

**就労・働き方についておたずねします。**

問5 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。

(○印は1つ)

- 1. 結婚や出産にかかわらず、ずっと職業を持っている方がよい
- 2. 結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
- 3. 子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
- 4. 子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい
- 5. 女性は職業を持たない方がよい
- 6. わからない
- 7. その他 (具体的に )

付問1 【問5で「2.」～「7.」のいずれかに答えた方に】

あなたが、そう思う理由は何ですか。(○印は2つまで)

- 1. 女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
- 2. 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
- 3. 女性の能力は正当に評価されないから
- 4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
- 5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから
- 6. 現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから
- 7. 保育や介護などの施設が整っていないから
- 8. その他 (具体的に )

問6 あなたは、いま職業(収入のある仕事)を持っていますか(育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします)。(○印は1つ)

- 1. 職業を持っている
- 2. 以前、職業を持っていたが、いまは職業を持っていない
- 3. いままで職業を持ったことはない

付問1 【問6で「1. 職業を持っている」と答えた方に】

あなたの職業は次のどれですか。(○印は1つ)

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 自営業主 (農林漁業)</li> <li>2. 自営業主 (商工サービス業)</li> <li>3. 自営業主 (医師、弁護士などの自由業)</li> <li>4. 家族従業者 (農林漁業)</li> <li>5. 家族従業者 (商工サービス業)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>6. 会社役員・管理職 (課長級以上)</li> <li>7. 正社員・正職員</li> <li>8. 契約社員・派遣社員</li> <li>9. 常勤パートタイマー</li> <li>10. 臨時・アルバイト</li> <li>11. 内職</li> <li>12. その他 (具体的に )</li> </ul> |
|--|--|

付付問1へ

付付問2へ

## 付付問1【問6付問1で「1.」～「5.」のいずれかに答えた方に】

あなたの就労状況としては、次のどれにあてはまりますか。(○印はいくつでも)

1. 自分で受け取って管理できる給与・報酬がある
2. 定期的に休日を取ることができる
3. 職業上の研修には自由に参加できる
4. 作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある
5. 自分名義の預貯金を持っている
6. 自分名義の不動産（土地、家屋など）を持っている
7. 家族経営協定<sup>\*1</sup>を結んでいる

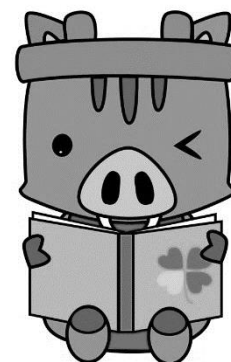
※1の説明は14ページにあります。

## 付付問2【問6付問1で「6.」～「10.」のいずれかに答えた方に】

今の職場で女性にとって働きにくい点はどのようなことだと思いますか。

(○印は3つまで)

1. 募集・採用の機会が少ない
2. 賃金に男女格差がある
3. 補助的な業務や雑用が多い
4. 能力を正當に評価されない
5. 昇進・昇格に男女格差がある
6. 管理職に登用されない
7. 結婚や出産時に退職する慣例や退職するような圧力がかかる
8. 中高年女性に退職を促すような圧力がかかる
9. 女性に対する教育訓練機会が少ないため、能力の向上を図りにくい
10. 仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない
11. 残業や休日出勤が多い
12. 仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない
13. 女性が働くことについて、上司や同僚の認識が低い
14. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )



Ⅲ 参考資料

問7 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。現在、必要のない方も必要になった場合を想定してお答えください。(○印は1つずつ)

	利用したい	利用できそうにないと思う	利用したくない	わからない(もしくは、制度の対象でない)
【記入例】○○○制度	1	2	③	4
(ア) 育児休業制度	1	2	3	4
(イ) 介護休業制度	1	2	3	4

付問1 【問7のいずれかで「2.」または「3.」と答えた方に】  
あなたがそう思う理由は何ですか。(○印は3つまで)

1. 経済的に生活が成り立たなくなるから
2. 職場に休める雰囲気がないから
3. 休みをとると勤務評定に影響するから
4. 自分の仕事は代わりの人がいないから
5. 一度休むと元の仕事に戻れないから
6. 現在取り組んでいる仕事を続けたいから
7. 妻、夫など家族や親族の理解が得られないから
8. 家族の協力で、利用しなくても対応できるから
9. 職場にそのような制度があるかわからないから
10. 育児や介護は、女性がやるべきと思うから
11. その他 (具体的に )

問8 あなたの生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、おたずねします。(ア) 実際の生活、(イ) 理想の生活のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つずつ)

	仕事を優先	家庭生活を優先	地域・個人の生活を優先	仕事と家庭生活をともに優先	仕事と地域・個人の生活をともに優先	家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先
【記入例】○○○	1	2	③	4	5	6	7
(ア) 実際の生活	1	2	3	4	5	6	7
(イ) 理想の生活	1	2	3	4	5	6	7

問9 男女がともに「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」を充実させる「ワーク・ライフ・バランス※<sup>2</sup>」（仕事と生活の調和）を実現するためには、どのような条件整備が必要だと思いますか。（○印は3つまで）

1. 給与などの男女間格差をなくすこと
2. 残業時間を減らすなど、年間労働時間を短縮すること
3. 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること
4. 育児や介護のために退職した社員（職員）をもとの職場で再雇用する制度を導入すること
5. 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること
6. 延長保育や学童保育など保育サービスを充実すること
7. 在宅勤務やフレックスタイム制度※<sup>3</sup>など、柔軟な勤務制度を導入すること
8. 女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること
9. 職場の意識改革などについて、行政が企業に積極的な働きかけをすること
10. わからない
11. その他（具体的に \_\_\_\_\_）

※2、※3の説明は14ページにあります。

**地域活動についておたずねします。**

問10 次の（ア）～（エ）の地域の役職について、女性は自分自身が、男性は妻など身近な女性が推薦されたとしたら、あなたはどのように思いますか。（○印はそれぞれ1つずつ）

また、「2. 断る（断ることをすすめる）」を選んだ方はその理由についてもご記入ください。（下記【断る理由】の中から1つを選び、番号を記入してください）

	引き受ける （引き受けるこ とをすすめる）	断る（断るこ とをすすめ る）	【断る理由】
【記入例】 ○○○○	1	②	→ 2
（ア） PTA会長、子ども会会長	1	2	→
（イ） 行政区長	1	2	→
（ウ） 行政区の役員	1	2	→
（エ） 市の審議会や委員会のメンバー	1	2	→

**【断る理由】**

1. 家族の協力が得られないから
2. 女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから
3. 家事・育児や介護に支障がでるから
4. 役職につく知識や経験がないから
5. 女性には向いていないから
6. 世間体が変わるから
7. 責任が重いから
8. その他（具体的な内容については、各欄横の余白部分にご記入ください）

問 1 1 あなたが住んでいる地域で、現在次のようなことがありますか。(○印はいくつでも)

1. 地域の団体、組織等の役員選挙や運営に女性が参加しにくく、また選ばれにくい
2. 地域の行事で女性が参加できなかつたり、男女の差があつたりする
3. 会議などで女性が意見を言いにくかつたり、意見が取り上げられにくい
4. 地域の活動に女性が少ないため歓迎される
5. 地域の活動には女性のほうが積極的である
6. 特に男女で差はない
7. わからない
8. その他（具体的に )

問 1 2 地域活動での男女の役割分担についておたずねします。

- (1) 現状：あなたが参加している地域活動の現状について (ア) ~ (カ) のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つずつ)
- (2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。(ア) ~ (カ) のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つずつ)

	(1) 現状			(2) 意識		
	そうして いる	そうして いない	わからない	現状の ままで	改善す べき	わか らない
【記入例】 ○○○○	①	2	3	1	②	3
(ア) 催し物の企画などは主に男性が決定している	1	2	3	1	2	3
(イ) 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	1	2	3
(ウ) 地域の集会では、女性がお茶出しや片づけをしている	1	2	3	1	2	3
(エ) 地域の役員はほとんど男性になっている	1	2	3	1	2	3
(オ) 地域の集会では男性が上座に座る	1	2	3	1	2	3
(カ) 行政区長・隣組長などは男性 (夫) だが、地域の会議の出席は女性 (妻) が出ることが多い	1	2	3	1	2	3

問 1 3 内閣府調査 (平成 31 年 4 月 1 日現在) によれば、自治会役員のうち特に女性の会長については、福岡県では 8.9% でした。全国的にもまだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように少ない理由は何だと思えますか。(○印は2つまで)

1. 男性中心に組織が運営されている (役職や仕事分担、活動時間帯など) から
2. 男性が女性の能力を正當に評価していないから
3. 家族の支援・協力が得られないから
4. 女性が責任のある役を引き受けたがらないから
5. 地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性より男性の方が向いているから
6. わからない
7. その他 (具体的に )

問 1 4 これまでの大規模災害時の経験から男女共同参画の視点による対策や対応が課題となっています。あなたは、災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。  
(○印はいくつでも)

1. 避難所の運営に女性も参画できるようにする
2. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
3. 備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる
4. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
5. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
6. 日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
7. 日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める
8. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

**暴力などの人権侵害についておたずねします。**

問 1 5 あなたはここ3年ぐらいの間に (A) 職場、(B) 地域活動の場、(C) 学校に関わる場で次のようなセクシャル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがありますか。(A) (B) (C) のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。  
(○印はそれぞれいくつでも)

	(A)	(B)	(C)
	職場で	地域活動の場で	学校に関わる場で
【記入例】 ○○○○	①	①	①
・ 性的な関係を強要された	1	1	1
・ からだに触れられた	2	2	2
・ 食事などにしつこく誘われた	3	3	3
・ 卑猥な言葉をかけられたり、 <sup>ひわい</sup> 猥談をされた	4	4	4
・ 身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた	5	5	5
・ アダルトサイトやポルノ雑誌を見せられた	6	6	6
・ 性的なうわさを流された	7	7	7
・ 宴会などでお酌やデュエットを強要された	8	8	8
・ 結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた	9	9	9
・ 性的要求を拒否したら、嫌がらせをされた	10	10	10
・ その他（具体的に _____ )	11	11	11
・ どれも受けたことがない	12	12	12

問 16 【配偶者や交際相手が現在いる方、これまで配偶者や交際相手がいた方におたずねします】

あなたは、ここ3年ぐらいの間にあなたの配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含みます）や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。（ア）～（セ）のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。（○印は1つずつ）

		あ 何 度 も あ っ た も	あ 1、 2 度 あ っ た	全 く な い
【記入例】 ○○○○		1	②	3
身 体 的 暴 力	(ア) 骨折させられた	1	2	3
	(イ) 打ち身や切り傷などのケガをさせられた	1	2	3
	(ウ) 足でけられたり、平手で打たれたりした	1	2	3
	(エ) 物を投げつけられた	1	2	3
精 神 的 暴 力	(オ) げんこつや身体を傷つける可能性のある物で、なぐるふりをしておどされた	1	2	3
	(カ) 何を言っても無視され続けた	1	2	3
	(キ) 交友関係や電話を細かく監視された	1	2	3
	(ク) 子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした	1	2	3
	(ケ) 大声でどなられた	1	2	3
性 的 暴 力	(コ) 嫌がっているのに性的な行為を強要された	1	2	3
	(サ) 避妊に協力してくれない	1	2	3
	(シ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	1	2	3
経 済 的 暴 力	(ス) 必要な生活費を渡されない	1	2	3
	(セ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」といわれた	1	2	3

付問 1 【問 16 のいずれかで「1. 何度もあった」または「2. 1、2度あった」と答えた方に】

あなたはこれまでに、問 16 であげたような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（○印はいくつでも）

1. 家族、親族
2. 友人、知人
3. 警察署・交番
4. 配偶者暴力相談支援センター（県の福祉事務所など）
5. 人権擁護委員、民生委員、行政区長・隣組長など
6. 嘉麻市男女共同参画推進課（女性相談窓口）
7. かま女性ホットライン
8. 医療関係者（医師、看護師など）
9. 学校関係者（教員、養護教員、カウンセラー）
10. その他（具体的に

11. どこ（だれ）にも相談しなかった

→ 付問 1 へ

【もっててよかったカード】

DV（ドメスティック・バイオレンス）や虐待、セクシュアル・ハラスメント、仕事のこと、夫婦・家族のこと、子育てや介護などについての相談を専門の女性相談員がお受けします。

**かま女性ホットライン**

**TEL092-513-7337**

毎週月～金曜日/10:00～17:00  
(祝日、12月29日～1月3日を除く)



## 付付問1【問16付問1で「11. どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方に】

あなたがどこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（○印はいくつでも）

1. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しをうけたり、もっとひどい暴力をうけると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 相談することによって、さらに不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 子どものためにがまんするしかないと思ったから
9. 世間体が悪いから
10. 他人を巻き込みたくなかったから
11. 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
12. そのことについて思い出したくなかったから
13. 自分にも悪いところがあると思ったから
14. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
15. 相談するほどのことではないと思ったから
16. その他（具体的に \_\_\_\_\_）

問17 配偶者（婚姻届を出していない事実婚や別居中も含みます）や交際相手からの暴力について、身近で見聞きしたことがありますか。（○印は1つ）

1. 家族や知人などから相談されたことがある
2. 身近に当事者がいる
3. 身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある
4. 身近で見聞きしたことはない
5. その他（具体的に \_\_\_\_\_）

## 付問1【問17で「1. 家族や知人などから相談されたことがある」または「2. 身近に当事者がいる」と答えた方に】

あなたは、そのことを知ってどうしましたか。（○印はいくつでも）

1. 被害者と一緒に病院や相談機関に行った
2. 被害者に相談機関などを紹介した
3. 被害者をかくまったり、家を出ることに援助をした
4. 配偶者暴力相談支援センターや警察に通報した
5. 加害者に暴力をやめるように話した
6. 被害者にがまんするように話した
7. 何もできなかった
8. 何もする必要はないと思った
9. その他（具体的に \_\_\_\_\_）



**男女共同参画社会の実現についておたずねします。**

問18 次の(ア)～(セ)のことがらで、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。(ア)～(セ)のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。(○印はそれぞれ1つずつ)

	知 よ く つ て い る	が 聞 い た こ と あ る	知 全 く ら な い
<b>【記入例】</b> ○○○法	1	2	③
(ア) 男女共同参画社会基本法	1	2	3
(イ) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(ウ) DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	1	2	3
(エ) 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
(オ) 女子差別撤廃条約	1	2	3
(カ) 児童虐待防止法	1	2	3
(キ) 福岡県性暴力根絶条例	1	2	3
(ク) 嘉麻市男女共同参画推進条例	1	2	3
(ケ) 嘉麻市男女共同参画社会基本計画	1	2	3
(コ) 嘉麻市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画	1	2	3
(サ) デートDV※4	1	2	3
(シ) LGBTQ※5	1	2	3
(ス) 家族経営協定※6	1	2	3
(セ) ジェンダー※7	1	2	3

※4、※5、※6、※7の説明は14ページにあります。

問19 男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印は3つまで)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
5. 夫婦の間で家計を分担できるように女性も経済的に自立すること
6. 男性が家事や育児、介護等の技能を高めること
7. 妻が、夫にのみ経済力や出世を求めないこと
8. 男性が育児や介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
9. 企業が、家事、子育て、介護、地域活動を担うことができるように、労働時間の短縮・法制度の遵守等環境整備をすること
10. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について、その評価を高めること
11. わからない
12. その他（具体的に

問20 「男女共同参画社会」の実現のために、あなたは、嘉麻市では今後どのようなことに力を入れていったら良いと思いますか。（○印は3つまで）

1. 広報・啓発活動や学習機会を充実する
2. 市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす
3. 行政区長や地域の行政区役員に女性を増やす
4. 学校教育や社会教育の場で、男女平等についての学習を充実する
5. 経営者・事業主を対象に男女均等な取扱い（仕事の内容・賃金など）について周知徹底する
6. 経営者・事業主を対象に育児休業や介護休業制度の普及啓発や男女がともに働き続けられる条件整備についての働きかけを行う
7. 男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う
8. 女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する
9. 女性の生涯にわたる健康づくりの支援策や母性保護対策を充実する
10. 性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する
11. 配偶者等に対する暴力根絶のための啓発活動を充実する
12. セクシャル・ハラスメントやパワー・ハラスメント防止の取組みを強化する
13. 各種団体のリーダーとなる女性を養成する
14. 男女共同参画を推進する住民グループの活動を支援する
15. 子ども・子育て支援事業を充実する
16. 高齢者や障がい者（児）の介護者への支援制度を充実する
17. 市政を担うトップを先頭に管理職、職員の男女共同参画についての研修を充実する
18. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）
19. 特にない



あなたご自身のことや家族のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別をご記入ください。

( )

F 2 あなたの年齢は。

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. 20 歳未満 | 5. 50 歳代  |
| 2. 20 歳代  | 6. 60 歳代  |
| 3. 30 歳代  | 7. 70 歳以上 |
| 4. 40 歳代  |           |

F 3 あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。

1. 一人暮らし
2. 夫婦のみ
3. 二世帯同居（親と子）
4. 三世帯同居（親と子と孫）
5. その他（具体的に )

F 4 あなたは現在、結婚（事実婚を含む）をされていますか。

1. 配偶者・パートナーがいる（共働きである）
2. 配偶者・パートナーがいる（共働きでない）
3. 配偶者はいない（離別）
4. 配偶者はいない（死別）
5. 結婚していない

F 5 あなた自身も含め、同居のご家族に次にあげる方はおられますか。  
（あてはまるものすべてに○）

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 乳幼児（3 歳未満） | 5. 専門学校生    |
| 2. 未就学児       | 6. 大学・短大生   |
| 3. 小・中学生      | 7. 65 歳以上の人 |
| 4. 高校生        | 8. 1～7 以外の人 |

F 6 あなたのお住まいは。

1. 山田地区
2. 稲築地区
3. 碓井地区
4. 嘉穂地区
5. 地区がわからない方は、行政区名あるいは住所を記入してください。

( )

次ページにつづく

嘉麻市の男女共同参画社会の実現に向けての取組について、また、男女共同参画について日ごろ感じておられることなど、ご意見、ご要望など自由にご記入ください。


- ※1※6 家族経営協定とは：家族農業経営にたずさわる各世帯員が、意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき、取り決めるものです。
- ※2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは：仕事と、家庭生活、地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）などとの調和がとれ、その結果それぞれが充実されていくという考え方やそのための取り組みのことで、国では「ワーク・ライフ・バランス憲章」を制定し、仕事と生活の調和の実現をめざしています。
- ※3 フレックスタイム制度とは：1ヶ月以内の一定期間の総労働時間をあらかじめ定めておき、その枠内で各日の始業及び終業時刻を従業員が自分で選択できる制度です。
- ※4 デートDVとは：結婚していない交際相手からふるわれる暴力。中学生、高校生など若い人の間でも起きています。
- ※5 LGBTQとは：L（レズビアン＝女性同性愛者）、G（ゲイ＝男性同性愛者）、B（バイセクシュアル＝両性愛者）、T（トランスジェンダー＝生まれたときの生物学的・社会的性別とは一致しない、またはとらわれない生き方を選ぶ人）、Q（自分の性のあり方を決められなかったり、迷ったりしている人、または決めたくない、決めないとしている人）などを表現する包括的な言葉。一般的に性同一性障害も含む総称です。
- ※7 ジェンダーとは：「男性らしさ」「女性らしさ」は、社会通念や慣習などによって作られていきます。このような社会的・文化的な男性、女性の別を「社会的性別」（ジェンダー／gender）といいます。

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、11月20日（金）までに投函してください。



「男女共同参画社会に向けての市民意識調査

令和3年3月

発行／福岡県嘉麻市

〒820-0592

福岡県嘉麻市上臼井446番地1

嘉麻市 男女共同参画推進課

TEL 0948-62-5714 FAX 0948-62-5692